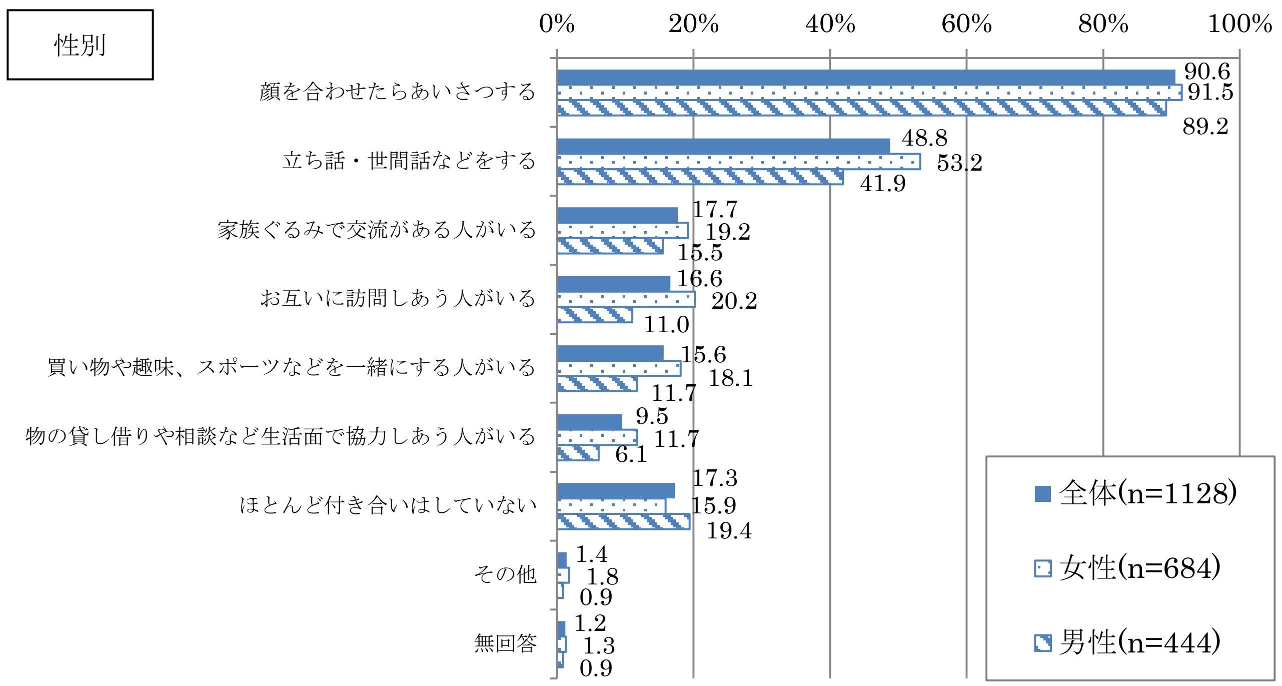
Ⅲ．調査結果の個別分析

１．あなたの現在の生活や地域・社会活動についてお伺いします。

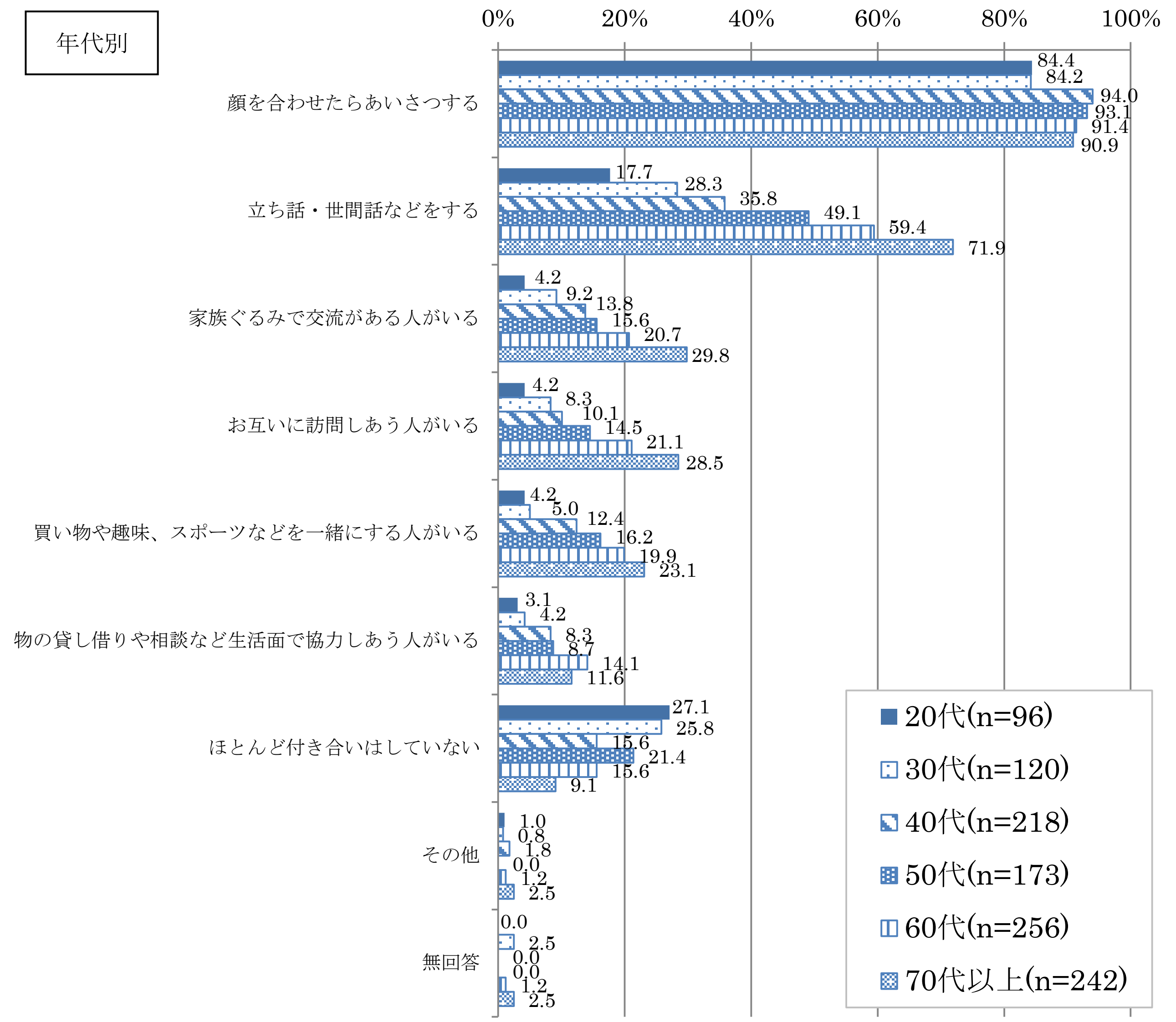
問１．あなたは近所の人と、どのようにお付き合いをしていますか？【複数回答】



全体　「顔を合わせたらあいさつする」近所付き合いをしている割合は９割を超えているが（90.6%）、「立ち話・世間話などをする」割合は５割を下回っている（48.8%）。「家族ぐるみで交流がある人がいる」（17.7%）や、「お互いに訪問しあう人がいる」（16.6%）、「買い物や趣味、スポーツなどを一緒にする人がいる」（15.6%）割合は２割弱となっている。「ほとんど付き合いはしていない」は 17.3%と２割を下回っている。

性別　性別でみると、女性の方が全体的に高い割合となっているが、特に、「立ち話・世間話などをする」（11.3 ポイント）、「お互いに訪問しあう人がいる」（9.2 ポイント）は、女性が男性よりも 10 ポイント前後高くなっている。「ほとんど付き合いはしていない」は男性が 19.4%に対して女性が 15.9%と、男性が女性より 3.5 ポイント高くなっている。

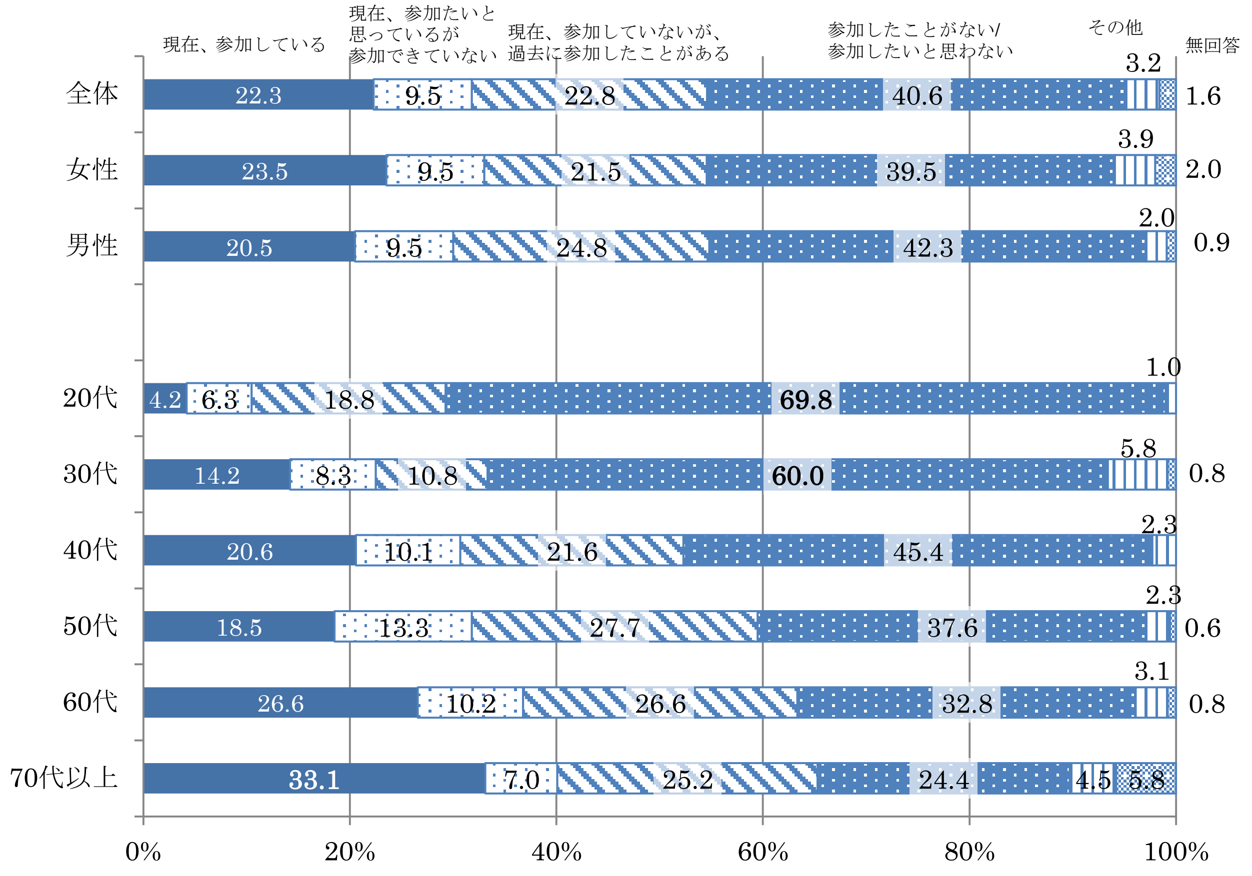
問１．あなたは近所の人と、どのようにお付き合いをしていますか？【複数回答】



年代別　年代別でみると、「顔を合わせたらあいさつをする」は 40 代が 94.0％と最も高く、30 代が 84.2％と、最も低く、9.8 ポイントの差がある。「立ち話・世間話などをする」は、70 代以上が 71.9％と最も高く、20 代が 17.7％と最も低く、54.2 ポイントの差がみられた。「立ち話・世間話などをする」、「家族ぐるみで交流がある人がいる」、「お互いに訪問しあう人がいる」、「買い物や趣味、スポーツなどを一緒にする人がいる」は、年代が高くなるほど割合が高くなっている。反対に、「ほとんど付き合いはしていない」は、20 代が 27.1％と最も高く、70 代以上が 9.1％と最も低くなっている。

性別年代別　性別年代別にみると、「ほとんど付き合いをしていない」は、20 代は男女ともにが 27％前後だが、30 代では男性が 42.5％に対して、女性が 17.5％で 25 ポイントの差がみられた。
「ほとんど付き合いをしていない」を除く項目では、60 代までは全体的に女性の方が男性よりも高い割合となっているが、70 代以上では差が小さくなっている。

問２．あなたは、現在お住まいの地域活動（町内会やイベント、サークル等）に参加していますか？【ＳＡ】



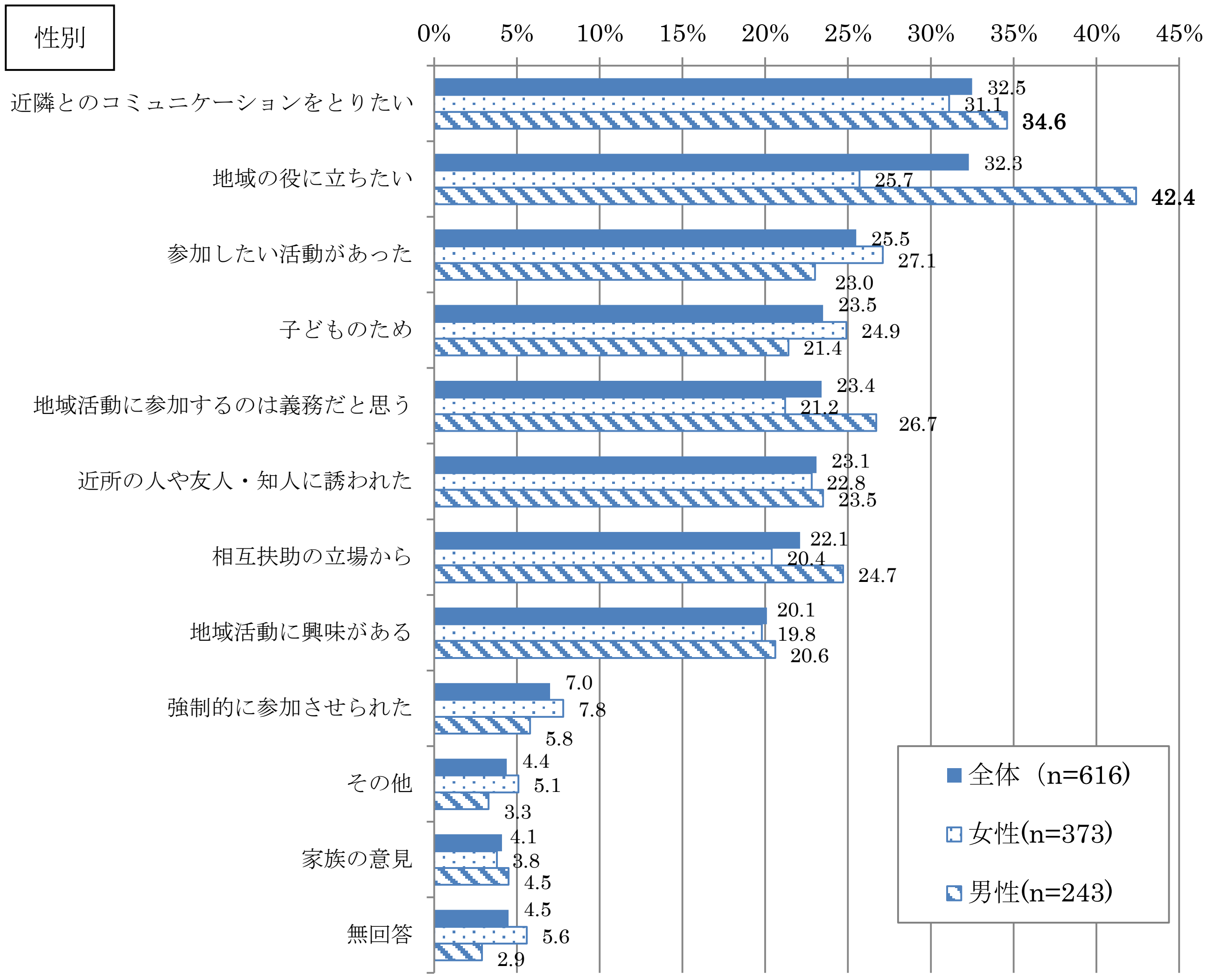
ｎ＝全体:1128、女性:684、男性:444 、20 代:96、30 代:120、40 代:218、50 代:173、60 代:256、70 代以上:242

全体　「参加したことがない/参加したいと思わない」とする割合が 40.6％と最も多く、「現在、参加していないが、過去に参加したことがある」（22.8％）、「現在、参加している」（22.3％）と続いている。

性別　性別でみると、男女とも「参加したことがない/参加したいと思わない」とする割合が最も多く（男性 42.3％、女性 39.5％）、次いで、女性は「現在、活動している」（23.5％）と続いており、男性は「現在、参加していないが、過去に参加したことがある」（24.8％）と続いている。

年代別　年代別でみると、20 代から 60 代は「「参加したことがない/参加したいと思わない」が最も多く（20 代 69.8％、30 代 60.0％、40 代 45.4％、50 代 37.6％、60 代 32.8％）、70 代以上は「現在、参加している」（33.1％）が最も多かった。次いで、20 代と 40 代、50 代、70 代以上は、「現在、参加していないが、過去に参加したことがある」（20 代 18.8％、40 代 21.6％、50 代 27.7％、70 代以上 25.2％）、60 代は「現在、参加していないが、過去に参加したことがある」及び「現在、参加している」（26.6％）が同数で、30 代は「現在、参加している」（14.2％）が続いている。「現在、参加している」割合は、年代が高くなるにつれて増加傾向がみられ、最も割合の多い 70 代以上と最も割合の低い 20 代では、28.9 ポイントの差がみられた。一方で、「参加したことがない/参加したいと思わない」割合は、年代が低くなるほど増加傾向がみられ、最も割合の高い 20 代と、最も割合の低い 70 代以上では、45.4 ポイントの差がみられた。

問３．問２で「1．現在参加している、2．現在、参加したいとおもっているが、参加できてない、３．現在、参加していないが、過去に参加したことがある」を選んだ方にお伺いします。
参加している／したいと思う理由はなんですか？ 【ＭＡ３】



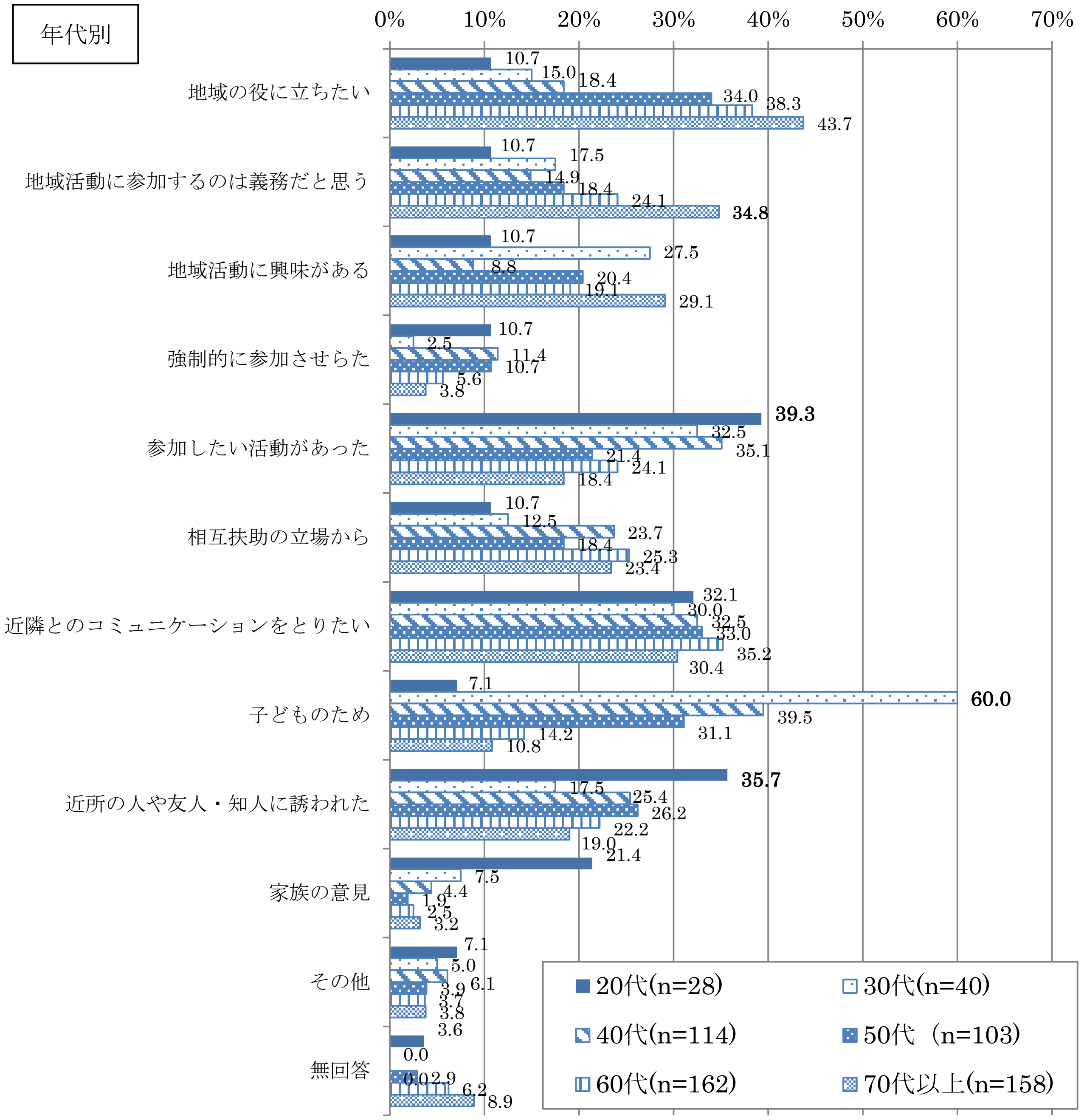
全体 「近隣とのコミュニケーションをとりたい」(32.5％)が最も多く、次いで「地域の役に立ちたい」(32.3％)、「参加したい活動があった」（25.5％）と続いている。

性別 性別でみると、女性は「近隣とのコミュニケーションをとりたい」（31.1％）が最も多く、次いで「参加したい活動があった」（27.1％)、「地域の役に立ちたい」（25.7％）と続いている。男性は、「地域の役に立ちたい」（42.4％）が最も多く、「近隣とのコミュニケーションをとりたい」（34.6％)、「地域活動に参加するのは義務だと思う」（26.7％）と続いている。男性が女性と比べて 5 ポイント以上高い項目は、「地域の役にたちたい」（16.7 ポイント)、「地域活動に参加するのは義務だと思う」（5.5 ポイント）だった。

順位表

	全体	女性	男性
1位	近隣とのコミュニケーションをとりたい(32.5％)	近隣とのコミュニケーションをとりたい(31.1％)	地域の役に立ちたい(42.4％)
2位	地域の役に立ちたい(32.3％)	参加したい活動があった(27.1％)	近隣とのコミュニケーションをとりたい(34.6％)
3位	参加したい活動があった(25.5％)	地域の役に立ちたい(25.7％)	地域活動に参加するのは義務だと思う(26.7％)

問３．問２で「1．現在参加している、2．現在、参加したいとおもっているが、参加できてない、３．現在、参加していないが、過去に参加したことがある」を選んだ方にお伺いします。
参加している／したいと思う理由はなんですか？　【MA3】



年代別順位表

<table>
<tr><th></th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1 位</td><td>参加したい活動があった（39.3%）</td><td colspan="2">子どものため
（60.0%）　（39.5%）</td><td colspan="3">地域の役に立ちたい
（34.0%）　（38.3%）　（43.7%）</td></tr>
<tr><td>2 位</td><td>近所の人や友人・知人に誘われた（35.7%）</td><td colspan="2">参加したい活動があった
（32.5%）　（35.1%）</td><td colspan="2">近隣とのコミュニケーションをとりたい（33.0%）　（35.2%）</td><td>地域活動に参加するのは義務だと思う（34.8%）</td></tr>
<tr><td>3 位</td><td colspan="3">近隣とのコミュニケーションをとりたい
（32.1%）　（30.0%）　（32.5%）</td><td>子どものため（31.1%）</td><td>相互扶助の立場から（25.3%）</td><td>近隣とのコミュニケーションをとりたい（30.4%）</td></tr>
</table>

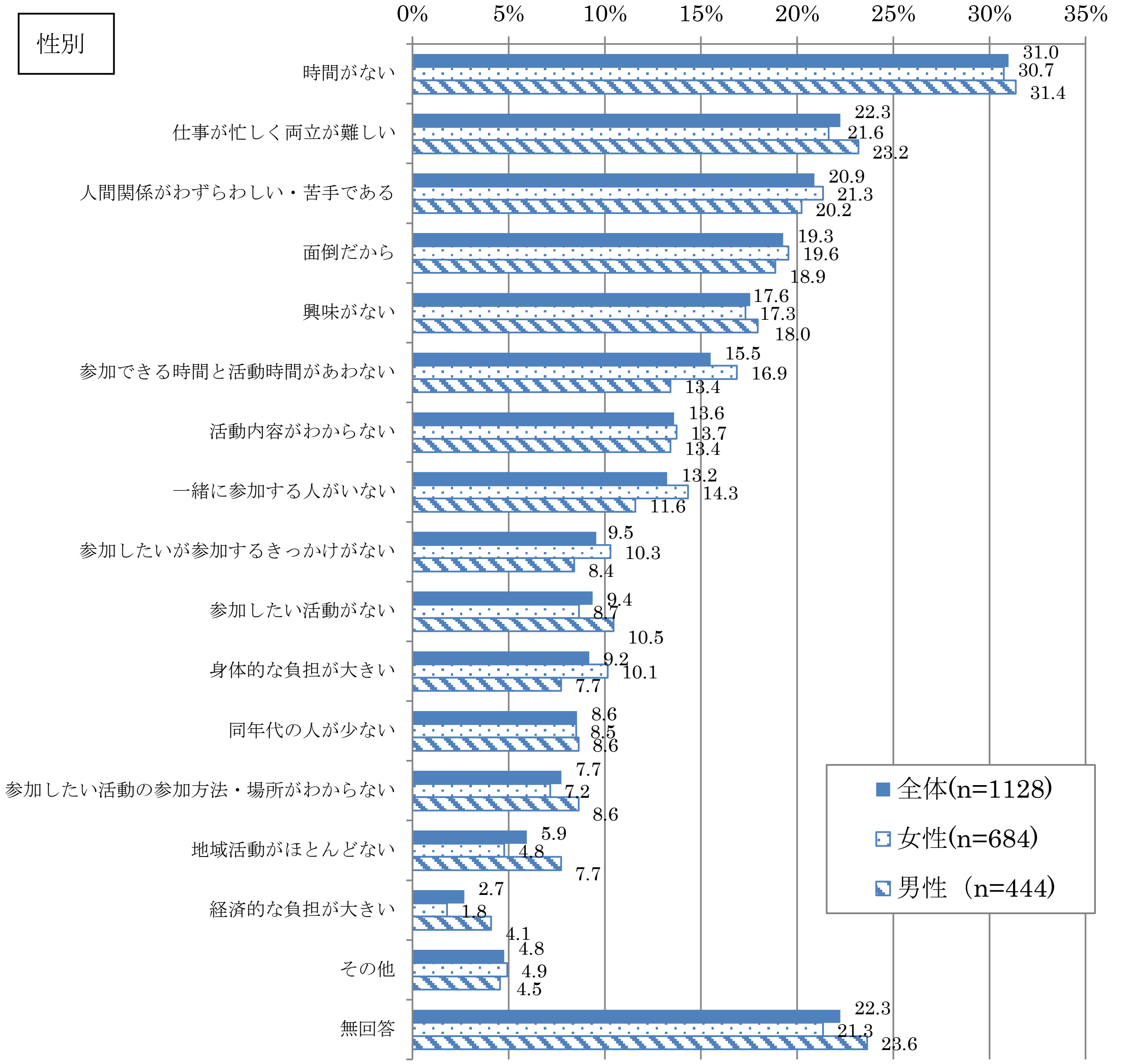
年代別　年代別でみると、20 代は「参加したい活動があった」（39.3%）が最も多く、「近所の人や友人・知人に誘われた」（35.7%）が続いている。30 代と 40 代は「子どものため」（30 代 60.0%、40 代 39.5%）が最も多く、「参加したい活動があった」（30 代 32.5%、40 代 35.1%）と続いている。50 代、60 代、70 代以上は「地域の役に立ちたい」（50 代 34.0%、60 代 38.3%、70 代以上 43.7%）が最も多く、50 代と 60 代は「近隣とのコミュニケーションをとりたい」（50 代 33.0%、60 代 35.2%）、70 代以上は「地域活動に参加するのは義務だと思う」（34.8%）と続いている。

また、20 代から 40 代は「参加したい活動があった」、50 代から 70 代以上は「地域の役に立ちたい」の割合が高く、50 歳を境目にそれより低い年代は自分のために、高い年代は地域のために参加している、または参加したいと思っていることが伺える。どの年代でも、「近隣とのコミュニケーションをとりたい」は上位にあり、年代を問わず、共通した地域活動への参加動機となっている。

【順位表】　性別年代別

	女性						男性					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	参加したい活動があった(42.1%)	子どものため (71.4%)	子どものため (44.6%)	子どものため (30.2%) 近隣とのコミュニケーションをとりたい (30.2%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (33.3%)	地域の役に立ちたい (42.9%)	家族の意見 (33.3%) 近所の人や友人・知人に誘われた (33.3%) 参加したい活動があった (33.3%)	子どものため (33.3%) 地域活動に興味がある (33.3%) 参加したい活動があった (33.3%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (40.0%)	地域の役に立ちたい (42.5%)	地域の役に立ちたい (50.0%)	地域の役に立ちたい (44.6%)
2位	近隣とのコミュニケーションをとりたい (36.8%) 近所の人や友人・知人に誘われた (36.8%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (32.1%) 参加したい活動があった (32.1%)	参加したい活動があった (33.8%)	地域の役に立ちたい (28.6%)	地域の役に立ちたい (29.8%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (31.0%) 地域活動に興味がある (31.0%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (22.2%) 地域活動に参加するのは義務だと思う (22.2%) 相互扶助の立場から (22.2%) 地域の役に立ちたい (22.2%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (25.0%) 地域活動に参加するのは義務だと思う (25.0%) 相互扶助の立場から (25.0%)	地域の役に立ちたい (37.5%) 参加したい活動があった (37.5%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (37.5%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (38.2%)	地域活動に参加するのは義務だと思う (40.5%)
3位	地域活動に興味がある (15.8%) 強制的に参加させられた (15.8%) 家族の意見 (15.8%)	地域活動に興味がある (25.0%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (28.4%)	近所の人や友人・知人に誘われた (22.2%)	参加したい活動があった (28.7%) 相互扶助の立場から (28.7%)	地域活動に参加するのは義務だと思う (29.8%)	その他 (11.1%) 無回答 (11.1%)	地域の役に立ちたい (16.7%) 近所の人や友人・知人に誘われた (16.7%)	子どものため (30.0%)	子どものため (32.5%) 近所の人や友人・知人に誘われた (32.5%)	地域活動に参加するのは義務だと思う (25.0%)	近隣とのコミュニケーションをとりたい (29.7%)

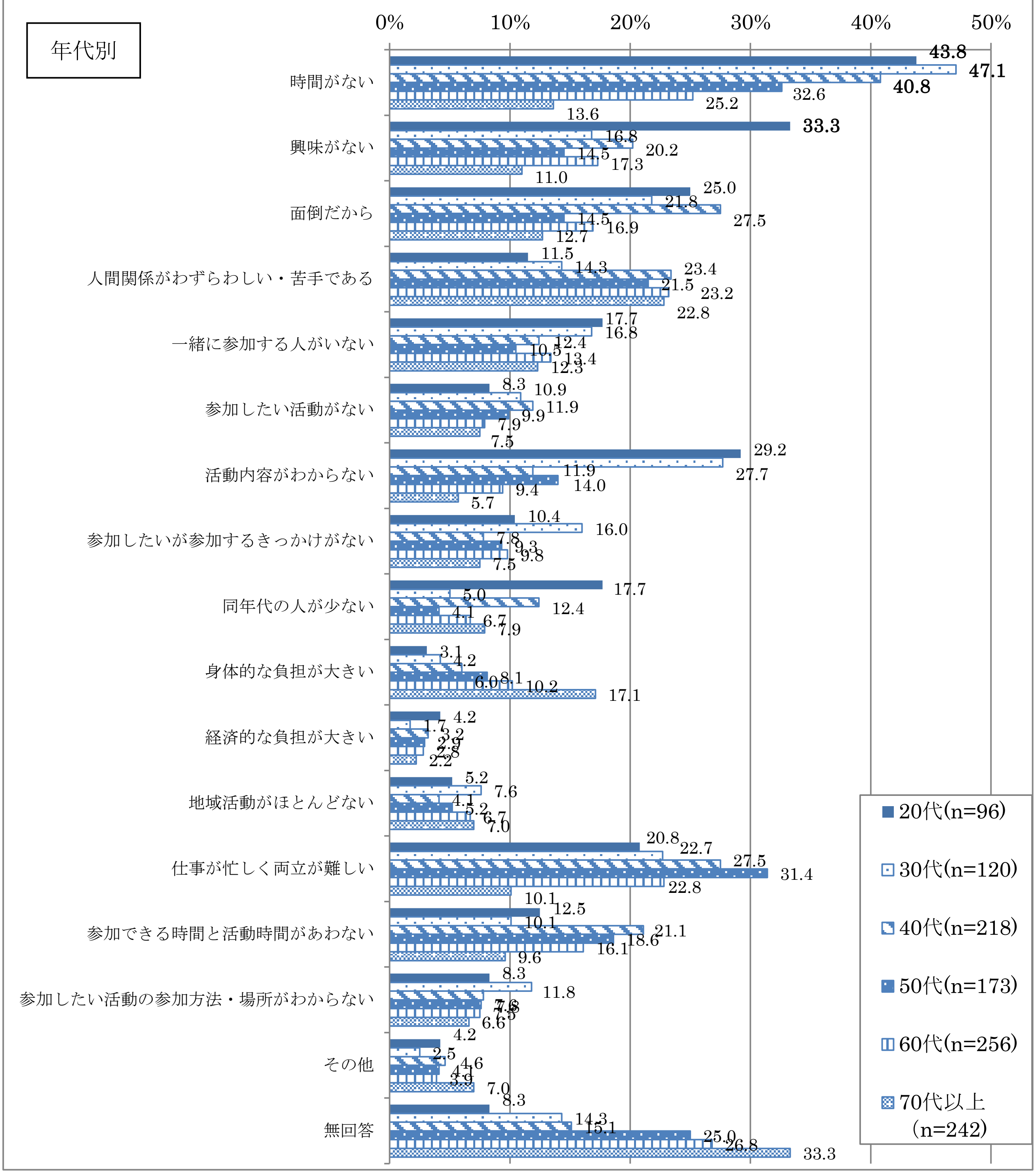
問４．問２で「４．参加したことがない/参加したいと思わない」を選んだ方はその理由について、「参加経験のある方」は地域活動への参加を難しくすると考えられる理由についてお伺いします。【ＭＡ３】



全体　「時間がない」（31.0%）が最も多く、「仕事が忙しくて両立が難しい」（22.3%）、「人間関係がわずらわしい・苦手である」（20.9%）と続いている。

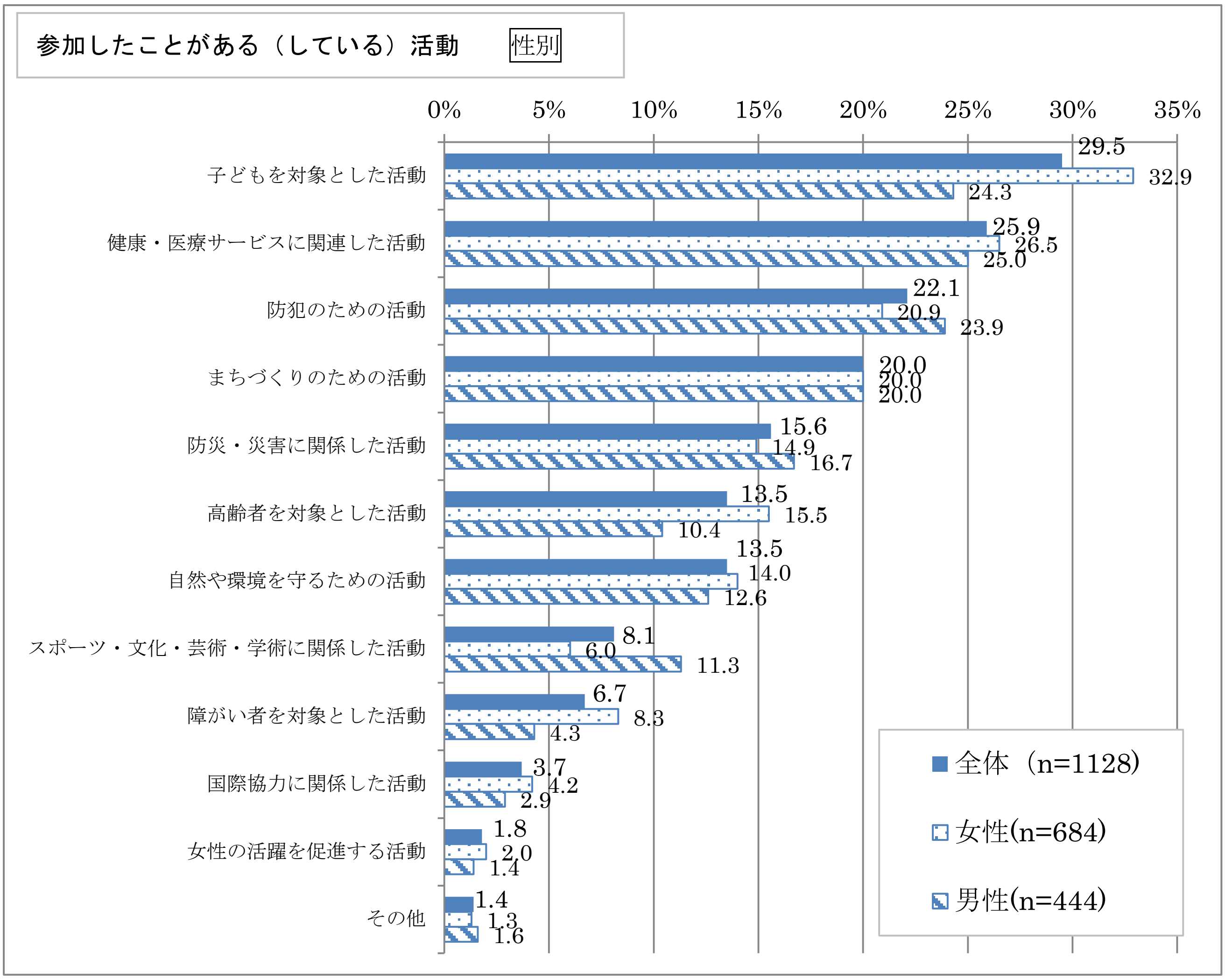
性別　性別でみると、男女ともに、「時間がない」（男性 31.4%、女性 30.7%）が最も多く、「仕事が忙しく両立が難しい」（男性 23.2%、女性 21.6%）、「人間関係がわずらわしい・苦手である」（女性 21.3%、男性 20.2%）と続いている。

問４．問２で「４．参加したことがない/参加したいと思わない」を選んだ方はその理由について、「参加経験のある方」は地域活動への参加を難しくすると考えられる理由についてお伺いします。【ＭＡ３】



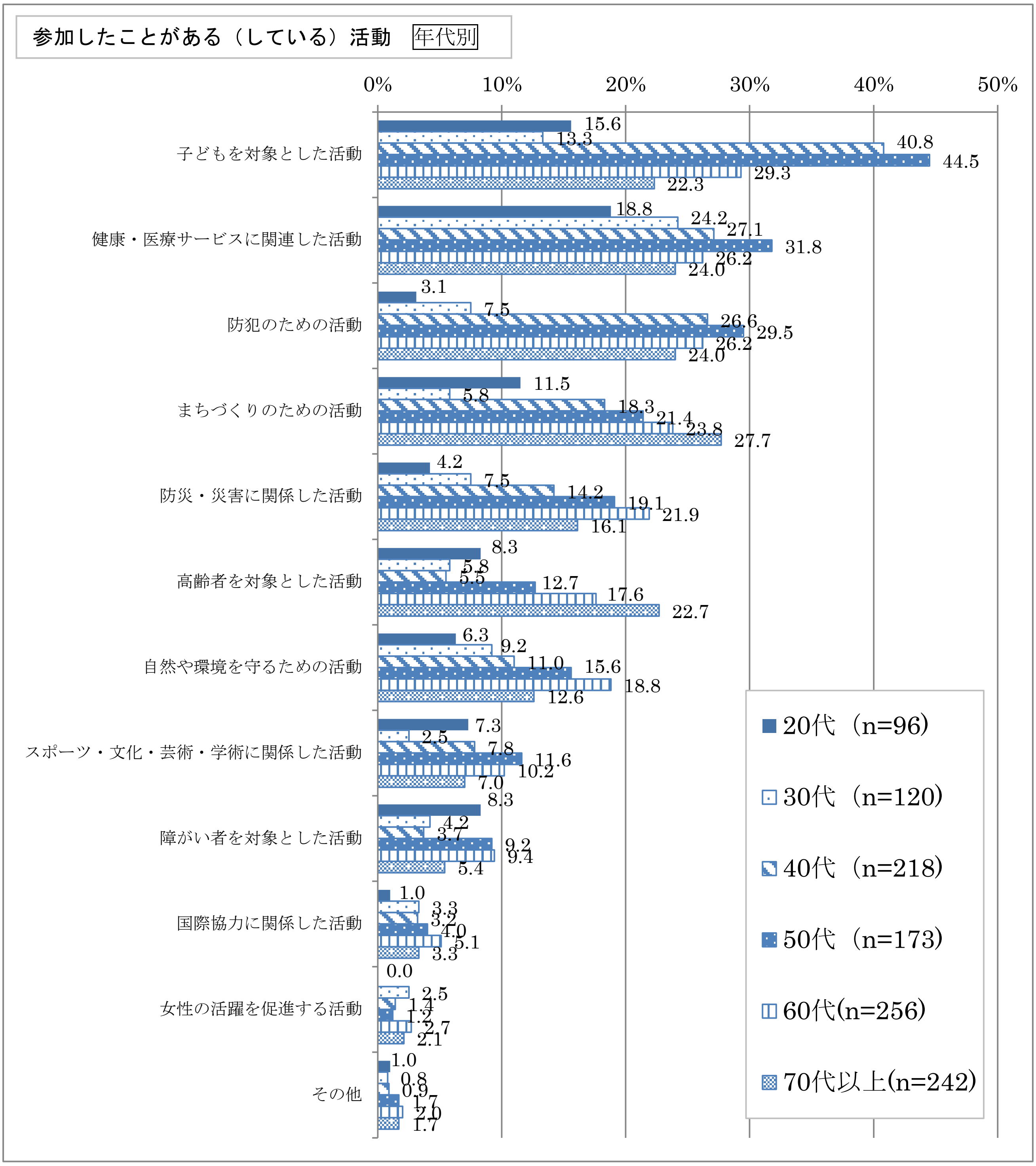
年代別　年代別でみると、20 代から 60 代では「時間がない」（20 代 43.8%、30 代 47.1%、40 代 40.8%、50 代 32.6%、60 代 25.2%）が最も多く、20 代は「興味がない」（33.3%）、30 代は「活動内容がわからない」（27.7%）、40 代は「面倒だから」「仕事が忙しく両立が難しい」（27.5%）、50 代「仕事が忙しくて両立が難しい」（31.4%）、60 代は「人間関係がわずらわしい・苦手である」（23.2%）と続いている。70 代以上では、「人間関係がわずらわしい・苦手である」（12.7%）が最も多く、「時間がない」（13.6%）と続いている。

問５．次の地域・社会活動についてお伺いします。

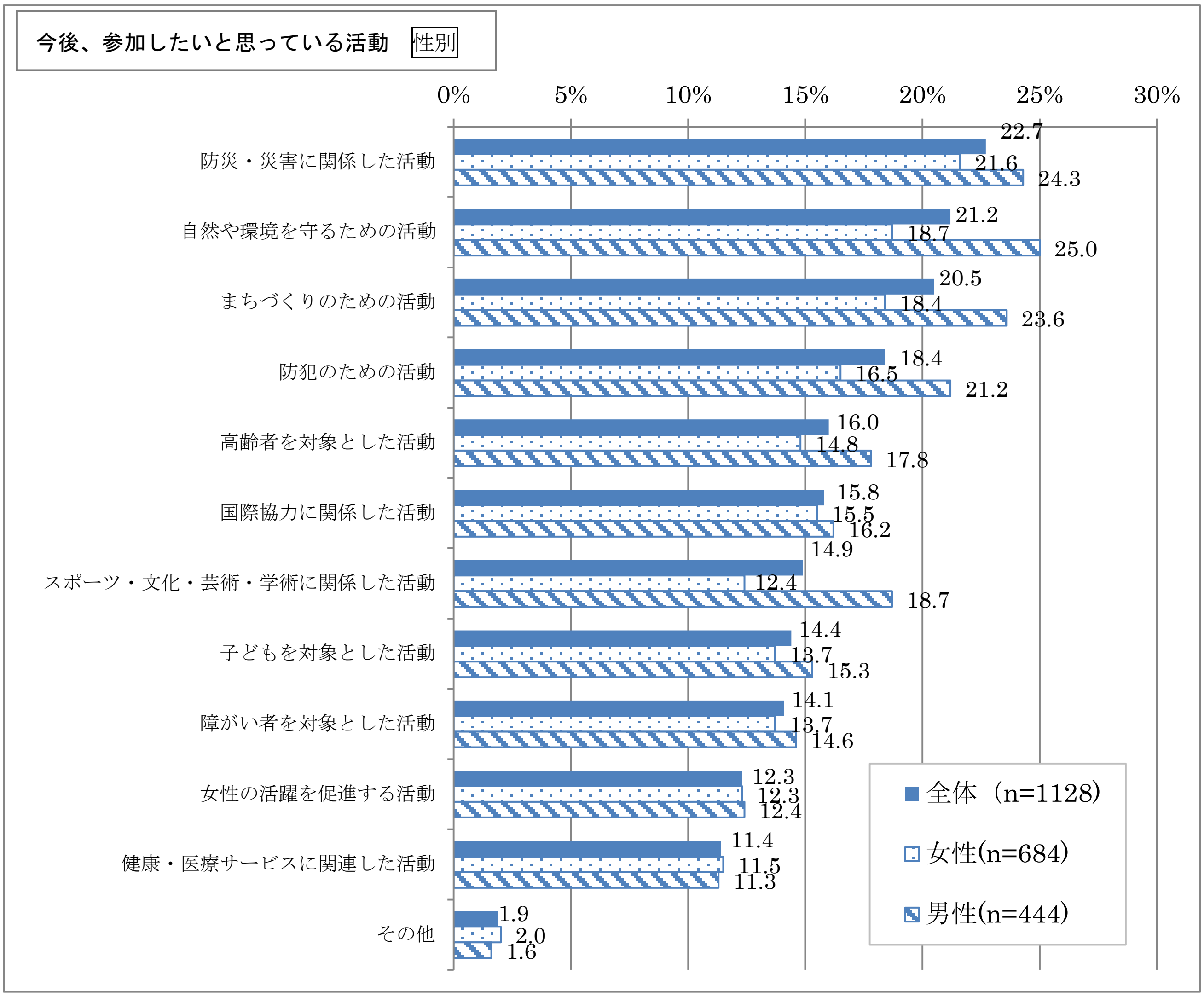


全体　参加したことがある（している）活動は、「子どもを対象とした活動」（29.5%）が最も高く、「健康・医療サービスに関連した活動」（25.9%）、「防犯のための活動」（22.1%）と続いている。

性別　性別でみると、女性は「子どもを対象とした活動」（32.9%）が最も高く、「健康・医療サービスに関連した活動」（26.5%）、「防犯のための活動」（20.9%）と続いている。男性は、「健康・医療サービスに関連した活動」（25.0%）が最も高く、「子どもを対象とした活動」（24.3%）、「防犯のための活動」（23.9%）と続いている。女性が男性より 5 ポイント以上高い項目は、「子どもを対象とした活動」（8.6 ポイント）、「高齢者を対象とした活動」（5.1 ポイント）だった。男性が女性よりも高い項目は、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」（5.3 ポイント）、「防犯のための活動」（3.0 ポイント）だった。



年代別　年代別でみると、20 代、30 代は、「健康・医療サービスに関連した活動」（20 代 18.8%、30 代 24.2%）が最も高く、「子どもを対象とした活動」（20 代 15.6%、30 代 13.3%）と続き、次いで 20 代は「まちづくりのための活動」（11.5%）、30 代は「自然や環境を守るための活動」（9.2%）と続いている。40 代、50 代は、「子どもを対象とした活動」（40 代 40.8%、50 代 44.5%）が最も高く、「健康・医療サービスに関連した活動」（40 代 27.1%、50 代 31.8%）、「防犯のための活動」（40 代 26.6%、50 代 29.5%）と続いている。60 代は、「子どもを対象とした活動」（29.3%）が最も高く、「健康・医療サービスに関連した活動」（26.2%）と「防犯のための活動」（26.2%）が続いている。70 代以上では、「まちづくりのための活動」（27.7%）が最も高く、「健康・医療サービスに関連した活動」（24.0%）と「防犯のための活動」（24.0%）が続いている。

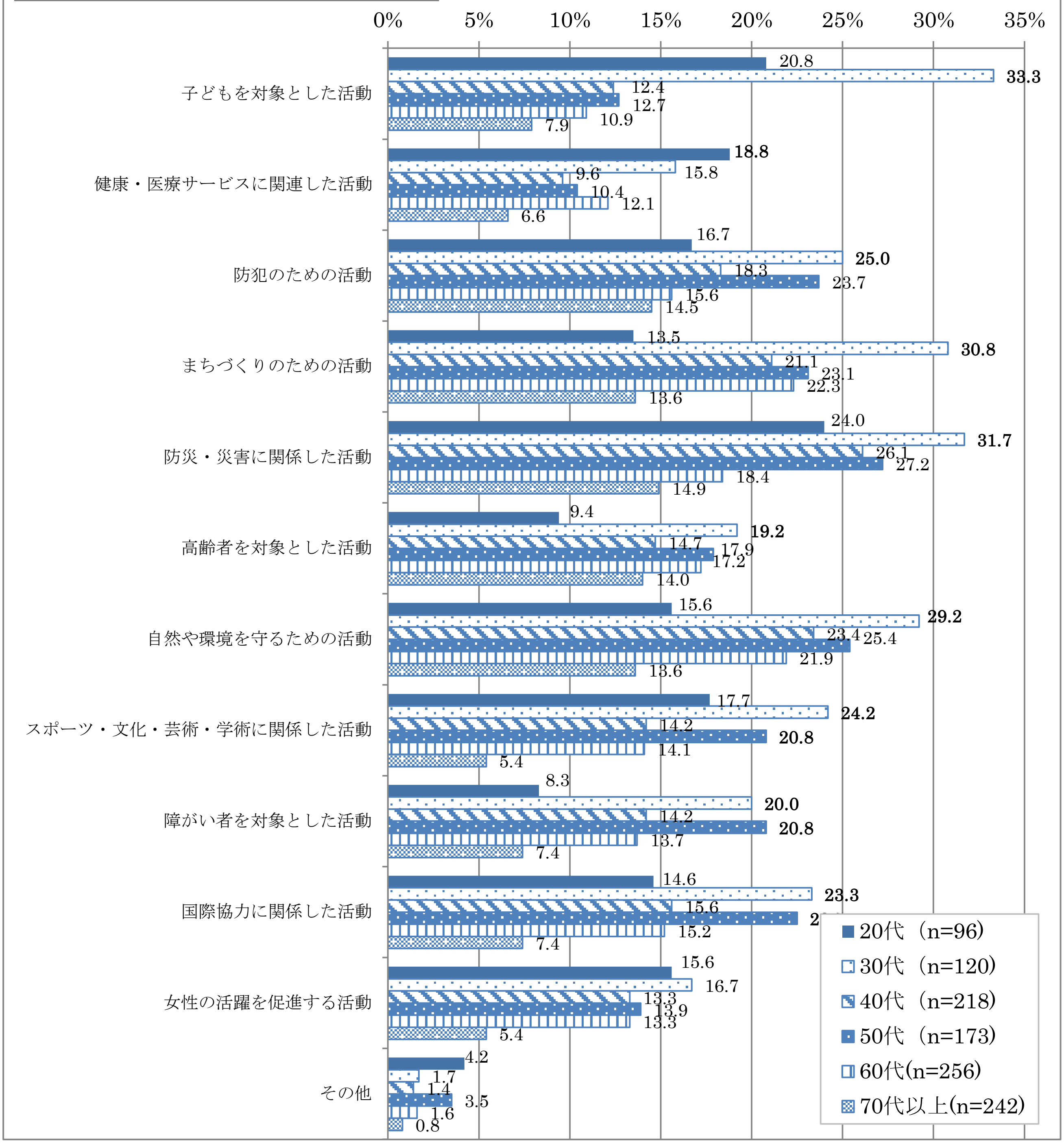


全体　今後、参加したいと思っている活動は、「防災・災害に関係した活動」（22.7%）が最も高く、「自然や環境を守るための活動」（21.2%）、「まちづくりのための活動」（20.5%）と続いている。

性別　性別でみると、女性は「防災・災害に関係した活動」（21.6%）が最も高く、「自然や環境を守るための活動」（18.7%）、「まちづくりのための活動」（18.4%）と続いている。男性は、「自然や環境を守るための活動」（25.0%）、「防災・災害に関係した活動」（24.3%）、「まちづくりのための活動」（23.6%）と続いている。男性が女性より 5 ポイント以上高い項目は、「自然や環境を守るための活動」（6.3 ポイント）、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」（6.3 ポイント）、「まちづくりのための活動」（5.2 ポイント）だった。

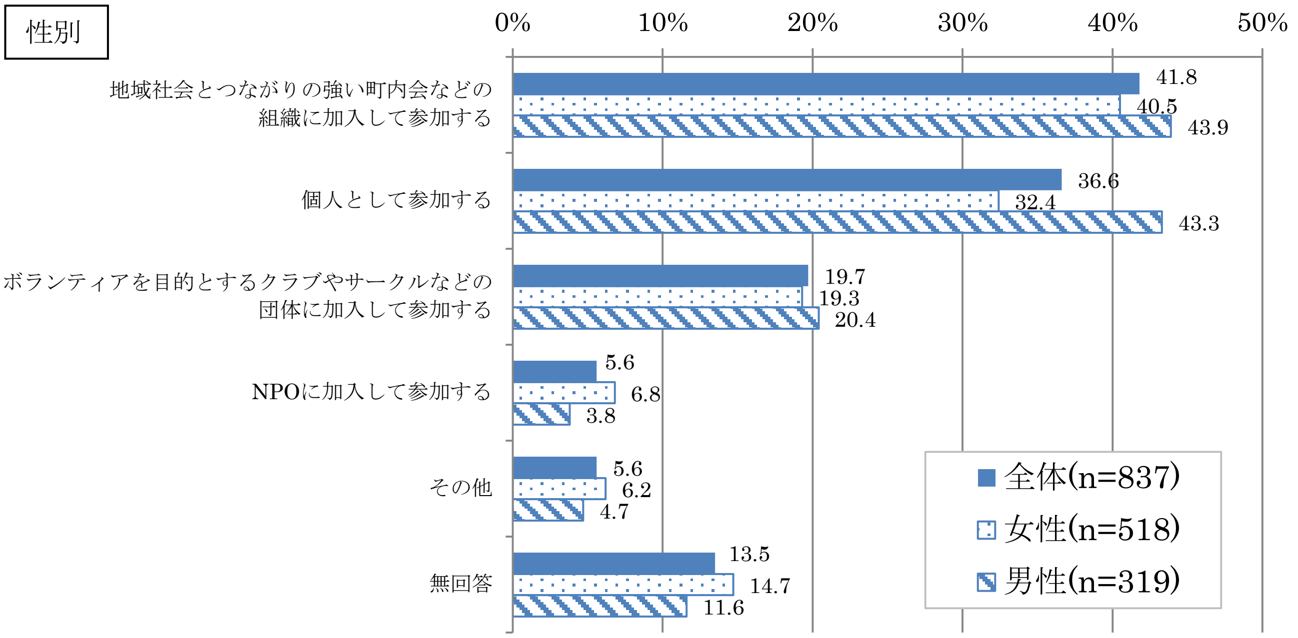
	全体		女性		男性	
	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動
1 位	子どもを対象とした活動(29.5%)	防災・災害に関係した活動（22.7%）	子どもを対象とした活動(32.9%)	防災・災害に関係した活動(21.6%)	健康・医療サービスに関係した活動(25.0%)	自然や環境を守るための活動（25.0%）
2 位	健康・医療サービスに関係した活動(25.9%)	自然や環境を守るための活動（21.2%）	健康・医療サービスに関係した活動(26.5%)	自然や環境を守るための活動（18.7%）	子どもを対象とした活動(24.3%)	防災・災害に関係した活動(24.3%)
3 位	防犯のための活動（22.1%）	まちづくりのための活動（20.5%）	防犯のための活動（20.9%）	まちづくりのための活動（18.4%）	防犯のための活動（23.9%）	まちづくりのための活動(23.6%)

今後、参加したいと思っている活動 年代別



	1位		2位		3位	
	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動	参加したことがある（している活動）	今後参加したいとおもっている活動
20代	健康・医療サービス（18.8%）	防災・災害（24.0%）	子ども（15.6%）	子ども（20.8%）	まちづくり（11.5%）	健康・医療サービス（18.8%）
30代	健康・医療サービス（24.2%）	自然や環境（21.2%）	子ども（13.3%）	自然や環境（18.7%）	自然・環境（9.2%）	防災・災害（24.3%）
40代	子ども（40.8%）	子ども（33.3%）	健康・医療サービス（27.1%）	防災・災害（31.7%）	防犯（26.6%）	まちづくり（30.8%）
50代	子ども（44.5%）	防災・災害（27.2%）	健康・医療サービス（27.1%）	自然や環境（25.4%）	防犯（29.5%）	防犯（23.7%）
60代	子ども（29.3%）	まちづくり（22.3%）	健康・医療サービス／防犯（26.2%）	自然や環境（21.9%）	まちづくり（23.8%）	防災・災害（18.4%）
70代以上	まちづくり（27.7%）	防災・災害（14.9%）	健康・医療サービス／防犯（24.0%）	防犯（14.5%）	高齢者（22.7%）	高齢者（14.0%）

問６．問５のいずれかの活動に「参加したことがある（している）」「今後、参加したいと思っている」を選んだ方にお伺いします。活動に参加している方は参加している方法、参加したいと思っている方は参加しようと思っている方法は、どのような方法ですか？ 【複数回答】

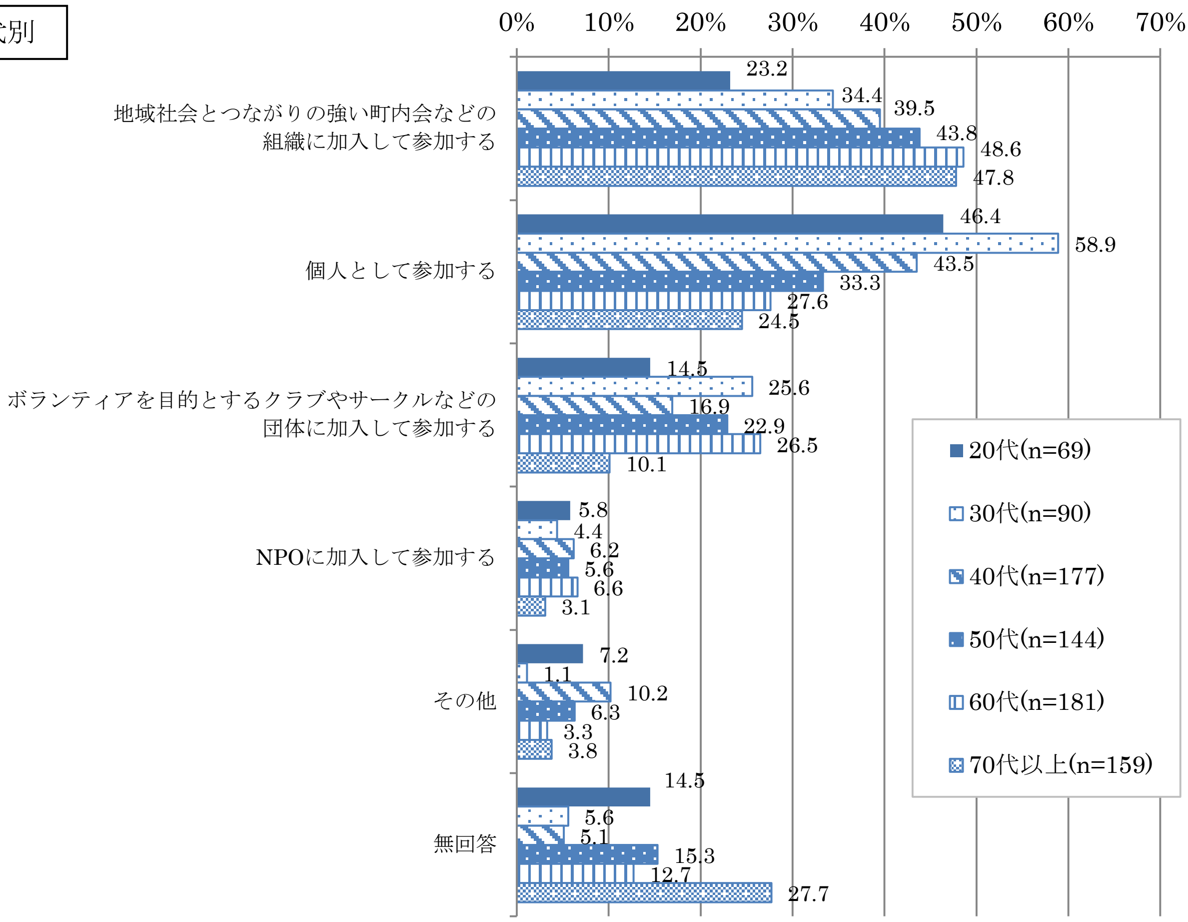


全体　活動に参加している方法、または参加したいと思っている方法は、「地域社会とつながりの強い町内会などの組織に加入して参加する」（41.8％）が最も多く、「個人として参加する」（36.6％）、「ボランティアを目的とするクラブやサークルなどの団体に加入して参加する」（19.7％）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに、「地域社会とつながりの強い町内会などの組織に加入して参加する」（女性 40.5％、男性 43.9％）が最も多く、「個人として参加する」（女性 32.4％、男性 43.3％）、「ボランティアを目的とするクラブやサークルなどの団体に加入して参加する」（女性 19.3％、男性 20.4％）と続いている。
男性が女性とより高い項目は、「個人として参加する」（10.9 ポイント）、「地域社会とつながりの強い町内会などの組織に加入して参加する」（3.4 ポイント）だった。

問６．問５のいずれかの活動に「参加したことがある（している）」「今後、参加したいと思っている」を選んだ方にお伺いします。活動に参加している方は参加している方法、参加したいと思っている方は参加しようと思っている方法は、どのような方法ですか？　【複数回答】

年代別

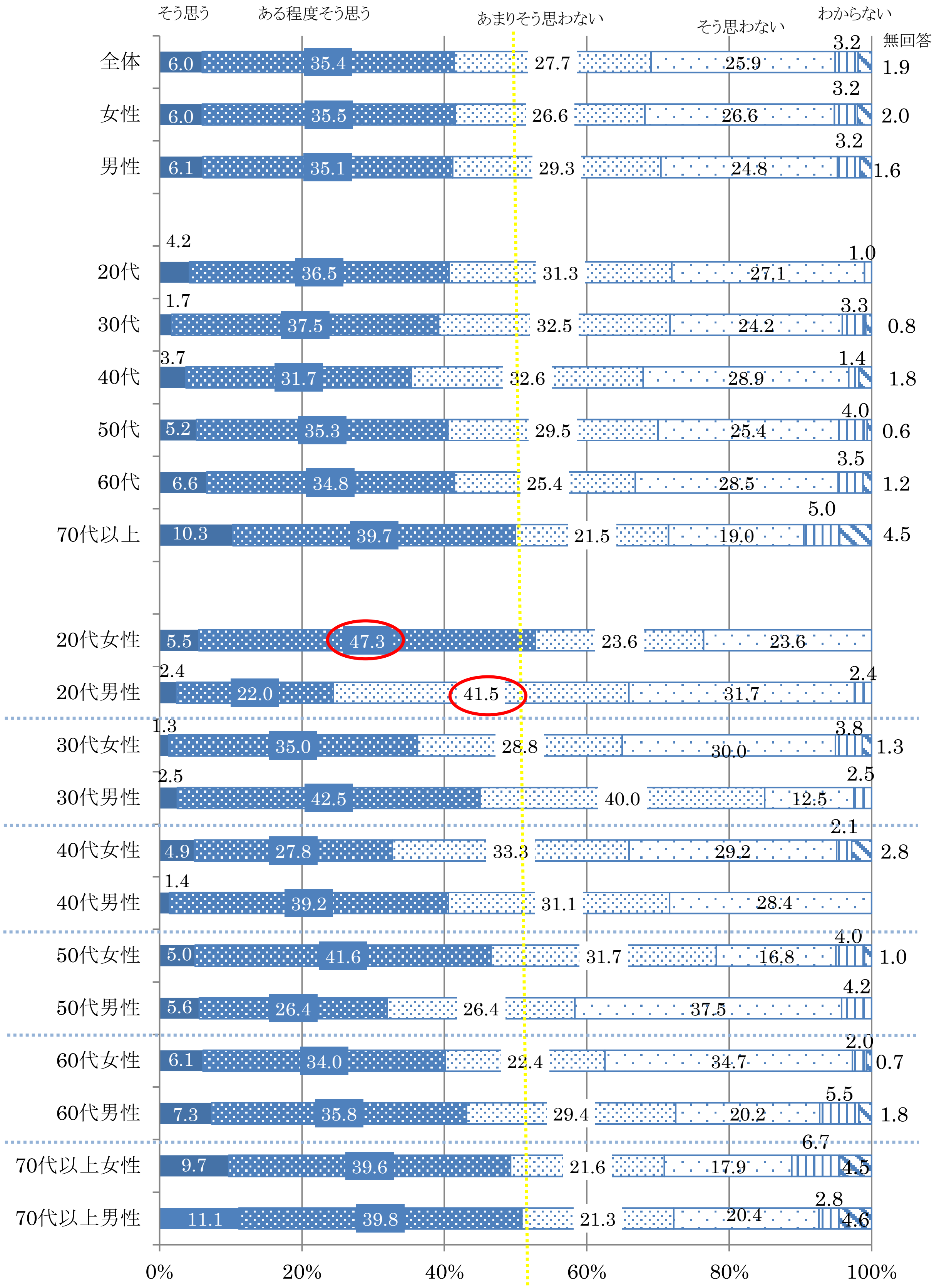


年代別　年代別にみると、20 代、30 代、40 代は、「個人として参加する」（20 代 46.4%、30 代 58.9%、40 代 43.5%）が最も高く、「地域社会とつながりの強い町内会などの組織に加入して参加する」（20 代 23.2%、30 代 34.4%、40 代 39.5%）、「ボランティアを目的とするクラブやサークルなどの団体に加入して参加する」（20 代 14.5%、30 代 25.6%、40 代 16.9%）と続いている。50 代、60 代、70 代以上は、「地域社会とつながりの強い町内会などの組織に加入して参加する」（50 代 43.8%、60 代 48.6%、70 代以上 47.8%）が最も高く、「個人として参加する」（50 代 33.3%、60 代 27.6%、70 代以上 24.5%）、「ボランティアを目的とするクラブやサークルなどの団体に加入して参加する」（50 代 22.9%、60 代 26.5%、70 代以上 10.1%）と続いている。

40 代以下の若い年代は、個人として活動に参加し、50 代以上の年代は地域団体などの組織に加入して活動に参加している、または参加しようとしている傾向がみられる。

２．男女の平等、家庭や結婚生活などについて

問７. あなたは､｢男性は仕事､女性は家庭を中心とする｣という考え方についてどう思われますか？　【SA】



ｎ＝全体:1128、女性:684、男性:444、20 代:96、30 代:120、40 代:218、50 代:173、60 代:256、70 代以上:242

全体　「男性は仕事、女性は家庭を中心とする」という考え方について、「ある程度そう思う」（35.4%）が最も多く、「あまりそう思わない」（27.7%）、「そう思わない」（25.9%）と続いている。
「反対」とする方の割合が 53.6%（「あまりそう思わない」27.7%＋「そう思わない」25.9%）、「賛成」とする方の割合が 41.4%（「そう思う」6.0%＋「ある程度そう思う」35.4%）となっており、「反対」が「賛成」の割合を超えた。

性別　男女とも、「ある程度そう思う」（女性 35.5%、男性 35.1%）が最も多く、女性は「あまりそう思わない」(26.6%)、「そう思わない」(26.6%) と同数で続いている。男性は、次いで「あまりそう思わない」(29.3%)、「そう思わない」（24.8%）と続いている。
　女性では、「反対」とする方の割合が 53.2%（「あまりそう思わない」26.6%＋「そう思わない」26.6%）、「賛成」とする方の割合が 41.5%（「そう思う」6.0%＋「ある程度そう思う」35.5%）となっており、「反対」が「賛成」よりも多かった。男性でも、「反対」とする方の割合が 54.1%（「あまりそう思わない」29.3%＋「そう思わない」24.8%）、「賛成」とする方の割合が 41.2%（「そう思う」6.1%＋「ある程度そう思う」35.1%）となっており、「反対」が「賛成」よりも多かった。男女ともに、「ある程度そう思う」が最も多いが、「賛成」よりも「反対」が多くなっている。

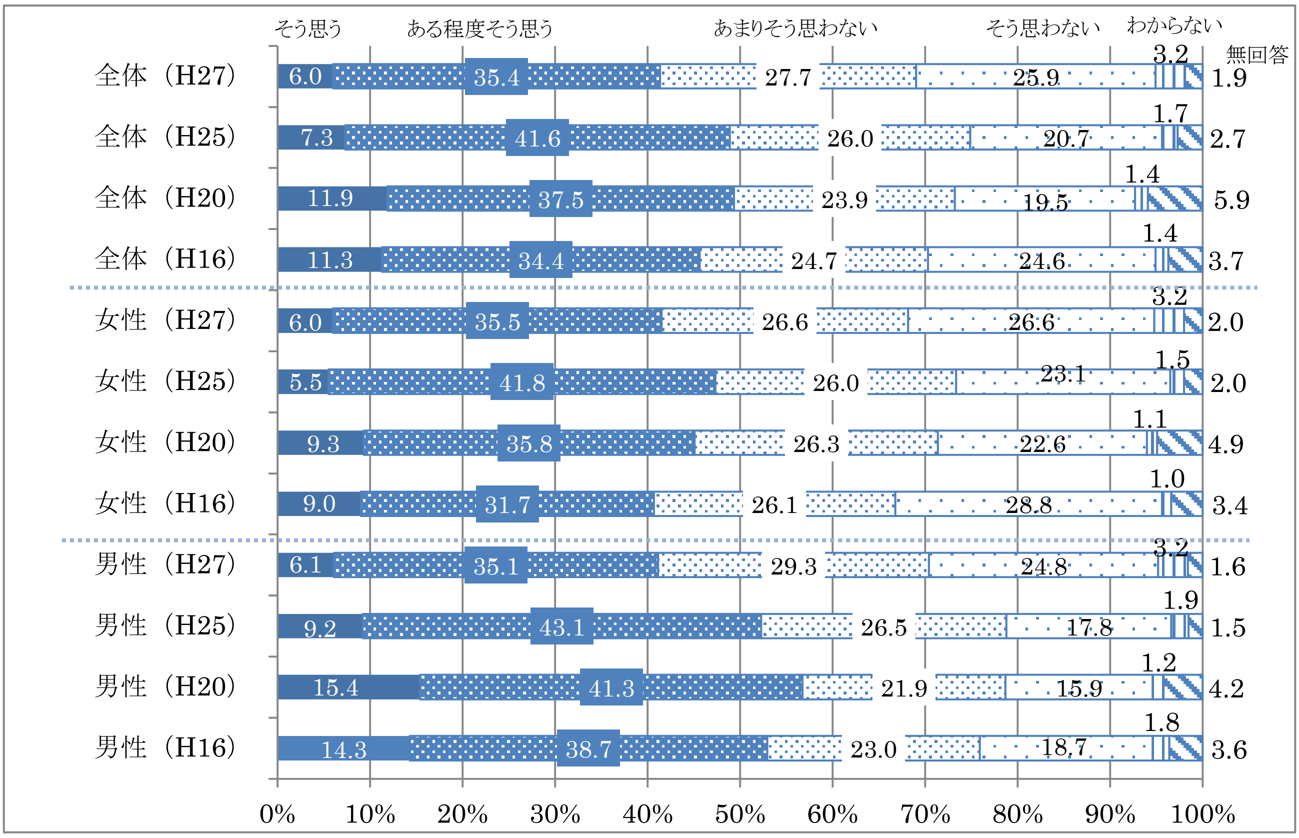
年代別　年代別でみると、20 代、30 代、50 代、60 代、70 代以上は「ある程度そう思う」(20 代 36.5%、30 代 37.5%、50 代 35.3%、60 代 34.8%、70 代以上 39.7%) が最も多く、40 代のみ「あまりそう思わない」(32.6%) が最も多かった。20 代から 60 代までは、「反対」とする方の割合が 50%を超えており、「賛成」とする割合よりも高く、70 代以上は、「賛成」とする方の割合が 50.0%で、「反対」とする割合よりも高くなっている。

性別年代別　性別年代別でみると、20 代女性、30 代男女、40 代男性、50 代女性、60 代男性、70 代以上男女は「ある程度そう思う」(20 代女性 47.3%、30 代女性 35.0%、30 代男性 42.5%、40 代男性 39.2%、50 代女性 41.6%、60 代男性 35.8%、70 代以上女性 39.6%、70 代以上男性 39.8%）が最も多く、20 代男性、40 代女性は「あまりそう思わない」（20 代男性 41.5%、40 代女性 33.3%）が最も多く、50 代男性、60 代女性は「そう思わない」(50 代男性 37.5%、60 代女性 34.7%）が最も多かった。
20 代女性、70 代以上男女は、「賛成」が「反対」を上回っているが、それ以外は「反対」が「賛成」を上回っている。「賛成」とする割合の男女差をみると、20 代女性が 52.8%、20 代男性が 24.4%と、28.4 ポイントの大きな差がみられた。「反対」とする割合も、20 代女性が 47.2%、20 代男性が 73.2%と、26.0 ポイントの差がみられた。

【経年比較】

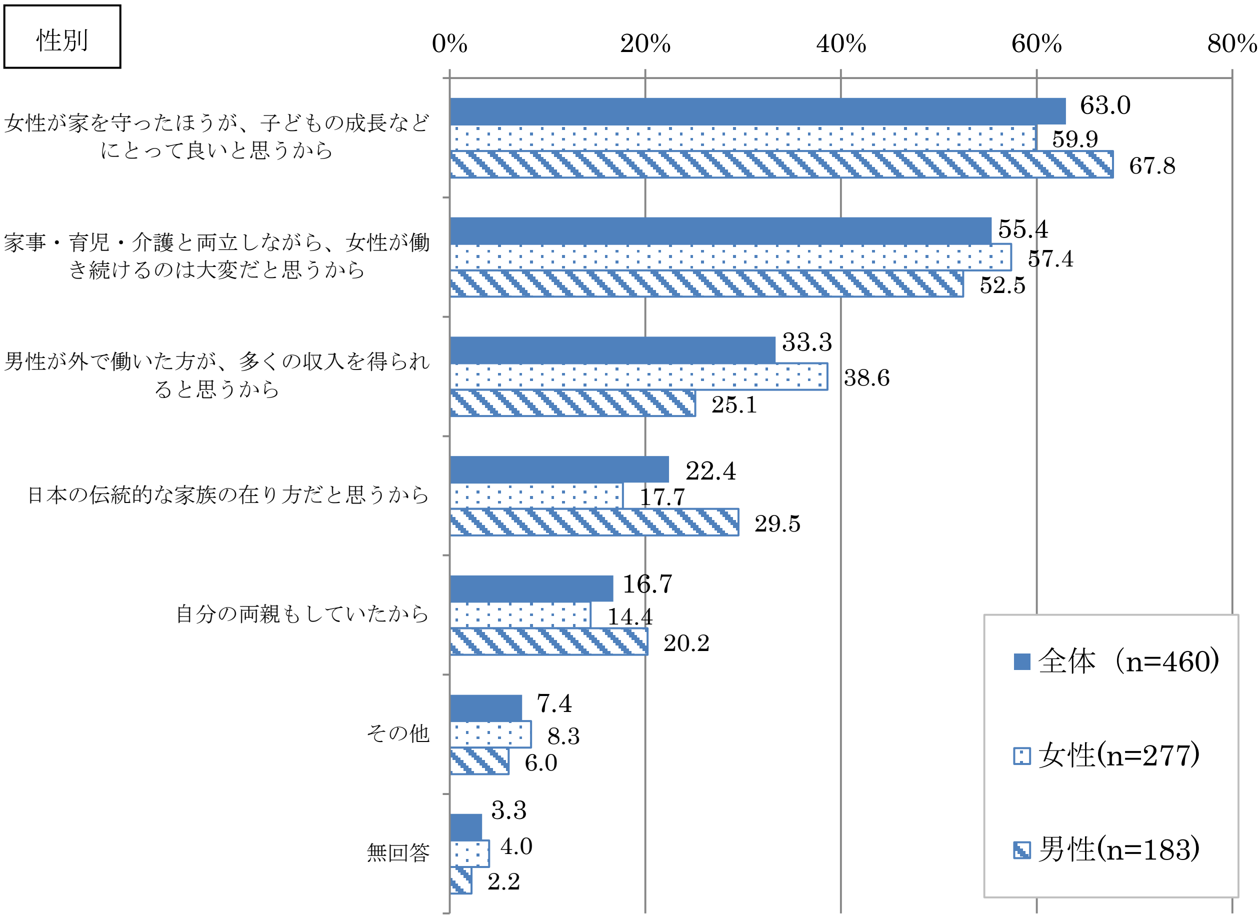
平成 16 年度の市民意識調査から比較すると、全体では平成 20 年度の調査で「賛成」が「反対」より多くなっていたが、今回の調査で、「反対」と「賛成」が逆転し、過半数が「反対」となった。

性別でみると、女性は平成 16 年度以降、一貫して「反対」が「賛成」よりも多数となっているが、平成 16 年度から平成 25 年度まで「賛成」が「反対」よりも多数となっていた男性は、今回の調査で、「反対」と「賛成」が逆転し、過半数が「反対」となった。



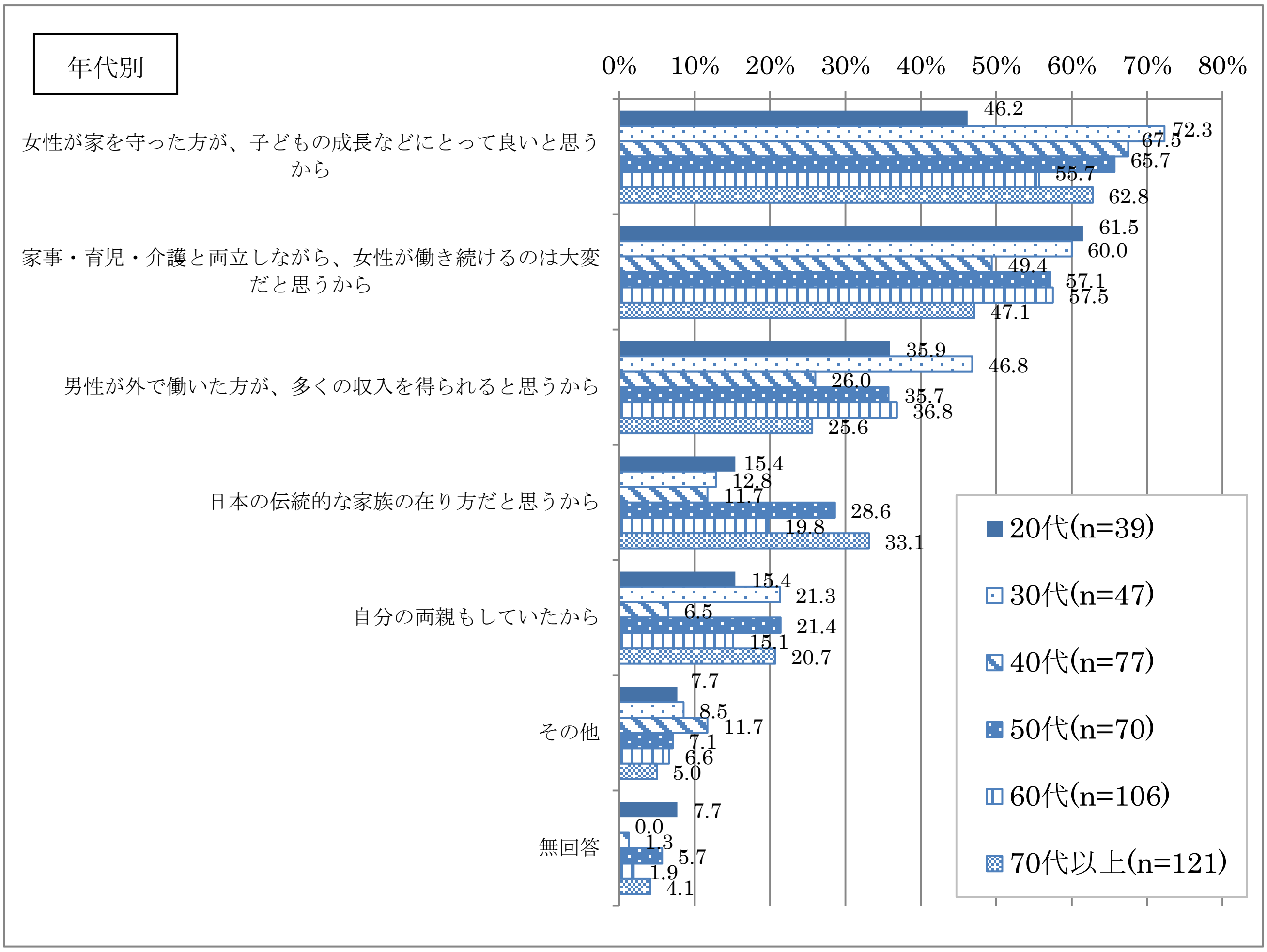
		賛成	反対	わからない	無回答
		そう思う・ある程度そう思う	あまりそう思わない・そう思わない		
全体	H27	41.4%	**53.6%**	3.2%	1.9%
	H25	**48.9%**	46.7%	1.7%	2.7%
	H20	**49.4%**	43.4%	1.4%	5.9%
	H16	45.7%	**49.3%**	1.4%	3.7%
女性	H27	41.5%	**53.2%**	3.2%	2.0%
	H25	47.3%	**49.1%**	1.5%	2.0%
	H20	45.1%	**48.9%**	1.1%	4.9%
	H16	40.7%	**54.9%**	1.0%	3.4%
男性	H27	41.2%	**54.1%**	3.1%	1.6%
	H25	**52.3%**	44.3%	1.9%	1.5%
	H20	**56.7%**	37.8%	1.2%	4.2%
	H16	**53.0%**	41.7%	1.8%	1.0%

問８．問７で「そう思う」「ある程度そう思う」を選んだ方にお伺いします。
それはなぜですか？
【複数回答】



全体　「男性は仕事、女性は家庭を中心とする」という考え方に賛成する理由として、「女性が家を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(63.0%）が最も多く、「家事・育児・介護と両立しながら女性が働き続けるのは大変だと思うから」(55.4%)、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(33.3%）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに「女性が家を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(女性 59.9%、男性 67.8%）が最も多く、「家事・育児・介護と両立しながら女性が働き続けるのは大変だと思うから」(女性 57.4%、男性 52.5%）と続いている。次いで、女性は「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(38.6%)、男性は「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」(29.5%）と続いている。女性が男性と比べて 5 ポイント以上高い項目は、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」（13.5 ポイント）で、男性が女性と比べて 5 ポイント以上高い項目は、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」(11.8 ポイント)、「女性が家を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(7.9 ポイント)、「自分の両親もしていたから」(5.8 ポイント）だった。



年代別　年代別でみると、20 代と 60 代は「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから」（20 代 61.5%、60 代 57.5%）が最も多く、「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」（20 代 46.2%、60 代 55.7%）、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」（20 代 35.9%、60 代 36.8%）と続いている。30 代、40 代、50 代、70 代以上は「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」（30 代 72.3%、40 代 67.5%、50 代 65.7%、70 代以上 62.8%）が最も高く、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから」（30 代 60.0%、40 代 49.4%、50 代 57.1%、70 代以上 47.1%）と続いている。次いで、30 代、40 代、50 代は「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」（30 代 46.8%、40 代 26.0%、50 代 35.7%）、70 代以上は「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」（33.1%）と続いている。

【順位表】　年代別

<table>
<tr><th></th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td>家事･育児･介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
（61.5%）</td><td colspan="3">女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
（72.3%）　（67.5%）　（65.7%）</td><td>家事･育児･介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
（57.5%）</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
（62.8%）</td></tr>
<tr><td>2位</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
（46.2%）</td><td colspan="3">家事･育児･介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
（60.0%）　（49.4%）　（57.1%）</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
（55.7%）</td><td>家事･育児･介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
（47.1%）</td></tr>
<tr><td>3位</td><td colspan="5">男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
（35.9%）　（46.8%）　（26.0%）　（35.7%）　（36.8%）</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから（33.1%）</td></tr>
</table>

性別年代別

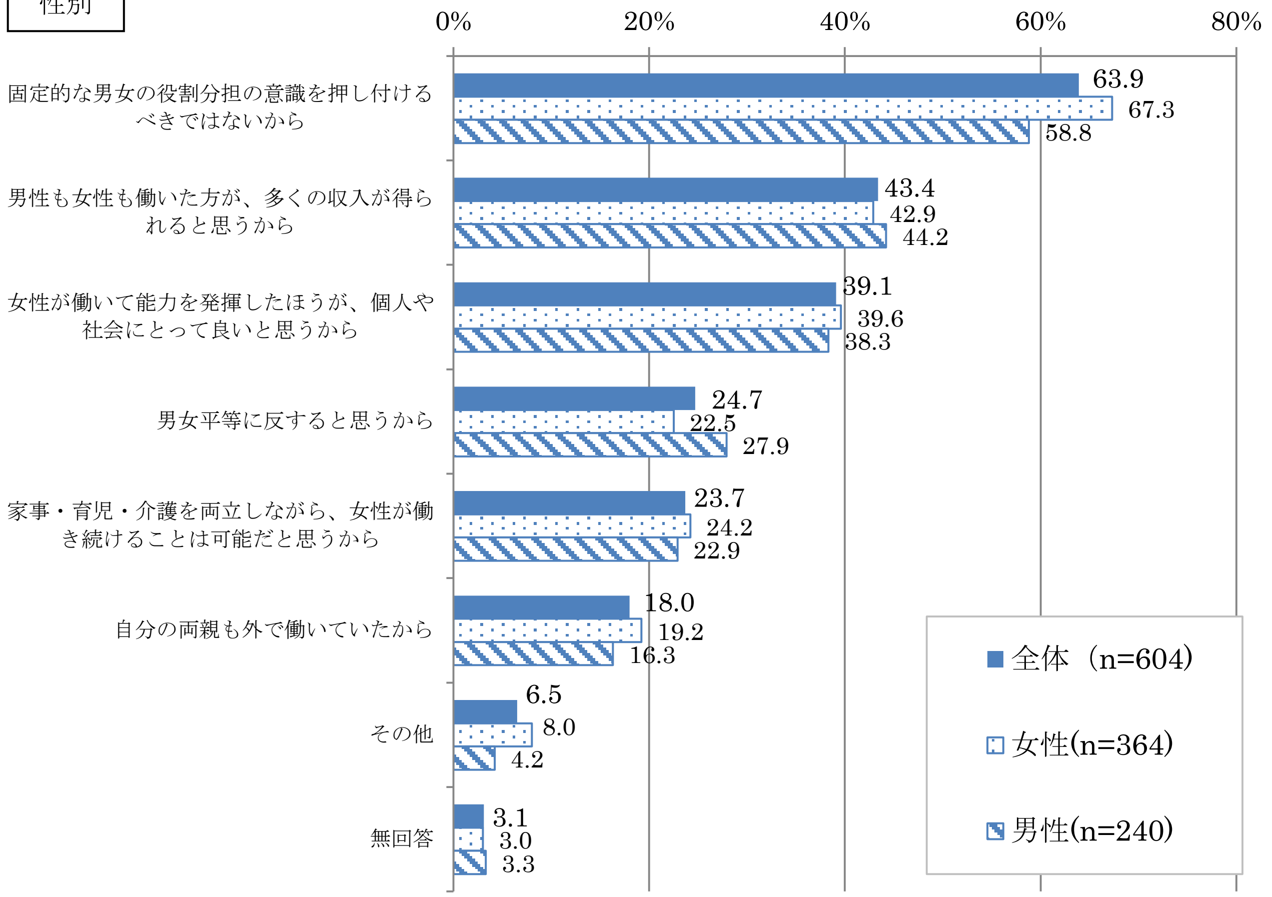
性別年代別でみると、30 代女性を除くすべての性別年代で、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから」と「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が上位２項目となっている。

【順位表】　性別年代別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="2">家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(62.1%)　(72.4%)</td><td colspan="2">女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(63.8%)(63.8%)</td><td>家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(62.7%)</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(60.6%)</td><td>家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(60.0%)</td><td colspan="5">女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(88.9%)　(73.3%)　(69.6%)　(63.8%)
(65.5%)</td></tr>
<tr><td>2位</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(48.3%)</td><td>男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
(69.0%)</td><td colspan="2">家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(46.8%)(55.3%)</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(49.2%)</td><td>家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(47.0%)</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(40.0%)</td><td colspan="5">家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けるのは大変だと思うから
(55.6%)　(53.3%)　(60.9%)　(51.1%)　(47.3%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td>男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
(41.4%)</td><td>女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
(62.1%)</td><td colspan="3">男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
(31.9%)　(38.3%)　(42.4%)</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
(25.8%)</td><td>自分の両親もしていたから
(30.0%)</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
(16.7%)
自分の両親もしていたから
(16.7%)</td><td>男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
(16.7%)</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
(43.5%)</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
(29.8%)
男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
(29.8%)</td><td>日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
(41.8%)</td></tr>
</table>

問９．問７で「あまりそう思わない」「そう思わない」を選んだ方にお伺いします。
それはなぜですか？ 【複数回答】

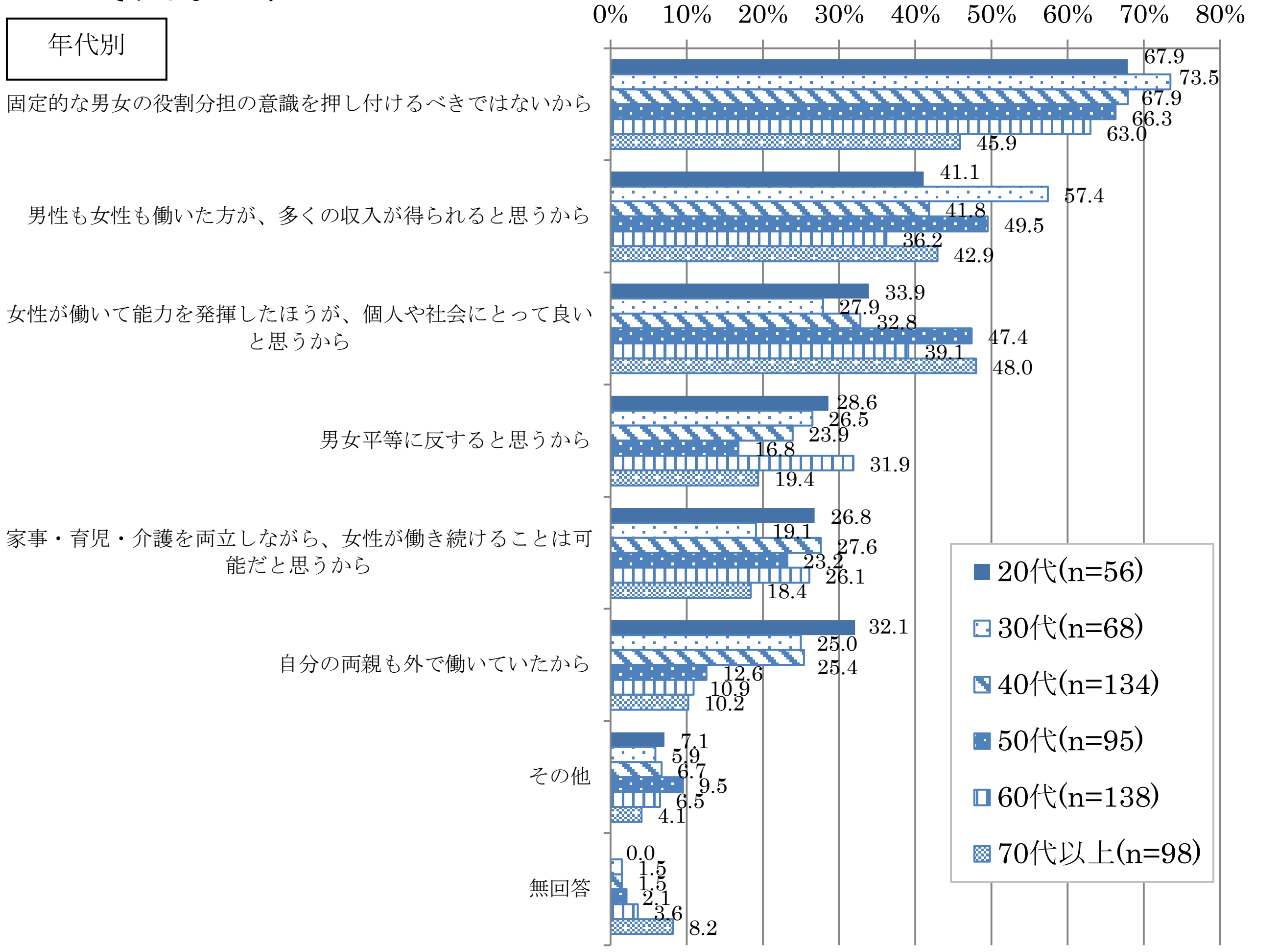
性別



全体　「男性は仕事、女性は家庭を中心とする」という考え方に反対する理由として、「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」（63.9％）が最も多く、「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（43.4％）、「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」（39.1％）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに、「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」（女性67.3％、男性 58.8％）が最も多く、「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（女性 42.9％、男性 44.2％）、「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」（女性 39.6％、男性 38.3％）と続いている。女性が男性よりも 5 ポイント以上高い項目は、「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」で 8.5 ポイントの差がみられた。男性が女性よりも 5 ポイント以上高い項目は、「男女平等に反すると思うから」で 5.4 ポイントの差がみられた。

問９．問７で「あまりそう思わない」「そう思わない」を選んだ方にお伺いします。　　【複数回答】
それはなぜですか？



年代別　年代別でみると、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代は、「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」（20 代 67.9%、30 代 73.5%、40 代 67.9%、50 代 66.3%、60 代 63.0%）が最も多く、70 代以上は、「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」（48.0%）が最も多かった。次いで、20 代、30 代、40 代、50 代は、「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（20 代 41.1%、30 代 57.4%、40 代 41.8%、50 代 49.5%）と続き、60 代は「女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」（39.1%）、70 代以上は「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」（45.9%）と続いている。

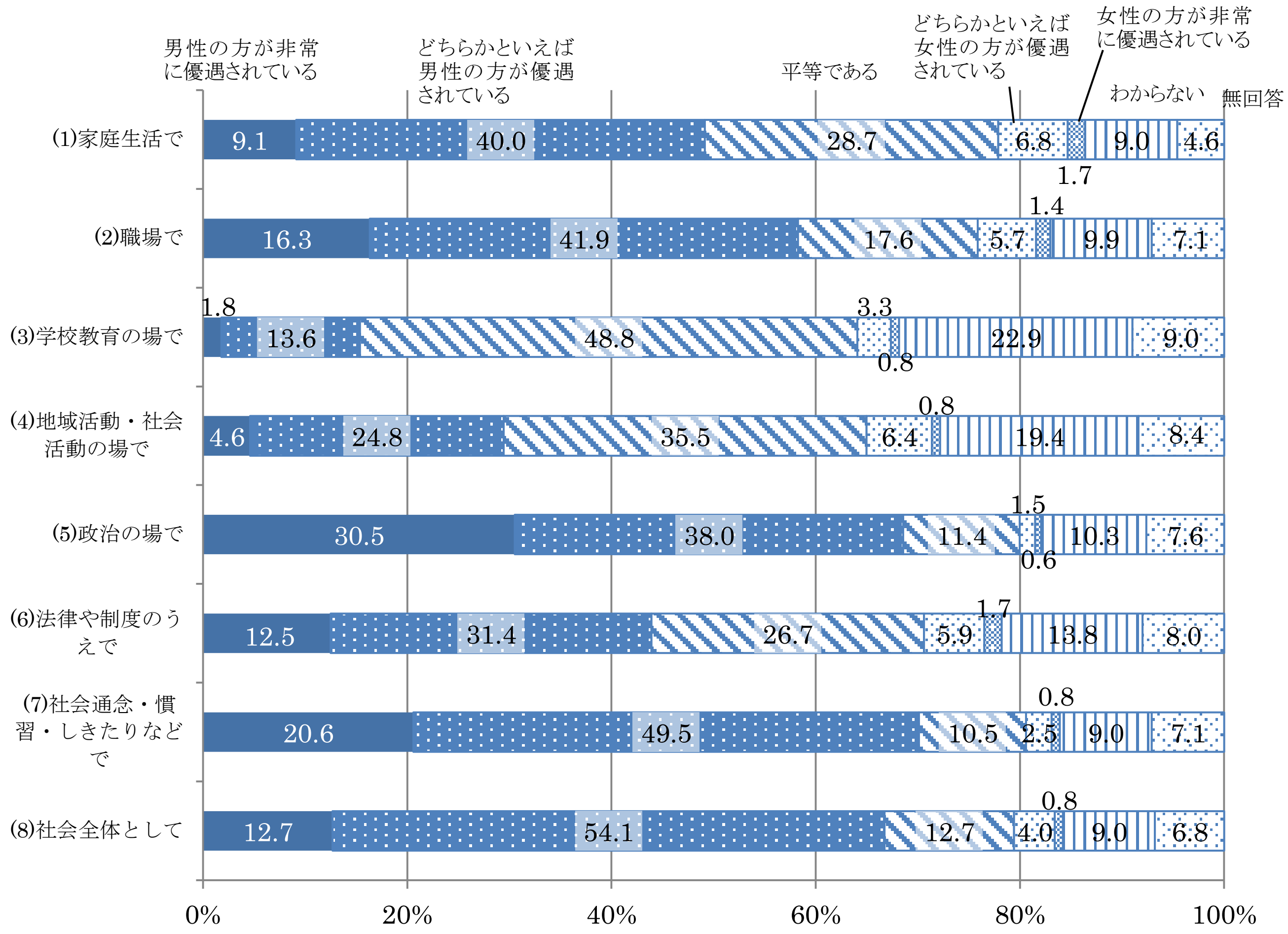
【順位表】年代別

<table>
<tr><th></th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>１位</td><td colspan="5">固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから
（67.9%）　（73.5%）　（67.9%）　（66.3%）　（63.0%）</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから　（48.0%）</td></tr>
<tr><td>２位</td><td colspan="4">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
（41.1%）　（57.4%）　（41.8%）　（49.5%）</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから　（39.1%）</td><td>固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから　（45.9%）</td></tr>
<tr><td>３位</td><td colspan="4">女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
（33.9%）　（27.9%）　（32.8%）　（47.4%）</td><td colspan="2">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
（36.2%）　（42.9%）</td></tr>
</table>

【順位表】　性別年代別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="5">固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから
(61.5%)　(78.7%)　(75.6%)　(69.4%)　(66.7%)</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(49.1%)</td><td colspan="6">固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから
(73.3%)　(61.9%)　(52.3%)　(63.0%)　(57.4%)　(51.1%)</td></tr>
<tr><td>2位</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(42.3%)</td><td colspan="3">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
(55.3%)　(45.6%)　(53.1%)</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(35.7%)</td><td>固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきでないから
(41.5%)</td><td colspan="3">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
(50.0%)　(61.9%)　(34.1%)</td><td colspan="2">女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(52.2%)　(44.4%)</td><td>男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
(46.7%)
女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(46.7%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td>男女平等に反すると思うから
(38.5%)</td><td colspan="3">女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(31.9%)　(36.7%)　(42.9%)</td><td colspan="2">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
(34.5%)　(39.6%)</td><td>自分の両親も外で働いていたから
(33.3%)</td><td>男女平等に反すると思うから
(28.6%)</td><td>女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
(25.0%)
家事・育児・介護を両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから
(25.0%)</td><td colspan="2">男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
(45.7%)　(38.9%)</td><td>男女平等に反すると思うから
(31.1%)</td></tr>
</table>

問１０．あなたは、次にあげる分野で男女平等が進んでいるとおもわれますか？
あてはまるものを１つ選んで○をおつけください。【SA】

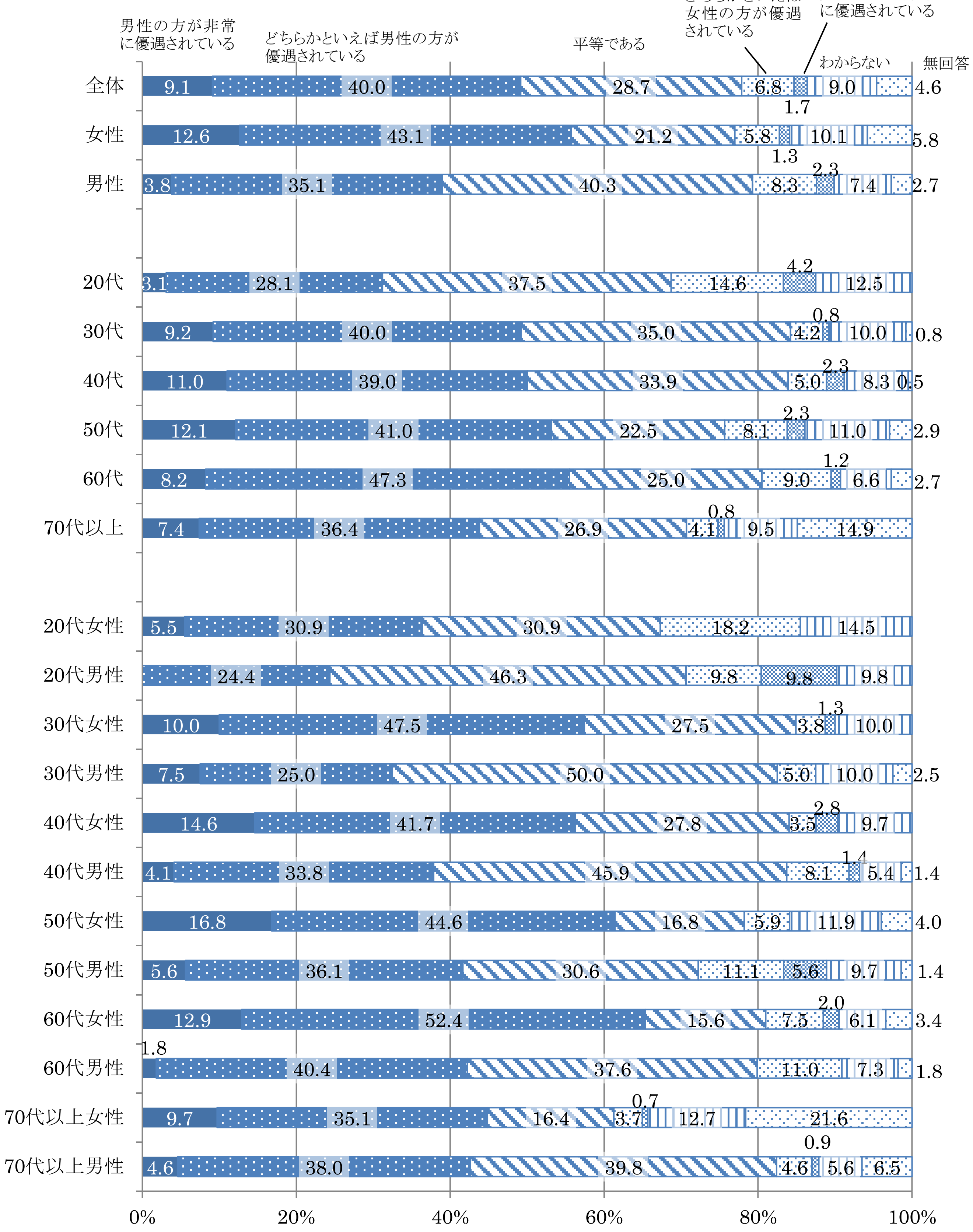


「平等である」とする割合は、「学校教育の場で」（48.8%）が最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなどで」（10.5%）が最も低くなっている。一方で、「男性優遇*1」とする割合は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」（70.1%）、「政治の場で」（68.5%）、「社会全体として」（66.8%）において特に高くなっており、「職場で」（17.6%）も含めて５割を超えている。「女性優遇*2」とする割合は、すべての項目において１割を下回る数値となっている。「平等である」とする割合が高い項目は「学校教育の場で」及び「地域活動・社会活動の場で」の２項目で、それ以外の項目は「男性優遇」とする割合が高くなっている。

項目	「平等である」とする割合		「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
(3)学校教育の場で	48.8%	＞	15.4%	4.1%
(4)地域活動・社会活動の場で	35.5%		29.4%	7.2%
(1)家庭生活で	28.7%	＜	49.1%	8.5%
(6)法律や制度のうえで	26.7%		43.9%	7.6%
(2)職場で	17.6%		58.2%	7.1%
(8)社会全体として	12.7%		66.8%	4.8%
(5)政治の場で	11.4%		68.5%	2.1%
(7)社会通念・慣習・しきたりなどで	10.5%		70.1%	3.3%

＊1「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊2「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

（１）家庭生活で



男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体 9.1 40.0 28.7 6.8 1.7 9.0 4.6
女性 12.6 43.1 21.2 5.8 1.3 10.1 5.8
男性 3.8 35.1 40.3 8.3 2.3 7.4 2.7
20代 3.1 28.1 37.5 14.6 4.2 12.5
30代 9.2 40.0 35.0 4.2 0.8 10.0 0.8
40代 11.0 39.0 33.9 5.0 2.3 8.3 0.5
50代 12.1 41.0 22.5 8.1 2.3 11.0 2.9
60代 8.2 47.3 25.0 9.0 1.2 6.6 2.7
70代以上 7.4 36.4 26.9 4.1 0.8 9.5 14.9
20代女性 5.5 30.9 30.9 18.2 14.5
20代男性 24.4 46.3 9.8 9.8 9.8
30代女性 10.0 47.5 27.5 3.8 1.3 10.0
30代男性 7.5 25.0 50.0 5.0 10.0 2.5
40代女性 14.6 41.7 27.8 3.5 2.8 9.7
40代男性 4.1 33.8 45.9 8.1 1.4 5.4 1.4
50代女性 16.8 44.6 16.8 5.9 11.9 4.0
50代男性 5.6 36.1 30.6 11.1 5.6 9.7 1.4
60代女性 12.9 52.4 15.6 7.5 2.0 6.1 3.4
60代男性 1.8 40.4 37.6 11.0 7.3 1.8
70代以上女性 9.7 35.1 16.4 3.7 0.7 12.7 21.6
70代以上男性 4.6 38.0 39.8 4.6 0.9 5.6 6.5
0%
20%
40%
60%
80%
100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	28.7%	49.1%	8.5%
全体（H25）	34.4%	45.7%	8.7%
全体（H20）	28.8%	50.9%	6.6%
全体（H16）	26.7%	58.7%	4.8%
女性（H27）	21.2%	55.7%	7.1%
女性（H25）	27.3%	55.4%	6.3%
女性（H20）	25.2%	56.1%	5.5%
女性（H16）	19.9%	66.3%	4.4%
男性（H27）	40.3%	38.9%	10.6%
男性（H25）	43.8%	34.3%	11.9%
男性（H20）	36.3%	44.6%	7.7%
男性（H16）	36.7%	47.4%	5.6%
２０代	37.5%	31.2%	18.8%
３０代	35.0%	49.2%	5.0%
４０代	33.9%	50.0%	7.3%
５０代	22.5%	53.1%	10.4%
６０代	25.0%	55.5%	10.2%
７０代以上	26.9%	43.8%	4.9%
２０代女性	30.9%	36.4%	18.2%
２０代男性	46.3%	24.4%	19.6%
３０代女性	27.5%	57.5%	5.1%
３０代男性	50.0%	32.5%	5.0%
４０代女性	27.8%	56.3%	6.3%
４０代男性	45.9%	37.9%	9.5%
５０代女性	16.8%	61.4%	5.9%
５０代男性	30.6%	41.7%	16.7%
６０代女性	15.6%	65.3%	9.5%
６０代男性	37.6%	42.2%	11.0%
７０代以上女性	16.4%	44.8%	4.4%
７０代以上男性	39.8%	42.6%	5.5%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 49.1%。「平等である」とする割合が 28.7%、「女性優遇」とする割合が 8.5% となっている。平成 16 年度から比較すると、平成 25 年度にかけて「男性優遇」とする割合が減少し、「平等である」とする割合が増加傾向となっていたが、平成 25 年度から 27 年度にかけては「男性優遇」とする割合が 3.4 ポイント増加し、「平等である」とする割合が 5.7 ポイント減少した。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 55.7%、「平等である」とする割合が 21.2%、「女性優遇」とする割合が 7.1%で、男性は「平等である」とする割合が 40.3%、「男性優遇」とする割合が 38.9%、「女性優遇」とする割合が 10.6%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 19.1 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 16.8 ポイント高くなっている。

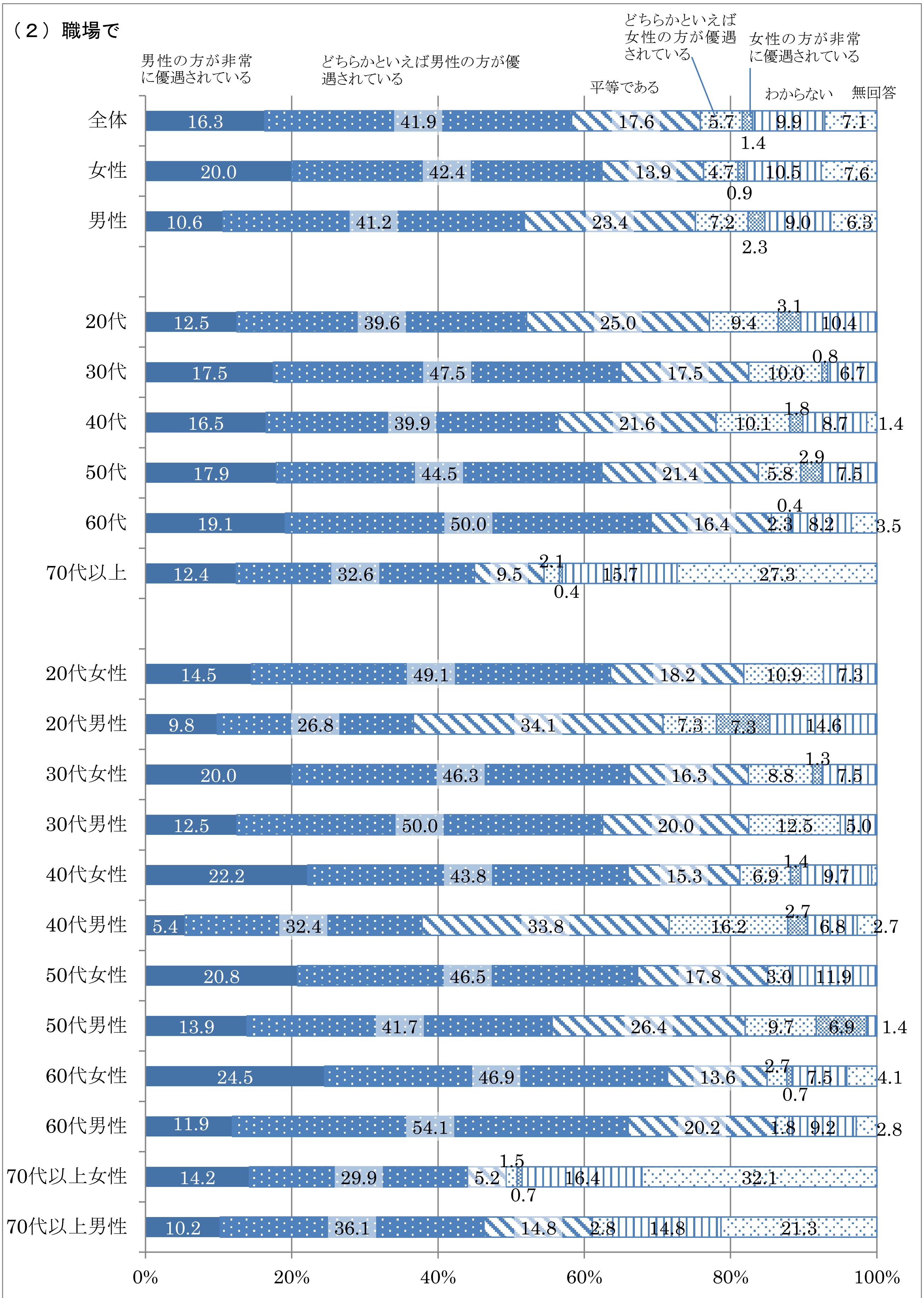
経年比較をみると、男女ともに平成 25 年度にかけて「男性優遇」とする割合が減少し、「平等である」とする割合が増加傾向となっていたが、平成 25 年度から 27 年度にかけては「男性優遇」とする割合が増加し（女性：0.3 ポイント、男性：4.6 ポイント）、「平等である」とする割合が減少した（女性：6.1 ポイント、男性：3.5 ポイント）。また、男性は平成 25 年度から、「平等である」とする割合が「男性優遇」とする割合を超えている。

年代別　年代別でみると、20 代のみ、「平等である」とする割合が「男性優遇」とする割合を上回り、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上では、「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を上回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、女性ではどの年代でも「男性優遇」とする割合が「平等である」とする割合を上回り、特に 50 代女性、60 代女性で 6 割を超えている。女性の中で最も「男性優遇」とする割合の低い 20 代女性と最も高い 60 代女性では、28.9 ポイントの差がみられた。一方、男性では、20 代男性、30 代男性、40 代男性では、「平等である」とする割合が最も高く、50 代男性、60 代男性、70 代以上男性では「男性優遇」とする割合が最も高くなっている。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 70 代以上では 23.4 ポイント、30 代では 22.5 ポイント、60 代では 22.0 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 30 代では 25.0 ポイント、60 代では 23.1 ポイント高くなっている。

（２）職場で



男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体
女性
男性
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上
20代女性
20代男性
30代女性
30代男性
40代女性
40代男性
50代女性
50代男性
60代女性
60代男性
70代以上女性
70代以上男性
0%
20%
40%
60%
80%
100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	17.6%	58.2%	7.1%
全体（H25）	20.7%	55.5%	6.9%
全体（H20）	15.6%	55.4%	6.6%
全体（H16）	16.0%	60.4%	4.7%
女性（H27）	13.9%	62.4%	5.6%
女性（H25）	18.2%	61.0%	4.4%
女性（H20）	10.9%	61.7%	4.7%
女性（H16）	12.6%	63.9%	2.7%
男性（H27）	23.4%	51.8%	9.5%
男性（H25）	23.8%	50.9%	11.9%
男性（H20）	22.6%	48.7%	7.7%
男性（H16）	20.6%	56.7%	5.6%
２０代	25.0%	52.1%	12.5%
３０代	17.5%	65.0%	10.8%
４０代	21.6%	56.4%	11.9%
５０代	21.4%	62.4%	8.7%
６０代	16.4%	69.1%	2.7%
７０代以上	9.5%	45.0%	2.5%
２０代女性	18.2%	63.6%	10.9%
２０代男性	34.1%	36.6%	14.6%
３０代女性	16.3%	66.3%	10.1%
３０代男性	20.0%	62.5%	12.5%
４０代女性	15.3%	67.0%	8.3%
４０代男性	33.8%	37.8%	18.9%
５０代女性	17.8%	67.3%	3.0%
５０代男性	26.4%	55.6%	16.6%
６０代女性	13.6%	71.4%	3.4%
６０代男性	20.2%	66.0%	1.8%
７０代以上女性	5.2%	44.1%	2.2%
７０代以上男性	14.8%	46.3%	2.8%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 58.2%、「平等である」とする割合が 17.6%、「女性優遇」とする割合が 7.1%となっている。平成 16 年度から比較すると、平成 25 年度にかけて「男性優遇」とする割合が減少し、「平等である」とする割合が増加傾向となっていたが、平成 25 年度から 27 年度にかけては「男性優遇」とする割合が 2.7 ポイント増加し、「平等である」とする割合が 3.1 ポイント減少した。

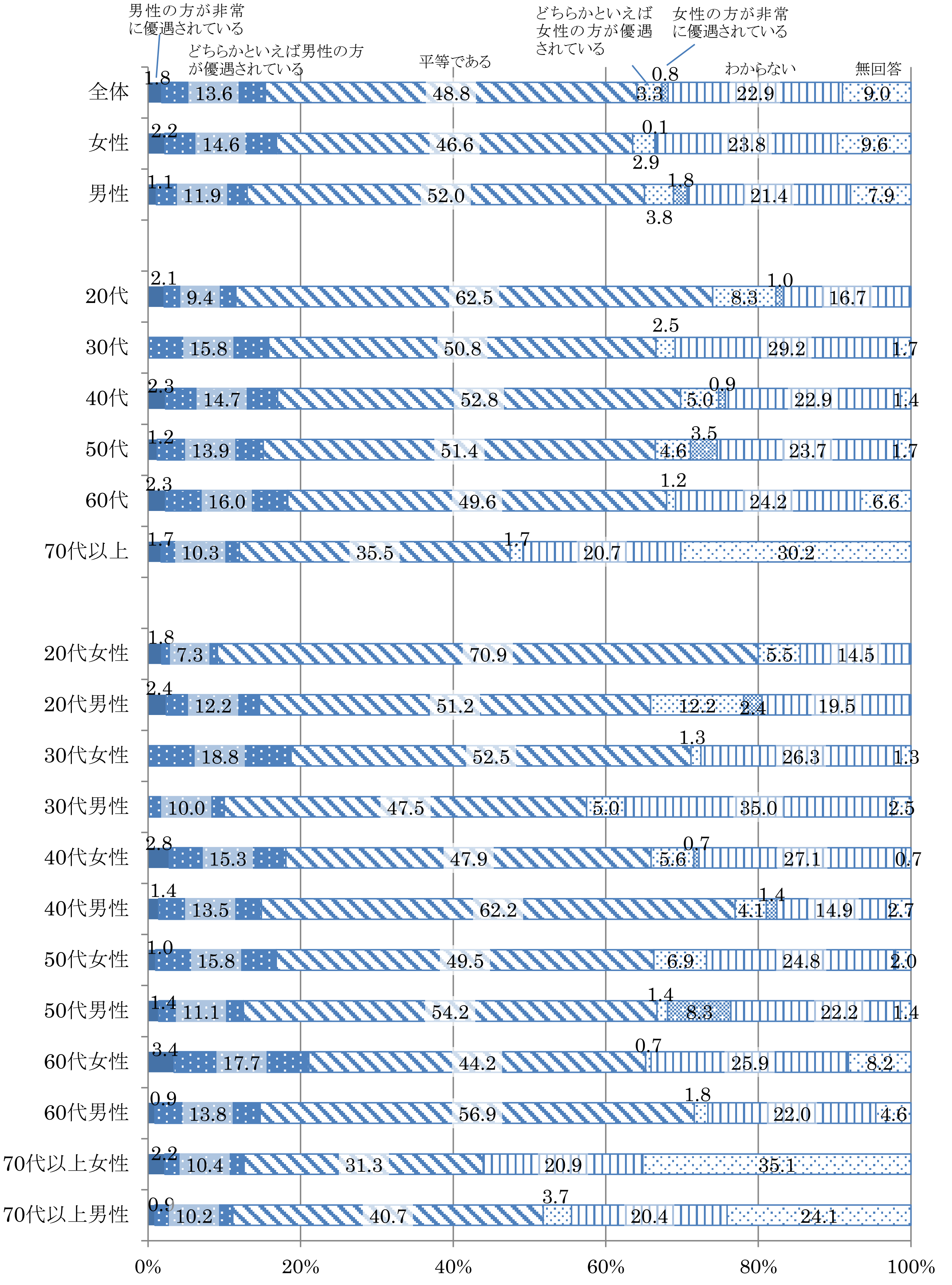
性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 62.4%、「平等である」とする割合が 13.9%、「女性優遇」とする割合が 5.6%で、男性は「男性優遇」とする割合が 51.8%、「平等である」とする割合が 23.4%、「女性優遇」とする割合が 9.5%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 9.5 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 10.6 ポイント高くなっている。

経年比較をみると、男女ともに平成 25 年度にかけて「男性優遇」とする割合が減少し、「平等である」とする割合が増加傾向となっていたが、平成 25 年度から 27 年度にかけては「男性優遇」とする割合が増加し（女性：1.4 ポイント、男性：0.9 ポイント）、「平等である」とする割合が減少した（女性：4.3 ポイント、男性：0.4 ポイント）。

年代別　年代別でみると、どの年代も「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を上回っている。「男性優遇」とする割合は、60 代が 69.1%と最も高く、70 代以上が 45.0%と最も低く、24.1 ポイントの差がみられた。「平等である」とする割合は、20 代が 25.0%と最も高く、70 代以上が 9.5%と最も低い。「女性優遇」とする割合は、年代が上がるほど減少する傾向がみられた。

性別年代別　性別年代別でみると、男女ともにどの年代でも「男性優遇」とする割合が「平等である」とする割合を上回り、特に、60 代女性で 7 割を超えている。女性の中で最も「男性優遇」とする割合の低い 70 代以上女性と最も高い 60 代女性では、27.3 ポイントの差がみられた。一方、男性の中では、最も「男性優遇」とする割合の低い 20 代男性と最も高い 60 代男性では、29.4 ポイントの差がみられた。同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 40 代では 18.5 ポイント、20 代では 15.9 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 40 代では 29.2 ポイント、20 代では 27.0 ポイント高くなっている。

（３）学校教育の場で


男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体
女性
男性
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上
20代女性
20代男性
30代女性
30代男性
40代女性
40代男性
50代女性
50代男性
60代女性
60代男性
70代以上女性
70代以上男性
0%
20%
40%
60%
80%
100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	48.8%	15.4%	4.1%
全体（H25）	54.0%	13.1%	3.8%
全体（H20）	46.9%	15.0%	4.3%
全体（H16）	52.0%	13.5%	3.8%
女性（H27）	46.6%	16.8%	3.0%
女性（H25）	54.7%	14.6%	2.4%
女性（H20）	43.9%	18.6%	2.7%
女性（H16）	48.9%	17.5%	2.5%
男性（H27）	52.0%	13.0%	5.6%
男性（H25）	55.3%	11.9%	5.8%
男性（H20）	54.2%	10.9%	6.4%
男性（H16）	56.9%	8.1%	5.8%
２０代	62.5%	11.5%	9.3%
３０代	50.8%	15.8%	2.5%
４０代	52.8%	17.0%	5.9%
５０代	51.4%	15.1%	8.1%
６０代	49.6%	18.3%	1.2%
７０代以上	35.5%	12.0%	1.7%
２０代女性	70.9%	9.1%	5.5%
２０代男性	51.2%	14.6%	14.6%
３０代女性	52.5%	18.8%	1.3%
３０代男性	47.5%	10.0%	5.0%
４０代女性	47.9%	18.1%	6.3%
４０代男性	62.2%	14.9%	5.6%
５０代女性	49.5%	16.8%	6.9%
５０代男性	54.2%	12.5%	9.7%
６０代女性	44.2%	14.5%	0.7%
６０代男性	56.9%	14.7%	1.8%
７０代以上女性	31.3%	12.6%	0.0%
７０代以上男性	40.7%	11.1%	3.7%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「平等である」とする割合が 48.8%、「男性優遇」とする割合が 15.4%、「女性優遇」とする割合が 4.1%となっている。平成 16 年度から比較すると、平成 20 年度にかけて「男性優遇」とする割合が増加し、「平等である」とする割合が減少し、平成 25 年度にかけて、「平等である」とする割合が増加し、「男性優遇」とする割合が減少したが、平成 25 年度から 27 年度にかけては「男性優遇」とする割合が 2.3 ポイント増加し、「平等である」とする割合が 5.2 ポイント減少した。

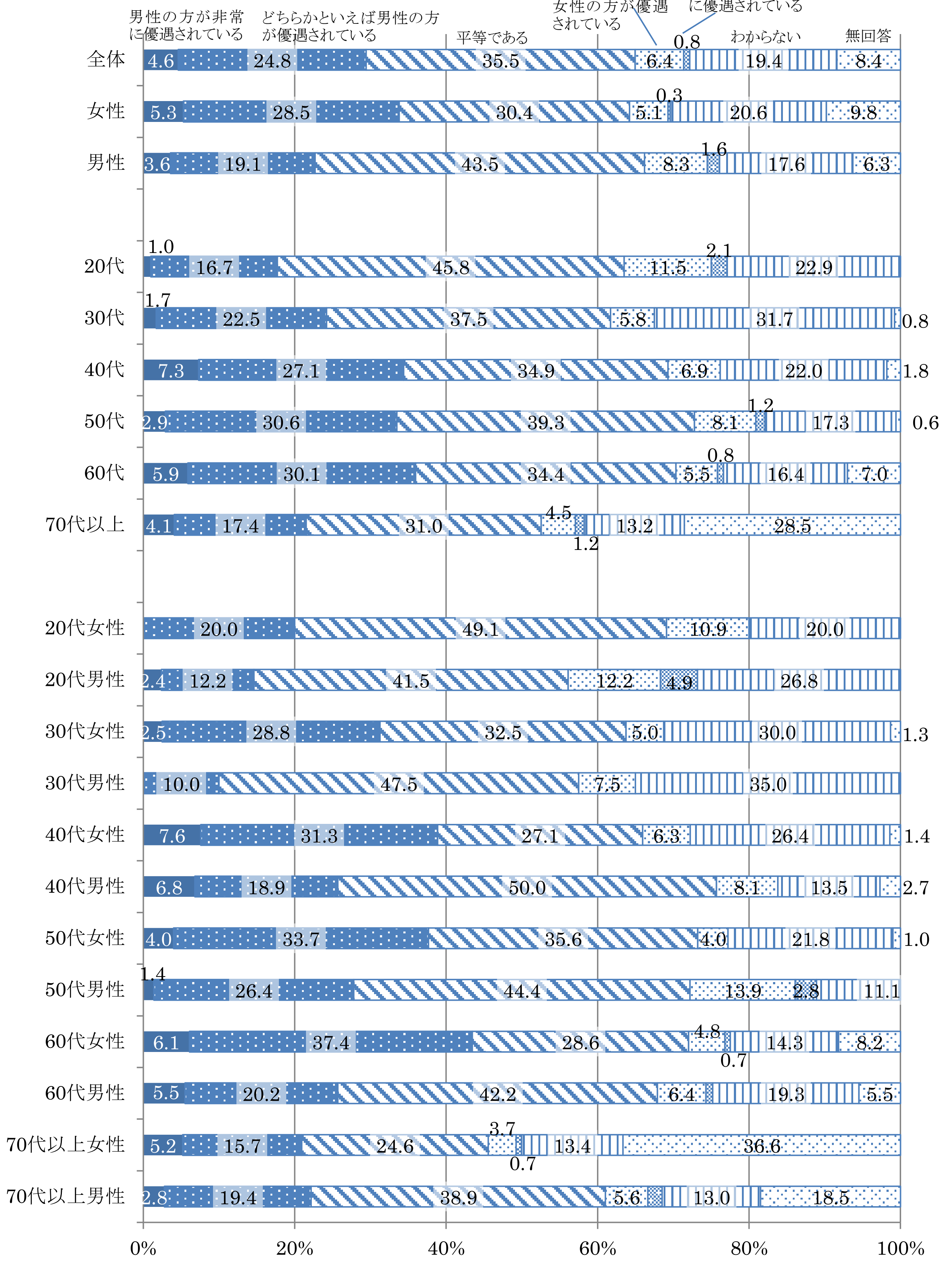
性別　女性は、「平等である」とする割合が 46.6%、「男性優遇」とする割合が 16.8%、「女性優遇」とする割合が 3.0%で、男性は「平等である」とする割合が 52.0%、「男性優遇」とする割合が 13.0%、「女性優遇」とする割合が 5.6%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 5.4 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 3.8 ポイント高くなっている。

経年比較をみると、女性は「男性優遇」とする割合に大きな変化はないが、「平等である」とする割合が平成 16 年度から 20 年度にかけて減少し、25 年度にかけて増加し、今回の調査で前回調査より 8.1 ポイント減少した。男性は「平等である」とする割合に大きな変化はないが、「男性優遇」とする割合は平成 16 年度から微増傾向がみられる。

年代別　年代別でみると、どの年代も「平等である」とする割合が最も高くなっている。「平等である」とする割合は、20 代が 62.5%と最も高く、70 代以上が 35.5%と最も低く、27.0 ポイントの差がみられた。「女性優遇」とする割合は、20 代が 9.3%と最も高く、50 代（8.1%）、40 代（5.9%）が続いている。

性別年代別　性別年代別でみると、男女ともにどの年代でも「平等である」とする割合が最も高く、特に、20 代女性で 7 割を超えている。女性の中で最も「平等とする」とする割合の低い 70 代以上女性と最も高い 20 代女性では、39.6 ポイントの差がみられた。一方、男性の中では、最も「平等である」とする割合の低い 70 代以上男性と最も高い 40 代男性では、21.5 ポイントの差がみられた。同年代の男女で比較すると、女性の「平等である」とする割合が男性より高くなっているのは、20 代（19.7 ポイント差）と 30 代（5.0 ポイント差）で、男性が女性よりも高いのは、40 代（14.3 ポイント差）、60 代（12.7 ポイント差）、70 代以上（9.4 ポイント差）、50 代（4.7 ポイント差）となっている。

（４）地域活動・社会活動の場で



項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	**35.5%**	29.4%	7.2%
全体（H25）	**37.4%**	30.3%	8.9%
全体（H20）	30.3%	**34.6%**	8.5%
全体（H16）	34.1%	**35.9%**	7.8%
女性（H27）	30.4%	**33.8%**	5.4%
女性（H25）	32.1%	**37.2%**	6.1%
女性（H20）	25.7%	**40.6%**	6.2%
女性（H16）	28.5%	**41.3%**	6.9%
男性（H27）	**43.5%**	22.7%	9.9%
男性（H25）	**45.6%**	22.9%	12.5%
男性（H20）	**39.1%**	26.6%	12.6%
男性（H16）	**42.7%**	28.6%	9.3%
２０代	**45.8%**	17.7%	13.6%
３０代	**37.5%**	24.2%	5.8%
４０代	**34.9%**	34.4%	6.9%
５０代	**39.3%**	33.5%	9.3%
６０代	34.4%	**36.0%**	6.3%
７０代以上	**31.0%**	21.5%	5.7%
２０代女性	**49.1%**	20.0%	10.9%
２０代男性	**41.5%**	14.6%	17.1%
３０代女性	**32.5%**	31.3%	5.0%
３０代男性	**47.5%**	10.0%	7.5%
４０代女性	27.1%	**38.9%**	6.3%
４０代男性	**50.0%**	25.7%	8.1%
５０代女性	35.6%	**37.7%**	4.0%
５０代男性	**44.4%**	27.8%	16.7%
６０代女性	28.6%	**43.5%**	5.5%
６０代男性	**42.2%**	25.7%	7.3%
７０代以上女性	**24.6%**	20.9%	4.4%
７０代以上男性	**38.9%**	22.2%	7.5%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「平等である」とする割合が 35.5%、「男性優遇」とする割合が 29.4%、「女性優遇」とする割合が 7.2%、「無回答・わからない」とする割合が 27.8%となっている。平成 16 年度から比較すると、「平等である」とする割合は、平成 20 年度にかけて減少し、平成 25 年度にかけて増加し、今回の調査では減少した。「男性優遇」とする割合は減少傾向がみられ、「女性優遇」とする割合には大きな変化はみられない。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 33.8%、「平等である」とする割合が 30.4%、「女性優遇」とする割合が 5.4%で、男性は「平等である」とする割合が 43.5%、「男性優遇」とする割合が 22.7%、「女性優遇」とする割合が 9.9%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 13.1 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 11.1 ポイント高くなっている。

経年比較をみると、男女ともに「男性優遇」とする割合には減少傾向がみられ、「平等である」とする割合は、平成 20 年度にかけて減少し、平成 25 年度にかけて増加し、今回の調査で減少した。

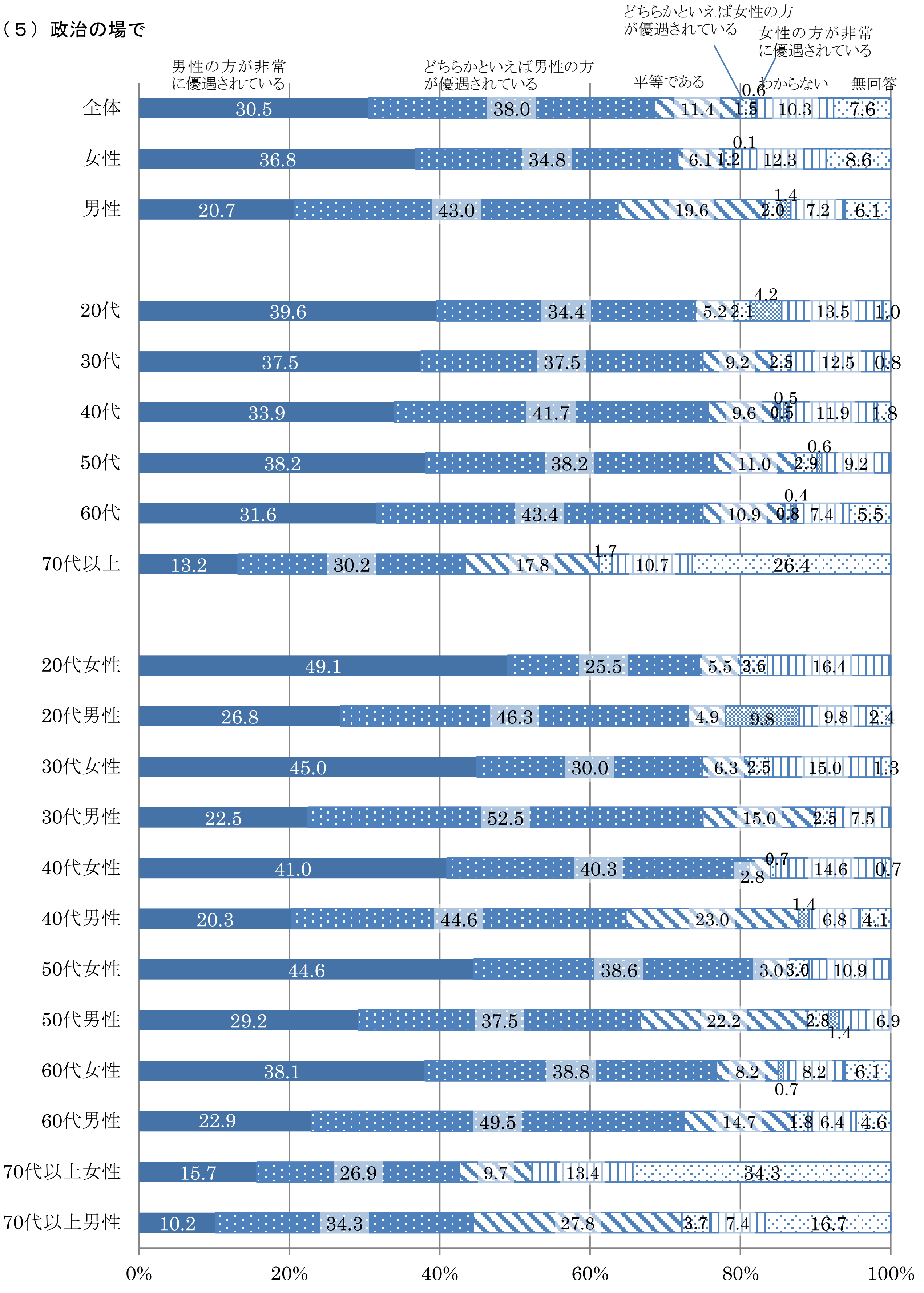
年代別　年代別でみると、60 代を除く年代では「平等である」とする割合が最も高く、60 代では「男性優遇」とする割合が最も高い。「平等である」とする割合は、20 代が 45.8%と最も高く、70 代以上が 31.0%と最も低い。「男性優遇」とする割合は、60 代が 36.0%と最も高く、20 代が 17.7%と最も低く、18.3 ポイントの差がみられた。「女性優遇」とする割合は、20 代が 13.6%と最も高く、30 代が 5.8%、70 代以上が 5.7%と低い結果となった。

性別年代別　性別年代別でみると、20 代、30 代、70 代以上では、男女ともに「平等である」とする割合が最も高く、40 代、50 代、60 代では、女性は「男性優遇」とする割合が最も高く、男性は「平等である」とする割合が最も高くなっている。女性の中で最も「平等である」とする割合の低い 40 代女性と、最も高い 20 代女性では、22.0 ポイントの差がみられた。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 40 代では 22.9 ポイント、60 代では 13.6 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 30 代では 21.3 ポイント、60 代では 17.8 ポイント高くなっている。

また、どの性別・年代においても、他の項目にくらべて、比較的「無回答・わからない」とする割合が多い傾向がみられた。

（５）政治の場で



男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体 30.5 38.0 11.4 1.5 0.6 10.3 7.6
女性 36.8 34.8 6.1 1.2 0.1 12.3 8.6
男性 20.7 43.0 19.6 2.0 1.4 7.2 6.1
20代 39.6 34.4 5.2 2.1 4.2 13.5 1.0
30代 37.5 37.5 9.2 2.5 12.5 0.8
40代 33.9 41.7 9.6 0.5 0.5 11.9 1.8
50代 38.2 38.2 11.0 2.9 0.6 9.2
60代 31.6 43.4 10.9 0.8 0.4 7.4 5.5
70代以上 13.2 30.2 17.8 1.7 10.7 26.4
20代女性 49.1 25.5 5.5 3.6 16.4
20代男性 26.8 46.3 4.9 9.8 9.8 2.4
30代女性 45.0 30.0 6.3 2.5 15.0 1.3
30代男性 22.5 52.5 15.0 2.5 7.5
40代女性 41.0 40.3 2.8 0.7 14.6 0.7
40代男性 20.3 44.6 23.0 1.4 6.8 4.1
50代女性 44.6 38.6 3.0 3.0 10.9
50代男性 29.2 37.5 22.2 2.8 1.4 6.9
60代女性 38.1 38.8 8.2 0.7 8.2 6.1
60代男性 22.9 49.5 14.7 1.8 6.4 4.6
70代以上女性 15.7 26.9 9.7 13.4 34.3
70代以上男性 10.2 34.3 27.8 3.7 7.4 16.7
0% 20% 40% 60% 80% 100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	11.4%	68.5%	2.1%
全体（H25）	12.8%	68.8%	1.9%
全体（H20）	11.8%	64.2%	2.3%
全体（H16）	13.2%	66.1%	1.3%
女性（H27）	6.1%	71.6%	1.3%
女性（H25）	8.6%	73.7%	4.4%
女性（H20）	7.8%	69.8%	4.7%
女性（H16）	10.6%	70.3%	2.7%
男性（H27）	19.6%	63.7%	3.4%
男性（H25）	18.3%	65.5%	2.9%
男性（H20）	17.9%	60.2%	4.5%
男性（H16）	17.3%	61.3%	2.2%
２０代	5.2%	74.0%	6.3%
３０代	9.2%	75.0%	2.5%
４０代	9.6%	75.6%	1.0%
５０代	11.0%	76.4%	3.5%
６０代	10.9%	75.0%	1.2%
７０代以上	17.8%	43.4%	1.7%
２０代女性	5.5%	74.6%	3.6%
２０代男性	4.9%	73.1%	9.8%
３０代女性	6.3%	75.0%	2.5%
３０代男性	15.0%	75.0%	2.5%
４０代女性	2.8%	81.3%	0.7%
４０代男性	23.0%	64.9%	1.4%
５０代女性	3.0%	83.2%	3.0%
５０代男性	22.2%	66.7%	4.2%
６０代女性	8.2%	76.9%	0.7%
６０代男性	14.7%	72.4%	1.8%
７０代以上女性	9.7%	42.6%	0.0%
７０代以上男性	27.8%	44.5%	3.7%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 68.5%、「平等である」とする割合が 11.4%、「女性優遇」とする割合が 2.1%となっている。平成 16 年度から比較すると、「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 71.6%、「平等である」とする割合が 6.1%、「女性優遇」とする割合が 1.3%で、男性は「男性優遇」とする割合が 63.7%、「平等である」とする割合が 19.6%、「女性優遇」とする割合が 3.4%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 13.5 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 7.9 ポイント高くなっている。

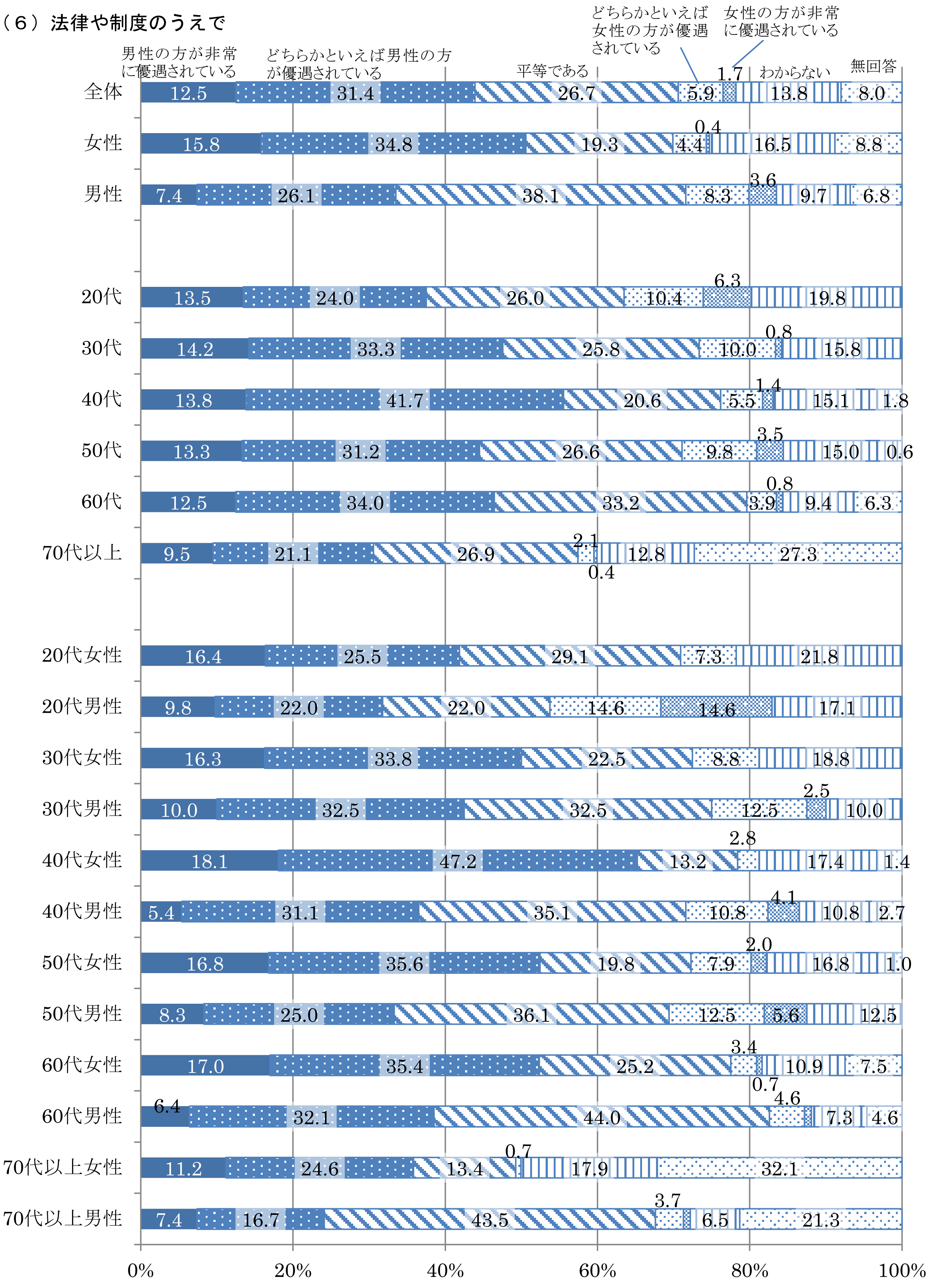
経年比較をみると、男女ともに「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

年代別　年代別でみると、どの年代も「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を大きく上回っている。「平等である」とする割合は、70 代以上が 17.8%と最も高く、20 代が 5.2%と最も低く、年代が下がるほど減少する傾向がみられた。

性別年代別　性別年代別でみると、男女ともにどの年代でも「男性優遇」とする割合が「平等である」とする割合を上回り、特に、40 代女性と 50 代女性で 8 割を超えている。女性の中で最も「男性優遇」とする割合の低い 70 代以上女性と、最も高い 50 代女性では、40.6 ポイントの差がみられた。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 40 代では 20.2 ポイント、50 代では 19.2 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 50 代では 16.5 ポイント、40 代では 16.4 ポイント高くなっている。

（６）法律や制度のうえで



男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体 12.5 31.4 26.7 5.9 1.7 13.8 8.0
女性 15.8 34.8 19.3 4.4 0.4 16.5 8.8
男性 7.4 26.1 38.1 8.3 3.6 9.7 6.8
20代 13.5 24.0 26.0 10.4 6.3 19.8
30代 14.2 33.3 25.8 10.0 0.8 15.8
40代 13.8 41.7 20.6 5.5 1.4 15.1 1.8
50代 13.3 31.2 26.6 9.8 3.5 15.0 0.6
60代 12.5 34.0 33.2 3.9 0.8 9.4 6.3
70代以上 9.5 21.1 26.9 2.1 0.4 12.8 27.3
20代女性 16.4 25.5 29.1 7.3 21.8
20代男性 9.8 22.0 22.0 14.6 14.6 17.1
30代女性 16.3 33.8 22.5 8.8 18.8
30代男性 10.0 32.5 32.5 12.5 2.5 10.0
40代女性 18.1 47.2 13.2 2.8 17.4 1.4
40代男性 5.4 31.1 35.1 10.8 4.1 10.8 2.7
50代女性 16.8 35.6 19.8 7.9 2.0 16.8 1.0
50代男性 8.3 25.0 36.1 12.5 5.6 12.5
60代女性 17.0 35.4 25.2 3.4 0.7 10.9 7.5
60代男性 6.4 32.1 44.0 4.6 7.3 4.6
70代以上女性 11.2 24.6 13.4 0.7 17.9 32.1
70代以上男性 7.4 16.7 43.5 3.7 6.5 21.3
0% 20% 40% 60% 80% 100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	26.7％	43.9％	7.6％
全体（H25）	33.3％	37.9％	8.2％
全体（H20）	27.3％	38.2％	6.7％
全体（H16）	25.3％	45.3％	7.6％
女性（H27）	19.3％	50.6％	4.4％
女性（H25）	26.9％	45.3％	5.6％
女性（H20）	21.3％	44.5％	5.0％
女性（H16）	19.3％	43.4％	5.5％
男性（H27）	38.1％	26.1％	11.9％
男性（H25）	42.3％	30.5％	12.5％
男性（H20）	37.1％	32.6％	10.0％
男性（H16）	34.3％	35.6％	10.9％
２０代	26.0％	37.5％	16.7％
３０代	25.8％	47.5％	10.8％
４０代	20.6％	55.5％	6.9％
５０代	26.6％	44.5％	13.5％
６０代	33.2％	46.5％	4.7％
７０代以上	26.9％	30.6％	2.5％
２０代女性	29.1％	41.9％	7.3％
２０代男性	22.0％	31.8％	29.2％
３０代女性	22.5％	50.1％	8.8％
３０代男性	32.5％	42.5％	15.0％
４０代女性	13.2％	65.3％	2.8％
４０代男性	35.1％	36.5％	14.9％
５０代女性	19.8％	52.4％	9.9％
５０代男性	36.1％	33.3％	18.1％
６０代女性	25.2％	52.4％	4.1％
６０代男性	44.0％	38.5％	5.5％
７０代以上女性	13.4％	35.8％	0.7％
７０代以上男性	43.5％	24.1％	4.6％

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 43.9%、「平等である」とする割合が 26.7%、「女性優遇」とする割合が 7.6%となっている。平成 16 年度から比較すると、「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 50.6%、「平等である」とする割合が 19.3%、「女性優遇」とする割合が 4.4%で、男性は「男性優遇」とする割合が 26.1%、「平等である」とする割合が 38.1%、「女性優遇」とする割合が 11.9%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 18.8 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 24.5 ポイント高くなっている。

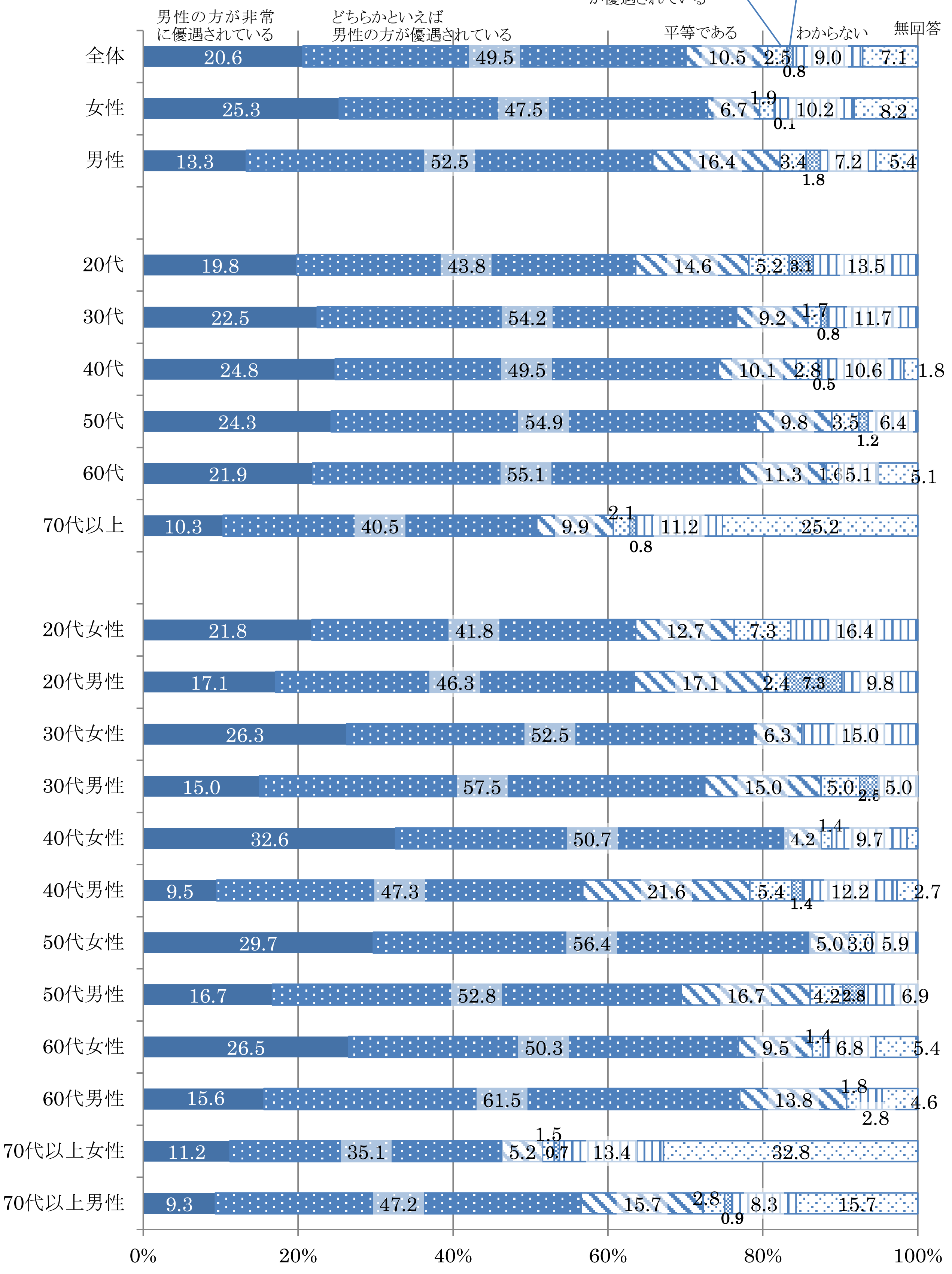
経年比較をみると、女性は「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられないが、男性は平成 20 年度から、「平等である」とする割合が「男性優遇」とする割合よりも高くなっている。

年代別　年代別でみると、どの年代も「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を上回っている。「平等である」とする割合は、60 代が 33.2%と最も高く、40 代が 20.6%と最も低くなっている。

性別年代別　別年代別でみると、20 代、30 代、40 代では、男女ともに「男性優遇」とする割合が最も高く、50 代、60 代、70 代以上では、女性は「男性優遇」とする割合が最も高く、男性は「平等である」とする割合が最も高くなっている。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 70 代以上では 30.1 ポイント、50 代では 18.8 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 40 代では 28.8 ポイント高くなっている。

（７）社会通念・慣習・しきたりなどで



項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	10.5%	70.1%	3.3%
全体（H25）	14.1%	68.7%	3.6%
全体（H20）	9.4%	69.4%	2.8%
全体（H16）	9.1%	73.2%	2.9%
女性（H27）	6.7%	72.8%	2.0%
女性（H25）	10.2%	74.6%	2.2%
女性（H20）	7.2%	73.0%	2.0%
女性（H16）	7.3%	75.3%	2.1%
男性（H27）	16.4%	65.8%	5.2%
男性（H25）	19.1%	63.6%	5.5%
男性（H20）	13.2%	67.2%	4.5%
男性（H16）	11.5%	70.8%	4.2%
２０代	14.6%	63.6%	7.3%
３０代	9.2%	76.7%	2.5%
４０代	10.1%	74.3%	3.3%
５０代	9.8%	79.2%	4.7%
６０代	11.3%	77.0%	1.6%
７０代以上	9.9%	40.8%	2.9%
２０代女性	12.7%	63.6%	7.3%
２０代男性	17.1%	63.4%	9.7%
３０代女性	6.3%	78.8%	0.0%
３０代男性	15.0%	72.5%	7.5%
４０代女性	4.2%	83.8%	1.4%
４０代男性	21.6%	56.8%	6.8%
５０代女性	5.0%	86.1%	3.0%
５０代男性	16.7%	69.5%	7.0%
６０代女性	9.5%	76.8%	1.4%
６０代男性	13.8%	77.1%	1.8%
７０代以上女性	5.2%	46.3%	2.2%
７０代以上男性	15.7%	56.5%	3.7%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 70.1%、「平等である」とする割合が 10.5%、「女性優遇」とする割合が 3.3%となっている。平成 16 年度から比較すると、「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 72.8%、「平等である」とする割合が 6.7%、「女性優遇」とする割合が 2.0%で、男性は「男性優遇」とする割合が 65.8%、「平等である」とする割合が 16.4%、「女性優遇」とする割合が 5.2%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 9.7 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 7.0 ポイント高くなっている。

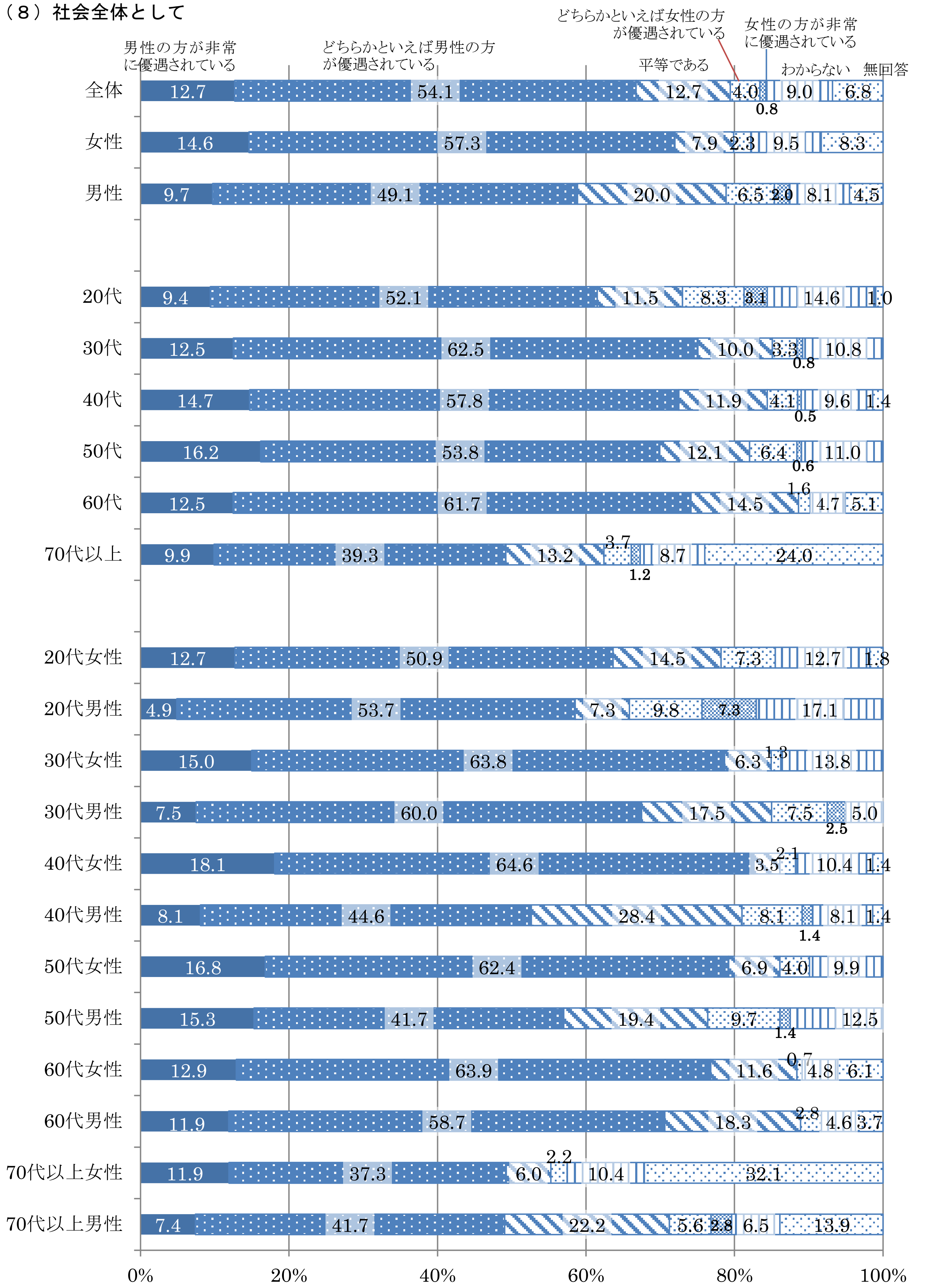
経年比較をみると、男女ともに「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

年代別　年代別でみると、どの年代も「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を大きく上回っている。「平等である」とする割合は、70 代以上が 17.8%と最も高く、20 代が 5.3%と最も低く、年代が下がるほど減少する傾向がみられた。

性別年代別　性別年代別でみると、男女ともにどの年代でも「男性優遇」とする割合が「平等である」とする割合を上回り、特に、40 代女性と 50 代女性で 8 割を超えている。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 20 代では 4.4 ポイントだが、40 代では 17.4 ポイント、50 代では 11.7 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 40 代では 27.0 ポイント、50 代では 16.6 ポイント高くなっている。

（８）社会全体として


男性の方が非常に優遇されている
どちらかといえば男性の方が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性の方が優遇されている
女性の方が非常に優遇されている
わからない
無回答
全体
女性
男性
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上
20代女性
20代男性
30代女性
30代男性
40代女性
40代男性
50代女性
50代男性
60代女性
60代男性
70代以上女性
70代以上男性
0%
20%
40%
60%
80%
100%

項目	「平等である」とする割合	「男性優遇」とする割合	「女性優遇」とする割合
全体（H27）	12.7%	**66.8%**	4.8%
全体（H25）	18.4%	**61.9%**	5.5%
全体（H20）	13.2%	**62.9%**	4.9%
全体（H16）	14.2%	**67.1%**	4.9%
女性（H27）	7.9%	**71.9%**	2.3%
女性（H25）	13.9%	**69.0%**	2.9%
女性（H20）	8.9%	**68.8%**	2.4%
女性（H16）	12.3%	**70.2%**	2.7%
男性（H27）	20.0%	**58.8%**	8.5%
男性（H25）	24.4%	**54.7%**	9.3%
男性（H20）	19.7%	**57.3%**	9.0%
男性（H16）	17.1%	**63.5%**	7.5%
２０代	11.5%	**61.5%**	11.4%
３０代	10.0%	**75.0%**	4.1%
４０代	11.9%	**72.5%**	4.6%
５０代	12.1%	**70.0%**	7.0%
６０代	14.5%	**74.2%**	1.6%
７０代以上	13.2%	**49.2%**	4.9%
２０代女性	14.5%	**63.6%**	7.3%
２０代男性	7.3%	**58.6%**	17.1%
３０代女性	6.3%	**78.8%**	1.3%
３０代男性	17.5%	**67.5%**	10.0%
４０代女性	3.5%	**82.7%**	2.1%
４０代男性	28.4%	**52.7%**	9.5%
５０代女性	6.9%	**79.2%**	4.0%
５０代男性	19.4%	**57.0%**	11.1%
６０代女性	11.6%	**76.8%**	0.7%
６０代男性	18.3%	**70.6%**	2.8%
７０代以上女性	6.0%	**49.2%**	2.2%
７０代以上男性	22.2%	**49.1%**	8.4%

＊「男性優遇」＝「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
＊「女性優遇」＝「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

全体　「男性優遇」とする割合が 66.8%、「平等である」とする割合が 12.7%、「女性優遇」とする割合が 4.8%となっている。平成 16 年度から比較すると、「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

性別　女性は、「男性優遇」とする割合が 71.9%、「平等である」とする割合が 7.9%、「女性優遇」とする割合が 2.3%で、男性は「男性優遇」とする割合が 58.8%、「平等である」とする割合が 20.0%、「女性優遇」とする割合が 8.5%となっている。「平等である」とする割合は、男性が女性より 12.1 ポイント高く、「男性優遇」とする割合は、女性が男性より 13.1 ポイント高くなっている。

経年比較をみると、男女ともに「男性優遇」とする割合、「平等である」とする割合、「女性優遇」とする割合に大きな変化はみられない。

年代別　年代別でみると、どの年代も「男性優遇」とする割合が、「平等である」とする割合を大きく上回っている。「平等である」とする割合は、60 代が 14.5 %と最も高く、３０代が 10.0 %と最も低くなっている。

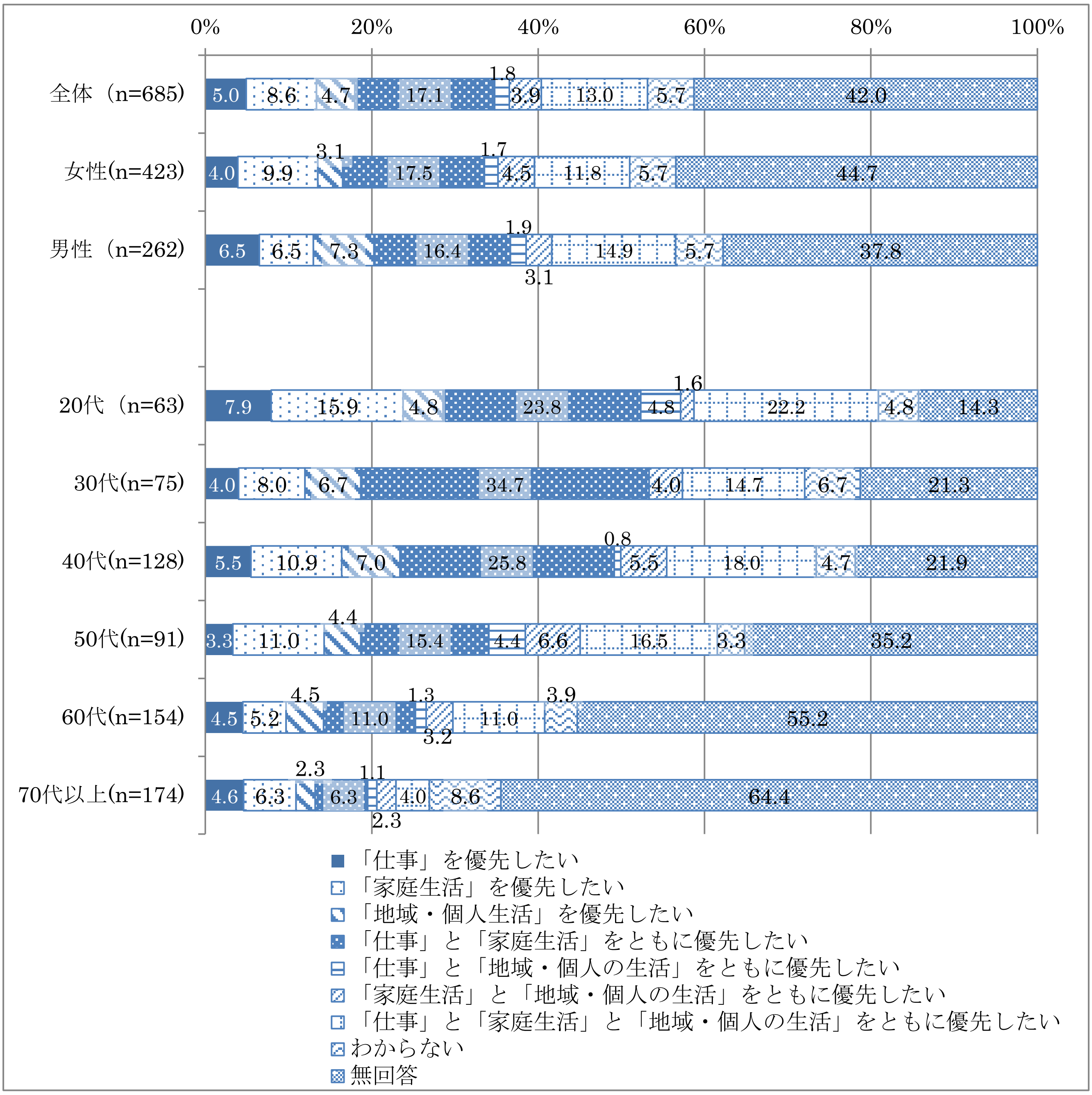
性別年代別　性別年代別でみると、男女ともにどの年代でも「男性優遇」とする割合が「平等である」とする割合を大きく上回り、特に、40 代女性で 8 割を超えている。

同年代の男女で比較すると、男性の「平等である」とする割合が女性より 40 代では 24.9 ポイント高く、女性の「男性優遇」とする割合が男性より 40 代では 30.0 ポイント、50 代では 22.2 ポイント高くなっている。

３．仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についてお伺いします。

問 11．生活の中での「仕事」、「家庭生活（家事・育児・介護）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味等）」の優先度についてお伺いします。あなたの理想と現実それぞれにもっとも近いものはどれですか？【SA】

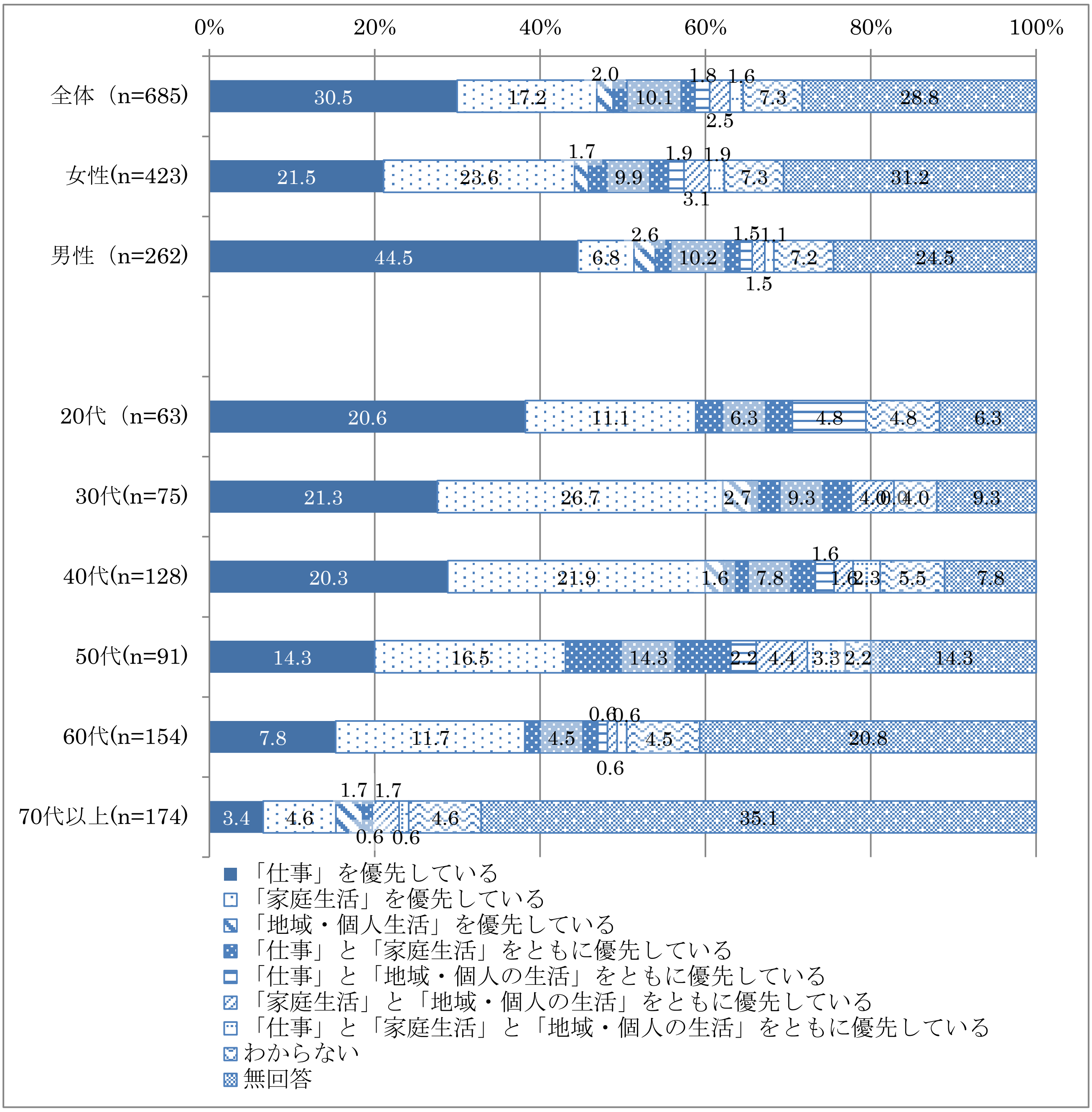
（１）理想にもっとも近いもの　　注)この設問については、1128 通のうち 443 通の記入ミスあったため、母数を 685 として集計します。



全体　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の理想の優先度は、無回答を除くと、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」（17.1%）が最も多く、「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（13.0%）が続いている。

性別　性別でみると、男女ともに、無回答を除くと、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」（女性 17.5%、男性 16.4%）が最も多く、「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（女性 11.8%、男性 14.9%）が続いている。また、男女ともに「無回答」が 4 割前後を占めている。

（現実にちかいもの）　　注）この設問については、1128 通のうち 443 通の記入ミスあったため、母数を 685 として集計します。



全体　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の現実の優先度は、無回答を除くと、「『仕事』を優先している」（30.5%）が最も多く、「『家庭生活』を優先している」（17.2%）が続いている。

性別　性別でみると、無回答を除くと、女性は「『家庭生活』を優先している（23.6%）が最も多く、「『仕事』を優先している」（21.5%）と続いている。男性は、「『仕事』を優先している」（44.5%）が最も多く、「『仕事』と『家庭生活』を優先している」（10.2%）が続いている。「『仕事』を優先している」は、男性が女性より 23.0 ポイント高く、「『家庭生活』を優先している」は、女性が男性より 16.8 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、年代が上がるにつれて「『仕事』を優先しているの割合が減少し、「無回答」の割合が増加している。

理想と現実の状況

全体的に、理想の生活として「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が、現実の生活は、女性は「『家庭生活』を優先している」または「『仕事』を優先している」状況で、男性は「『仕事』を優先している」状況となっていることがうかがえる。

■理想に最も近いもの

	女性						男性					
	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
1位	「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (34.4%)	(35.3%)	(24.4%)	無回答 (35.5%)	(61.1%)	(70.6%)	無回答 (22.6%)	「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (33.3%)	(28.6%)	無回答 (34.5%)	(46.9%)	(55.6%)
2位	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (28.1%)	無回答 (27.5%)	(20.9%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (17.7%) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (17.7%)	「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (10.0%)	わからない (9.8%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (16.1%) 「家庭生活」を優先 (16.1%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (25.0%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (23.8%) 無回答 (23.8%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (13.8%) 「家庭生活」を優先 (13.8%)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 (14.1%)	「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (11.1%)

■現実に近いもの

	女性						男性					
	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
1位	「仕事」を優先 (38.2%)	「家庭生活」を優先 (34.5%)	(31.1%)	(23.1%)	無回答 (40.5%)	(60.7%)	「仕事」を優先 (48.5%)	(66.7%)	(50.0%)	(65.2%)	無回答 (33.3%)	(51.7%)
2位	「家庭生活」を優先 (20.6%)	「仕事」を優先 (27.6%)	(28.9%)	「仕事」を優先 (20.0%) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先(20.0%) 無回答 (20.0%)	「家庭生活」を優先 (22.8%)	(8.8%) わからない (8.8%)	わからない (18.2%)	「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (13.3%)	無回答 (20.5%)	「家庭生活」を優先 (10.9%)	「仕事」を優先 (29.6%)	(24.1%)

問１２．平日において、１日のうちに家事・育児・介護などに、どの程度の時間を費やしていますか？【SA】

（１）家事

単位:%	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体（n=1128）	14.0	15.1	13.6	14.8	12.9	8.8	5.0	2.6	1.4	0.9	2.1	9.0
女性（n=684）	6.0	7.5	11.3	15.9	18.1	13.6	8.2	3.8	2.3	1.5	3.4	8.5
男性（n=444）	26.4	26.8	17.1	13.1	4.7	1.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.2	9.7

全体　１日のうちに家事に費やしている時間は、「1～30 分」（15.1%）で最も多く、「1～2 時間」（14.8%）、「0 分」（14.0%）と続いている。家事に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 42.7%となっている。

性別　性別でみると、女性は「2～3 時間」（18.1%）が最も多く、「1～2 時間」（15.9%）、「3～4 時間」（13.6%）と続いている。男性は「1～30 分」（26.8%）が最も多く、「0 分」（26.4%）、「31～60 分」（17.1%）と続いている。家事に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が 24.8%、男性が 70.3%で、男性が女性の 2.8 倍となっている。

（２）育児

単位:%	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体（n=1128）	63.4	4.5	2.7	3.7	1.3	1.2	1.3	1.0	0.1	0.4	2.8	17.6
女性（n=684）	59.1	2.9	2.9	3.7	1.6	1.8	1.9	1.6	0.1	0.7	4.7	19.0
男性（n=444）	70.0	7.0	2.3	3.8	0.9	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3

全体　１日のうちに育児に費やしている時間は、「0 分」（63.4%）で最も多く、「無回答」（17.6%）と続いている。育児に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 70.6%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0 分」（男性：70.0%、女性：59.1%）が最もおおくなっている。育児に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が 64.9 %、男性が 79.3%となっている。

（３）介護

単位:％	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体（n=1128）	72.6	2.5	2.0	2.7	1.2	0.9	0.0	0.4	0.0	0.1	1.1	16.7
女性（n=684）	70.8	2.0	1.5	3.1	1.5	1.0	0.0	0.4	0.0	0.1	1.6	18.0
男性（n=444）	75.5	3.2	2.9	2.0	0.7	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	14.6

全体　１日のうちに介護に費やしている時間は、「0 分」（72.6%）で最も多かった。介護に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 77.1%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0 分」（男性：75.5%、女性：70.8%）が最も多くなっている。介護に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が 74.3 %、男性が 81.6%となっている。

（４）仕事

単位:％	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体（n=1128）	21.8	0.7	0.9	1.1	1.8	3.9	4.3	4.1	4.8	11.8	23.8	21.1
女性（n=684）	25.0	0.3	1.0	1.2	1.6	5.1	6.0	4.8	6.4	12.3	15.2	21.1
男性（n=444）	16.9	1.4	0.7	0.9	2.0	2.0	1.8	2.9	2.3	11.0	36.9	21.2

全体　１日のうちに仕事に費やしている時間は、「8 時間以上」（23.8%）で最も多く、「0 分」（21.8%）と続いている。

性別　性別でみると、女性は「0 分」（25.0%）が最も多く、「無回答」（21.1%）、「8 時間以上」（15.2%）と続いている。男性は「8 時間以上」（36.9%）が最も多く、「無回答」（21.2%）、「0 分」（26.4%）と続いている。男女の有職率の差が関係していることがうかがえる。

（５）地域活動等

単位:%	0分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8時間以上	無回答
全体（n=1128）	63.3	6.6	1.8	2.8	0.5	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.1	24.0
女性（n=684）	64.2	6.0	1.5	2.9	0.6	0.4	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	23.8
男性（n=444）	61.9	7.7	2.3	2.7	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	24.3

全体　１日のうちに地域活動等に費やしている時間は、「0分」（63.3%）で最も多かった。地域活動に費やしている時間が『1時間未満』の割合は71.7%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0分」（女性：64.2%、男性：61.9%）が最も多くなっている。地域活動に費やしている時間が『1時間未満』の割合は、女性が71.7%、男性が71.9%となっている。

問１３．休日において、１日のうちに家事・育児・介護などに、どの程度の時間を費やしていますか？【SA】

（１）家事

単位:％	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体(n=1128)	11.6	8.3	10.4	11.7	12.0	8.1	6.0	3.6	0.9	0.9	2.0	24.6
女性(n=684)	6.9	3.7	6.1	11.0	15.1	11.8	9.6	5.7	1.5	1.3	2.8	24.6
男性(n=444)	18.9	15.5	16.9	12.8	7.2	2.3	0.5	0.5	0.0	0.2	0.7	24.5

全体　１日のうちに家事に費やしている時間は、無回答を除くと、「2～3 時間」（12.0％）で最も多く、「1～2時間」（11.7％）、「0 分」（11.6％）と続いている。家事に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 30.3％となっている。

性別　性別でみると、女性は、無回答を除くと「2～3 時間」（15.1％）が最も多く、「3～4 時間」（11.8％）、「1～2 時間」（11.0％）と続いている。男性は、無回答を除くと「0 分」（18.9％）が最も多く、「31～60 分」（16.9％）、「1～30 分」（15.5％）と続いている。家事に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が 16.7％、男性が 51.3％で、男性が女性の 3 倍となっている。

（２）育児

単位:％	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体(n=1128)	51.3	1.9	2.4	2.4	1.8	2.0	1.2	0.7	0.5	0.6	4.4	30.8
女性(n=684)	48.7	1.5	2.2	2.8	1.6	2.2	1.5	0.9	0.7	0.9	6.0	31.1
男性(n=444)	55.4	2.5	2.7	1.8	2.0	1.6	0.9	0.5	0.2	0.2	2.0	30.2

全体　１日のうちに育児に費やしている時間は、「0 分」（51.3％）で最も多く、「無回答」（30.8％）と続いている。育児に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 55.6％となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0 分」（男性：55.4％、女性：48.7％）が最も多くなっている。育児に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が 52.4％、男性が 60.6％となっている。

（３）介護

単位：%	0分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8時間以上	無回答
全体（n=1128）	60.2	2.1	1.7	2.6	1.1	0.4	0.1	0.4	0.0	0.1	1.0	30.5
女性（n=684）	59.2	1.6	1.3	3.1	1.3	0.4	0.1	0.3	0.0	0.1	1.5	31.0
男性（n=444）	61.7	2.9	2.3	1.8	0.7	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2	29.7

全体　１日のうちに介護に費やしている時間は、「0分」（60.2%）で最も多かった。介護に費やしている時間が『1時間未満』の割合は64.0%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0分」（男性：61.7%、女性：59.2%）が最も多くなっている。介護に費やしている時間が『１時間未満』の割合は、女性が62.1%、男性が66.9%となっている。

（４）仕事

単位：%	0分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8時間以上	無回答
全体（n=1128）	49.3	2.5	2.0	2.0	1.4	1.5	0.8	0.5	0.5	0.4	0.9	38.2
女性（n=684）	53.5	1.8	1.0	1.2	1.3	0.9	0.7	0.3	0.6	0.3	0.7	37.7
男性（n=444）	42.8	3.6	3.4	3.2	1.6	2.5	0.9	0.9	0.5	0.7	1.1	39.0

全体　１日のうちに仕事に費やしている時間は、「0分」（49.3%）で最も多い。一方で、12.5%の方は仕事が休みの日にも仕事に時間を費やしていることがわかる。

性別　性別でみると、男女ともに「0分」（女性53.5%、男性42.8%）が最も多い。女性の8.8%、男性の18.2%は仕事が休みの日にも仕事に時間を費やしていることがわかる。

（５）地域活動等

単位:％	0 分	1～30分	31～60分	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7～8時間	8 時間以上	無回答
全体（n=1128）	51.2	4.0	1.9	1.7	1.1	0.5	0.2	0.3	0.2	0.2	0.0	38.9
女性（n=684）	53.7	3.4	1.2	1.3	0.7	0.6	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0	38.5
男性（n=444）	47.3	5.0	2.9	2.3	1.6	0.5	0.0	0.5	0.2	0.2	0.0	39.6

全体　１日のうちに地域活動等に費やしている時間は、「0 分」（51.2％）で最も多かった。地域活動に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は 57.1％となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「0 分」（女性：53.7％、男性：47.3％）が最も多くなっている。地域活動に費やしている時間が『1 時間未満』の割合は、女性が 58.3％、男性が 55.2％となっている。

【平日と休日の比較】家事・育児・地域活動等

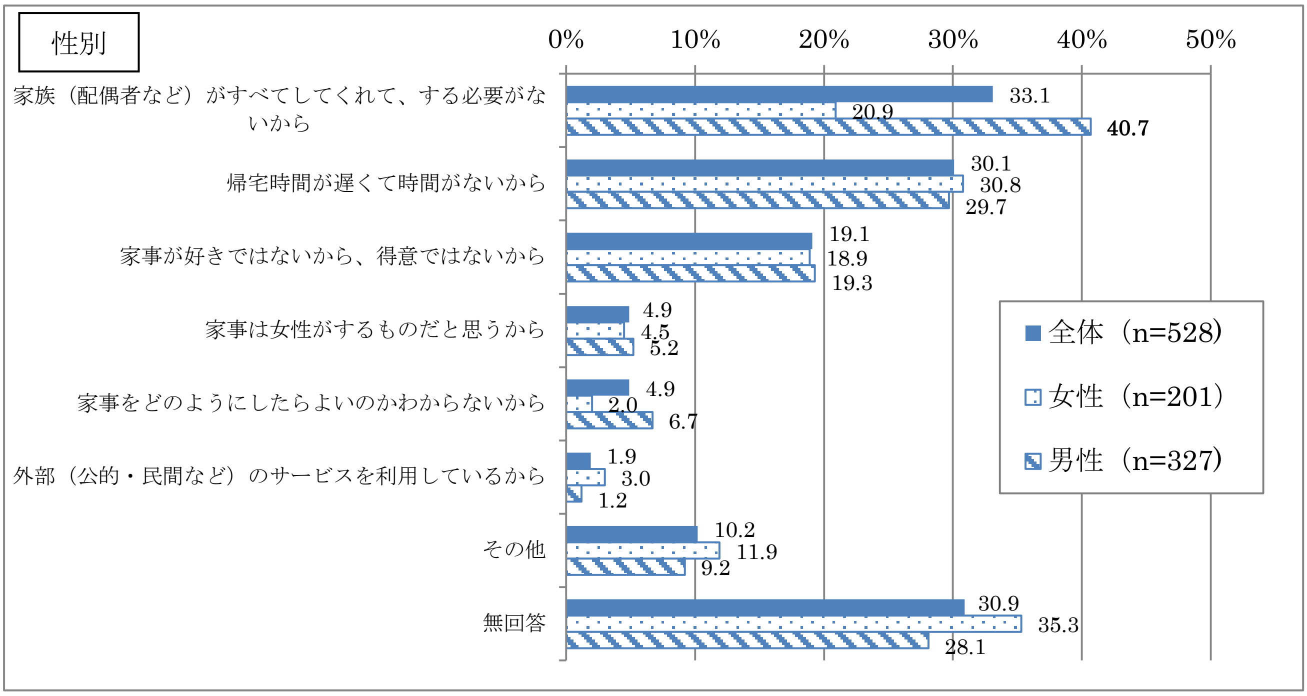
１日のうちに費やす時間が１時間未満の割合

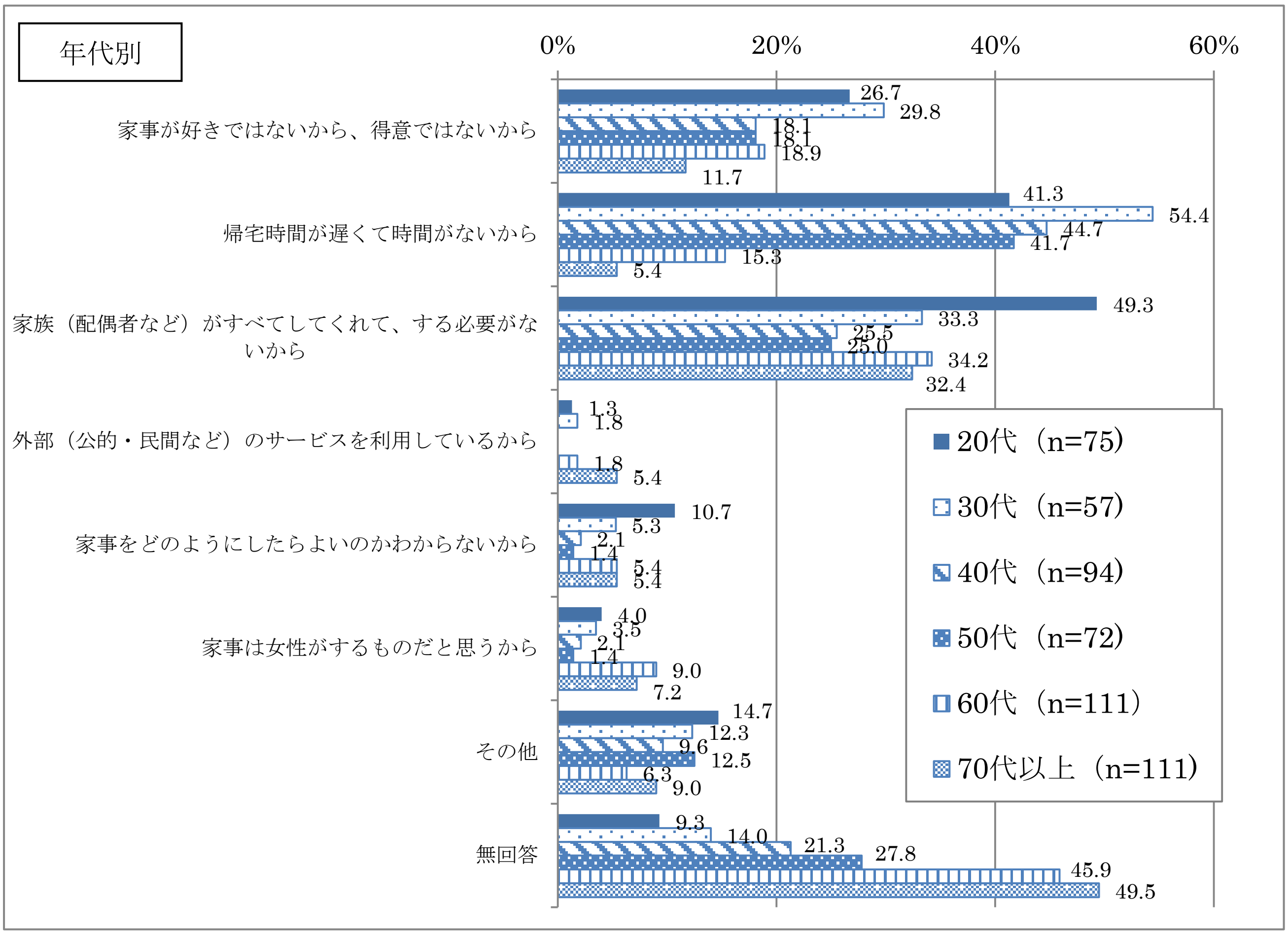
	家事			育児			地域活動等		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性	全体	女性	男性
平日	42.7%	24.8%	70.3%	70.6%	64.9%	79.3%	71.1%	71.7%	71.9%
休日	30.3%	16.7%	51.3%	55.6%	52.4%	60.6%	57.1%	58.3%	55.2%
差	12.4	8.1	**19.0**	14.7	12.5	**18.7**	14.2	14.6	**16.7**

平日の１日のうちに費やす時間が１時間未満である割合と、休日の１日のうちに費やす時間が１時間未満である割合を比べると、「家事」、「育児」、「地域活動等」の各項目において、休日のほうが平日よりも低い割合になっている。特に、男性 15 ポイント差がみられることより、平日では難しくても、休日には「家事」、「育児」、「地域活動等」を行っていることがうかがえる。

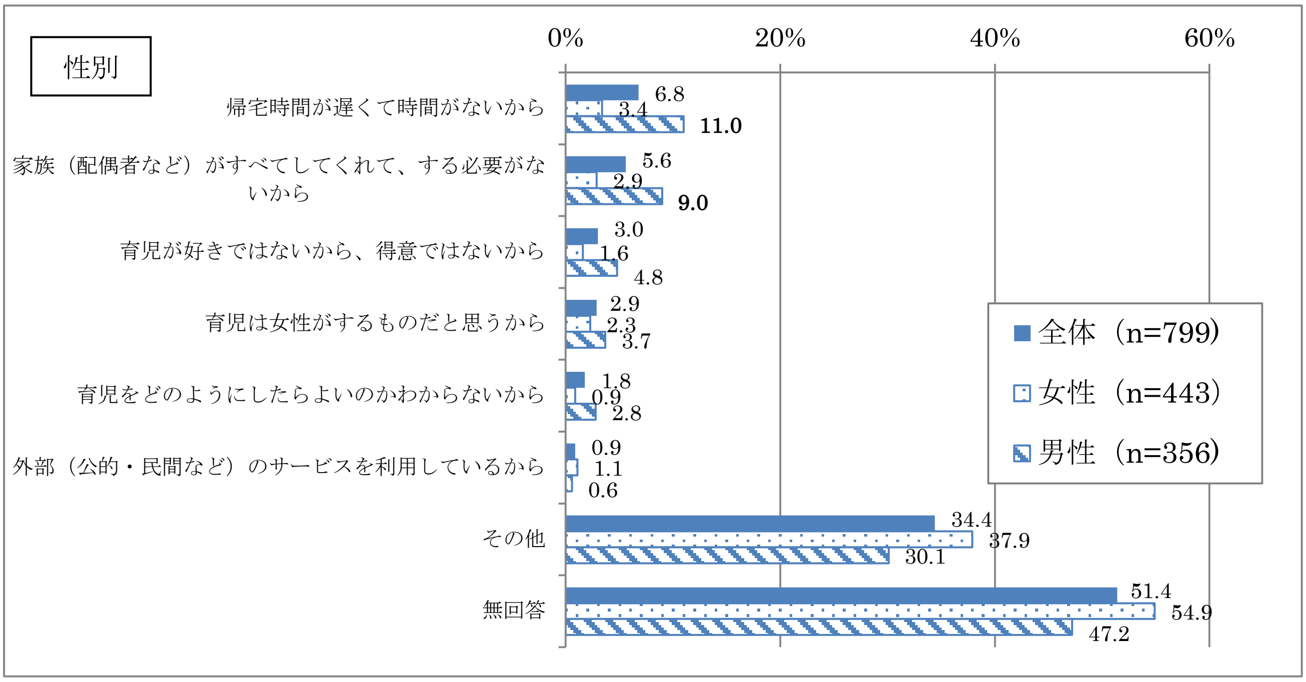
問１４．問１２・１３の（１）家事、（２）育児、（３）介護にて「１．０分、２．1～30 分、３．31～60 分」を選んだ方にお伺いします。家事、育児、介護に費やす時間が少ない理由はなぜですか？　　【複数回答】

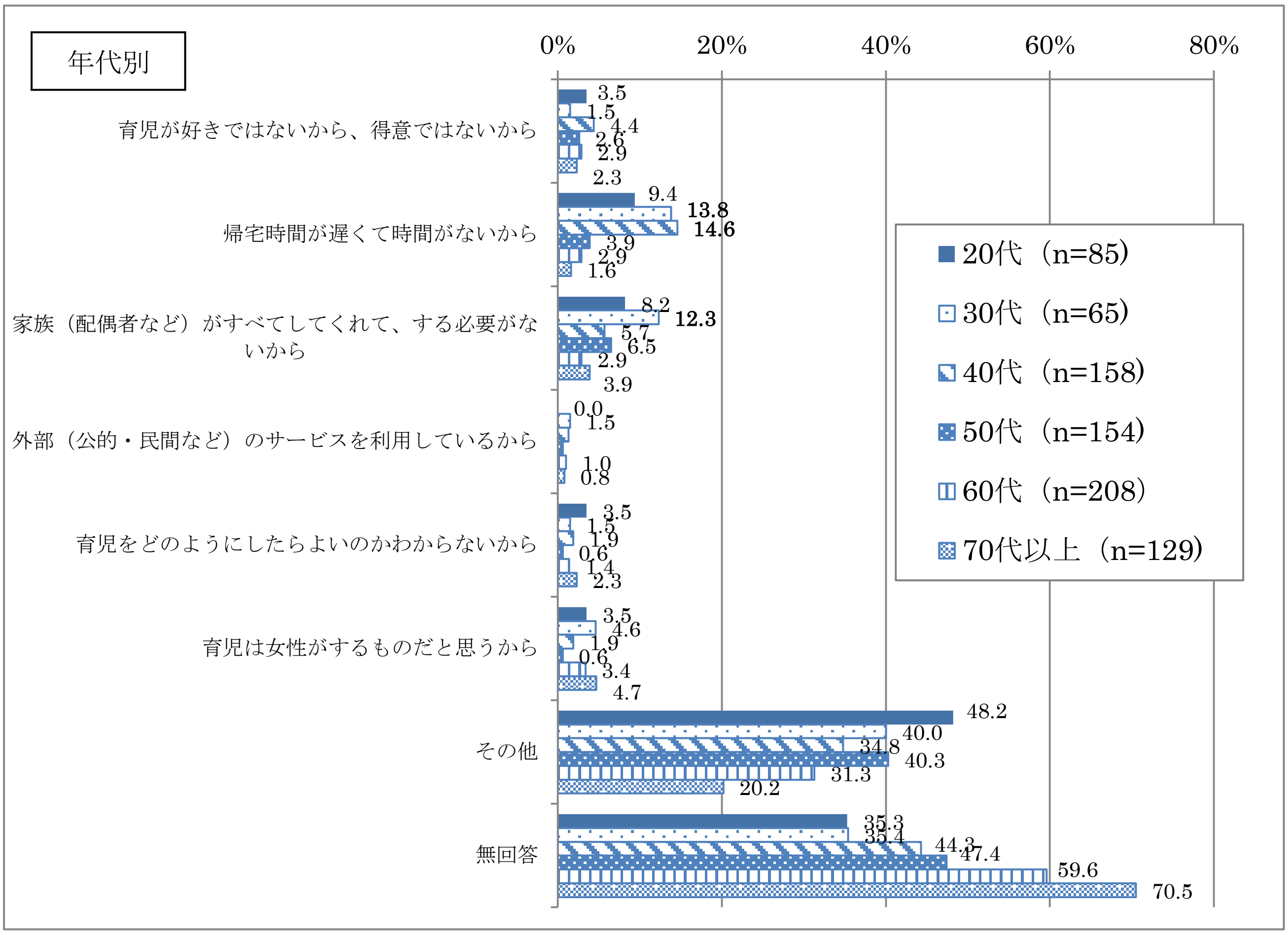
（１）家事



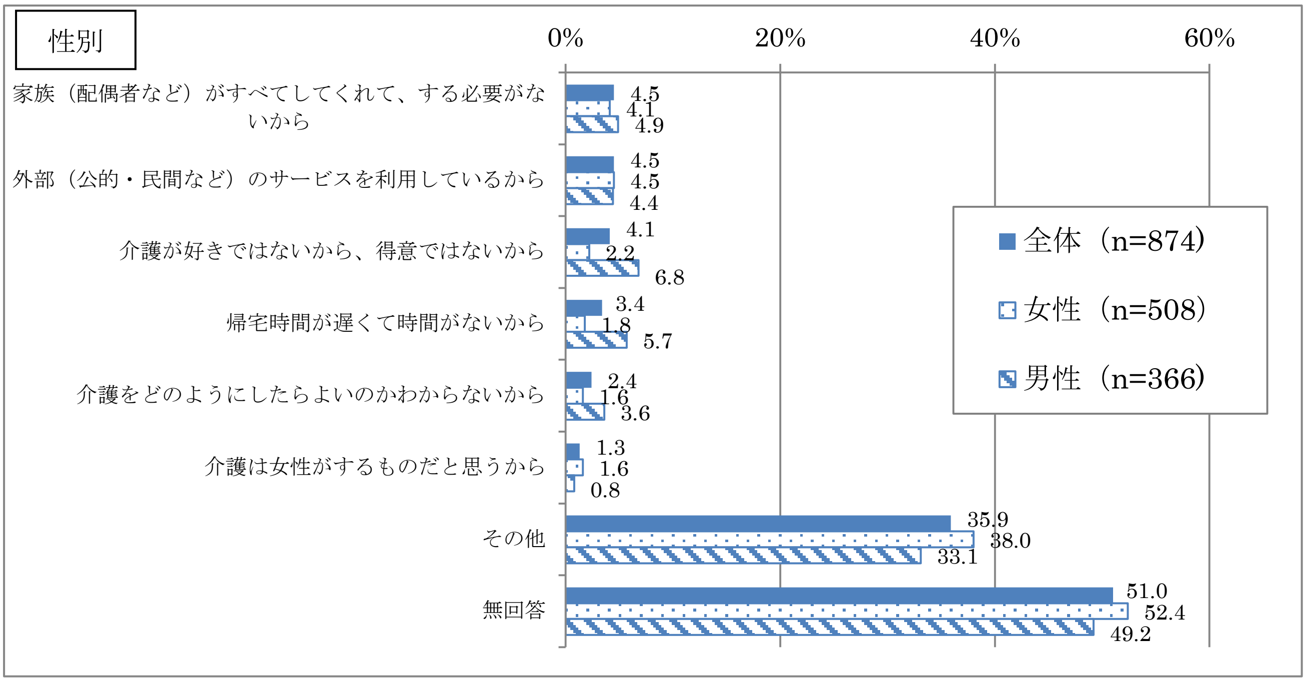


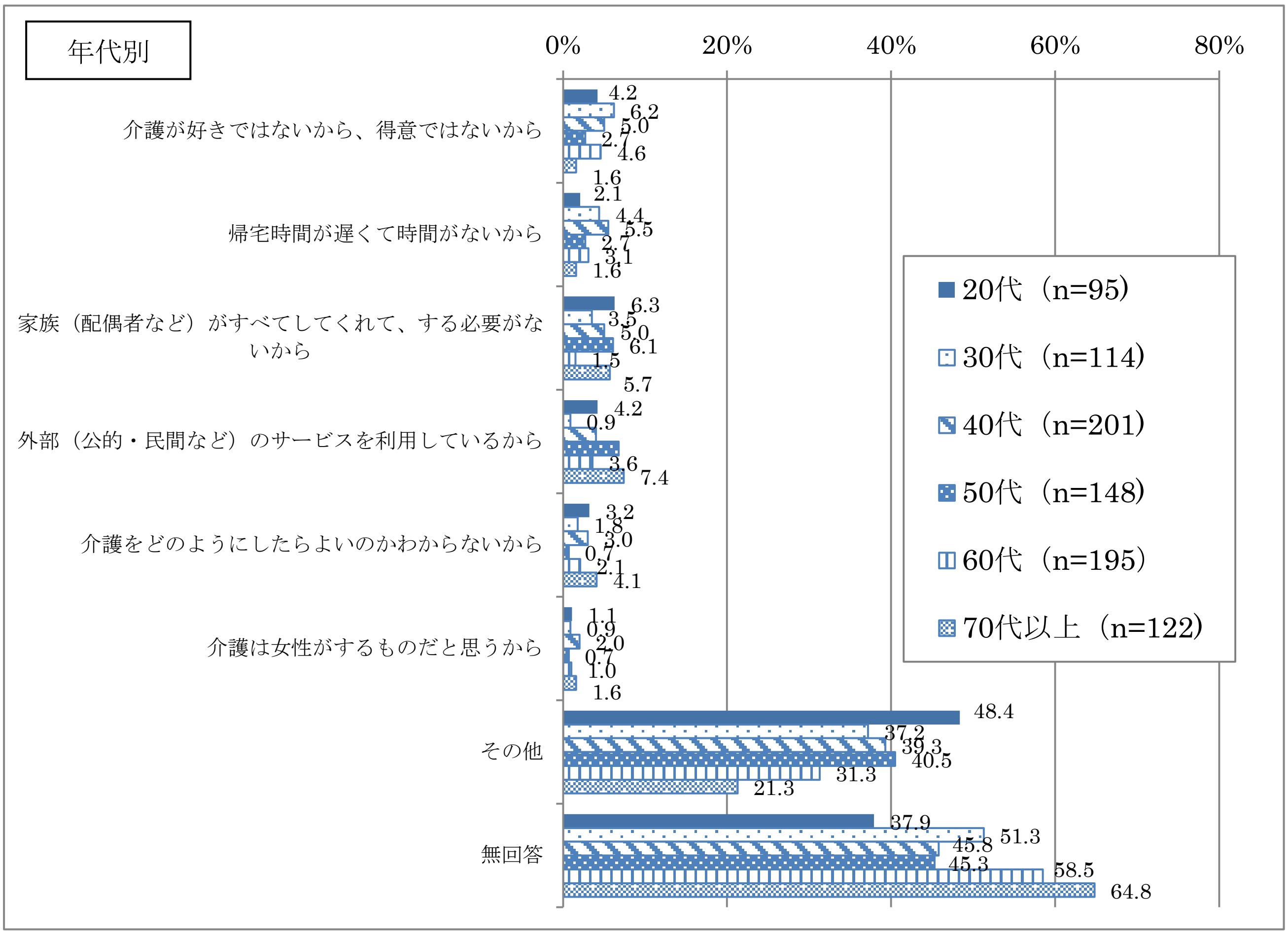
（２）育児


性別
0%
20%
40%
60%
帰宅時間が遅くて時間がないから
6.8
3.4
11.0
家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから
5.6
2.9
9.0
育児が好きではないから、得意ではないから
3.0
1.6
4.8
育児は女性がするものだと思うから
2.9
2.3
3.7
育児をどのようにしたらよいのかわからないから
1.8
0.9
2.8
外部（公的・民間など）のサービスを利用しているから
0.9
1.1
0.6
その他
34.4
37.9
30.1
無回答
51.4
54.9
47.2
全体（n=799）
女性（n=443）
男性（n=356）


年代別
0%
20%
40%
60%
80%
育児が好きではないから、得意ではないから
3.5
1.5
4.4
2.6
2.9
2.3
帰宅時間が遅くて時間がないから
9.4
13.8
14.6
3.9
2.9
1.6
家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから
8.2
12.3
5.7
6.5
2.9
3.9
外部（公的・民間など）のサービスを利用しているから
0.0
1.5
1.0
0.8
育児をどのようにしたらよいのかわからないから
3.5
1.5
1.9
0.6
1.4
2.3
育児は女性がするものだと思うから
3.5
4.6
1.9
0.6
3.4
4.7
その他
48.2
40.0
34.8
40.3
31.3
20.2
無回答
35.3
35.4
44.3
47.4
59.6
70.5
20代（n=85）
30代（n=65）
40代（n=158）
50代（n=154）
60代（n=208）
70代以上（n=129）

（３）介護


性別
0%
20%
40%
60%
家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから
外部（公的・民間など）のサービスを利用しているから
介護が好きではないから、得意ではないから
帰宅時間が遅くて時間がないから
介護をどのようにしたらよいのかわからないから
介護は女性がするものだと思うから
その他
無回答
4.5
4.1
4.9
4.5
4.5
4.4
4.1
2.2
6.8
3.4
1.8
5.7
2.4
1.6
3.6
1.3
1.6
0.8
35.9
38.0
33.1
51.0
52.4
49.2
全体（n=874）
女性（n=508）
男性（n=366）


年代別
0%
20%
40%
60%
80%
介護が好きではないから、得意ではないから
帰宅時間が遅くて時間がないから
家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから
外部（公的・民間など）のサービスを利用しているから
介護をどのようにしたらよいのかわからないから
介護は女性がするものだと思うから
その他
無回答
4.2
6.2
5.0
2.7
4.6
1.6
2.1
4.4
5.5
2.7
3.1
1.6
6.3
3.5
5.0
6.1
1.5
5.7
4.2
0.9
3.6
7.4
3.2
1.8
3.0
0.7
2.1
4.1
1.1
0.9
2.0
0.7
1.0
1.6
48.4
37.2
39.3
40.5
31.3
21.3
37.9
51.3
45.8
45.3
58.5
64.8
20代（n=95）
30代（n=114）
40代（n=201）
50代（n=148）
60代（n=195）
70代以上（n=122）

（１）家事

全体　家事に費やす時間が少ない理由は、「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」（33.1%）が最も多く、「帰宅時間が遅くて時間がないから」（30.1%）、「家事が好きではないから、得意ではないから」（19.1%）と続いている。

性別　性別でみると、女性は「帰宅時間が遅くて時間がないから」（30.8%）が最も多く、「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」（20.9%）、「家事が好きではないから、得意ではないから」（18.9%）と続いている。男性は、「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」（40.7%）が最も多く、「帰宅時間が遅くて時間がないから」（29.7%）、「家事が好きではないから、得意ではないから」（19.3%）と続いている。「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」では、男性が女性より 19.8 ポイント高くなっており、大きな差がみられた。

年代別　年代別でみると、20 代は「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」が 49.3%で、他の年代よりも 15 ポイント以上高くなっている。30 代は「帰宅時間が遅くて時間がないから」が 54.4%で、他の年代よりも 9 ポイント以上高くなっている。また、20 代と 30 代では「家事が好きではないから、得意ではないから」（20 代 26.7%、30 代 29.8%）が他の年代よりも高い割合となっている。60 代と 70 代以上では、「家事は女性がするものだから」（60 代 9.0%、70 代以上 7.2%）が他の年代よりも若干高い割合となっている。

（２）育児

全体　育児に費やす時間が少ない理由として、育児が必要な子どもがいない回答者も含まれるため、「その他」、「無回答」の割合が大きくなっている。

性別　性別でみると、男性が女性より若干高い割合となっていたのは、「帰宅時間が遅くて時間がないから」（7.6 ポイント）、「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」（6.1 ポイント）の２項目となっている。

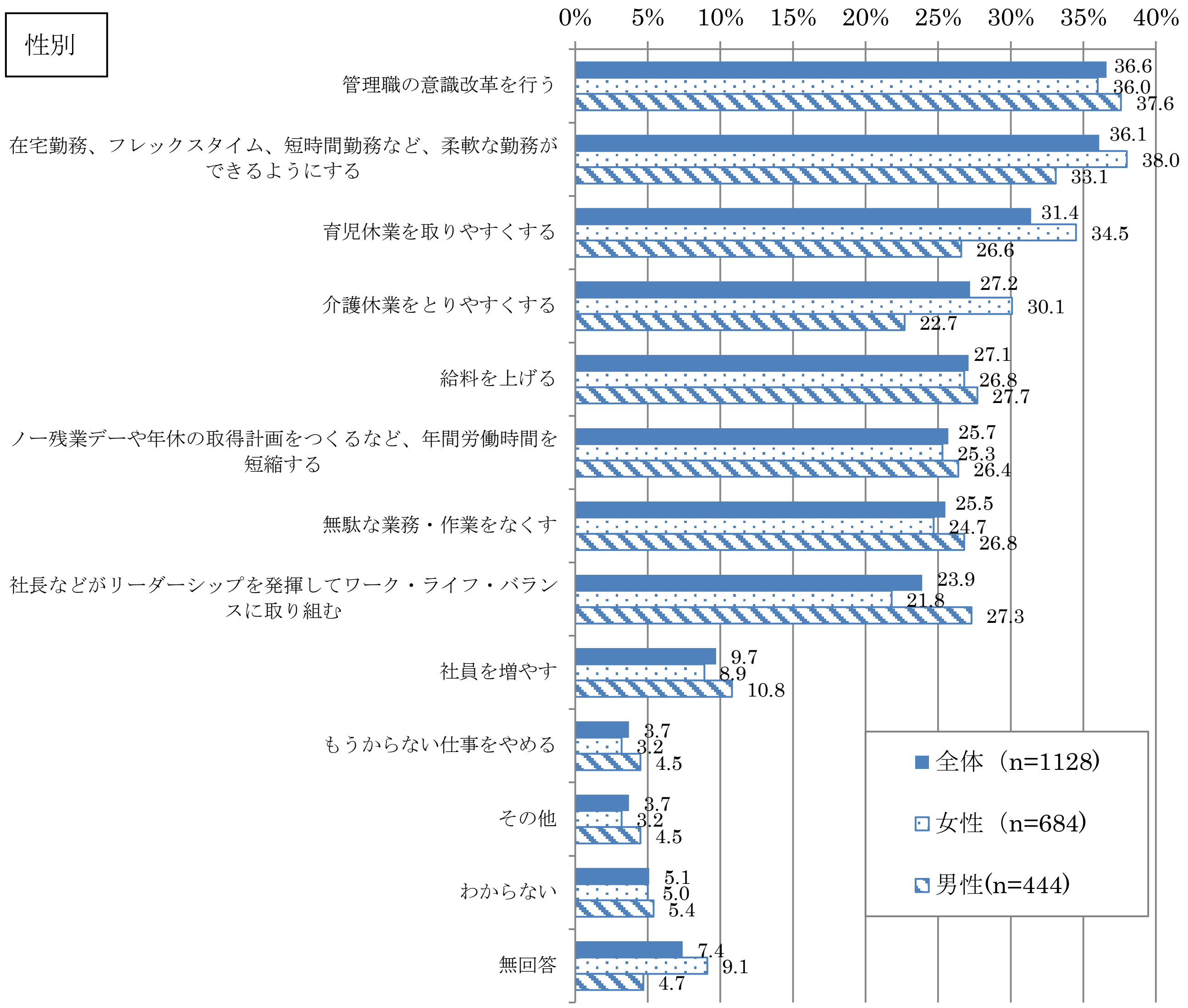
年代別　年代別でみると、「帰宅時間が遅くて時間がないから」は、30 代と 40 代が他の年代よりも若干高くなっており、「家族（配偶者など）がすべてしてくれて、する必要がないから」は 30 代が若干高い割合となっている。

（３）介護

全体　介護に費やす時間が少ない理由として、同居している家族の中に介護を必要とする方がいない回答者も含まれるため、「その他」、「無回答」の割合が大きくなっている。

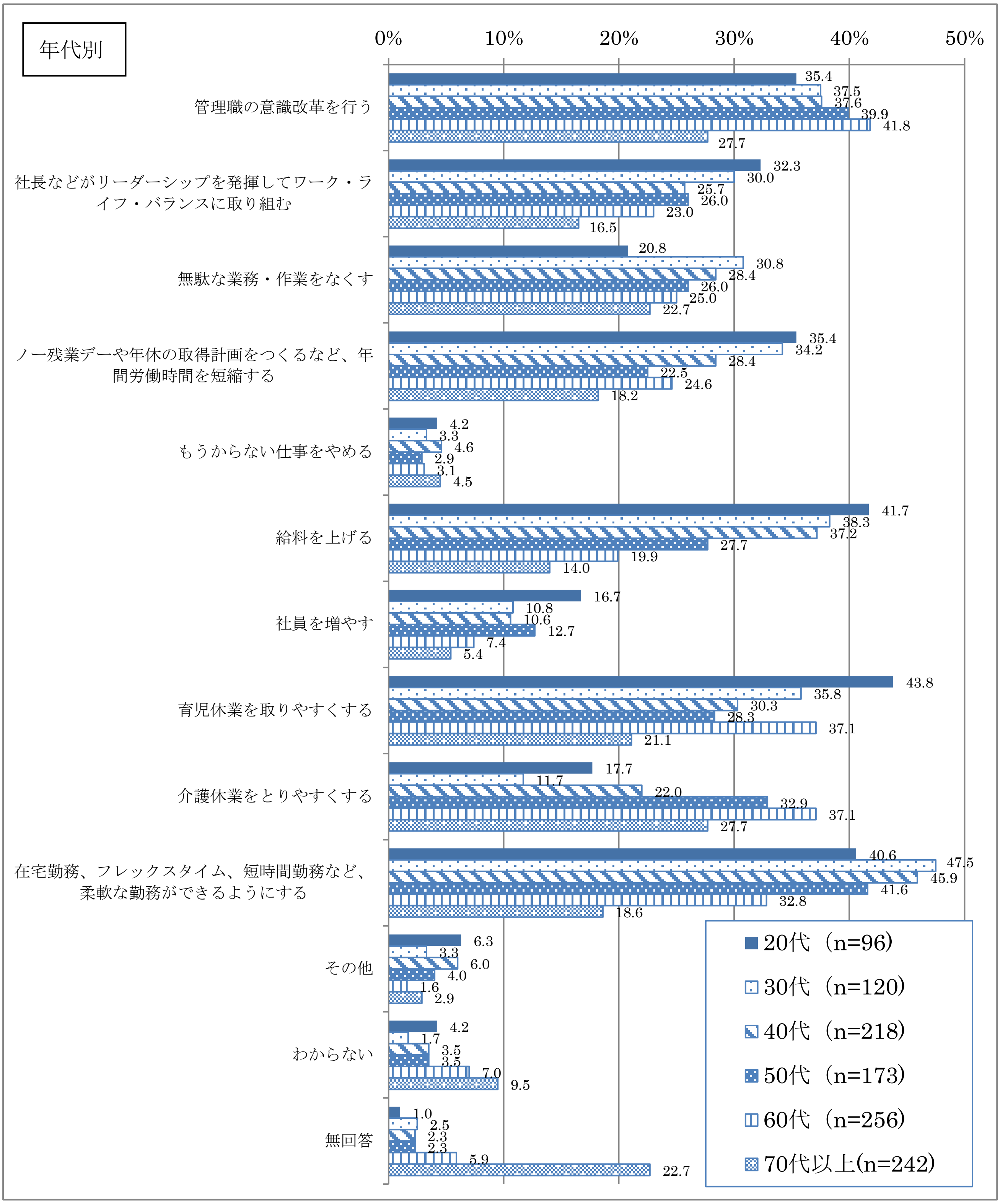
性別でみても、年代別でみても、大きな差はみられない。

問１５．男女が共に「仕事と生活の調和」を図るためには、どのような取り組みが必要であると思いますか？
企業が取り組む必要があると思うものに○をおつけください。 【MA3】



全体　「仕事と生活の調和」を図るために、企業が取り組む必要があるとおもう取組みは、「管理職の意識改革を行う」（36.6%）が最も多く、「在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする」（36.1%）、「育児休業をとりやすくする」（31.4%）、「介護休業をとりやすくする」（27.2%）、「給料を上げる」（27.1%）と続いている。

性別　性別でみると、どの項目も性別による大きな違いはみられないが、「育児休業をとりやすくする」と「介護休業をとりやすくする」の２項目は女性が男性より 7 ポイント以上高く、「社長などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は男性が女性より 5.5 ポイント高くなっている。



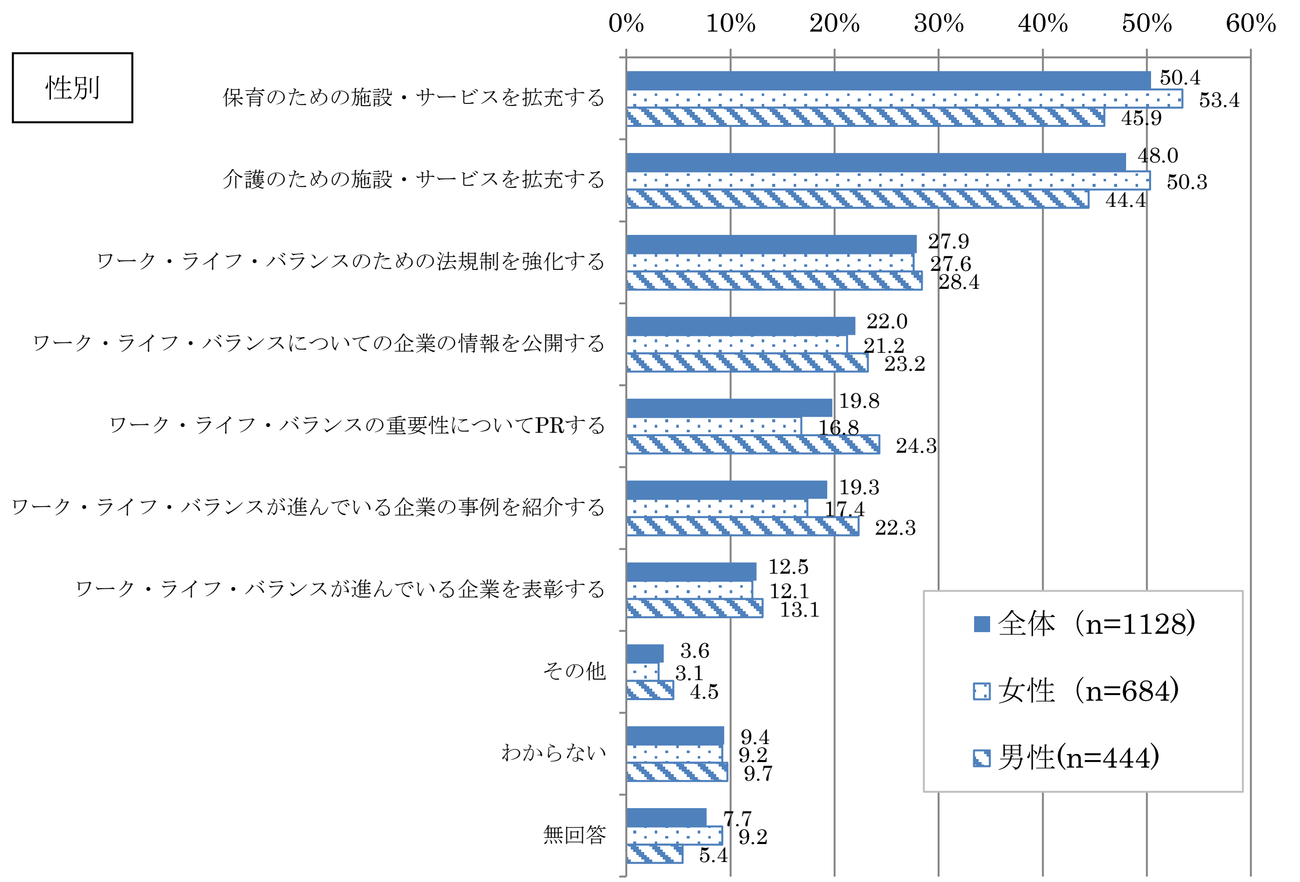
年代別　年代別でみると、「給料をあげる」は年代が下がるほど割合が高くなっており、20 代、30 代、40 代は他の年代よりも 10 ポイント前後上回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、70 代以上男女を除くすべての性別年代で、「在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする」、20 代女性と 30 代女性を除くすべての性別年代で、「管理職の意識改革を行う」が上位項目となっている。「育児休業をとりやすくする」は、20 代男女、30 代女性、50 代女性、60 代男女、70 代以上女性で上位項目に、

順位表　性別年代別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1位</td><td rowspan="2">育児休業をとりやすくする
(47.3%)</td><td colspan="2" rowspan="2">在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(52.5%)　(51.4%)</td><td colspan="2">管理職の意識改革を行う
(43.6%)　(40.1%)</td><td>介護休業をとりやすくする
(29.9%)</td><td rowspan="2">給料を上げる
(41.5%)</td><td rowspan="2">管理職の意識改革を行う
(42.5%)</td><td>給料を上げる
(35.1%)</td><td rowspan="2">在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(38.9%)</td><td colspan="2" rowspan="2">管理職の意識改革を行う
(44.0%)　(37.0%)</td></tr>
<tr><td>在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(43.6%)</td><td>介護休業をとりやすくする
(40.1%)</td><td>無回答
(29.9%)</td><td>在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(35.1%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2位</td><td rowspan="2">在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(45.5%)</td><td rowspan="2">ノー残業デーや年休の取得計画をつくるなど、年間労働時間を短縮する
(41.3%)</td><td rowspan="2">管理職の意識改革を行う
(41.7%)</td><td rowspan="2">介護休業をとりやすくする
(39.6%)</td><td colspan="2" rowspan="2">育児休業をとりやすくする
(38.8%)　(21.6%)</td><td rowspan="2">育児休業をとりやすくする
(39.0%)</td><td rowspan="2">給料を上げる
(40.0%)</td><td>管理職の意識改革を行う
(29.7%)</td><td rowspan="2">管理職の意識改革を行う
(34.7%)</td><td>育児休業をとりやすくする
(34.9%)</td><td>無駄な業務・作業をなくす
(25.9%)</td></tr>
<tr><td>ノー残業デーや年休の取得計画をつくるなど、年間労働時間を短縮する
(29.7%)</td><td>在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(34.9%)</td><td>ノー残業デーや年休の取得計画をつくるなど、年間労働時間を短縮する
(25.9%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3位</td><td rowspan="2">給料を上げる
(41.8%)</td><td rowspan="2">育児休業をとりやすくする
(38.8%)</td><td rowspan="2">給料を上げる
(38.2%)</td><td rowspan="2">育児休業をとりやすくする
(37.6%)</td><td rowspan="2">在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(31.3%)</td><td>管理職の意識改革を行う
(20.1%)</td><td rowspan="2">管理職の意識改革を行う
(36.6%)</td><td rowspan="2">在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務など、柔軟な勤務ができるようにする
(37.5%)</td><td colspan="2" rowspan="2">社長などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む
(27.0%)　(33.3%)</td><td colspan="2" rowspan="2">介護休業をとりやすくする
(33.0%)　(25.0%)</td></tr>
<tr><td>無駄な業務・作業をなくす
(20.1%)</td></tr>
</table>

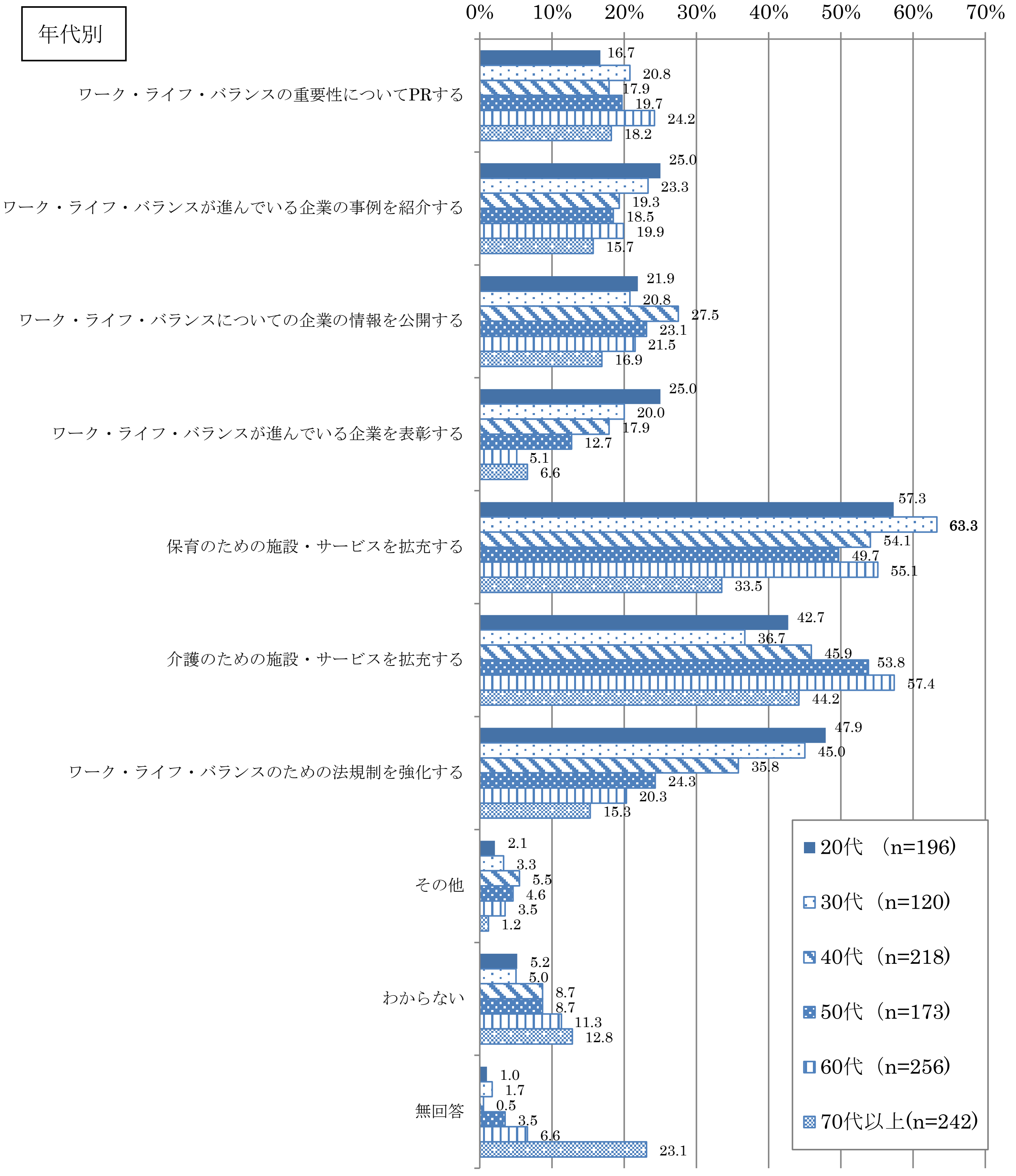
問１６．行政が取り組むと効果的であるとあなたが思うものに〇をおつけください。　【MA3】



全体　男女がともに「仕事と生活の調和」を図るために、行政が取り組むと効果的だと思う取組みは、「保育のための施設･サービスを拡充する」(50.4%)が最も多く、「介護のための施設･サービスを拡充する」(48.0%)、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(27.9%）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに「保育のための施設・サービスを拡充する」(女性 53.4%、男性 45.9%）が最も多く、「介護のための施設・サービスを拡充する」(女性 50.3%、男性 44.4%)、「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」(女性 27.6%、男性 28.4%）と続いている。どの項目も、性別による大きな差はみられないが、「ワーク・ライス・バランスの重要性について PR する」は男性が女性より 7.5 ポイント高く、「保育のための施設・サービスを拡充する」は女性が男性よりも 7.5 ポイント高くなっている。

問１６．行政が取り組むと効果的であるとあなたが思うものに○をおつけください。　【MA3】



年代別　年代別でみると、「保育のための施設・サービスを拡充する」は 30 代が 6 割を、20 代、40 代、60 代で 5 割を超えている。「介護のための施設・サービスを拡充する」は 50 代と 60 代で 5 割を超えている。「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」と「ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業を表彰する」の２項目は、年代が下がるほど増加傾向がみられる。

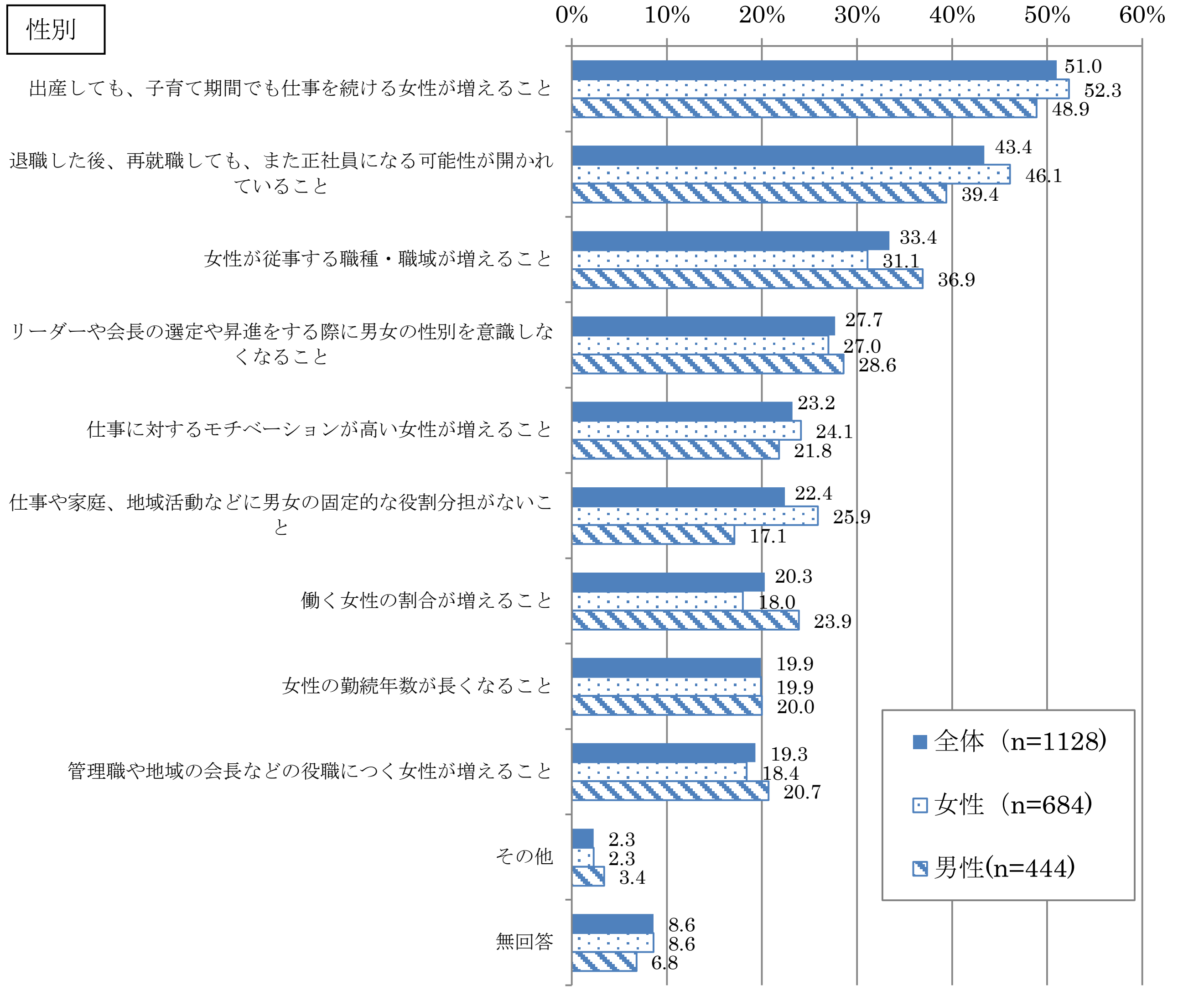
性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で、「保育のための施設・サービスを拡充する」、「介護のための施設・サービスを拡充する」が上位項目となっている。20 代男女、30 代男女、40 代男女、50 代男性、60 代男性では「ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する」が上位項目となっている。60 代男女、70 代以上男性では、「ワー・ライフ・バランスの重要性についてＰＲする」が上位項目となっている。

順位表　性別年代別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="3">保育のための施設・サービスを拡充する
(63.6%)　67.5%)
(57.6%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(60.4%)</td><td>保育のための施設・サービスを拡充する
(58.5%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(42.5%)</td><td colspan="3">保育のための施設・サービスを拡充する
(48.8%)　(55.0%)　(47.3%)</td><td colspan="3">介護のための施設・サービスを拡充する
(44.4%)　(56.9%)　(46.3%)</td></tr>
<tr><td>2位</td><td colspan="2">ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(58.2%)
(43.8%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(51.4%)</td><td>保育のための施設・サービスを拡充する
(57.4%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(57.8%)</td><td>無回答
(31.3%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(34.1%)
ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(34.1%)</td><td>ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(47.5%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(35.1%)</td><td colspan="3">保育のための施設・サービスを拡充する
(38.9%)　(50.5%)　(40.7%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td colspan="2">介護のための施設・サービスを拡充する
(49.1%)
(38.8%)</td><td>ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(37.5%)</td><td>ワー・ライフ・バランスについての企業の情報を公開する
(27.7%)</td><td>ワー・ライフ・バランスの重要性についてPRする
(23.8%)</td><td>保育のための施設・サービスを拡充する
(27.6%)</td><td>ワー・ライフ・バランスについての企業の情報を公開する
(24.4%)</td><td>介護のための施設・サービスを拡充する
(32.5%)</td><td colspan="2">ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(32.4%)　(29.2%)</td><td>ワー・ライフ・バランスの重要性についてPRする
(24.8%)
ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
(24.8%)</td><td>ワー・ライフ・バランスの重要性についてPRする
(25.0%)</td></tr>
</table>

４．女性の活躍促進について

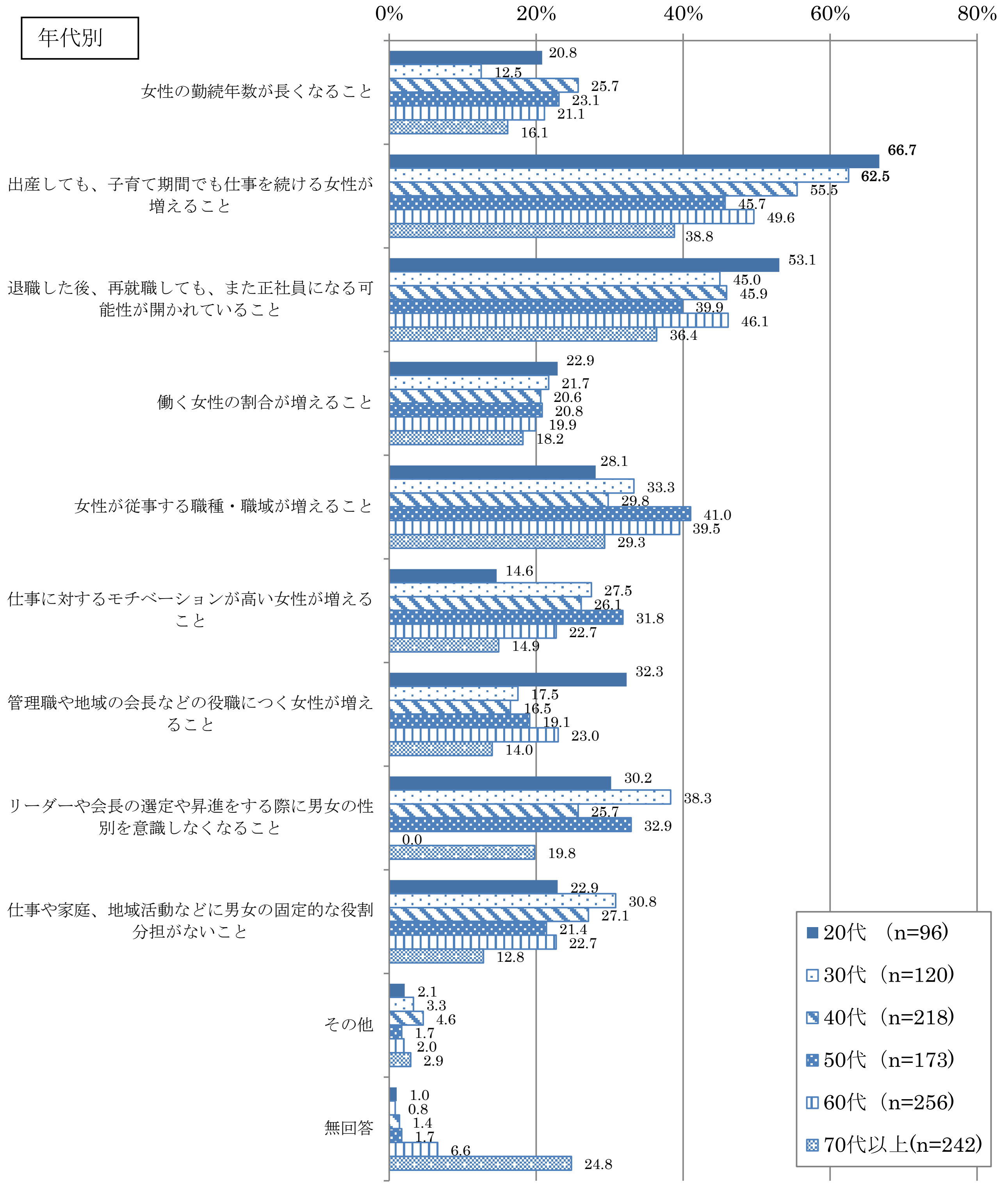
問１７.「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか？　【MA３】



全体　女性の活躍が推進されている状態とは、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」（51.0%）が最も多く、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」（43.4%）、「女性が従事する職種・職域が増えること」（33.4%）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに順位も同じで大きな差はみられないが、「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」は女性が男性よりも 8.8 ポイント、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は女性が男性よりも 6.7 ポイント高くなっている。一方で、男性が女性よりも５ポイント以上高い項目は、「働く女性の割合が増えること」（5.9 ポイント）、「女性が従事する職種・職域が増えること」（5.8 ポイント）で、若干の差がみられた。

問１７.「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか？　【MA３】

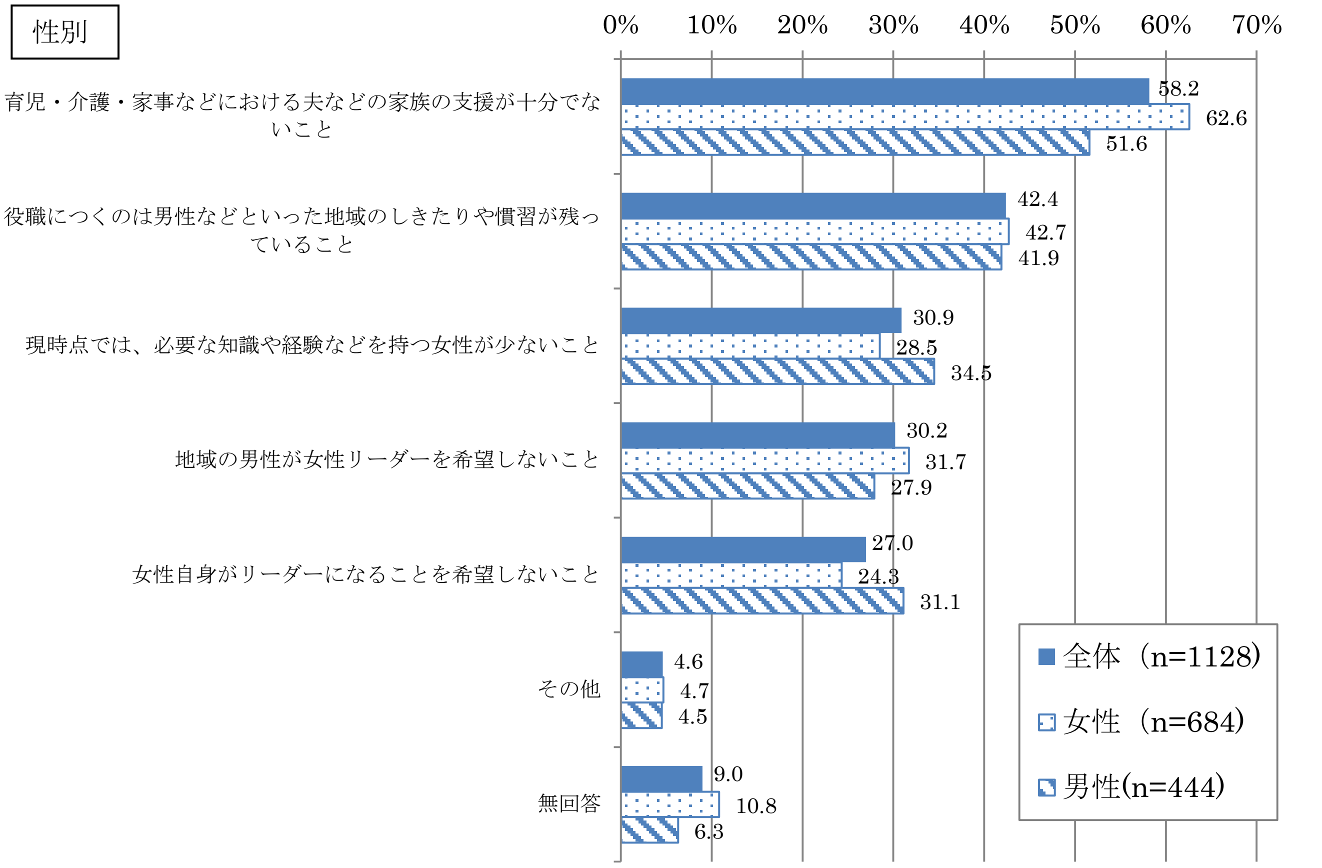


年代別　年代別でみると、年代による大きな差がみられた項目は、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」で、20 代と 30 代では 6 割を超えている。

性別年代別　　性別年代別でみると、すべての性別年代で、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」、「退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が上位項目となっている。すべての年代の男性、50 代女性、60 代女性では、「女性が従事する職種・職域が増えること」が上位項目となっている。20 代女性、50 代女性、30 代男性では、「リーダーシップや会長の選定や昇進を検討する際に男女の性別を意識しなくなること」が上位項目となっている。

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="3">出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
(72.7%)　(62.5%)　(54.9%)</td><td>女性が従事する職種・職域が増えること
(43.6%)</td><td colspan="2">出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
(53.1%)　(39.6%)</td><td colspan="6">出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
(58.5%)　(62.5%)　(56.8%)　(50.0%)　(45.0%)　(38.0%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2位</td><td colspan="3" rowspan="2">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(50.9%)　(43.8%)　(51.4%)</td><td>退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(42.6%)</td><td colspan="2" rowspan="2">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(51.0%)　(37.3%)</td><td rowspan="2">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(56.1%)</td><td>退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(47.5%)</td><td rowspan="2">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(35.1%)</td><td rowspan="2">女性が従事する職種・職域が増えること
(37.5%)</td><td colspan="2" rowspan="2">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(39.4%)　(35.2%)</td></tr>
<tr><td>出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
(42.6%)</td><td>リーダーシップや会長の選定や昇進を検討する際に男女の性別を意識しなくなること
(47.5%)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3位</td><td>管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること
(34.5%)</td><td colspan="2" rowspan="3">仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと
(36.3%)
(30.6%)</td><td rowspan="3">リーダーシップや会長の選定や昇進を検討する際に男女の性別を意識しなくなること
(32.7%)</td><td rowspan="3">女性が従事する職種・職域が増えること
(38.8%)</td><td rowspan="3">無回答
(29.9%)</td><td>働く女性の割合が増えること
(29.3%)</td><td colspan="2" rowspan="3">女性が従事する職種・職域が増えること
(37.5%)　(33.8%)</td><td rowspan="3">退職したのち、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
(36.1%)</td><td colspan="2" rowspan="3">女性が従事する職種・職域が増えること
(40.4%)
(38.0%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リーダーシップや会長の選定や昇進を検討する際に男女の性別を意識しなくなること
(34.5%)</td><td>女性が従事する職種・職域が増えること
(29.3%)</td></tr>
<tr><td>管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること
(29.3%)</td></tr>
</table>

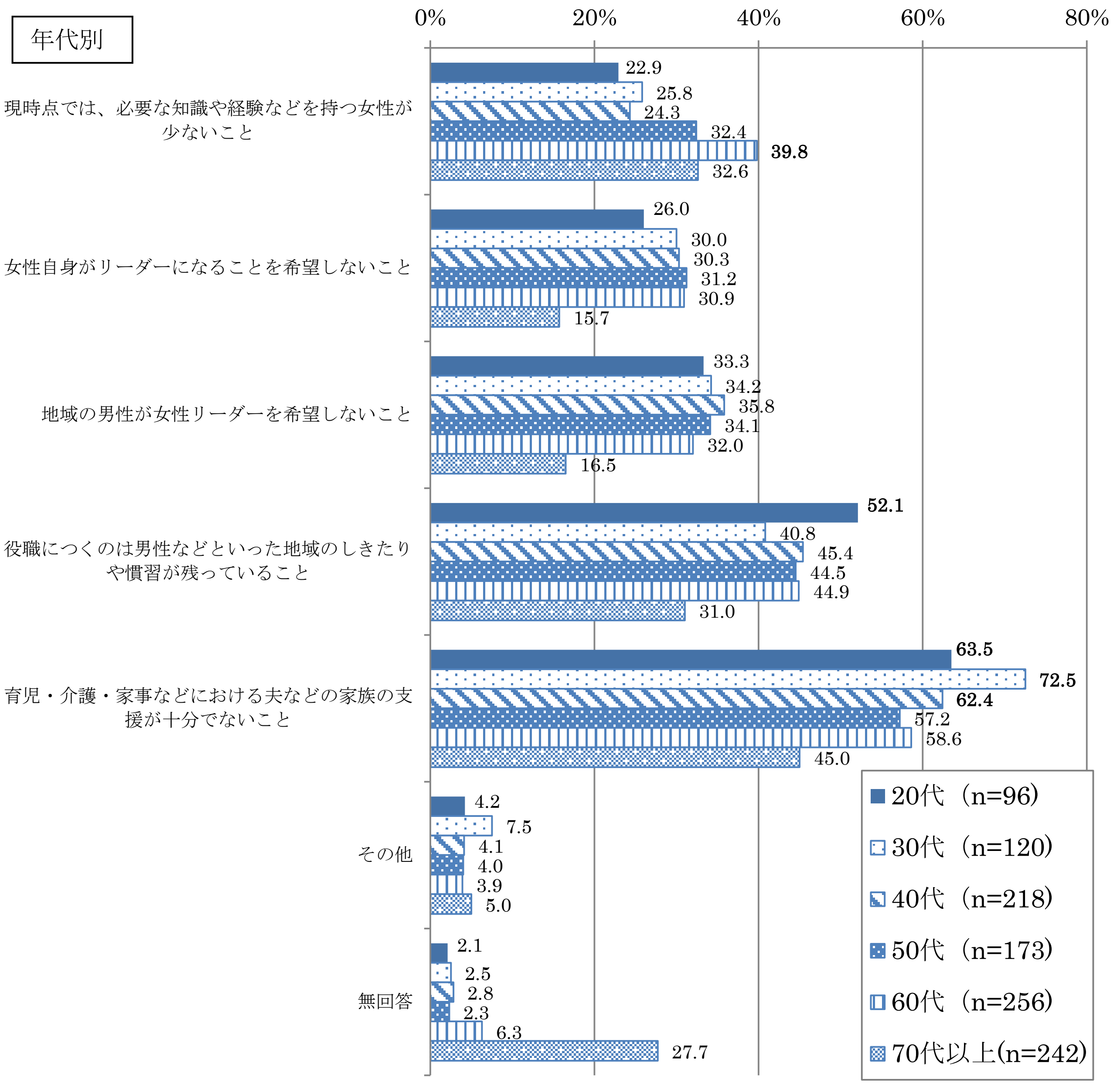
問１８．大阪市では、地域・社会活動の分野においても、女性の活躍を進めています。　【複数回答】
地域・社会活動の分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか？



全体　地域・社会活動の分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは、「育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」（58.2%）が最も多く、「役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること」（42.4%）、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（30.9%）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに、最も割合が高いのは「育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」（女性 62.6%、男性 51.6%）だが、女性が男性よりも 11 ポイント多くなっている。次いで、男女共に「役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること」（女性 42.7%、男性 41.9%）と続くが差はみられない。次いで、女性は「地域の男性が女性リーダーを希望しないこと」（31.7%）が続き、男性は「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（34.5%）が続いている。
「女性自身がリーダーになることを希望しない」と「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」の２項目は、男性が女性より 6 ポイント以上高くなっている。

問１８．大阪市では、地域・社会活動の分野においても、女性の活躍を進めています。　【複数回答】
地域･社会活動の分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか？



年代別　年代別でみると、「育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」は 30 代で 7 割を、20 代と 40 代で 6 割を超えている。「役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること」は 20 代が 52.1%で最も高く、他の年代よりも 6 ポイント以上高くなっている。「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」は 60 代が 39.8%で最も高く、他の年代よりも 7 ポイント以上高くなっている。

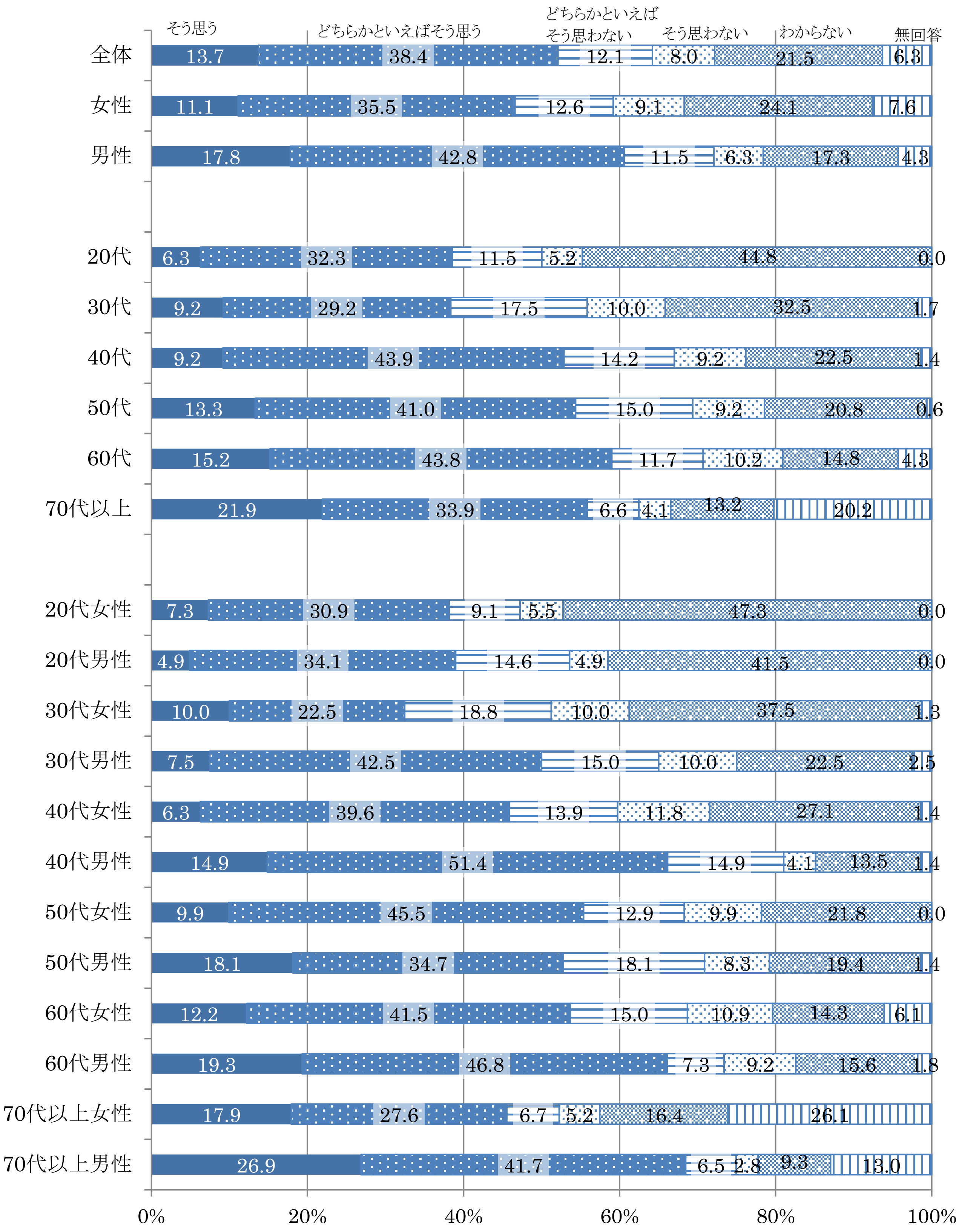
性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で、「育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」、「役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること」が上位項目となっている。20 代男女、30 代男女、40 代女性、50 代女性、60 男性では、「地域の男性が女性リーダーを希望しないこと」、60 代女性、50 代男性、70 代以上男性では、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」が上位項目となっている。

順位表　性別年齢別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="6">育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと
(72.7%) (73.8%) (69.4%) (67.3%) (60.5%) (42.5%)</td><td>役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(61.0%)</td><td colspan="5">育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと
(70.0%) (48.6%) (43.1%) (56.0%) (48.1%)</td></tr>
<tr><td>2位</td><td colspan="5">役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(45.5%) (38.8%) (48.6%) (49.5%) (44.2%)</td><td>無回答
(35.8%)</td><td>育児・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと
(51.2%)</td><td colspan="2">役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(45.0%) (39.2%)</td><td>現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
(38.9%)</td><td>役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(45.9%)</td><td>現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
(40.7%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td colspan="4">地域の男性が女性リーダーを希望しないこと
(36.4%) (35.0%) (38.9%) (42.6%)</td><td>現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
(42.2%)</td><td>役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(28.4%)</td><td>地域の男性が女性リーダーを希望しないこと
(29.3%)</td><td>女性自身がリーダーになることを希望しないこと
(32.5%)
地域の男性が女性リーダーを希望しないこと
(32.5%)</td><td>女性自身がリーダーになることを希望しないこと
(35.1%)</td><td>役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(37.5%)</td><td>地域の男性が女性リーダーを希望しないこと
(37.6%)</td><td>役職につくのは男性などといった地域のしきたりや慣習が残っていること
(34.3%)</td></tr>
</table>

問１９．自分自身の経験に照らして、ご自身の考えに最も近いものはどれですか？ 【SA】

（１） 以前に比べて、地域で女性が活躍しやすくなっている



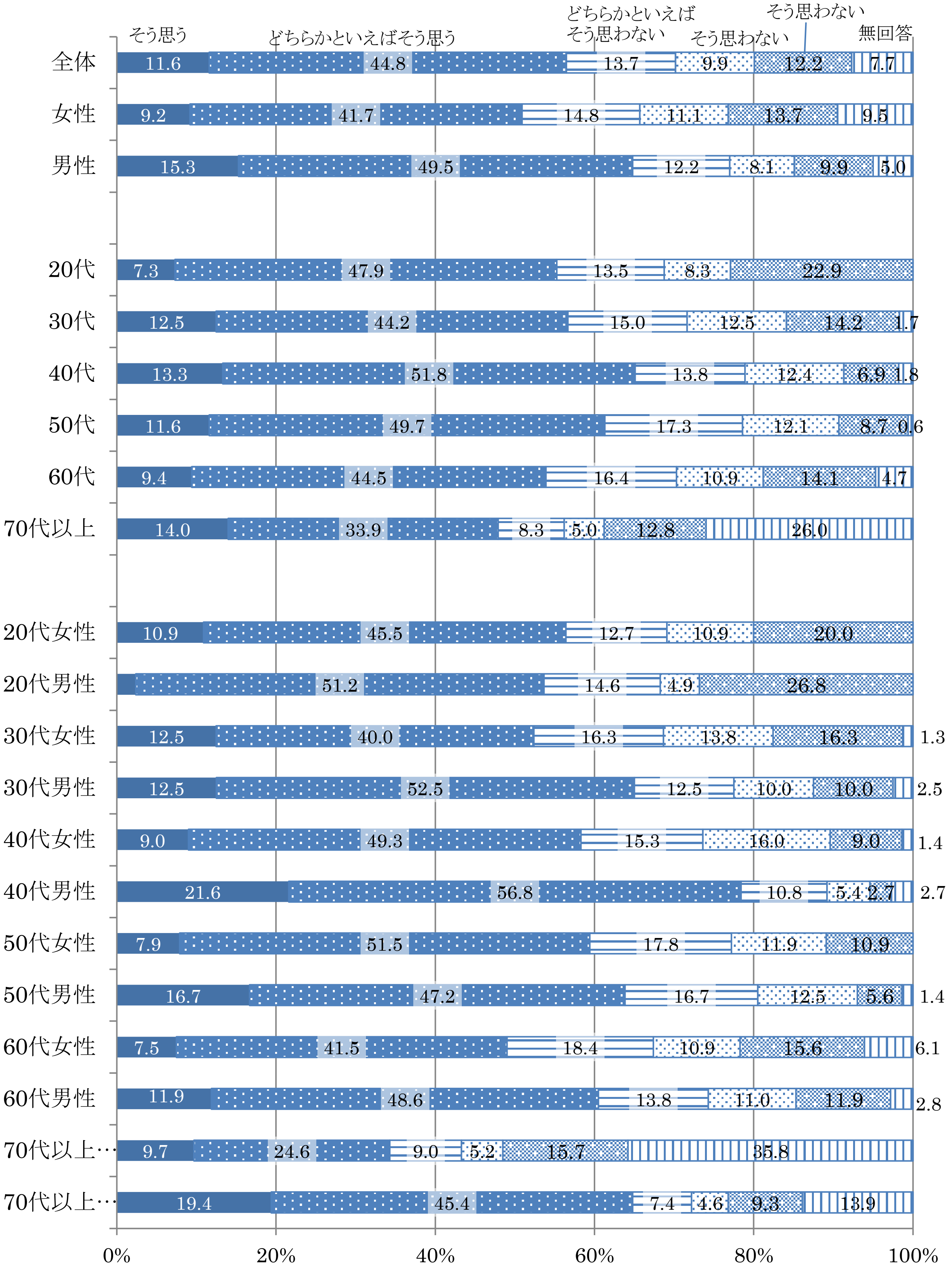
全体・性別　「以前に比べて、地域で女性が活躍しやすくなっている」という考えについて、全体でも性別でみても、「どちらかといえばそう思う」（全体 38.4%、女性 35.5%、男性 42.8%）が最も高くなっている。
以前と比べると、地域で女性が活躍しやすくなっていると思う割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、思わない割合（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）よりも高い割合となっている。活躍しやすくなっていると思う割合は、男性が女性よりも 14 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、どの年代でも、地域で女性が活躍しやすくなっていると思う割合が、思わない割合よりも高い割合となっており、特に、60 代では 6 割弱を占めている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての層でどの年代でも、地域で女性が活躍しやすくなっていると思う割合が、思わない割合よりも高い割合となっている。同じ年代での男女差をみると、思わない割合に大きな差はみられないが、思う割合では、男性が女性より 70 代以上で 23.0 ポイント、40 代で 20.4 ポイント、30 代で 17.5 ポイントの差がみられる。

	そう思う どちらかといえばそう思う	そう思わない どちらかといえばそう思わない	わからない	無回答
全体	52.1%	20.1%	21.5%	6.3%
女性	46.6%	21.6%	24.1%	7.6%
男性	60.6%	17.8%	17.3%	4.3%
20 代	38.5%	16.7%	44.8%	0.0%
30 代	38.3%	27.5%	32.5%	1.7%
40 代	52.8%	23.4%	22.5%	1.4%
50 代	54.3%	24.3%	20.8%	0.6%
60 代	59.0%	21.9%	14.8%	4.3%
70 代以上	55.8%	10.7%	13.2%	20.2%
20 代女性	38.2%	14.5%	47.3%	0.0%
20 代男性	39.0%	19.5%	41.5%	0.0%
30 代女性	32.5%	28.8%	37.5%	1.3%
30 代男性	50.0%	25.0%	22.5%	2.5%
40 代女性	45.8%	25.7%	27.1%	1.4%
40 代男性	66.2%	18.9%	13.5%	1.4%
50 代女性	55.4%	22.8%	21.8%	0.0%
50 代男性	52.8%	26.4%	19.4%	1.4%
60 代女性	53.7%	25.9%	14.3%	6.1%
60 代男性	66.1%	16.5%	15.6%	1.8%
70 代以上女性	45.5%	11.9%	16.4%	26.1%
70 代以上男性	68.5%	9.3%	9.3%	13.0%

（２）　以前に比べて、就業の場で女性が活躍しやすくなっている



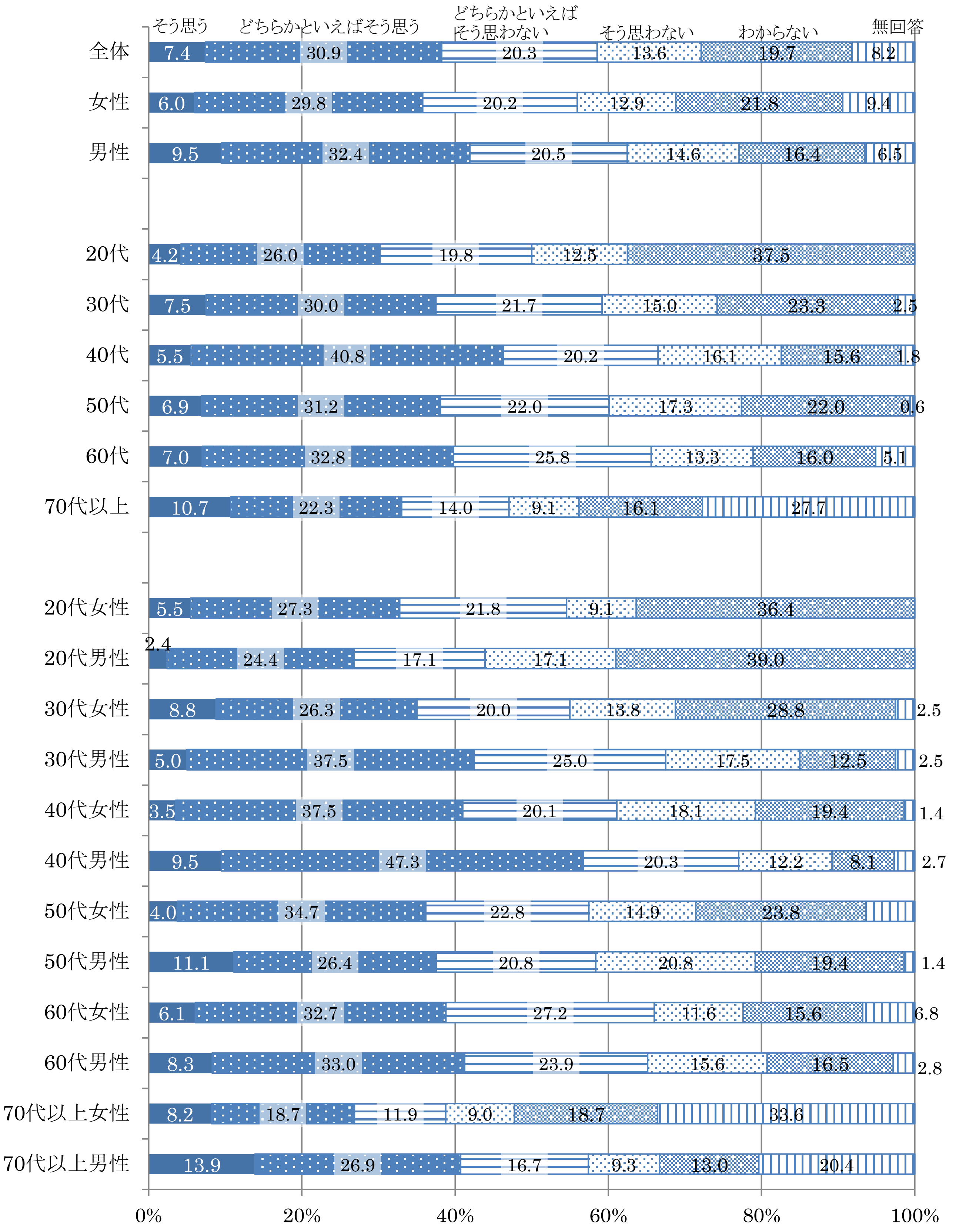
全体・性別　「以前に比べて、就業の場で女性が活躍しやすくなっている」という考えについて、全体でも性別でみても、「どちらかといえばそう思う」(全体 44.8%、女性 41.7%、男性 49.5%) が最も高くなっている。以前と比べると、就業の場で女性が活躍しやすくなっていると思う割合 (「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」) が、思わない割合 (「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」) よりも高い割合となっている。

年代別　年代別でみると、どの年代でも、就業の場で女性が活躍しやすくなっていると思う割合が、思わない割合よりも高い割合となっており、特に、40 代と 50 代では 6 割を超えている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての層でどの年代でも、就業の場で女性が活躍しやすくなっていると思う割合が、思わない割合よりも高い割合となっており、特に 40 代男性では 7 割を超えている。同じ年代での男女差をみると、思う割合では、男性が女性より 70 代以上で 30.5 ポイント、40 代で 20.1 ポイント、30 代で 12.5 ポイントの差がみられる。一方、思わない割合では、女性が男性より 40 代で 15.1 ポイント高くなっている。

	そう思う どちらかといえばそう思う	そう思わない どちらかといえばそう思わない	わからない	無回答
全体	56.4%	23.7%	12.2%	7.7%
女性	50.9%	25.9%	13.7%	9.5%
男性	64.9%	20.3%	9.9%	5.0%
20 代	55.2%	21.9%	22.9%	0.0%
30 代	56.7%	27.5%	14.2%	1.7%
40 代	65.1%	26.1%	6.9%	1.8%
50 代	61.3%	29.5%	8.7%	0.6%
60 代	53.9%	27.3%	14.1%	4.7%
70 代以上	47.9%	13.2%	12.8%	26.0%
20 代女性	56.4%	23.6%	20.0%	0.0%
20 代男性	53.7%	19.5%	26.8%	0.0%
30 代女性	52.5%	30.0%	16.3%	1.3%
30 代男性	65.0%	22.5%	10.0%	2.5%
40 代女性	58.3%	31.3%	9.0%	1.4%
40 代男性	78.4%	16.2%	2.7%	2.7%
50 代女性	59.4%	29.7%	10.9%	0.0%
50 代男性	63.9%	29.2%	5.6%	1.4%
60 代女性	49.0%	29.3%	15.6%	6.1%
60 代男性	60.6%	24.8%	11.9%	2.8%
70 代以上女性	34.3%	14.2%	16.4%	26.1%
70 代以上男性	64.8%	12.0%	9.3%	13.9%

（３） 以前に比べて、男女がともに働き続けやすいまちになっている



全体・性別　「以前と比べて、男女が共に働き続けやすいまちになっている」という考えについて、全体でも性別でみても、「どちらかといえばそう思う」（全体 30.9%、女性 29.8%、男性 32.4%）が最も高くなっている。また、以前と比べると、男女が共に働き続けやすいまちになっていると思う割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、思わない割合（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）よりも若干高い割合となっている。

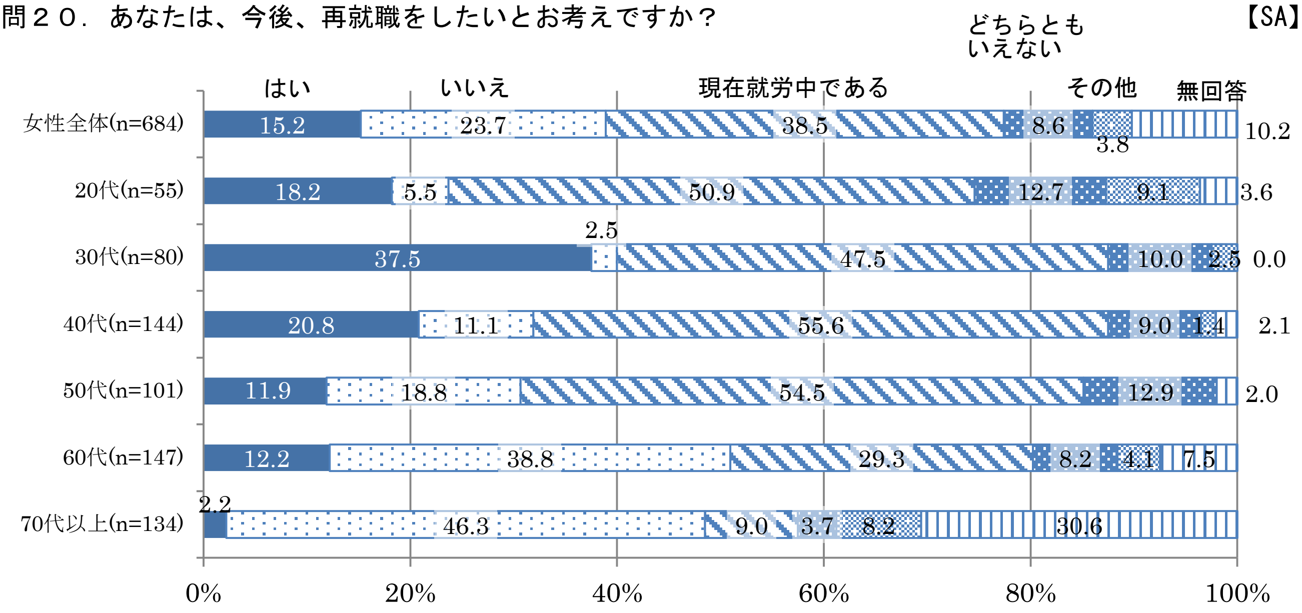
年代別　年代別でみると、30 代、40 代、60 代、70 代以上では、以前と比べると、男女が共に働き続けやすいまちになっていると思う割合が、思わない割合よりも若干高い割合となっており、20 代と 50 代では、思わない割合が思う割合よりも高くなっている。

性別年代別　性別年代別でみると、20 代男性、50 代男性は思わない割合が思う割合より高く、30 代男性と 60 代女性では、同じ割合となっている。同じ年代での男女差をみると、思う割合では、男性が女性より 40 代で 15.8 ポイント、70 代以上で 13.8 ポイントの差がみられる。

	そう思う どちらかといえばそう思う	そう思わない どちらかといえばそう思わない	わからない	無回答
全体	38.2%	33.9%	19.7%	8.2%
女性	35.8%	33.0%	21.8%	9.4%
男性	41.9%	35.1%	16.4%	6.5%
20 代	30.2%	32.3%	37.5%	0.0%
30 代	37.5%	36.7%	23.3%	2.5%
40 代	46.3%	36.2%	15.6%	1.8%
50 代	38.2%	39.3%	22.0%	0.6%
60 代	39.8%	39.1%	16.0%	5.1%
70 代以上	33.1%	23.1%	16.1%	27.7%
20 代女性	32.7%	30.9%	36.4%	0.0%
20 代男性	26.8%	34.1%	39.0%	0.0%
30 代女性	35.0%	33.8%	28.8%	2.5%
30 代男性	42.5%	42.5%	12.5%	2.5%
40 代女性	41.0%	38.2%	19.4%	1.4%
40 代男性	56.8%	32.4%	8.1%	2.7%
50 代女性	38.6%	37.6%	23.8%	0.0%
50 代男性	37.5%	41.7%	19.4%	1.4%
60 代女性	38.8%	38.8%	15.6%	6.8%
60 代男性	41.3%	39.4%	16.5%	2.8%
70 代以上女性	26.9%	20.9%	18.7%	33.6%
70 代以上男性	40.7%	25.9%	13.0%	20.4%

女性の方にお伺いします。（問２０～２２）

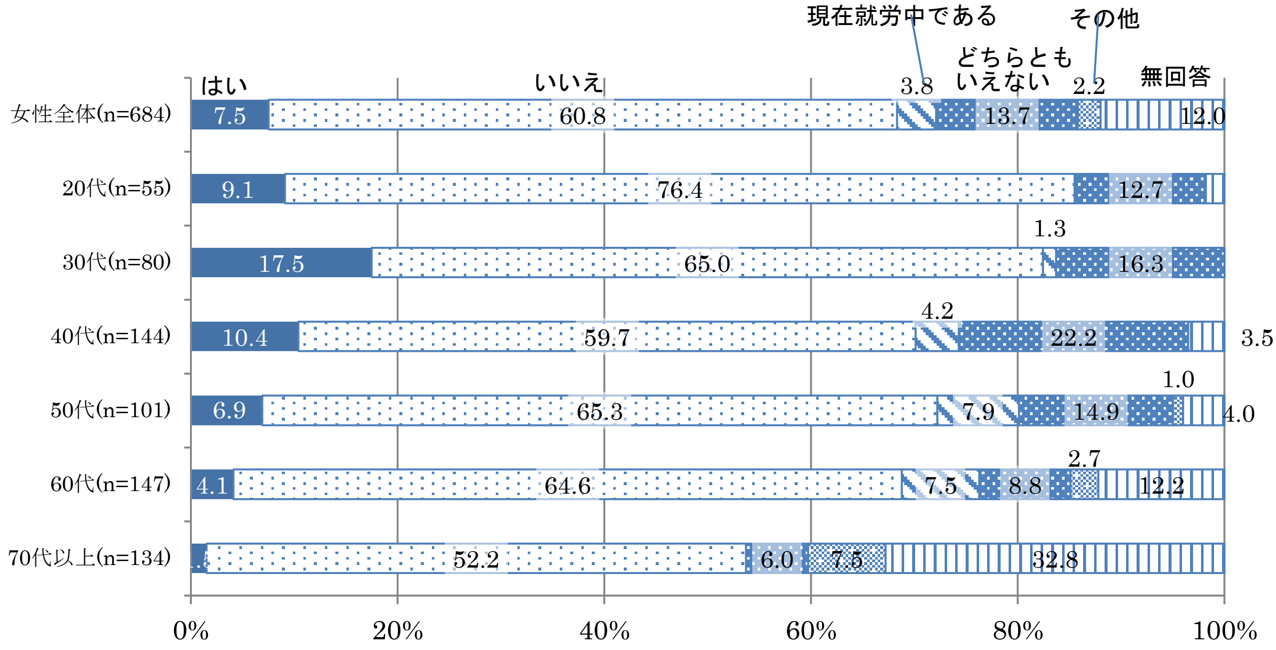
問２０．あなたは、今後、再就職をしたいとお考えですか？ 【SA】



女性全体　再就職をしたいという考えについて、「現在就労中である」が 38.5％と最も多く、次いで「いいえ」が 23.7％、「はい」が 15.2％と続いている。

女性年代別　最も再就職を希望している年代は 30 代で、30 代をピークに減少している。一方で、「いいえ」と答えた年代は 30 代が最も低く、年代が上がるにつれて増加している。

問２１．あなたは、今後、起業をしたいとお考えですか？ 【SA】



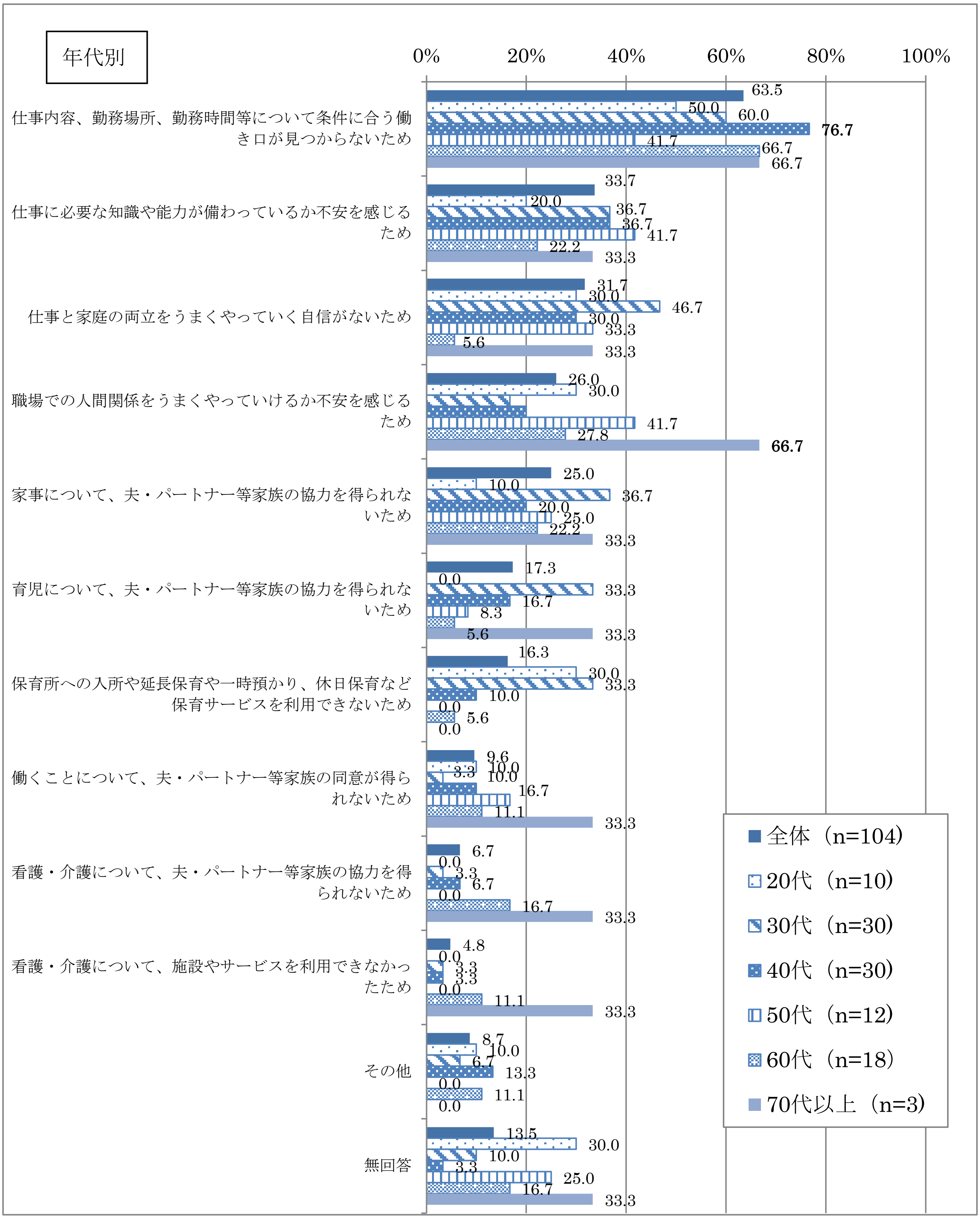
女性全体　起業したいという考えについて、「いいえ」が 60.8％と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 13.7％、「はい」が 7.5％と続いている。

女性年代別　「はい」と答えた、最も起業を希望している年代は 30 代で、40 代、20 代と続いている。

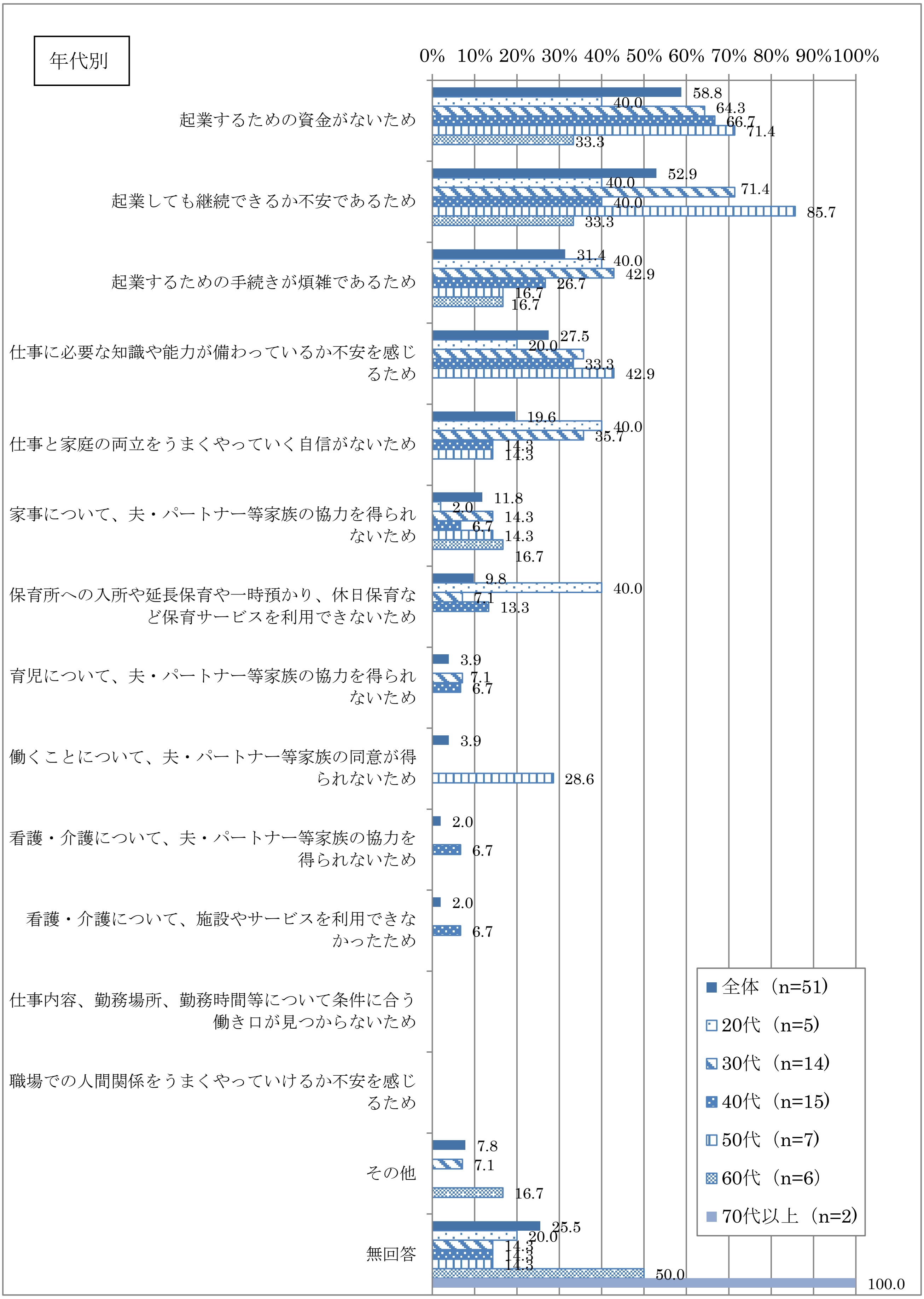
問２２．問２０・問２１のいずれかにて、「はい」を選んだ方にお伺いします。

今後、再就職したい、あるいは、起業したいと考えているけれども、現在実現していない理由はなんですか？　【複数回答】

（１）再就職が実現していない理由



（２）起業が実現していない理由



（１）再就職

全体　今後、再就職したいと考えているけれども、実現していない理由は、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件の合う働き口が見つからないため」（63.5％）の割合が最も高く、次いで「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるため」（33.7％)、「仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため」（31.7％）と続いている。

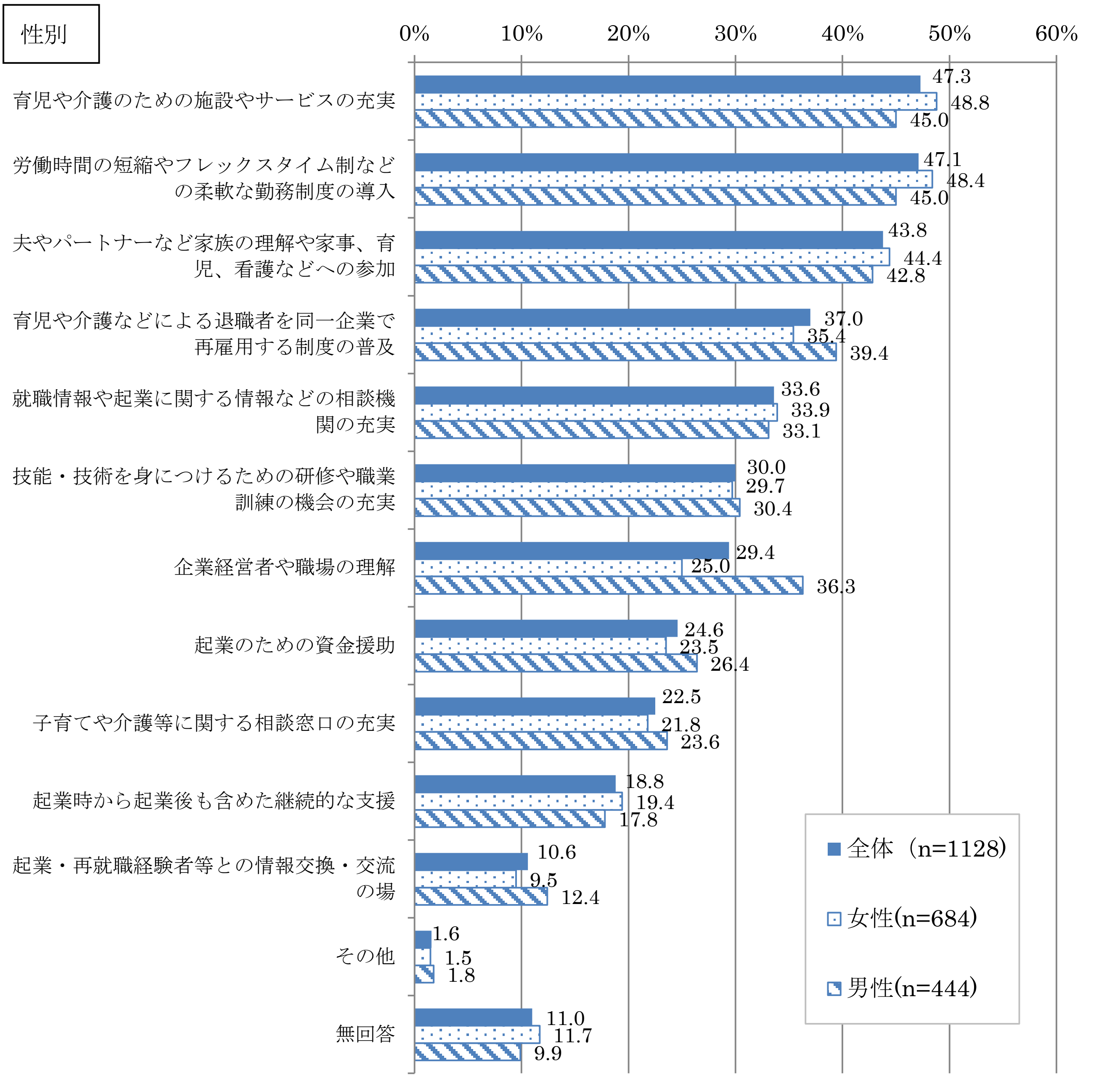
年代別　年代別でみると、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件の合う働き口が見つからないため」は、40 代では 7 割を、30 代、60 代、70 代以上で 6 割を超えている。「仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため」は、30 代が他の年代をくらべて 13 ポイント以上高くなっている。「家事について、夫・パートナー等家族の協力を得られないため」、「育児について、夫・パートナー等家族の協力を得られないため」では 30 代が他の年代よりも高く、「保育所への入所や延長保育や一時預かり、休日保育など保育サービスを利用できないため」は、20 代と 30 代が他の年代よりも 13 ポイント以上高くなっている。

（２）起業

全体　今後、起業したいと考えているけれども、実現していない理由は、「起業するための資金がないため」（58.8％）の割合が最も高く、次いで「起業しても継続できるか不安であるため」（52.9％)、「起業するための手段の手続きが煩雑であるため」（31.4％）と続いている。

年代別　年代別でみると、「起業するための資金がないため」は、30 代、40 代、50 代では 6 割を超えており、20 代、70 代以上と比べて 24 ポイント以上高い割合となっている。「起業しても継続できるか不安であるため」は、30 代で 7 割、50 代で 8 割を超えている。「仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため」は、20 代と 30 代が他の年代よりも高くなっている。「働くことについて、夫・パートナー等家族の同意が得られないため」は 50 代で割合が高く、「保育所への入所や延長保育や一時預かり、休日保育など保育サービスを利用できないため」は 20 代が高くなっている。

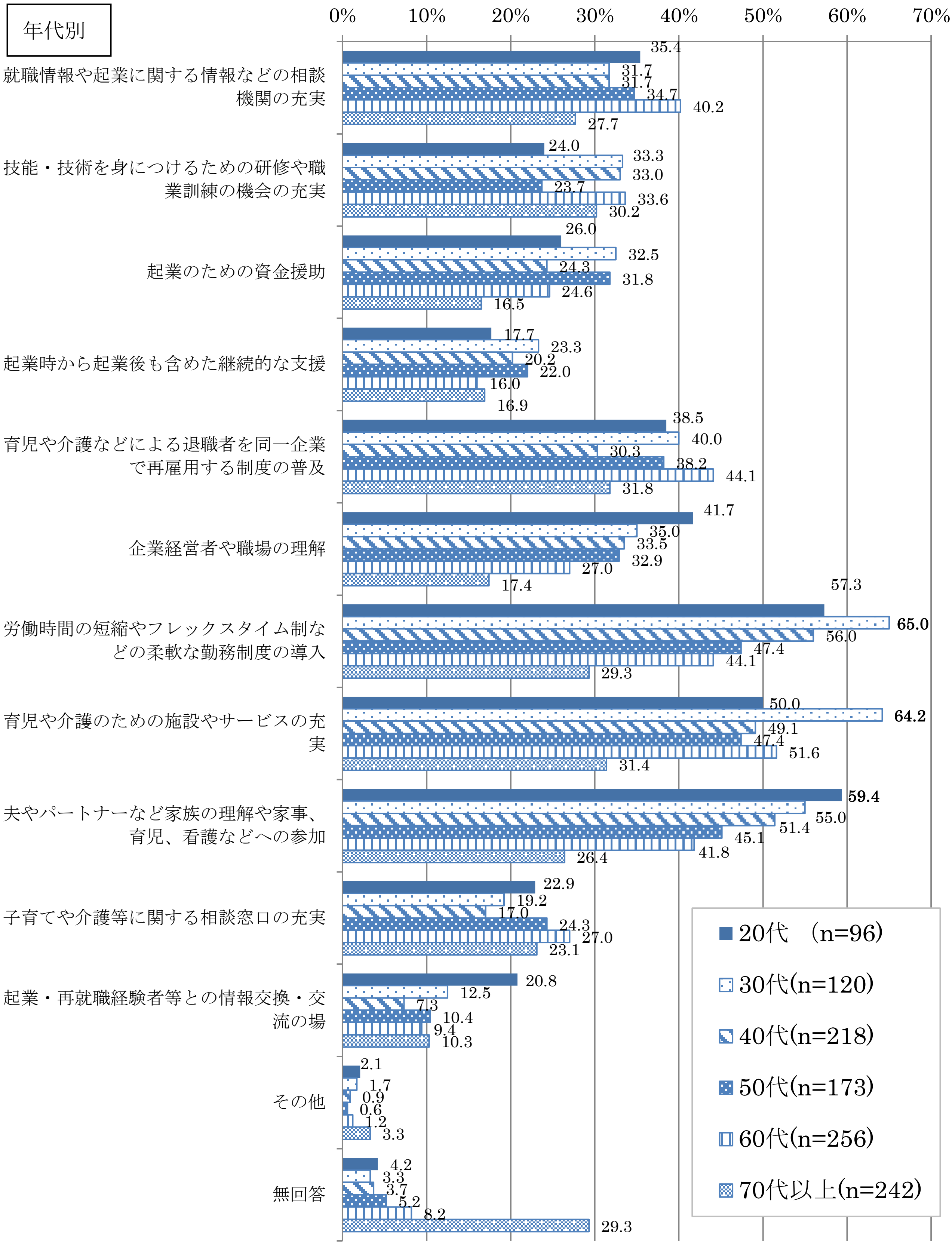
問２３．出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後に再就職を希望する女性や、起業したいと考えている女性が再就職や起業をしやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか？　【複数回答】



全体　出産・子育て・介護などにより離職した女性が再就職や起業をしやすくするために必要な取組みは、「育児や介護のための施設やサービスの充実」（47.3％）が最も高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」（47.1％）、「夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」（43.8％）と続いている。

性別　性別でみると、男女により、上位項目の順位や各項目の割合に大きな差はみられないが、「企業経営者や職場の理解」は、男性が女性よりも 11.3 ポイント高くなっている。

問２３．出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後に再就職を希望する女性や、起業したいと考えている女性が再就職や起業をしやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか？　【複数回答】



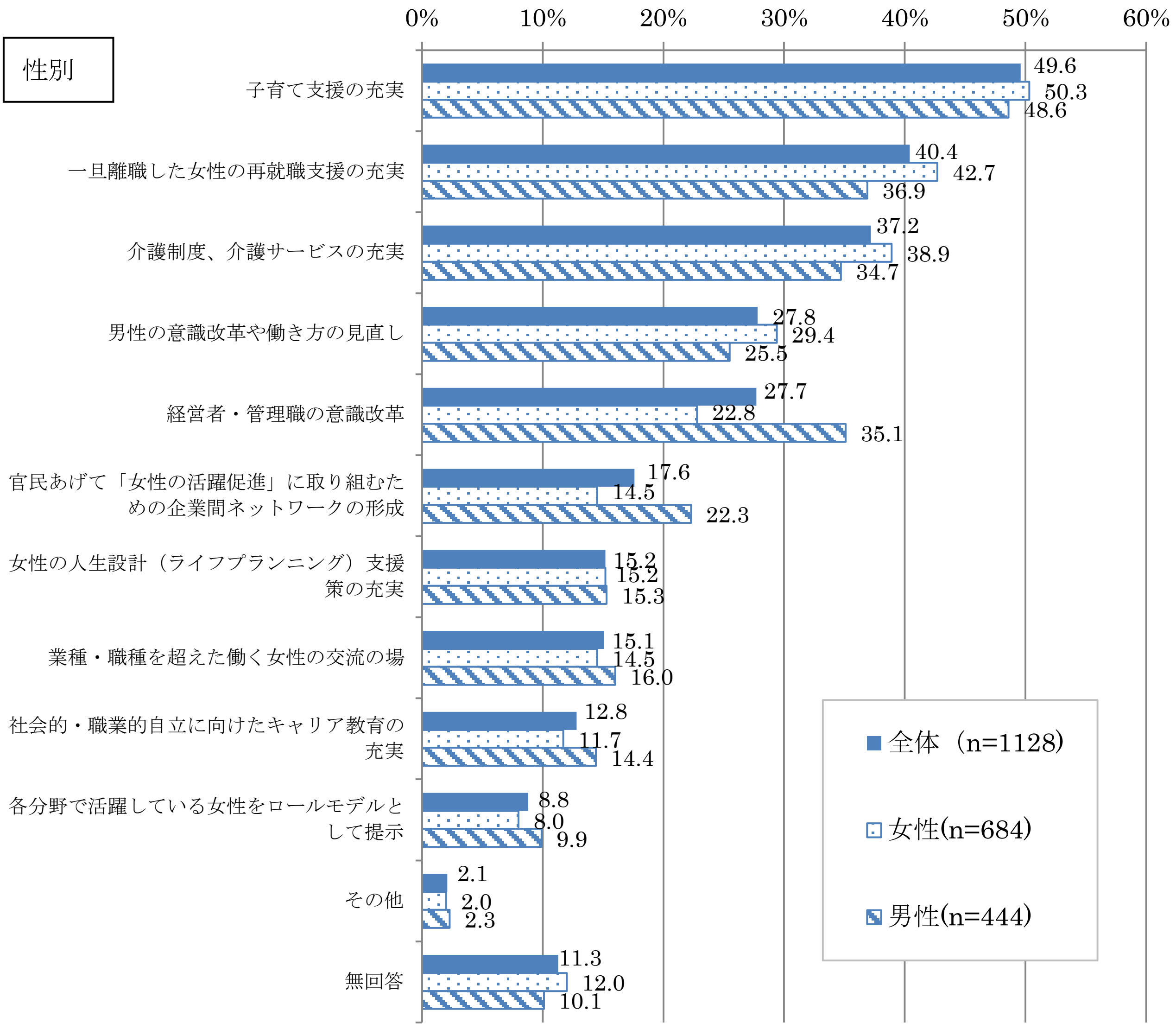
年代別　年代別でみると、「企業経営者や職場の理解」、「夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」の２項目は、年代が若くなるほど割合が高くなり、20 代が最も高くなっている。「就職情報や起業に関する情報などの相談機関の充実」は 60 代が他の年代と比べて若干高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」、「育児や介護のための施設やサービスの充実」では、30 代が他の年代より高い割合となっている。

順位表（性別年代別）

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女　性</th><th colspan="6">男　性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70 代以上</th></tr>
<tr><td>1
位</td><td>夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(65.5%)
労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(65.5%)</td><td>労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(65.0%)
育児や介護のための施設やサービスの充実
(65.0%)</td><td colspan="2">労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(54.9%)　(52.5%)</td><td>育児や介護のための施設やサービスの充実
(50.3%)</td><td>無回答
(35.8)</td><td>夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(51.2%)</td><td colspan="2">労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(65.0%)　(58.1%)</td><td colspan="2">育児や介護のための施設やサービスの充実
(48.6%)　(53.2%)</td><td>技能･技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
(38.0%)</td></tr>
<tr><td>2
位</td><td>育児や介護のための施設やサービスの充実
(63.6%)</td><td colspan="3">夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(53.8%)　(50.7%)　(48.5%)</td><td>労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(44.9%)</td><td>育児や介護のための施設やサービスの充実
(31.3%)</td><td>企業経営者や職場の理解
(48.8%)</td><td>育児や介護のための施設やサービスの充実
(62.5%)</td><td>夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(52.7%)</td><td>労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(40.3%)
夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(40.3%)
企業経営者や職場の理解(40.3%)</td><td colspan="2">育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
(46.8%)　(36.1%)</td></tr>
<tr><td>3
位</td><td>育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
(36.4%)
企業経営者や職場の理解
(36.4%)</td><td>育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
(40.0%)</td><td colspan="2">育児や介護のための施設やサービスの充実
(50.0%)　(46.5%)</td><td>就職情報や企業に関する情報などの相談機関の充実
(44.2%)</td><td>育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
(28.4%)</td><td>労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
(46.3%)</td><td>夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(57.5%)</td><td>育児や介護のための施設やサービスの充実
(47.3%)</td><td>育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
(37.5%)</td><td>夫やパートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
(44.0%)</td><td>就職情報や企業に関する情報などの相談機関の充実
(35.2%)</td></tr>
</table>

問２４．大阪市では、すべての女性がいきいきと自分らしく活躍できるまちをめざして取組を進めています。
大阪市として、今後、どのような取組をすると効果的だと思いますか？ 【MA3】

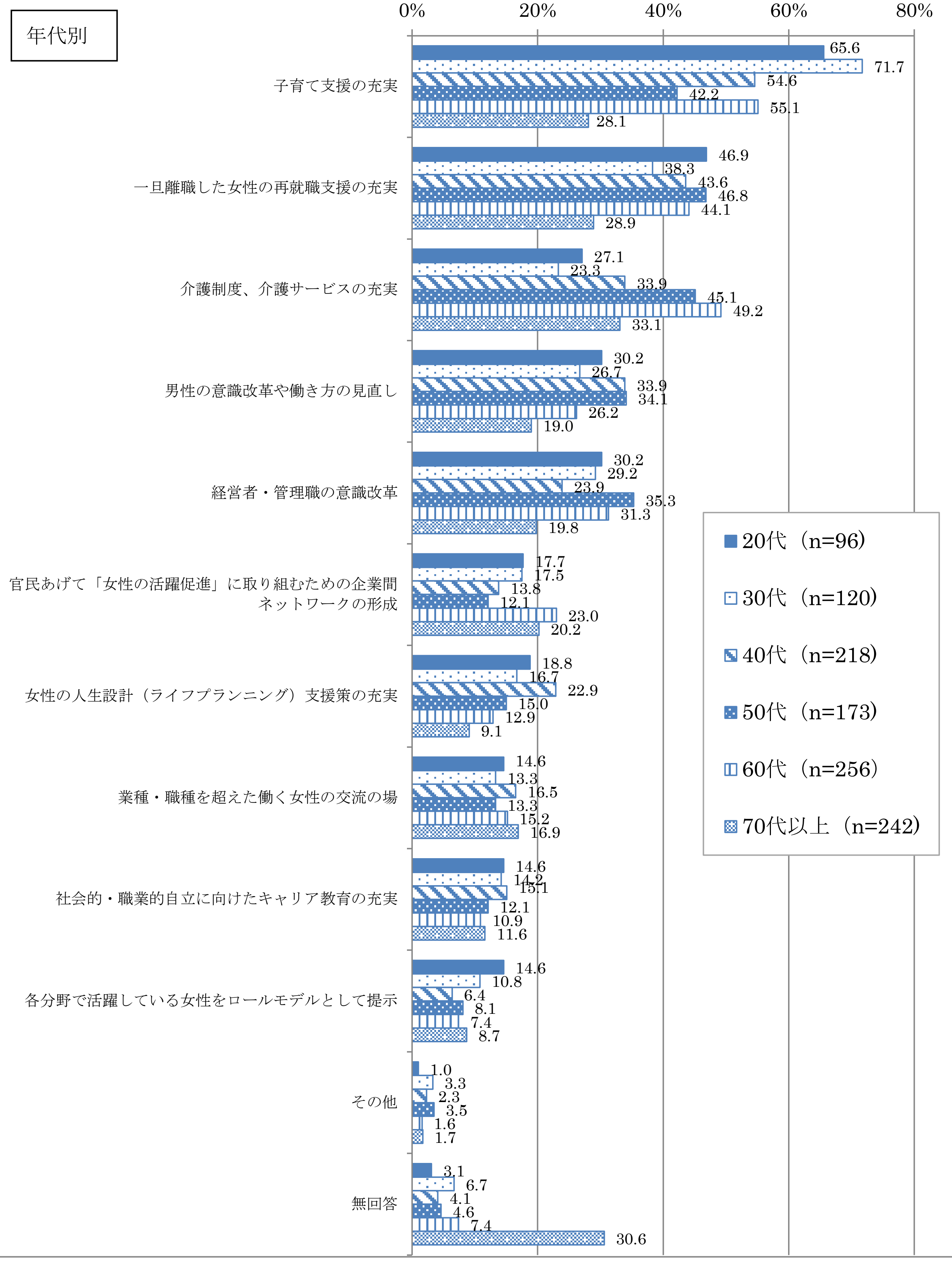
性別



全体　すべての女性がいきいきと自分らしく活躍できるまちをめざすために効果的な取組は、「子育て支援の充実」（49.6%）が最も高く、「一旦離職した女性の再就職支援の充実」（40.4%）、「介護制度、介護サービスの充実」（37.2%）、「男性の意識改革や働き方の見直し」（27.8%）、「経営者・管理職の意識改革」（27.7%）と続いている。

性別　性別でみると、男女ともに上位項目も割合のおおきな差はみられない。男性が女性より高い割合の項目は、「経営者・管理職の意識改革」（12.3 ポイント差）、「官民あげて『女性の活躍促進』に取り組むための企業間ネットワークの形成」（7.8 ポイント差）で、女性が男性より割合の高い項目は、「一旦離職した女性の再就職支援の充実」（5.8 ポイント差）、「介護制度、介護サービスの充実」（4.2 ポイント差）である。

問２４．大阪市では、すべての女性がいきいきと自分らしく活躍できるまちをめざして取組を進めています。
大阪市として、今後、どのような取組をすると効果的だと思いますか？　【MA3】



年代別　年代別でみると、「子育て支援の充実」は 20 代と 30 代が 6 割を超えており、「介護制度、介護サービスの充実」は 50 代と 60 代が他の年代よりも高い割合となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、50 代女性と 70 代以上女性、50 代男性を除く性別年代では「子育て支援の充実」が 1 位となっており、特に、20 代女性、30 代女性、30 代男性で 7 割を超えている。「子育て支援の充実」と「一旦離職した女性の再就職支援の充実」は、順位や割合はことなるが、すべての性別年代において上位項目に含まれている。

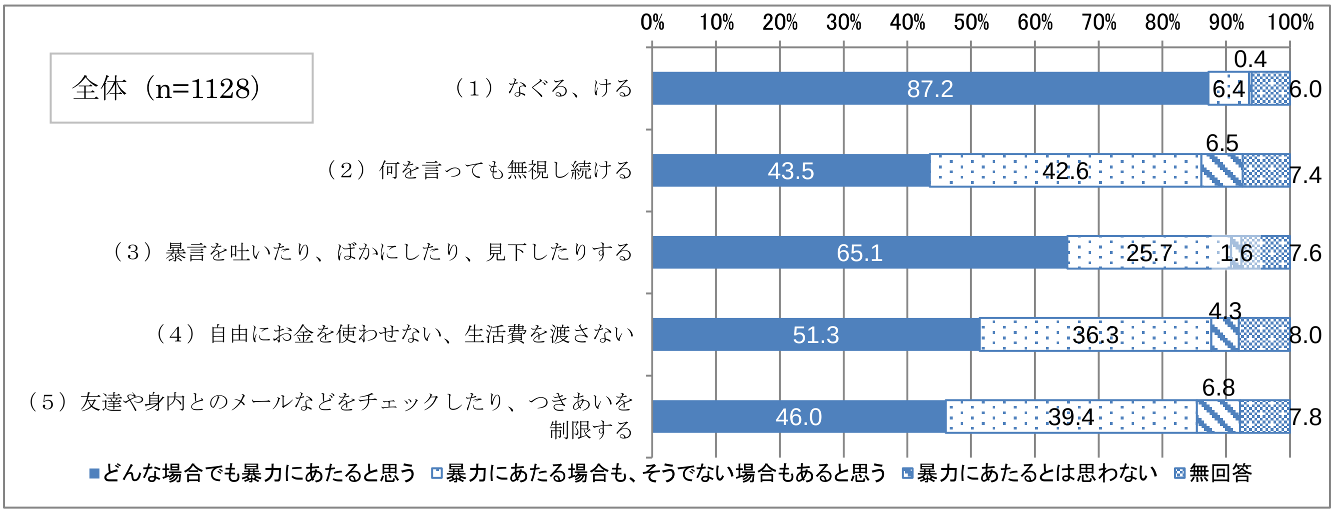
【順位表】　性別年代別

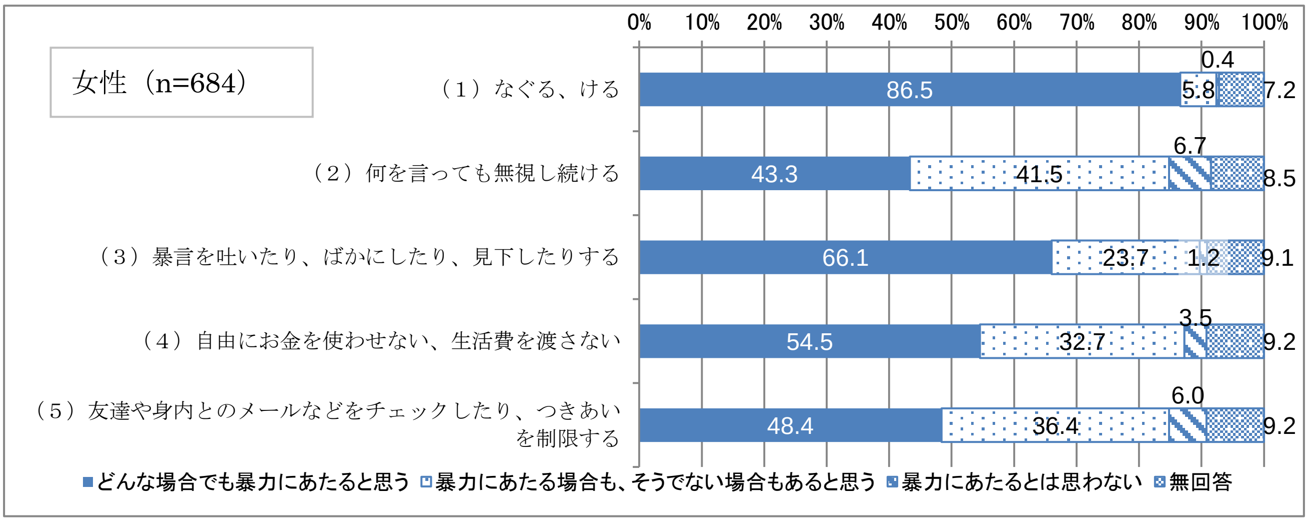
<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70代以上</th><th>20 代</th><th>30 代</th><th>40 代</th><th>50 代</th><th>60 代</th><th>70代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="3">子育て支援の充実
(76.4%)　(70.0%)　(57.6%)</td><td>一旦離職した女性の再就職支援の充実
(51.5%)</td><td>子育て支援の充実
(52.4%)</td><td>無回答
(38.1%)</td><td colspan="3">子育て支援の充実
(51.2%)　(75.0%)　(48.6%)</td><td>介護制度、介護サービスの充実
(41.7%)</td><td colspan="2">子育て支援の充実
(58.7%)　(35.2%)</td></tr>
<tr><td>2位</td><td colspan="3">一旦離職した女性の再就職支援の充実
(52.7%)　(42.5%)　(47.9%)</td><td colspan="3">介護制度、介護サービスの充実
(47.5%)　(49.7%)　(32.8%)</td><td colspan="2">経営者･管理職の意識改革
(46.3%)　(40.0%)</td><td colspan="2">一旦離職した女性の再就職支援の充実
(35.1%)　(40.3%)</td><td colspan="2">介護制度、介護サービスの充実
(48.6%)
(33.3%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td>男性の意識改革や働き方の見直し
(32.7%)</td><td colspan="2">介護制度、介護サービスの充実
(26.3%)　(41.0%)</td><td>子育て支援の充実
(45.5%)</td><td colspan="2">一旦離職した女性の再就職支援の充実
(45.6%)　(26.1%)</td><td>一旦離職した女性の再就職支援の充実
(39.0%)</td><td>一旦離職した女性の再就職支援の充実
(30.0%)
男性の意識改革や働き方の見直し
(30.0%)</td><td>男性の意識改革や働き方の見直し
(31.1%)</td><td>子育て支援の充実
(37.5%)</td><td colspan="2">一旦離職した女性の再就職支援の充実
(42.2%)　(32.4%)</td></tr>
</table>

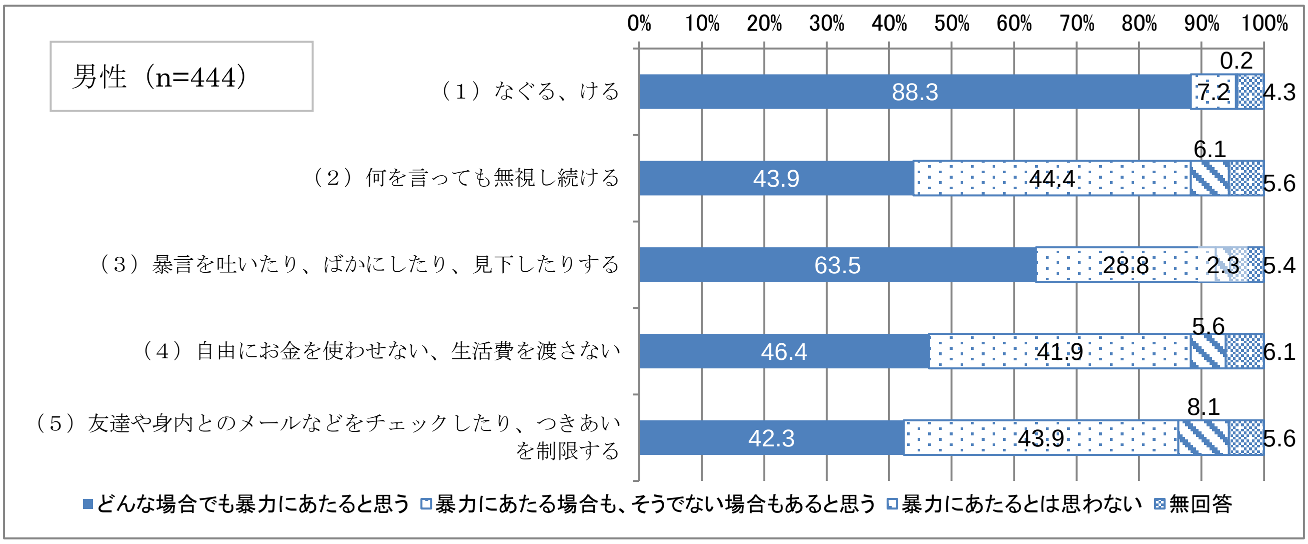
５．男女間における暴力について

問２５．あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか？

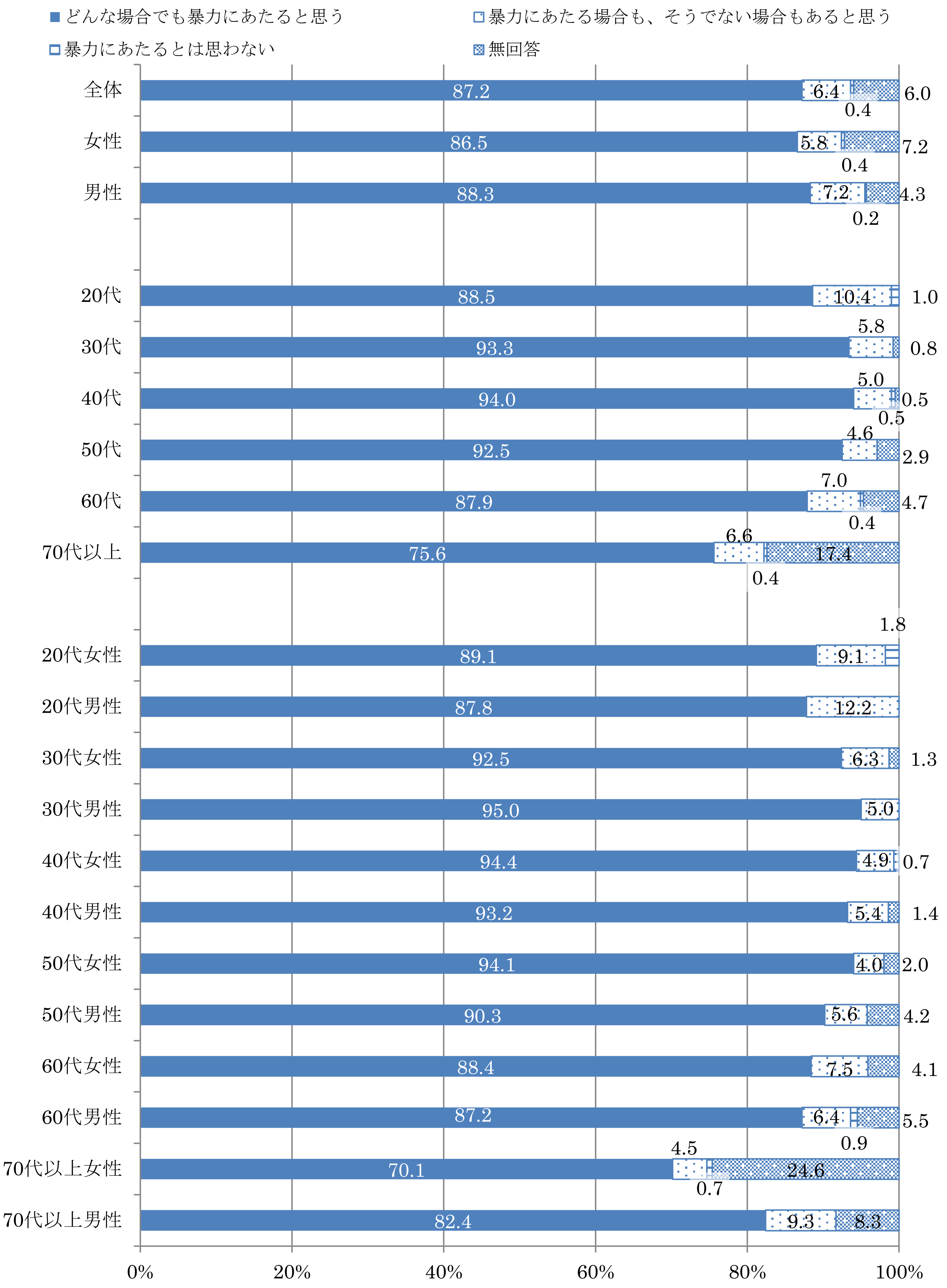
【SA】







（１）なぐる、ける



■どんな場合でも暴力にあたると思う
□暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
□暴力にあたるとは思わない
▩無回答
全体 87.2 6.4 0.4 6.0
女性 86.5 5.8 0.4 7.2
男性 88.3 7.2 0.2 4.3
20代 88.5 10.4 1.0
30代 93.3 5.8 0.8
40代 94.0 5.0 0.5 0.5
50代 92.5 4.6 2.9
60代 87.9 7.0 0.4 4.7
70代以上 75.6 6.6 0.4 17.4
20代女性 89.1 9.1 1.8
20代男性 87.8 12.2
30代女性 92.5 6.3 1.3
30代男性 95.0 5.0
40代女性 94.4 4.9 0.7
40代男性 93.2 5.4 1.4
50代女性 94.1 4.0 2.0
50代男性 90.3 5.6 4.2
60代女性 88.4 7.5 4.1
60代男性 87.2 6.4 0.9 5.5
70代以上女性 70.1 4.5 0.7 24.6
70代以上男性 82.4 9.3 8.3
0% 20% 40% 60% 80% 100%

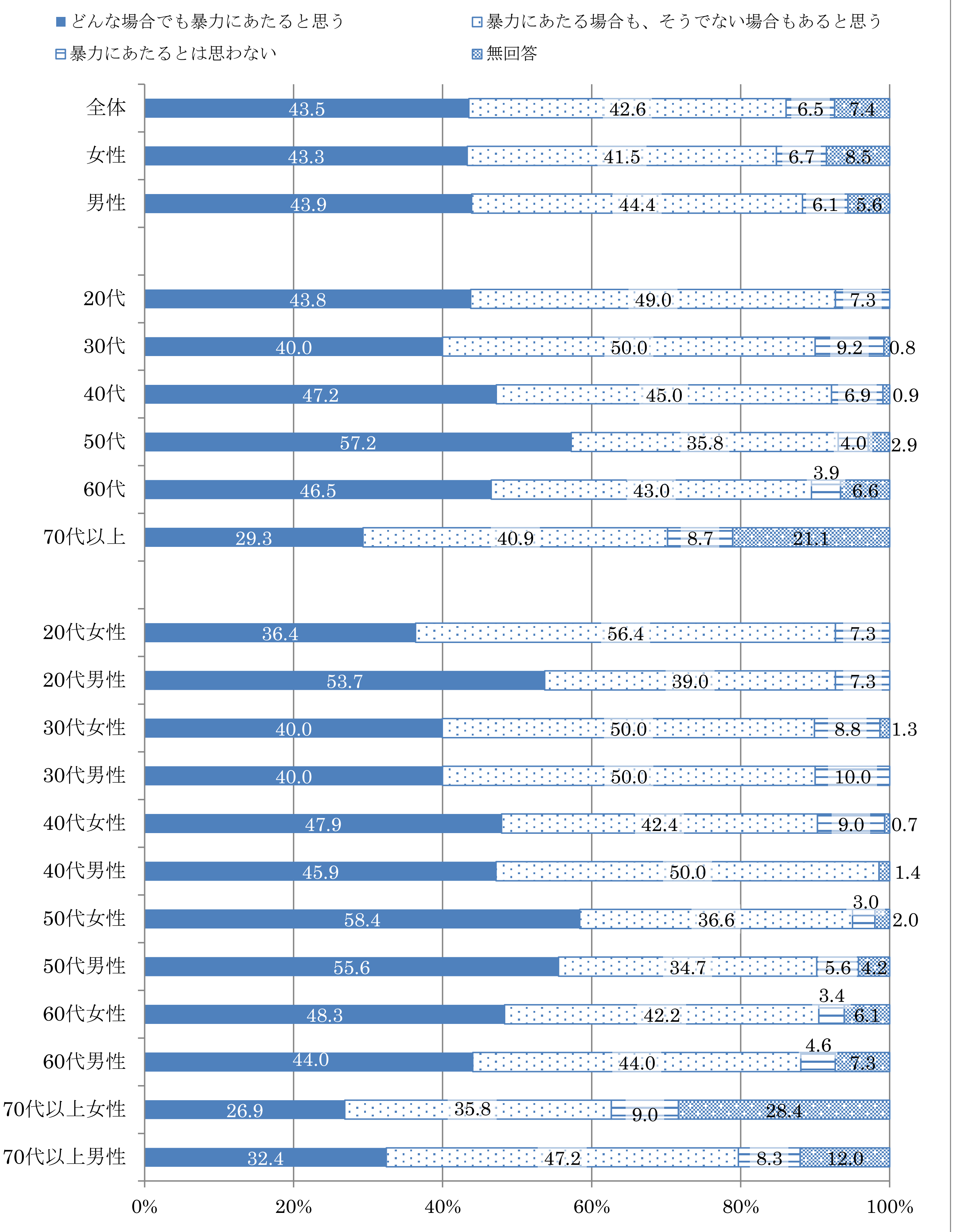
全体　なぐる、けることが配偶者・パートナーの間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 87.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 6.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.4%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性 86.5%、男性 88.3%）の割合は８割を超えている。

年代別　年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、30 代、40 代、50 代で９割を超える高い割合となっており、70 代以上で 75.6%と、他の年代と比べると少し低い割合となっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は、20 代で 10.4%と、他の年代よりも少し高い割合となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、30 代男性の 95.0%が最も高く、70 代以上女性の 70.1%が最も低くなっている。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は、20 代男性の 12.2%が最も高く、50 代女性の 4.0%が最も低い。

（２）何を言っても無視し続ける



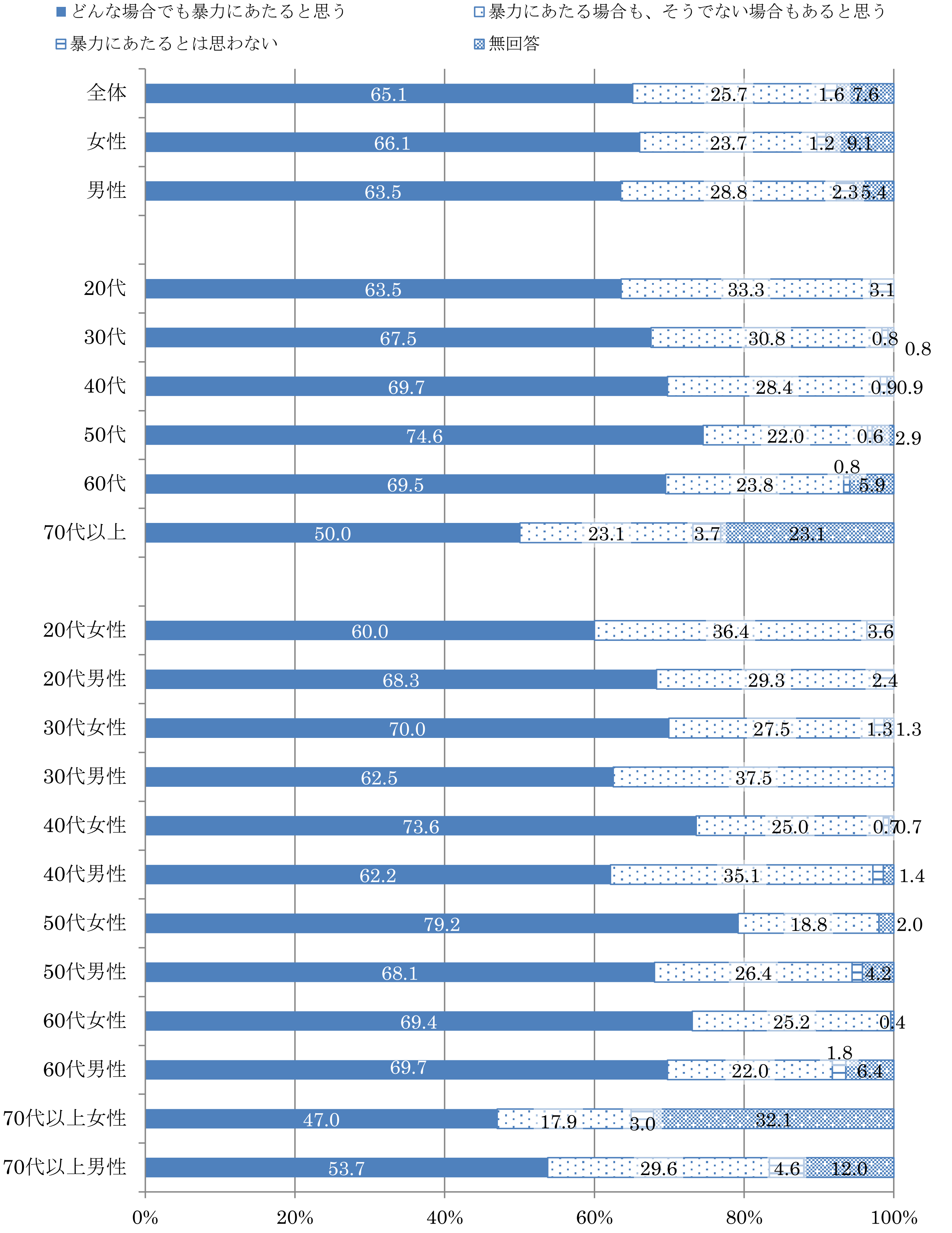
全体　何を言っても無視し続けることが配偶者・パートナーの間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 43.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 42.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.5%となっている。

性別　性別でみると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」(43.3%) が最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(41.5%) が続いている。男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(44.4%) が最も高く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(43.9%) と続いている。

年代別　年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、50 代で 57.2%と５割を超えている一方で、70 代以上では 29.3%と低い割合となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、50 代女性の 58.4%が最も高く、50 代女性、20 代男性、50 代男性で５割を超えており、70 代以上女性が 26.9%と最も低くなっている。

（３）暴言を吐いたり、ばかにしたり、見下したりする



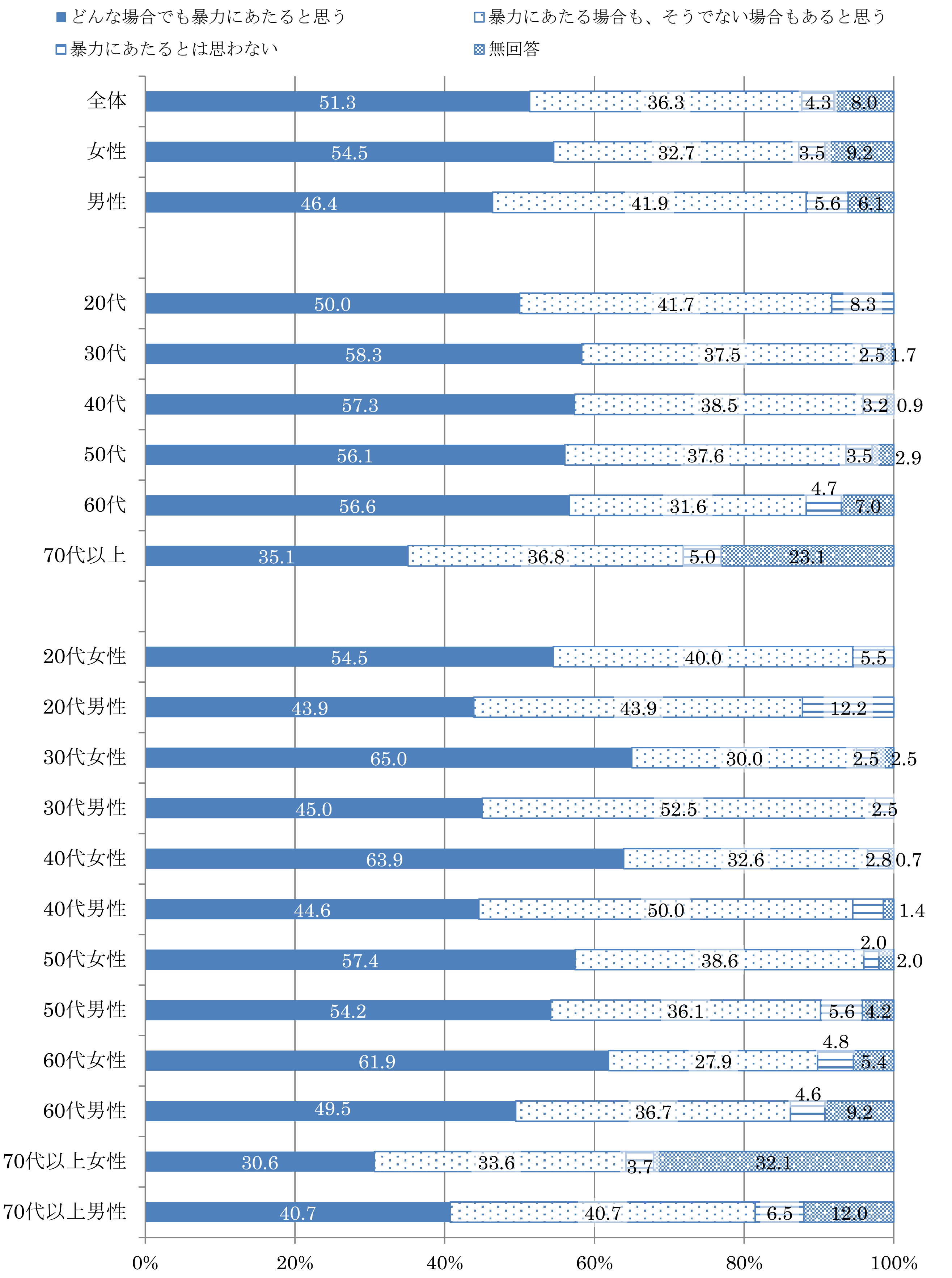
全体　暴言を吐いたり、ばかにしたり、見下したりすることが配偶者・パートナーの間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が65.1％、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が25.7％、「暴力にあたるとは思わない」が1.6％となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性66.1、男性63.5％）が最も高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、特に50代で74.6％と7割を超えている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、特に、30代女性、40代女性、50代女性が7割を超えている。

（４）自由にお金を使わせない、生活費を渡さない



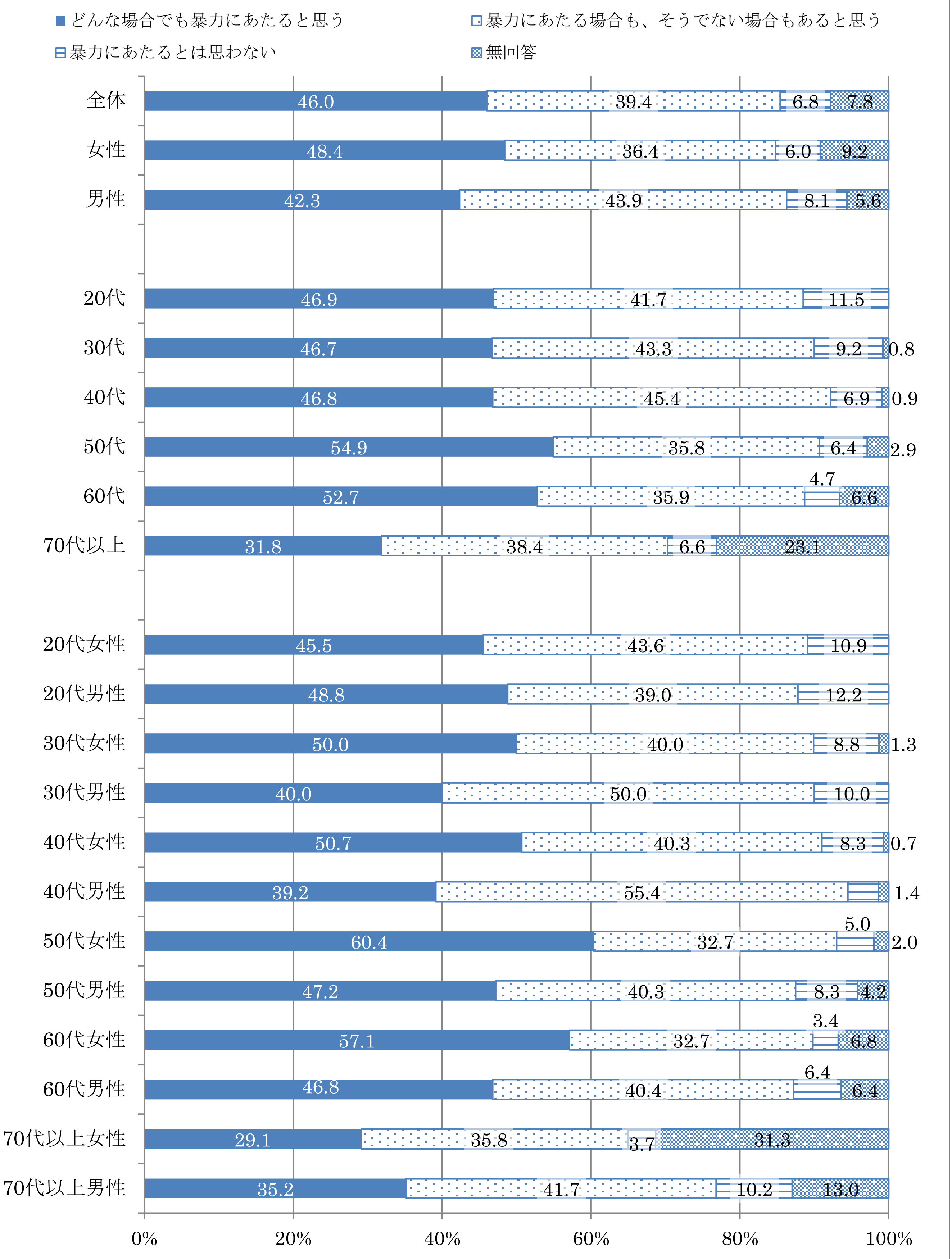
全体　自由にお金を使わせない、生活費を渡さないことが配偶者・パートナーの間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」51.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 36.3%、「暴力にあたるとは思わない」が 4.3%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性 54.5%、男性 46.4%）が最も高くなっている。

年代別　年代別でみると、70 代以上を除くすべての年代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」（20 代 50.0%、30 代 58.3%、40 代 57.3%、50 代 56.1%、60 代 56.6%）が最も高く、70 代以上では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（36.8%）が最も高くなっている。

性別年代別　性別年代別でみると、20 代女性、30 代女性、40 代女性、50 代女性、60 代女性、50 代男性、60 代男性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」、70 代以上女性、30 代男性、40 代男性では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が最も高くなっている。20 代と 70 代以上の男性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が同じ割合となっている。

（５）友達や身内とのメールなどをチェックしたり、付き合いを制限する



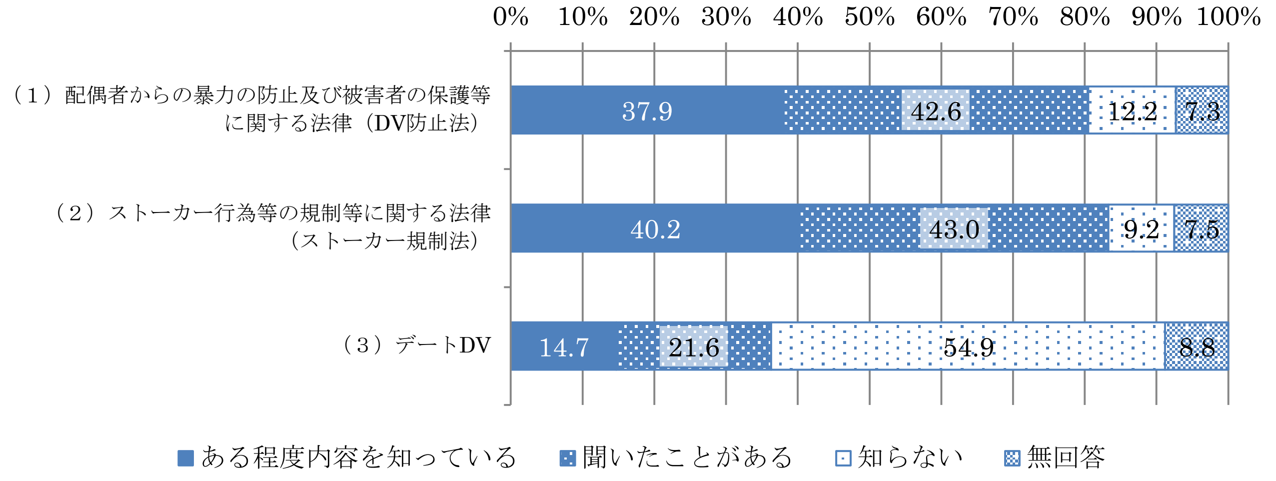
全体　友達や身内とのメールなどをチェックしたり、つきあいを制限することが配偶者・パートナーの間で行われた場合に、「どんな場合でも暴力にあたると思う」46.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 39.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.8%となっている。

性別　性別でみると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」(48.4%) が最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(36.4%) が続いている。男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(43.9%) が最も高く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(42.3%) と続いている。

年代別　年代別でみると、70 代以上を除くすべての年代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」(20 代 46.9%、30 代 46.7%、40 代 46.8%、50 代 54.9%、60 代 52.7%) が最も高く、70 代以上では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(38.4%) が最も高くなっている。

性別年代別　性別年代別でみると、20 代女性、30 代女性、40 代女性、50 代女性、60 代女性、20 代男性、50 代男性、60 代男性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっている。70 代以上女性、30 代男性、40 代男性、70 代以上男性では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が最も高くなっている。

問２６．次にあげる項目のうちで、あなたがご存じのものはありますか？　【SA】



「認知している」割合（「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」）は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）」は 80.5%、「ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」は 83.2%となっている。「デート DV」では、「認知している」割合が 36.3%、「知らない」とする割合が 54.9%となっている。

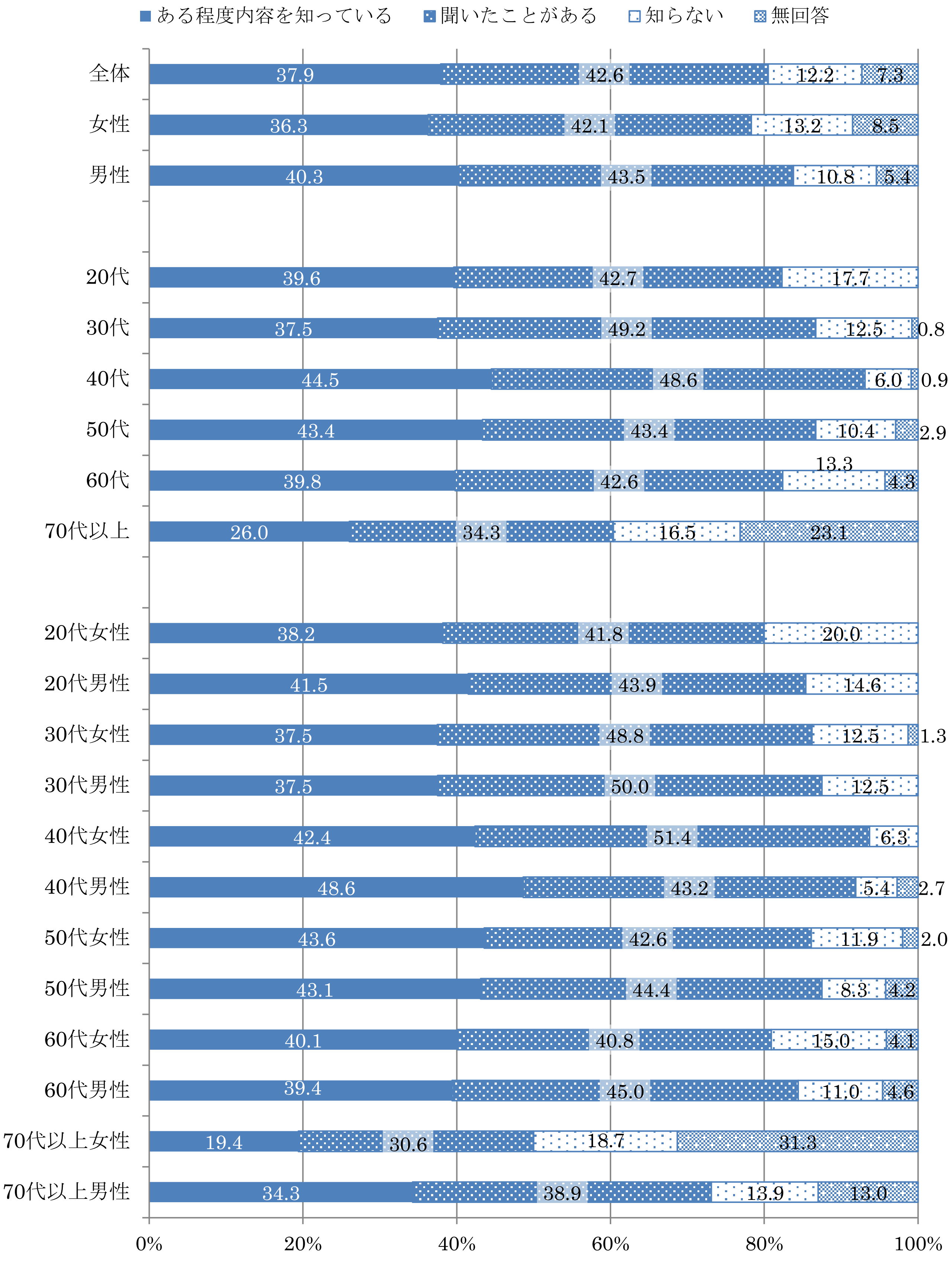
【経年比較】

経年比較をすると、「認知している」割合は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）」、「ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」、「デート DV」の３項目すべてにおいて、「認知している」割合が高くなっており、増加傾向がみられる。

項目		「認知している」割合
(1)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）	H27	80.5%
	H25	77.5%
	H20	77.0%
	H16	72.8%
(2)ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）	H27	83.2%
	H25	82.6%
	H20	−
	H16	−
(3)デート DV	H27	36.3%
	H25	32.0%
	H20	22.8%
	H16	−

※「認知している」＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（１）配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）



全体　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法)」について、「聞いたことがある」（42.6%）が最も多く、「ある程度内容を知っている」（37.9%）、「知らない」（12.2%）と続いている。

性別　男女ともに、「聞いたことがある」（女性 42.1%、男性 43.5%）が最も多く、「ある程度内容を知っている」（女性 36.3%、男性 40.3%）、「知らない」（女性 13.2%、男性 10.8%）と続いている。

「認知している」割合は、男性（83.8%）が女性（78.4%）より 5.4 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、50 代を除くすべての年代では、「聞いたことがある」が最も高く、50 代では「ある程度内容を知っている」と「聞いたことがある」が同じ割合となっている。

「認知している」割合は、40 代が 9 割を超えて、最も高い割合となっており、70 代以上が 6 割となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、50 代女性と 40 代男性は「ある程度内容を知っている」が最も高く、その他の性別年代は「聞いたことがある」が最も高い割合となっている。

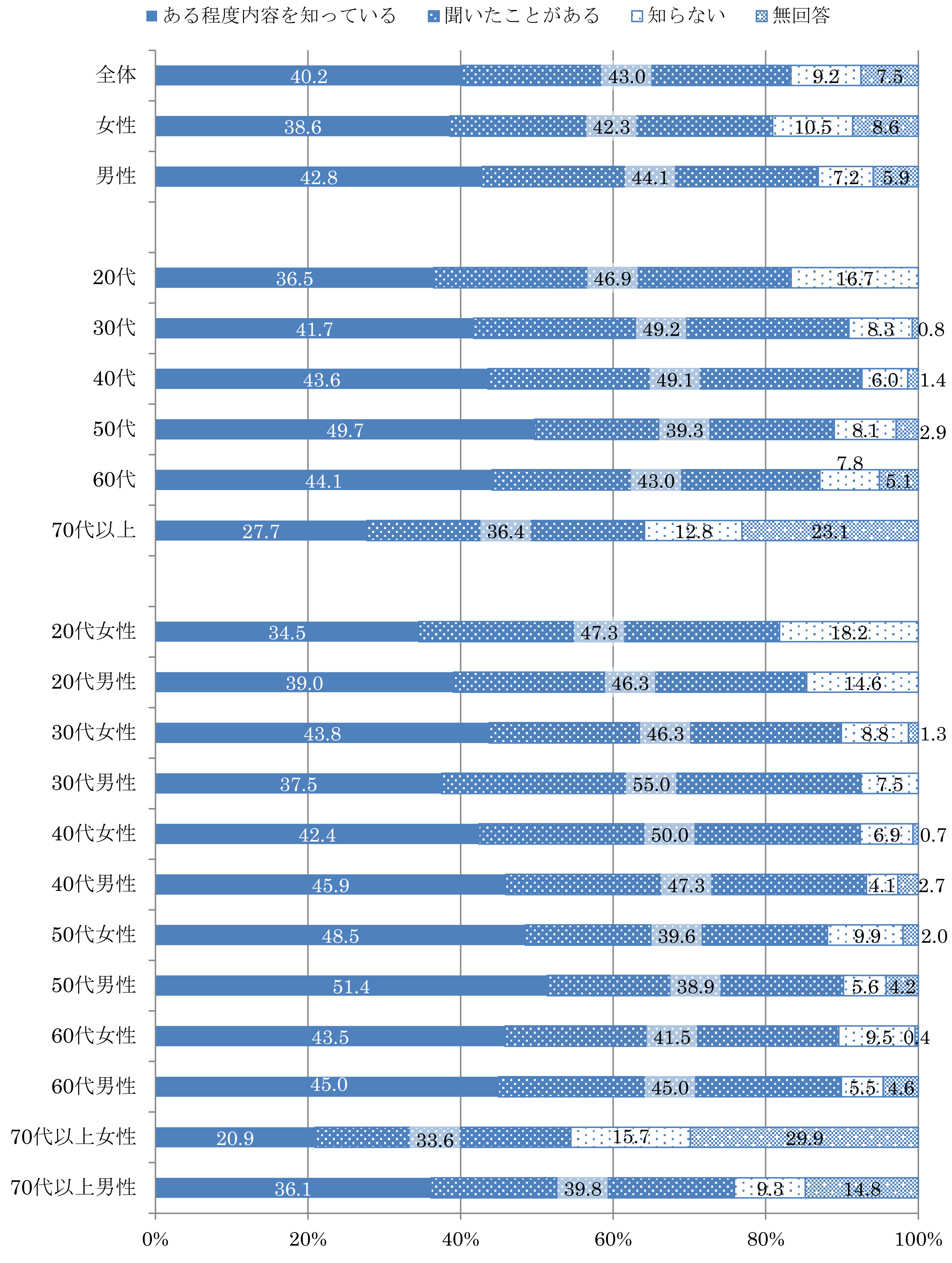
「認知している」割合は、40 代女性が 93.8%と最も高く、40 代男性とともに 9 割を超えている。70 代以上女性が 50.0%と最も低い割合となっている。

	「認知している」割合
全体	80.5%
女性	78.4%
男性	83.8%
20 代	82.3%
30 代	86.7%
40 代	93.1%
50 代	86.8%
60 代	82.4%
70 代以上	60.3%

	「認知している」割合
20 代女性	80.0%
20 代男性	85.4%
30 代女性	86.3%
30 代男性	87.5%
40 代女性	93.8%
40 代男性	91.8%
50 代女性	86.2%
50 代男性	87.5%
60 代女性	80.9%
60 代男性	84.4%
70 代以上女性	50.0%
70 代以上男性	73.2%

※「認知している」＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（２）ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）



全体 「ストーカー行為等の規制等に関する法律(ストーカー規制法)」について、「聞いたことがある」(43.0%)が最も多く、「ある程度内容を知っている」(40.2%)、「知らない」(9.2%)と続いている。

性別 男女ともに、「聞いたことがある」(女性 42.3%、男性 44.1%)が最も多く、「ある程度内容を知っている」(女性 38.6%、男性 42.8%)、「知らない」(女性 10.5%、男性 7.2%)と続いている。

「認知している」割合は、男性(86.9%)が女性(80.9%)より 6.0 ポイント高くなっている。

年代別 年代別でみると、20 代、30 代、40 代、70 代以上では、「聞いたことがある」が最も高く、50 代と 60 代では「ある程度内容を知っている」が最も高くなっている。

「認知している」割合は、40 代で 92.7%と最も高く、30 代と 40 代で 9 割を超えている。70 代以上は 6 割にとどまっている。

性別年代別 性別年代別でみると、50 代女性、60 代女性、50 代男性では「ある程度内容を知っている」が最も高く、その他の性別年代では「聞いたことがある」が最も高い割合となっている。

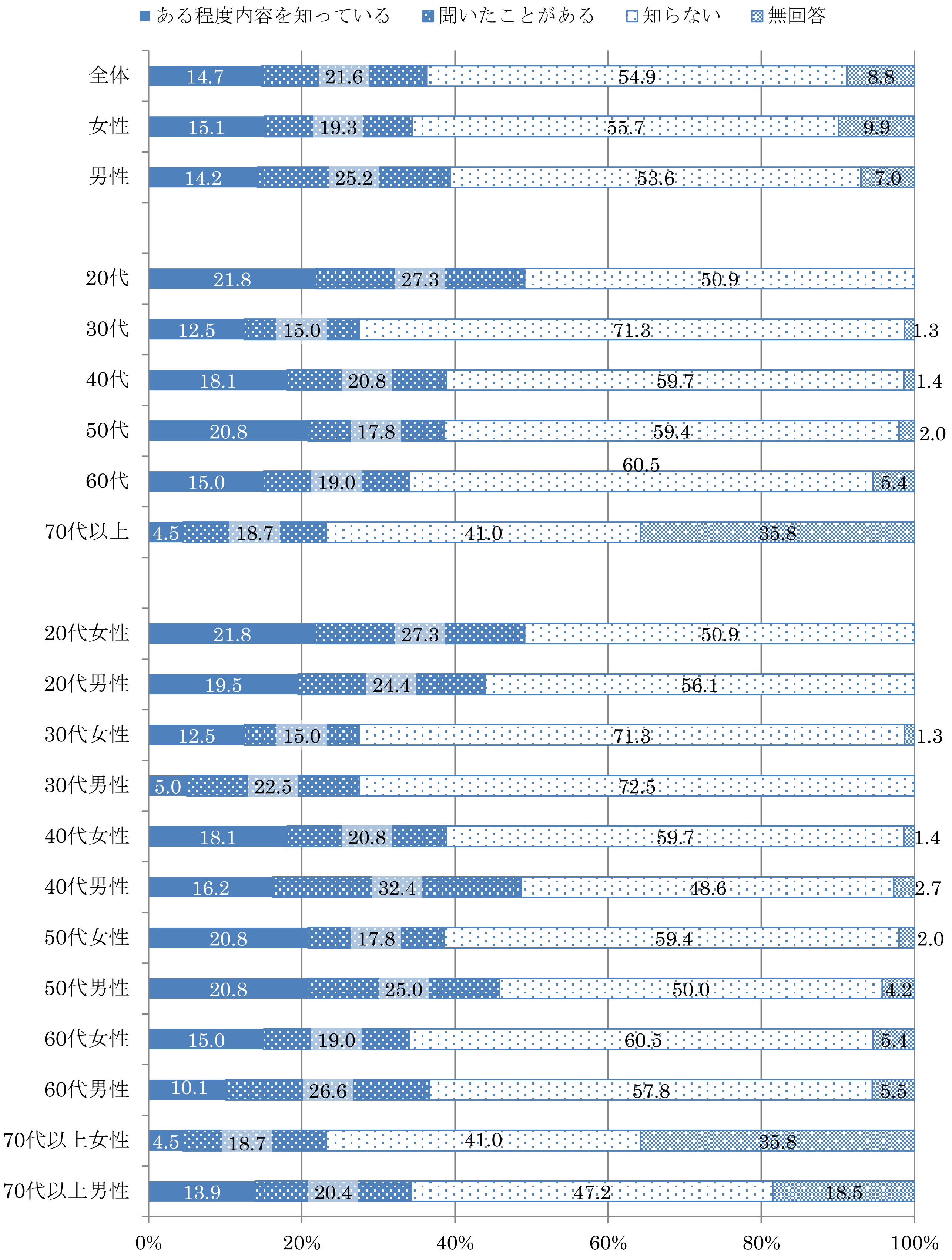
「認知している」割合は、40 代男性が 93.2%と最も高く、30 代男女、40 代男女、50 代男性、60 代男性で 9 割を超えている。70 代以上女性が 54.5%と最も低い割合となっている。

	「認知している」割合
全体	83.2%
女性	80.9%
男性	86.9%
20 代	83.4%
30 代	90.9%
40 代	92.7%
50 代	89.0%
60 代	87.1%
70 代以上	64.1%

	「認知している」割合
20 代女性	81.8%
20 代男性	85.3%
30 代女性	90.1%
30 代男性	92.5%
40 代女性	92.4%
40 代男性	93.2%
50 代女性	88.1%
50 代男性	90.3%
60 代女性	85.0%
60 代男性	90.0%
70 代以上女性	54.5%
70 代以上男性	75.9%

※「認知している」=「ある程度内容を知っている」+「聞いたことがある」

（３）デート DV


■ある程度内容を知っている
■聞いたことがある
□知らない
■無回答
全体 14.7 21.6 54.9 8.8
女性 15.1 19.3 55.7 9.9
男性 14.2 25.2 53.6 7.0
20代 21.8 27.3 50.9
30代 12.5 15.0 71.3 1.3
40代 18.1 20.8 59.7 1.4
50代 20.8 17.8 59.4 2.0
60代 15.0 19.0 60.5 5.4
70代以上 4.5 18.7 41.0 35.8
20代女性 21.8 27.3 50.9
20代男性 19.5 24.4 56.1
30代女性 12.5 15.0 71.3 1.3
30代男性 5.0 22.5 72.5
40代女性 18.1 20.8 59.7 1.4
40代男性 16.2 32.4 48.6 2.7
50代女性 20.8 17.8 59.4 2.0
50代男性 20.8 25.0 50.0 4.2
60代女性 15.0 19.0 60.5 5.4
60代男性 10.1 26.6 57.8 5.5
70代以上女性 4.5 18.7 41.0 35.8
70代以上男性 13.9 20.4 47.2 18.5
0%
20%
40%
60%
80%
100%

全体　「デート DV」について、「知らない」（54.9%）が最も多く、「聞いたことがある」（21.6%）、「ある程度内容を知っている」（14.7%）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 55.7%、男性 53.6%）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 19.3% 男性 25.2%）、「ある程度内容を知っている」（女性 15.1%、男性 14.2%）と続いている。

「認知している」割合は、男性（39.4%）が女性（34.4%）より、5.0 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代で「知らない」の割合が最も高くなっている。

「認知している」割合は、20 代で 49.1%と最も高く、30 代と 70 代以上では 2 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代にて、「知らない」の割合が最も高くなっている。

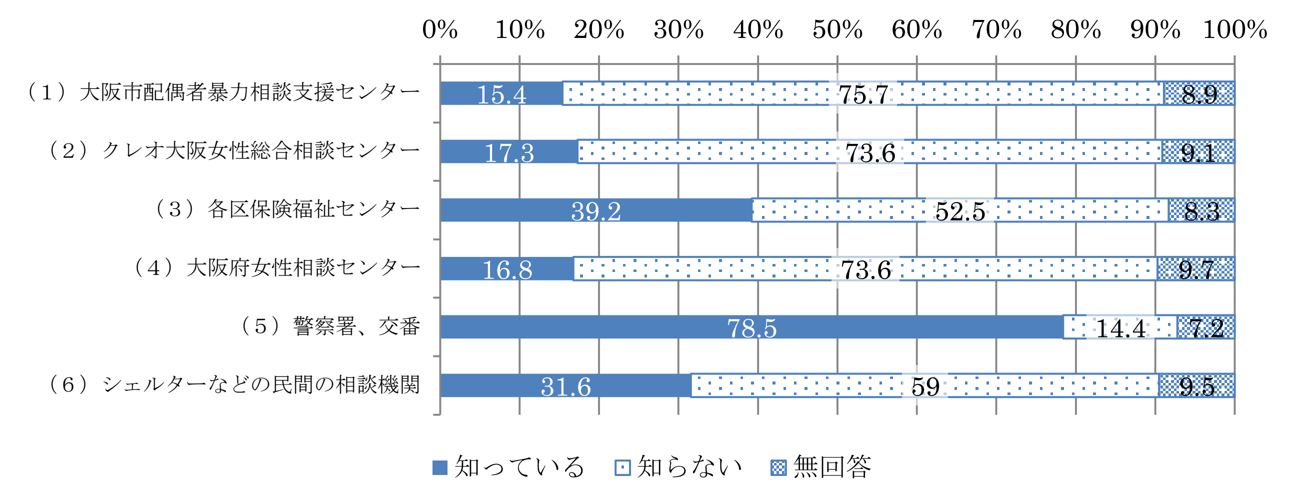
「認知している」割合は、20 代女性が 49.1%と最も高く、20 代男女、40 代男性、50 代男性で 4 割を超えている。70 代以上女性が 23.1%で最も低く、30 代男女、70 代以上女性で 3 割を下回っている。

	「認知している」割合
全体	36.3%
女性	34.4%
男性	39.4%
20 代	49.1%
30 代	27.5%
40 代	38.9%
50 代	38.6%
60 代	34.0%
70 代以上	23.2%

	「認知してい」”割合
20 代女性	49.1%
20 代男性	43.9%
30 代女性	27.5%
30 代男性	27.5%
40 代女性	38.9%
40 代男性	48.6%
50 代女性	38.6%
50 代男性	45.8%
60 代女性	34.0%
60 代男性	36.7%
70 代以上女性	23.2%
70 代以上男性	34.3%

※「認知している」＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

問２７．女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口がありますが、あなたはご存じですか？【SA】



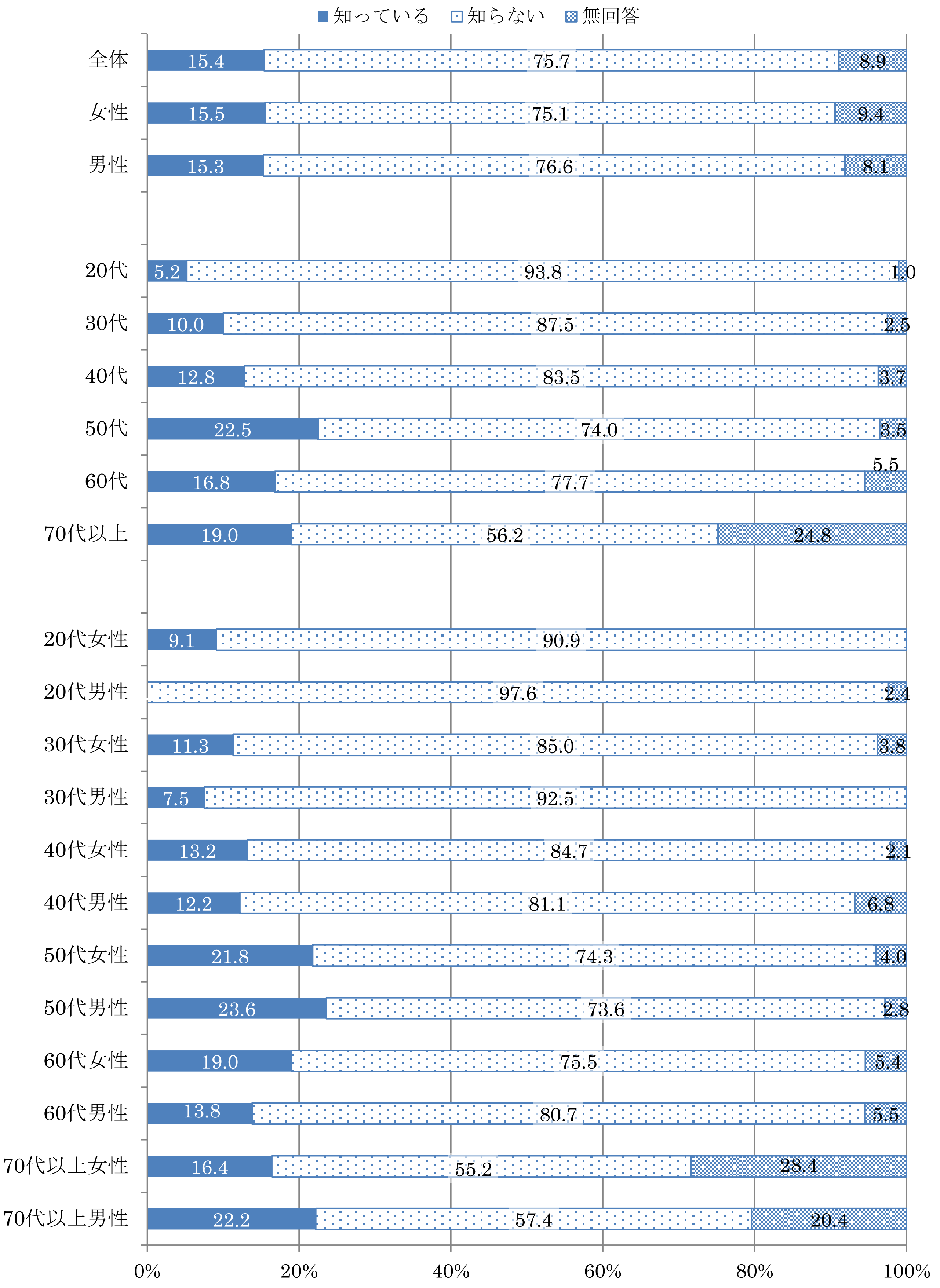
「知っている」割合は、「警察署、交番」が 78.5％と最も高く、「大阪市配偶者暴力相談支援センター」(15.4％)、「クレオ大阪女性総合相談センター」(17.3％)、「大阪府女性相談センター」(16.8％) は 2 割を下回っている。

【経年比較】

経年比較すると、「大阪府女性相談センター」を除くすべての項目では、前回までの調査よりも、「知っている」とする割合が高くなっており　増加傾向がみられる。「大阪府女性相談センター」は、平成 16 年から 20 年にかけて減少し、25 年にかけて微増したが、今回の調査では少し減少している。

項目	調査年度	「知っている」割合
(1)大阪市配偶者暴力相談支援センター	H27	15.4%
	H25	11.0%
	H20	−
	H16	−
(2)クレオ大阪女性総合相談センター	H27	17.3%
	H25	12.5%
	H20	13.5%
	H16	13.6%
(3)各区保健福祉センター	H27	39.2%
	H25	30.3%
	H20	26.5%
	H16	37.0%
(4)大阪府女性相談センター	H27	16.8%
	H25	17.6%
	H20	16.8%
	H16	25.9%
(5)警察署、交番	H27	78.5%
	H25	76.3%
	H20	72.4%
	H16	66.9%
(6)シェルターなどの民間の相談機関	H27	31.6%
	H25	23.9%
	H20	14.6%
	H16	12.2%

（１）大阪市配偶者暴力相談センター



（１）大阪市配偶者暴力相談センター

全体　大阪市配偶者暴力相談センターについて、「知らない」とする割合が 75.7%、「知っている」とする割合が 15.4%、「無回答」が 8.9%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに、「知らない」とする割合が 7 割を超えており、「知っている」とする割合よりも高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代で、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっているが、特に 20 代で 9 割を、30 代と 40 代で 8 割を超えている。年代が低くなるほど「知らない」とする割合が高くなっている。「知っている」とする割合は、50 代の（22.5%）が最も高く、その他の年代では「知っている」とする割合は 2 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代において、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっており、20 代男性が 97.6%と最も高い割合で、20 代男女、30 代男性では 9 割を超えている。

（２）クレオ大阪女性総合相談センター

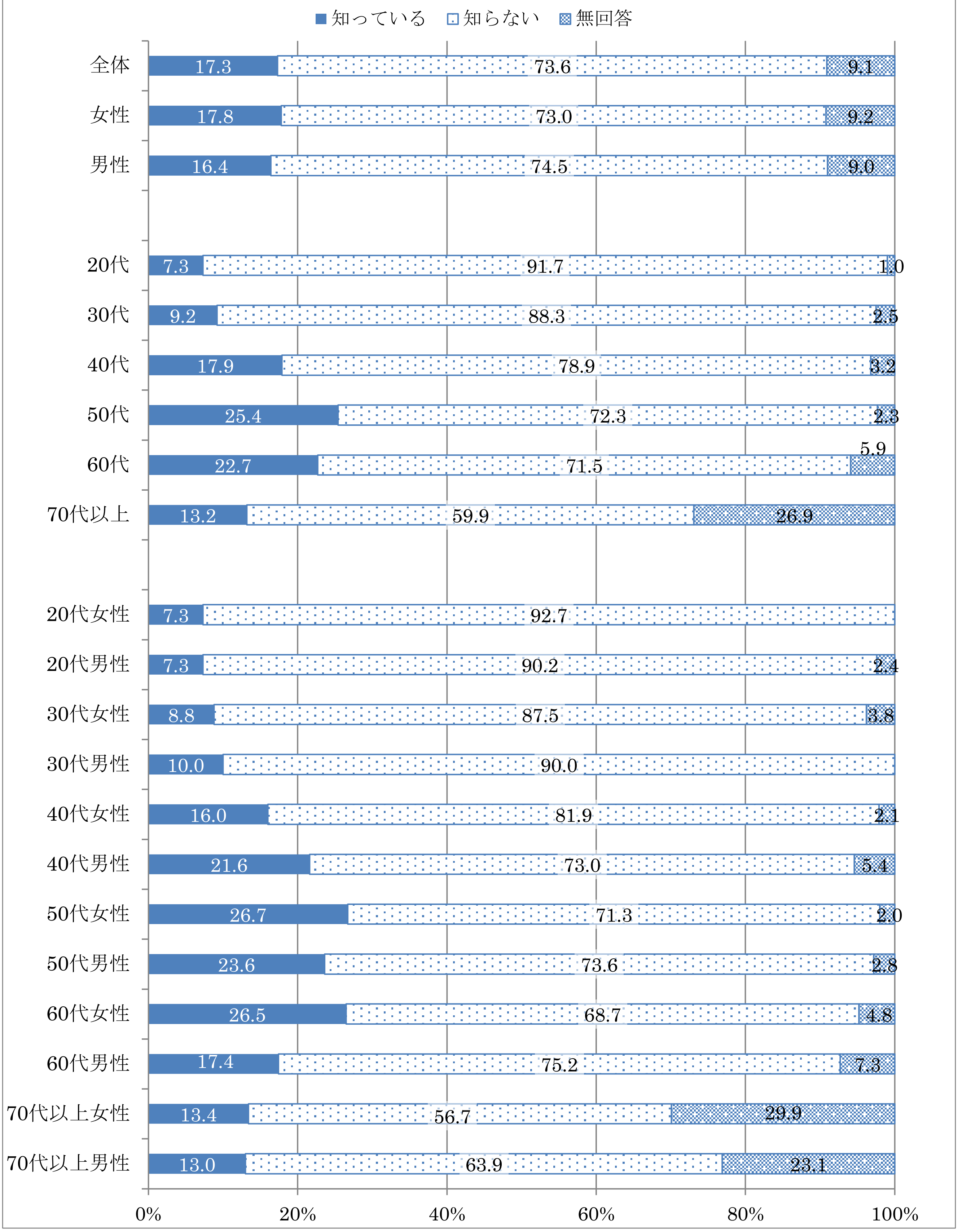
全体　クレオ大阪女性総合相談センターについて、「知らない」とする割合が 73.6%、「知っている」とする割合が 17.3%、「無回答」が 9.1%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに、「知らない」とする割合が 7 割を超えている。

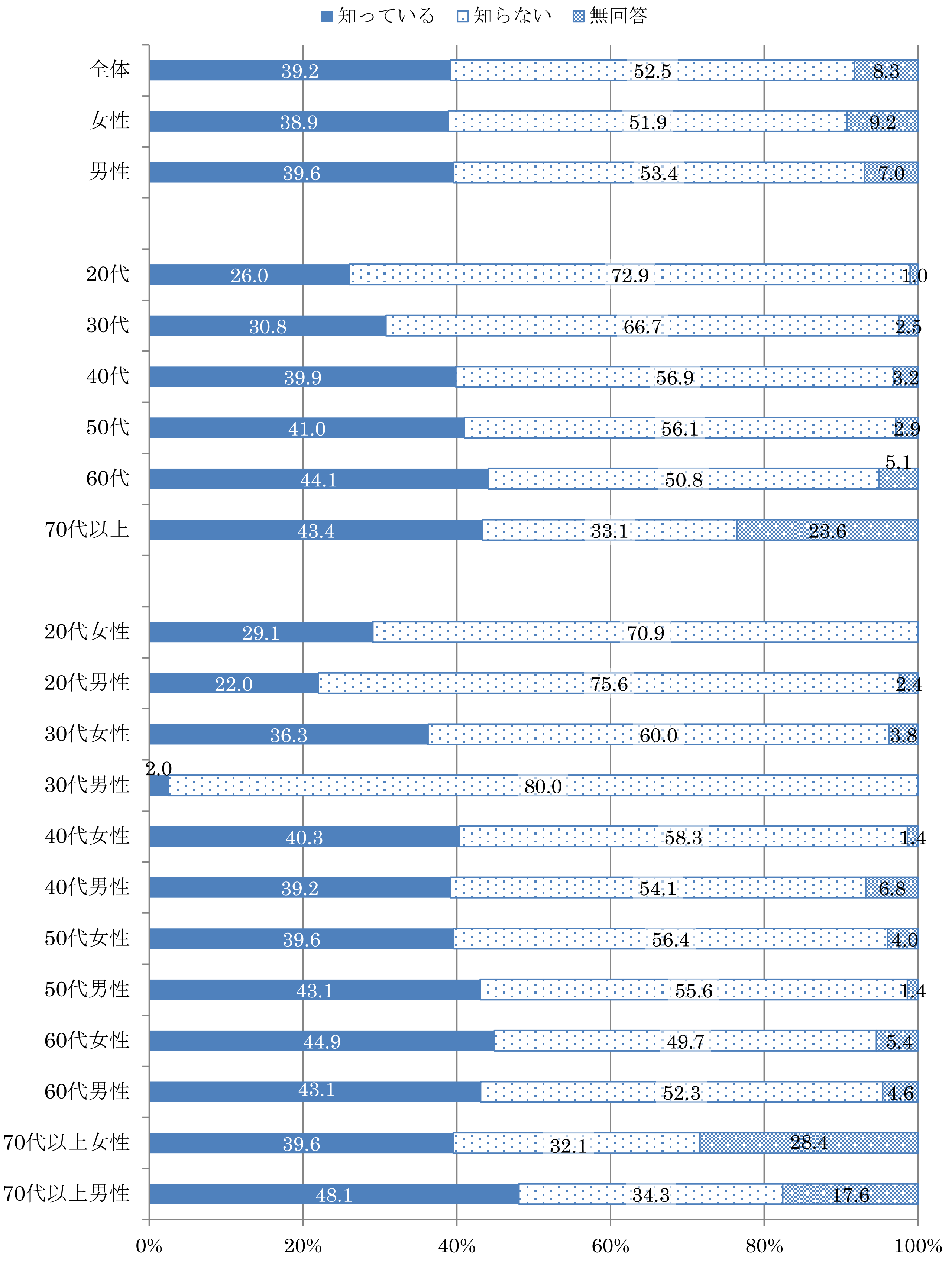
年代別　年代別でみると、すべての年代で、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなているが、特に 20 代で 9 割を、30 代で 8 割を超えている。年代が低くなるほど「知らない」とする割合が高くなっている。「知っている」とする割合は、50 代（25.4%）が最も高く、60 代（22.7%）と続いているが、その他の年代では 2 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代において、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高く、特に、20 代女性では 92.7%となっており、20 代男女、30 代男性では 9 割を超えている。

（２）クレオ大阪女性総合相談センター



（３）各区保健福祉センター



（3）各区保健福祉センター

全体　各区保健福祉センターについて、「知らない」とする割合が 52.5%、「知っている」とする割合が 39.2%、「無回答」が 8.3%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに、「知らない」とする割合が 5 割強となっている。

年代別　年代別でみると、70 代以上を除くすべての年代で、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっているが、特に 20 代で 7 割を超えている。年代が下がるほど「知らない」とする割合割合が高くなっている。70 代以上では、「知っている」とする割合が、「知らない」とする割合よりも少し高くなっている。「知っている」とする割合は、60 代が 44.1%で最も高く、年代が高くなるほど割合割合が高くなっている。

性別年代別　性別年代別でみると、70 代以上の男女を除くすべての性別年代において、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっており、30 代男性では 8 割を超えている。70 代以上の男女は、「知っている」とする割合が「知らない」とする割合よりも高く、70 代以上男性で 48.1%、70 代以上女性で 39.6%となっている。

（4）大阪府女性相談センター

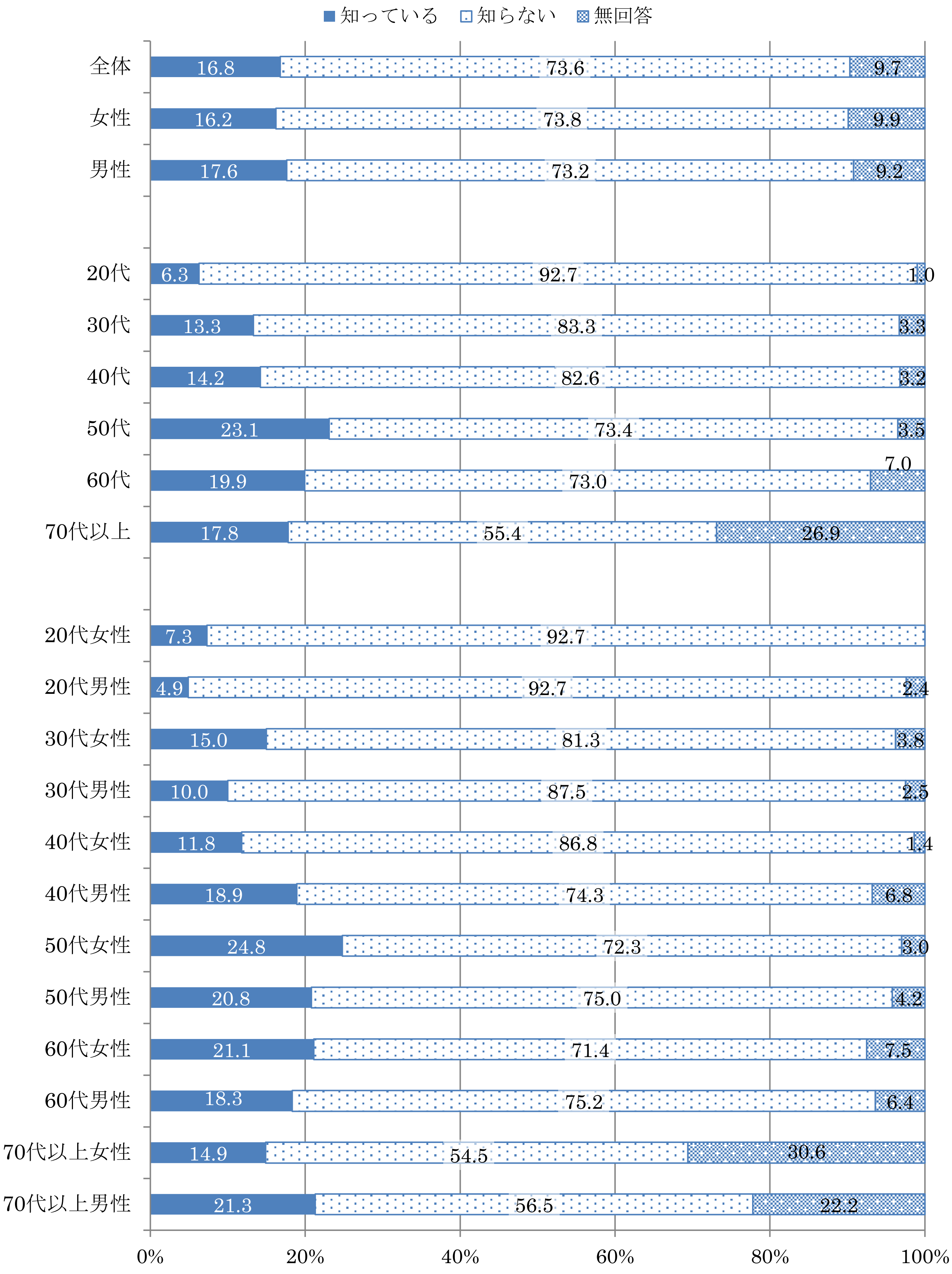
全体　大阪府女性相談センターについて、「知らない」とする割合が 73.6%、「知っている」とする割合が 16.8%、「無回答」が 9.7%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに、「知らない」とする割合が 7 割を超えている。

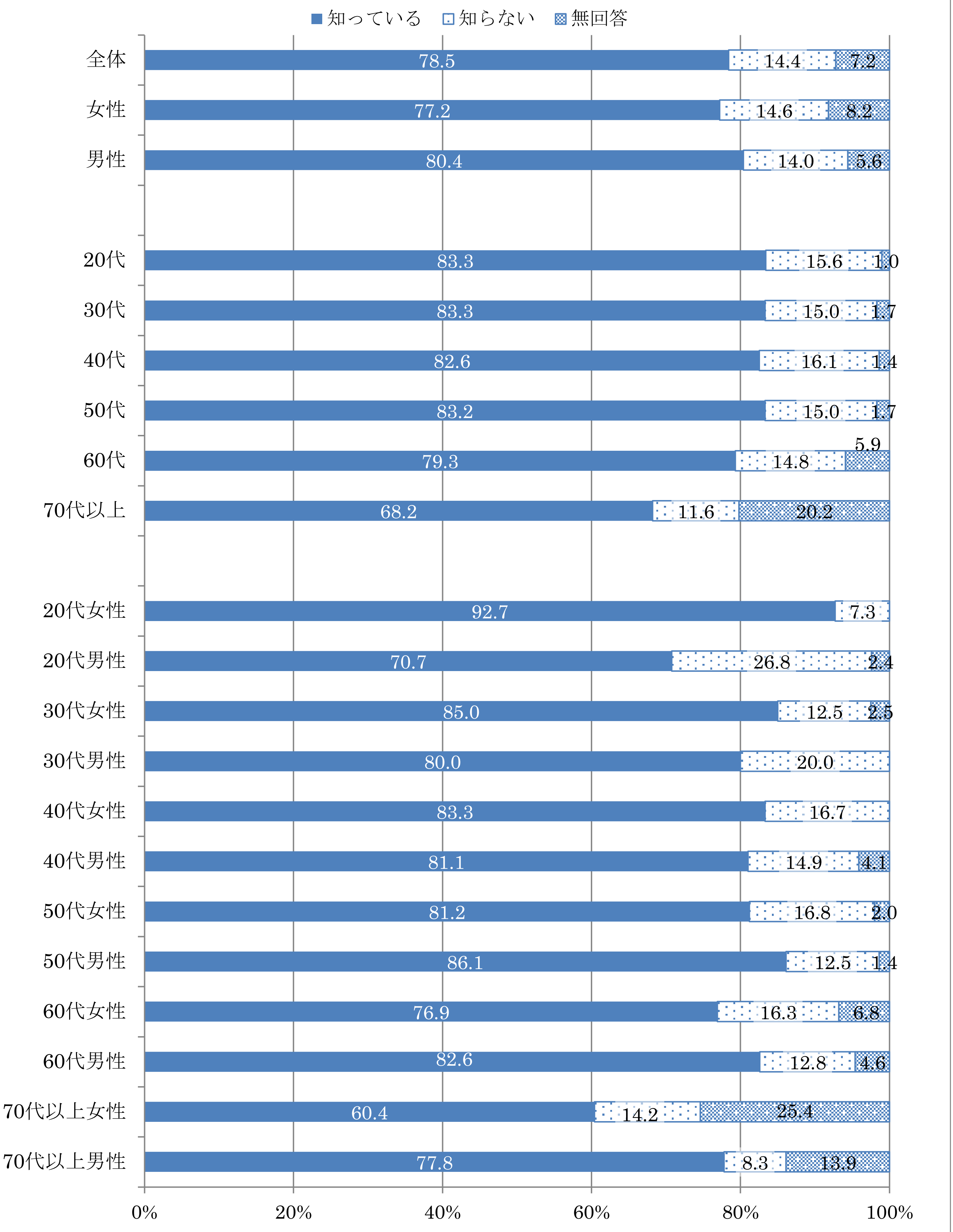
年代別　年代別でみると、すべての年代で、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっているが、特に 20 代で 9 割を、30 代と 40 代で 8 割を超えている。年代が低くなるほど「知らない」とする割合割合が高くなっている。「知っている」とする割合は、50 代が 23.1%で最も高く、その他の年代では 2 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代において、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高く、特に、20 代男女では 9 割を、30 代男女と 40 代女性では 8 割を超えている。

（４）大阪府女性相談センター



（５）警察署、交番



■知っている □知らない ▩無回答
全体 78.5 14.4 7.2
女性 77.2 14.6 8.2
男性 80.4 14.0 5.6
20代 83.3 15.6 1.0
30代 83.3 15.0 1.7
40代 82.6 16.1 1.4
50代 83.2 15.0 1.7
60代 79.3 14.8 5.9
70代以上 68.2 11.6 20.2
20代女性 92.7 7.3
20代男性 70.7 26.8 2.4
30代女性 85.0 12.5 2.5
30代男性 80.0 20.0
40代女性 83.3 16.7
40代男性 81.1 14.9 4.1
50代女性 81.2 16.8 2.0
50代男性 86.1 12.5 1.4
60代女性 76.9 16.3 6.8
60代男性 82.6 12.8 4.6
70代以上女性 60.4 14.2 25.4
70代以上男性 77.8 8.3 13.9
0% 20% 40% 60% 80% 100%

（５）警察署、交番

全体　警察署、交番について、「知っている」とする割合が 78.5%、「知らない」とする割合が 14.4%、「無回答」が 7.2%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに、「知っている」とする割合が７割を超えている。

年代別　年代別でみると、すべての年代で、「知っている」とする割合が、「知らない」とする割合よりも高く、20 代、30 代、40 代、50 代で８割を超えている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代において、「知っている」とする割合が「知らない」とする割合よりも高くなっており、特に 20 代女性では９割を超えている。

（６）シェルターなどの民間の相談機関

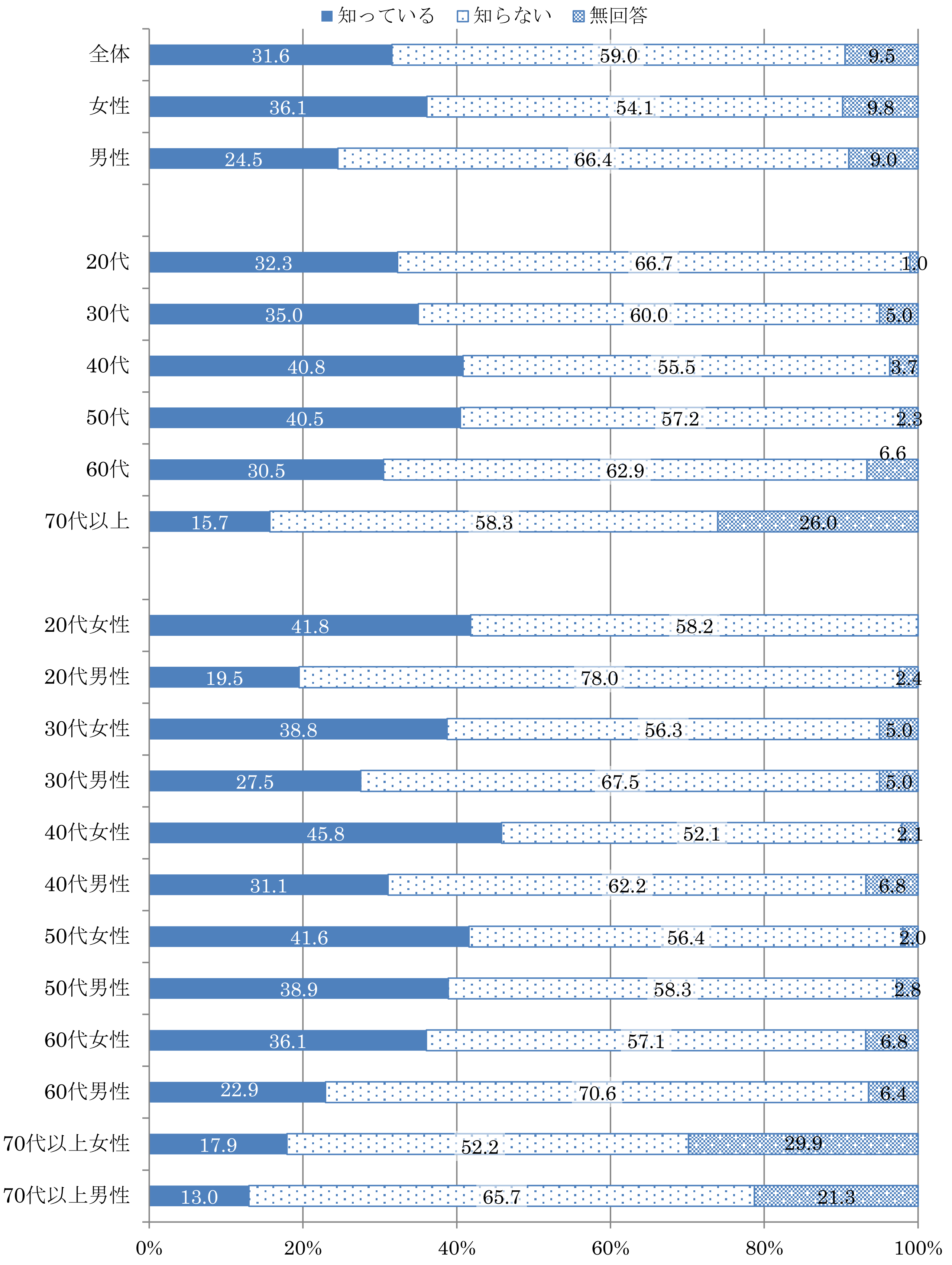
全体　シェルターなどの民間の相談機関について、「知らない」とする割合が 59.0%、「知っている」とする割合が 31.6%、「無回答」が 9.5%となっている。

性別　性別でみると、男女ともに「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっている。
「知っている」とする割合は、女性が男性より 11.6 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代で、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっている。

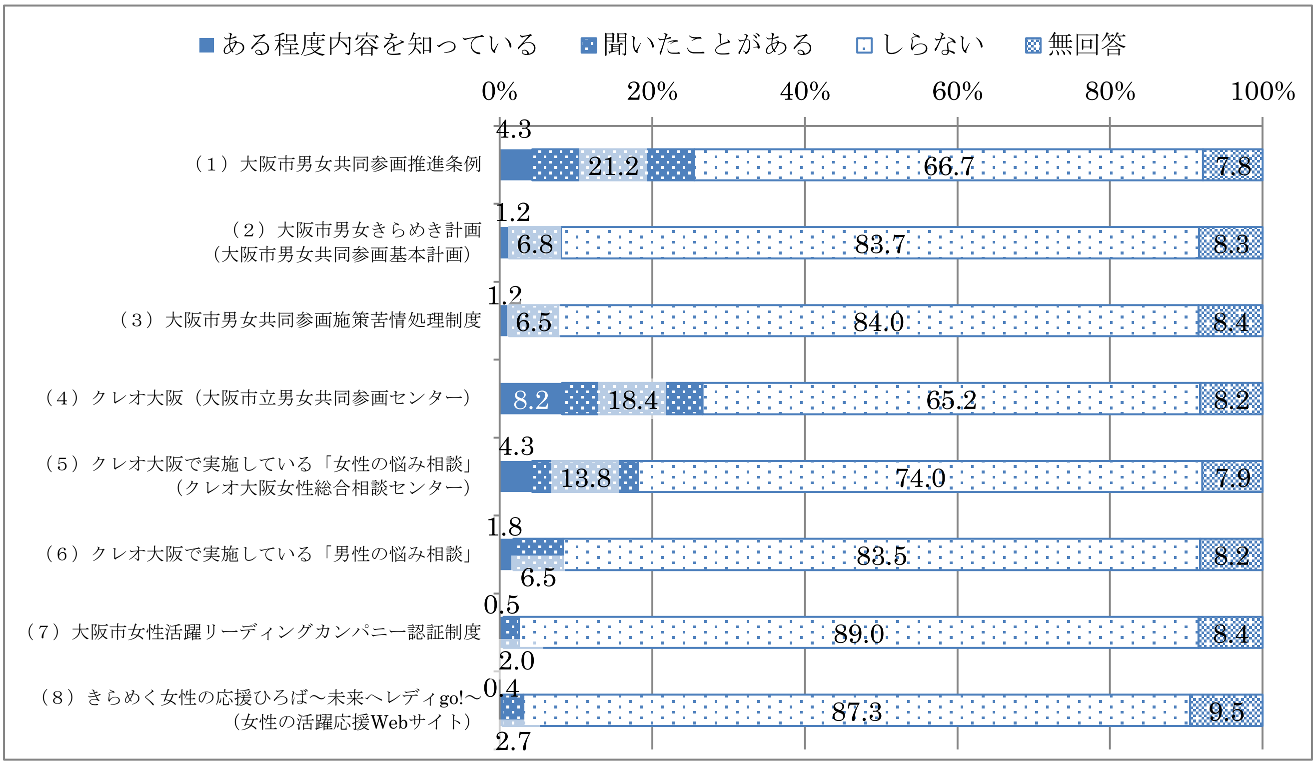
性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代において、「知らない」とする割合が「知っている」とする割合よりも高くなっている。「知っている」とする割合は、40 代女性（45.8%）が最も高く、50 代女性（41.6%）、20 代女性（41.8%）とともに４割を超えている。

（６）シェルターなどの民間の相談機関



６．男女共同参画に関連した制度や施策などについて

問２８．大阪市では男女共同参画社会の実現をめざして施策に取り組んでいますが、次にあげる項目のうちで、ご存じのものはありますか？　【SA】



「認知している」割合（「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」）は、
「大阪市男女共同参画推進条例」25.5%
「大阪市男女きらめき計画（大阪市男女共同参画基本計画）」8.0%
「大阪市男女共同参画施策苦情処理制度」7.7%
「クレオ大阪（大阪市立男女共同参画センター）」26.6%
「クレオ大阪で実施している「女性の悩み相談」（クレオ大阪女性総合相談センター）」18.1%
「クレオ大阪で実施している「男性の悩み相談」」8.3%
「大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証制度」2.5%
「きらめく女性の応援ひろば～未来へレディ go!～（女性の活躍応援 Web サイト）」3.1%
となっている。

【経年比較】

経年比較すると、「大阪市男女共同参画推進条例」、「クレオ大阪で実施している「女性の悩み相談」(クレオ大阪女性総合相談センター)」では、「認知している」割合が平成 16 年度調査から調査ごとに割合が高くなっている。

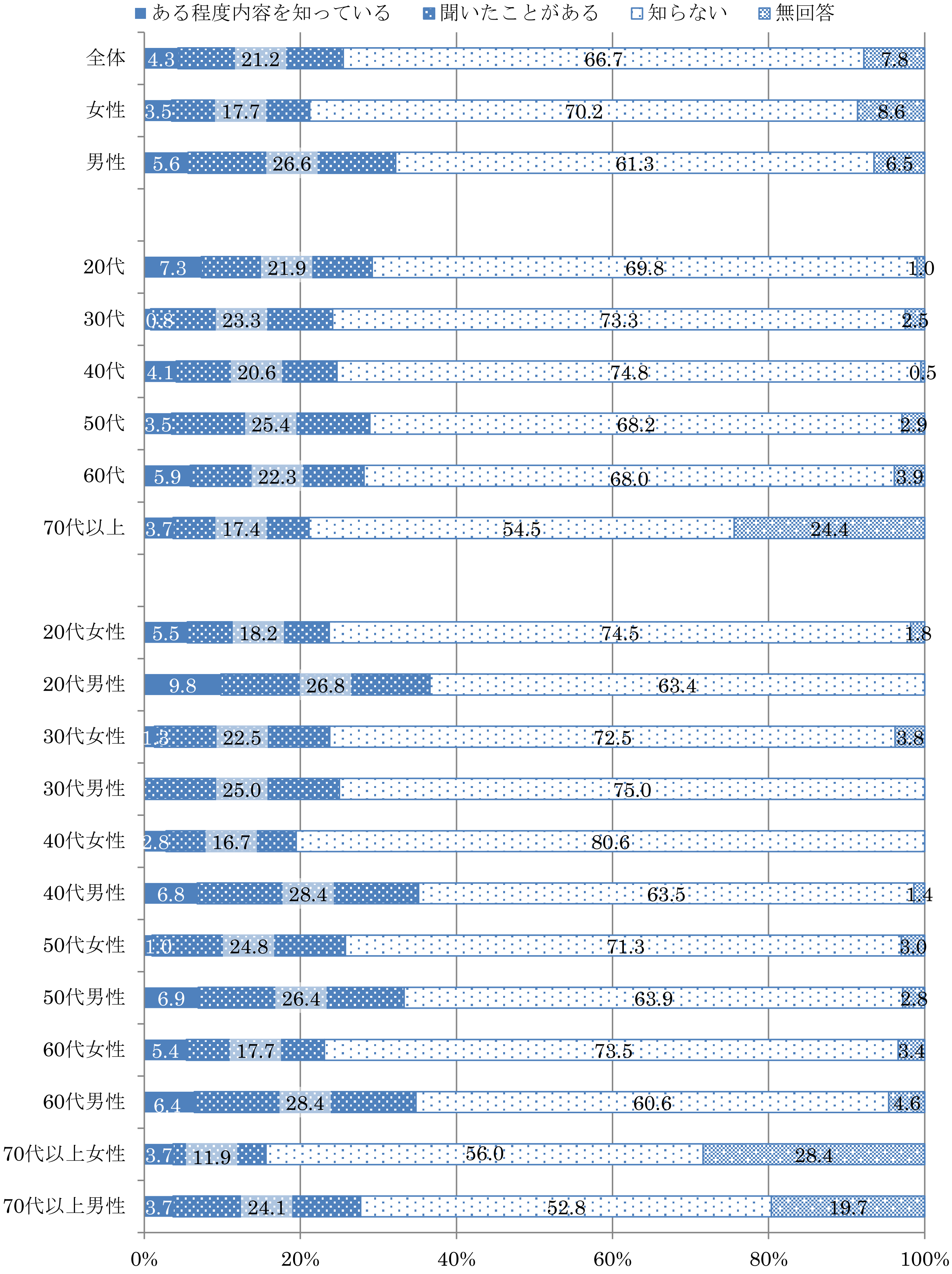
「大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)」では、平成 16 年度調査から調査ごとに低くなっている。

「大阪市男女共同参画施策苦情処理制度」、「クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)」、「クレオ大阪で実施している「男性の悩み相談」」では、平成 16 年の調査から大きな変化はみられない。

項目		「認知している」割合
(1)大阪市男女共同参画推進条例	H27	25.5%
	H25	20.6%
	H20	20.0%
	H16	17.2%
(2)大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)	H27	8.0%
	H25	9.1%
	H20	10.8%
	H16	13.7%
(3)大阪市男女共同参画施策苦情処理制度	H27	7.7%
	H25	7.5%
	H20	8.1%
	H16	7.9%
(4)クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)	H27	26.6%
	H25	26.8%
	H20	28.8%
	H16	26.3%
(5)クレオ大阪で実施している「女性の悩み相談」(クレオ大阪女性総合相談センター)	H27	18.1%
	H25	12.5%
	H20	13.5%
	H16	13.6%
(6)クレオ大阪で実施している「男性の悩み相談」	H27	8.3%
	H25	6.9%
	H20	6.2%
	H16	8.1%
(7)大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証制度	H27	2.5%
	H25	−
	H20	−
	H16	−
(8) きらめく女性の応援ひろば～未来へレディ go!～(女性の活躍応援 Web サイト)	H27	3.1%
	H25	−
	H20	−
	H16	−

「認知している」割合=「ある程度内容を知っている」+「聞いたことがある」

（１）大阪市男女共同参画推進条例



全体　「大阪市男女共同参画推進条例」について、「知らない」（66.7％）が最も多く、「聞いたことがある」（21.2％）、「ある程度内容を知っている」（4.3％）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 70.2％、男性 61.3％）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 17.7％、男性 26.6％）、「ある程度内容を知っている」（女性 3.5％、男性 5.6％）と続いている。

「認知している」割合は、男性が 32.2％（「ある程度内容を知っている」5.6％＋「聞いたことがある」26.6％）、女性が 21.2％（「ある程度内容を知っている」3.5％＋「聞いたことがある」17.7％）で、男性が女性より 11.0 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、20 代が 29.2％（「ある程度内容を知っている」5.6％＋「聞いたことがある」26.6％）で、最も高い割合となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

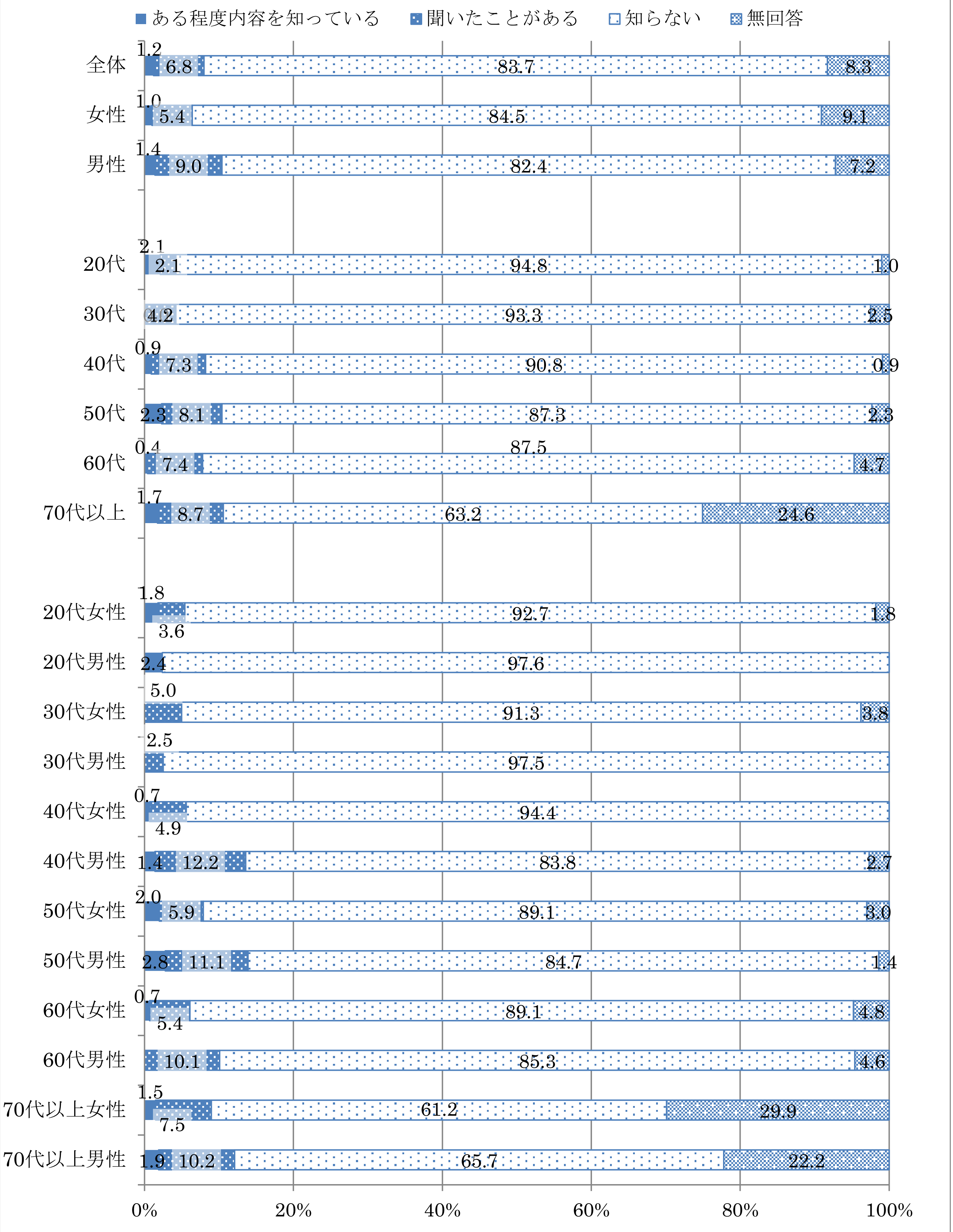
「認知している」割合は、20 代男性が 36.6％と最も高く、40 代男性、50 代男性、60 代男性とともに 3 割を超えている。70 代以上女性が 15.6％と最も低い割合となっている。

	「認知している」割合
全体	25.5%
女性	21.2%
男性	32.2%
20 代	29.2%
30 代	24.1%
40 代	24.8%
50 代	28.9%
60 代	28.2%
70 代以上	21.1%

	「認知している」割合
20 代女性	23.7%
20 代男性	36.6%
30 代女性	23.8%
30 代男性	25.0%
40 代女性	19.5%
40 代男性	35.2%
50 代女性	25.8%
50 代男性	33.3%
60 代女性	23.1%
60 代男性	34.8%
70 代以上女性	15.6%
70 代以上男性	27.8%

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（２）大阪市男女きらめき計画（大阪市男女共同参画基本計画）



全体　「大阪市男女きらめき計画（大阪市男女共同参画基本計画）」について、「知らない」（83.7%）が最も多く、「聞いたことがある」（6.8%）、「ある程度内容を知っている」（1.2%）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 84.5%、男性 82.4%）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 5.4%、男性 9.0%）、「ある程度内容を知っている」（女性 1.0%、男性 1.4%）と続いている。

「認知している」割合は、男性（10.4%）が女性（6.4%）より 4.0 ポイント高くなっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、20 代が 29.2%で、最も高い割合となっている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

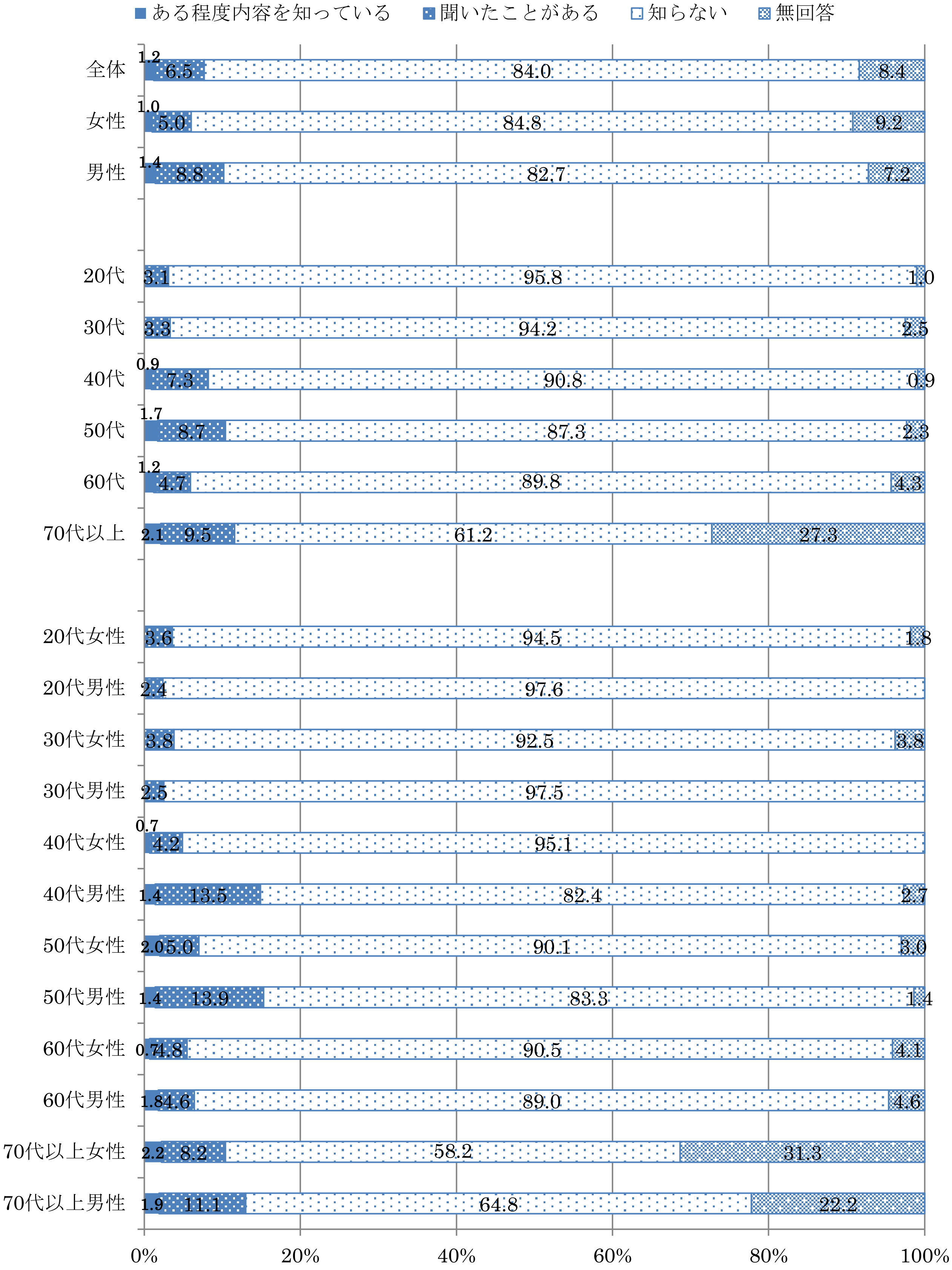
「認知している」割合は、50 代男性が 13.9%と最も高く、40 代男性、50 代男性、60 代男性、70 代以上男性が 1 割を超えている。20 代男性が 2.4%と最も低い割合となっている。

	「認知している」割合
全体	8.0%
女性	6.4%
男性	10.4%
20 代	4.2%
30 代	4.2%
40 代	8.2%
50 代	10.4%
60 代	7.8%
70 代以上	10.4%

	「認知している」割合
20 代女性	5.4%
20 代男性	2.4%
30 代女性	5.0%
30 代男性	2.5%
40 代女性	5.6%
40 代男性	13.6%
50 代女性	7.9%
50 代男性	13.9%
60 代女性	6.1%
60 代男性	10.1%
70 代以上女性	9.0%
70 代以上男性	12.1%

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（３）大阪市男女共同参画施策苦情処理制度



全体　「大阪市男女共同参画施策苦情処理制度」について、「知らない」（84.0％）が最も多く、「聞いたことがある」（6.5％）、「ある程度内容を知っている」（1.2％）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 84.8％、男性 82.7％）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 5.0％、男性 8.8％）、「ある程度内容を知っている」（女性 1.0％、男性 1.4％）と続いている。

「認知している」割合は、男性が 10.2％、女性が 6.0％となっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、50 代と 70 代以上で 1 割となり、他の年代では 1 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

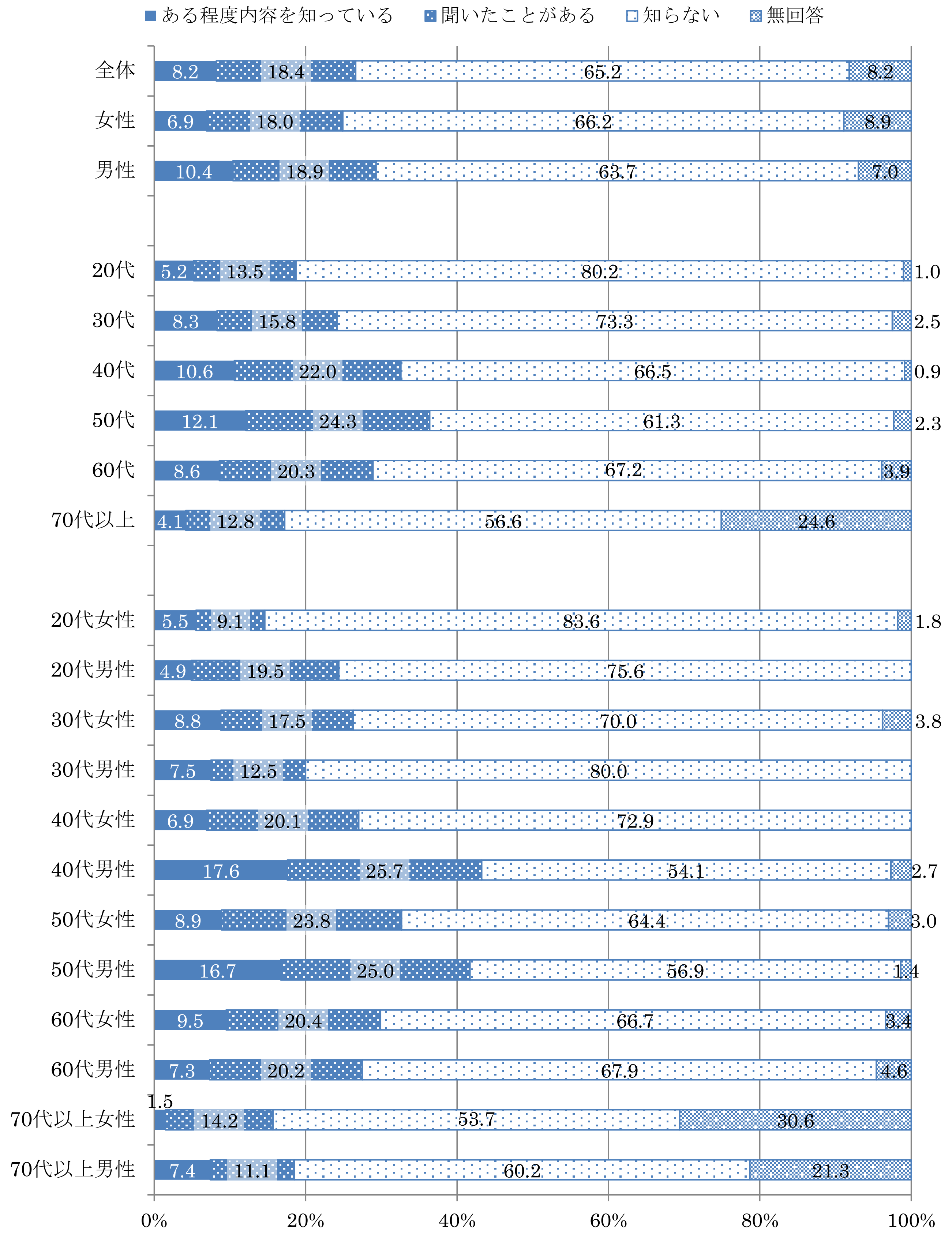
「認知している」割合は、50 代男性が 15.3％と最も高く、40 代男性、50 代男性、70 代以上男女が 1 割を超えている。

	「認知している」割合
全体	7.7％
女性	6.0％
男性	10.2％
20 代	3.1％
30 代	3.3％
40 代	8.2％
50 代	10.4％
60 代	5.9％
70 代以上	11.6％

	「認知している」割合
20 代女性	3.6％
20 代男性	2.4％
30 代女性	3.8％
30 代男性	2.5％
40 代女性	4.9％
40 代男性	14.9％
50 代女性	7.0％
50 代男性	15.3％
60 代女性	5.5％
60 代男性	6.4％
70 代以上女性	10.4％
70 代以上男性	13.0％

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（４）クレオ大阪（大阪市立男女共同参画センター）



全体　「クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)」について、「知らない」（65.2%）が最も多く、「聞いたことがある」（18.4%）、「ある程度内容を知っている」（8.2%）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 66.2%、男性 63.7%）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 18.0%、男性 18.9%）、「ある程度内容を知っている」（女性 6.9%、男性 10.4%）と続いている。

「認知している」割合は、男性が 29.3%、女性が 24.9%となっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、40 代と 50 代で 3 割を超えている一方で、20 代と 70 代以上は 2 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

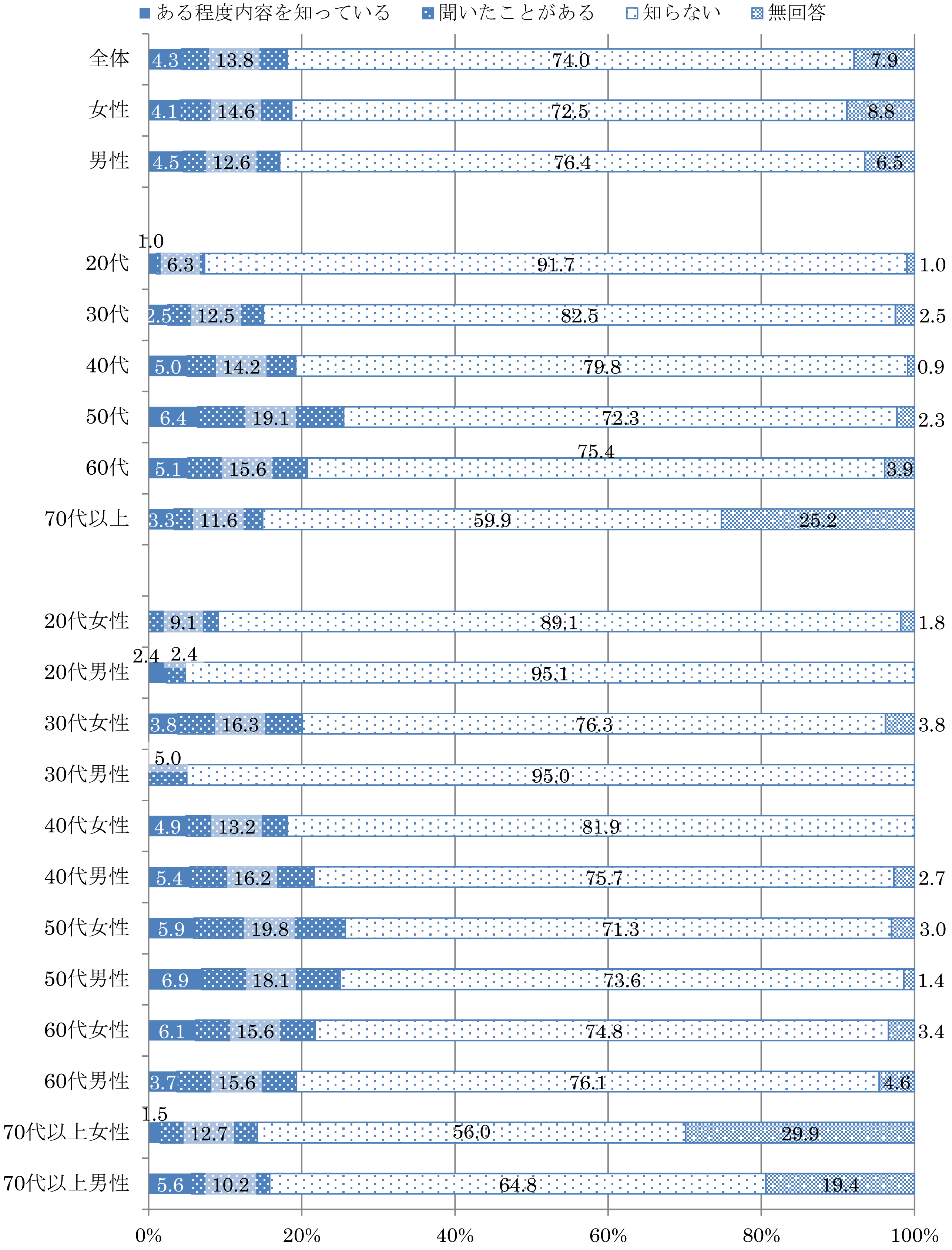
「認知している」割合は、40 代男性が 43.3%と最も高く、40 代男性、50 代男性が 4 割を超えている。

	「認知している」割合
全体	26.6%
女性	24.9%
男性	29.3%
20 代	18.7%
30 代	24.1%
40 代	32.6%
50 代	36.4%
60 代	28.9%
70 代以上	16.9%

	「認知している」割合
20 代女性	14.6%
20 代男性	24.4%
30 代女性	26.3%
30 代男性	20.0%
40 代女性	27.0%
40 代男性	43.3%
50 代女性	32.7%
50 代男性	41.7%
60 代女性	29.9%
60 代男性	27.5%
70 代以上女性	15.7%
70 代以上男性	18.5%

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（５）クレオ大阪で実施している「女性の悩み相談」（クレオ大阪女性総合相談センター）



全体　「クレオ大阪で実施している「女性の悩み相談」(クレオ大阪女性総合相談センター)」について、「知らない」（74.0%）が最も多く、「聞いたことがある」（13.8%）、「ある程度内容を知っている」（4.3%）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 72.5%、男性 76.4%）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 14.6%、男性 12.6%）、「ある程度内容を知っている」（女性 4.1%、男性 4.5%）と続いている。

「認知している」割合は、女性が 18.7%、男性が 17.1%となっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、50 代と 60 代で 2 割を超えている一方で、20 代では 1 割を下回っている。

性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

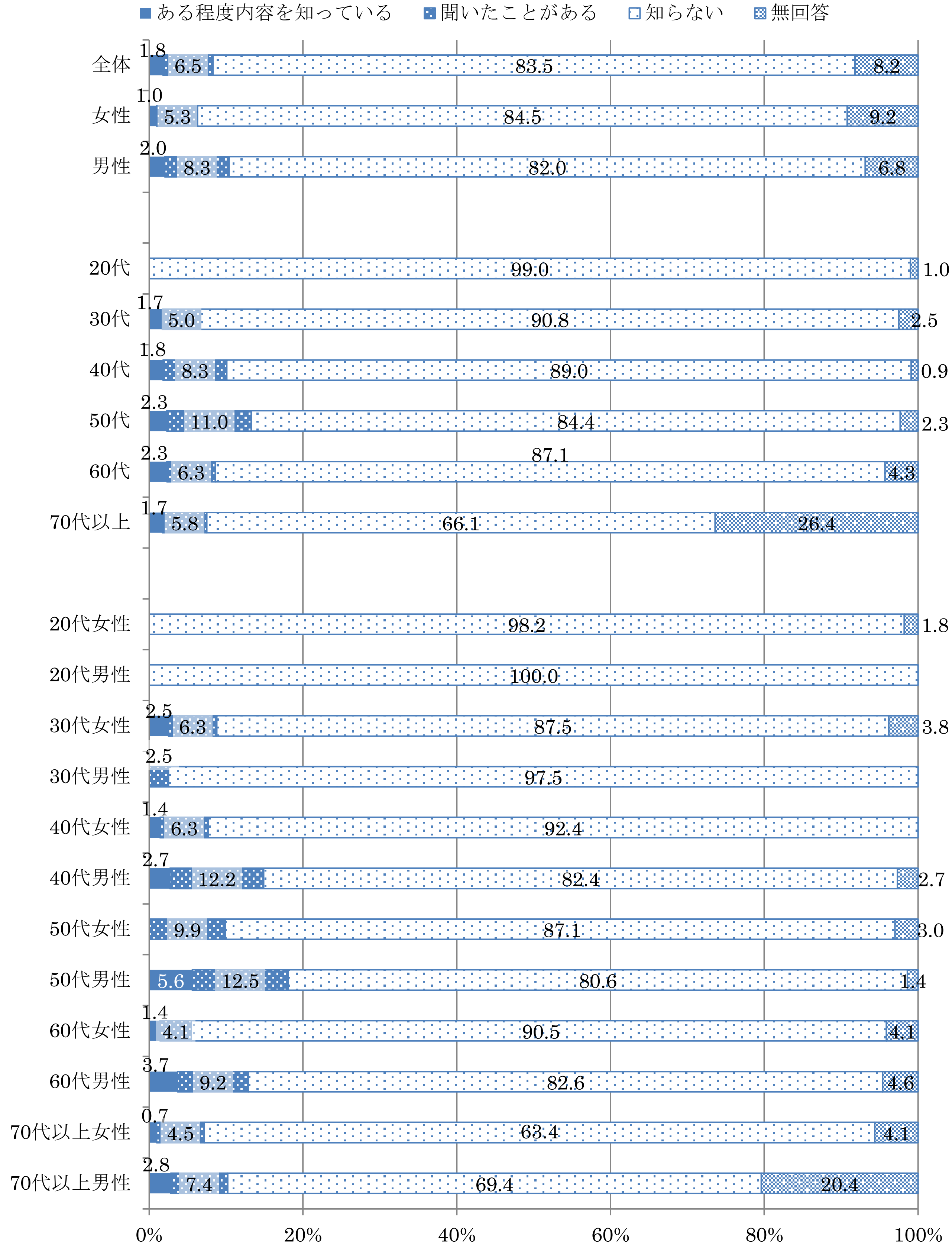
「認知している」割合は、50 代女性が 25.5%と最も高く、30 代女性、40 代男性、50 代男女、60 代女性が 2 割を超えている。

	「認知している」割合
全体	18.1%
女性	18.7%
男性	17.1%
20 代	7.3%
30 代	15.0%
40 代	19.2%
50 代	25.5%
60 代	20.7%
70 代以上	14.9%

	「認知している」割合
20 代女性	9.1%
20 代男性	4.8%
30 代女性	20.1%
30 代男性	5.0%
40 代女性	18.1%
40 代男性	21.6%
50 代女性	25.7%
50 代男性	25.0%
60 代女性	21.7%
60 代男性	19.3%
70 代以上女性	14.2%
70 代以上男性	15.8%

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（６）クレオ大阪で実施している「男性の悩み相談」



全体　「クレオ大阪で実施している「男性の悩み相談」」について、「知らない」（83.5%）が最も多く、「聞いたことがある」（6.5%）、「ある程度内容を知っている」（1.8%）と続いている。

性別　男女ともに、「知らない」（女性 84.5%、男性 82.0%）が最も多く、「聞いたことがある」（女性 5.3%、男性 8.3%）、「ある程度内容を知っている」（女性 1.0%、男性 2.0%）と続いている。

「認知している」割合は、男性が 10.3%、女性が 6.3%となっている。

年代別　年代別でみると、すべての年代では、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、40 代と 50 代で 1 割を超えている。

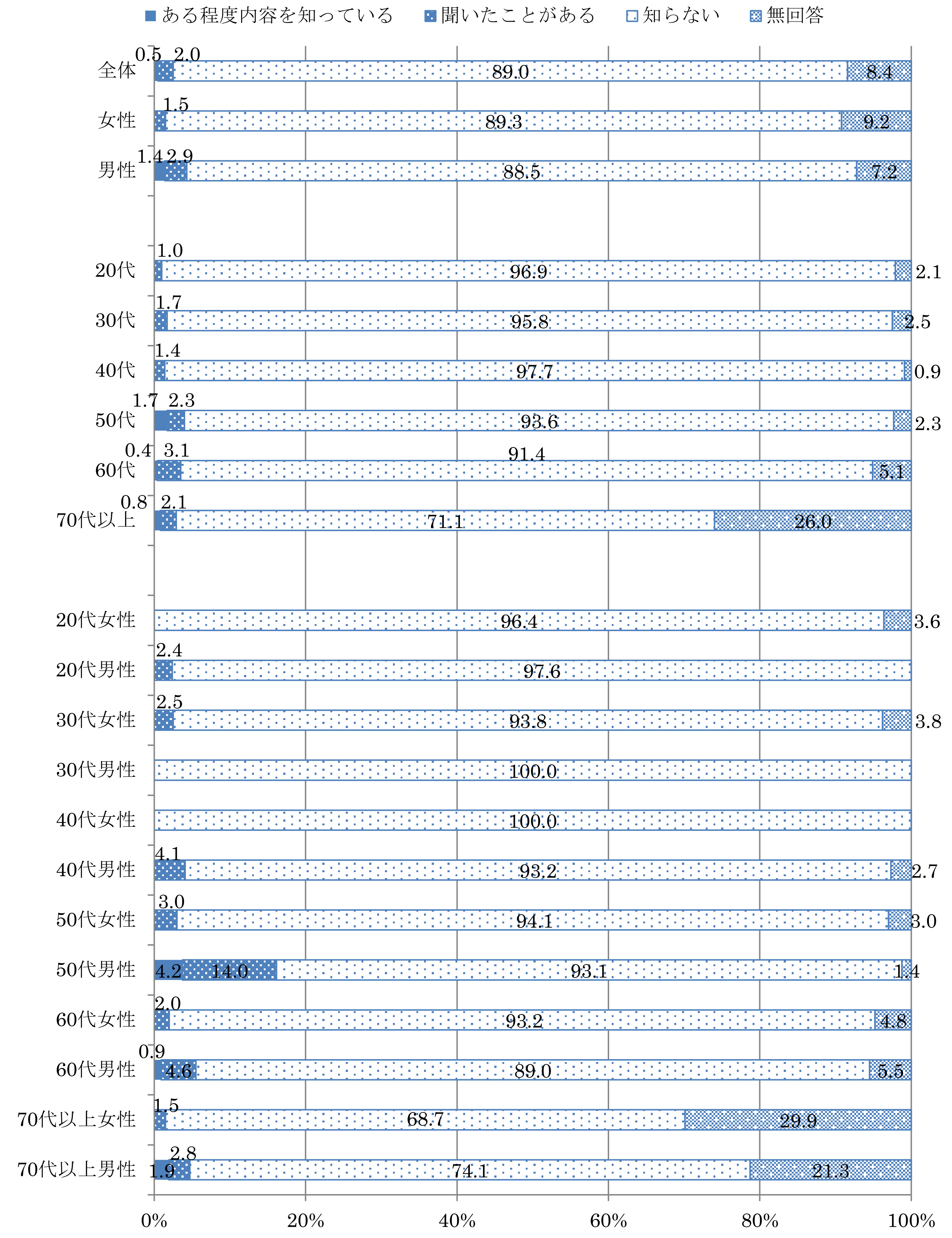
性別年代別　性別年代別でみると、すべての性別年代で「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合は、40 代、50 代、60 代、70 代以上の男性で 1 割を超えている。

	「認知している」割合		「認知している」割合
全体	8.3%	20 代女性	0.0%
女性	6.3%	20 代男性	0.0%
男性	10.3%	30 代女性	8.8%
20 代	0.0%	30 代男性	2.5%
30 代	6.7%	40 代女性	7.7%
40 代	10.1%	40 代男性	14.9%
50 代	13.3%	50 代女性	9.9%
60 代	8.6%	50 代男性	18.1%
70 代以上	7.5%	60 代女性	5.5%
		60 代男性	12.9%
		70 代以上女性	5.2%
		70 代以上男性	10.2%

「認知している」割合＝「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」

（７）大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証制度



（７）大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証制度

全体　「大阪市女性活躍リーディングカンパニー認証制度」について、「知らない」（89.0％）が最も多く、「聞いたことがある」（2.0％）、「ある程度内容を知っている」（0.5％）と続いている。

性別　年代別　性別年代別

　性別、年代別、性別年代別でみると、すべての性別、年代、性別年代で、「知らない」が最も高い割合となっている。

「認知している」割合（「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」）は、50 代男性の 18.2％を除き、1 割を下回っている。

（８）「きらめく女性の応援ひろば～未来へレディ go！～」（女性の活躍応援 Web サイト）

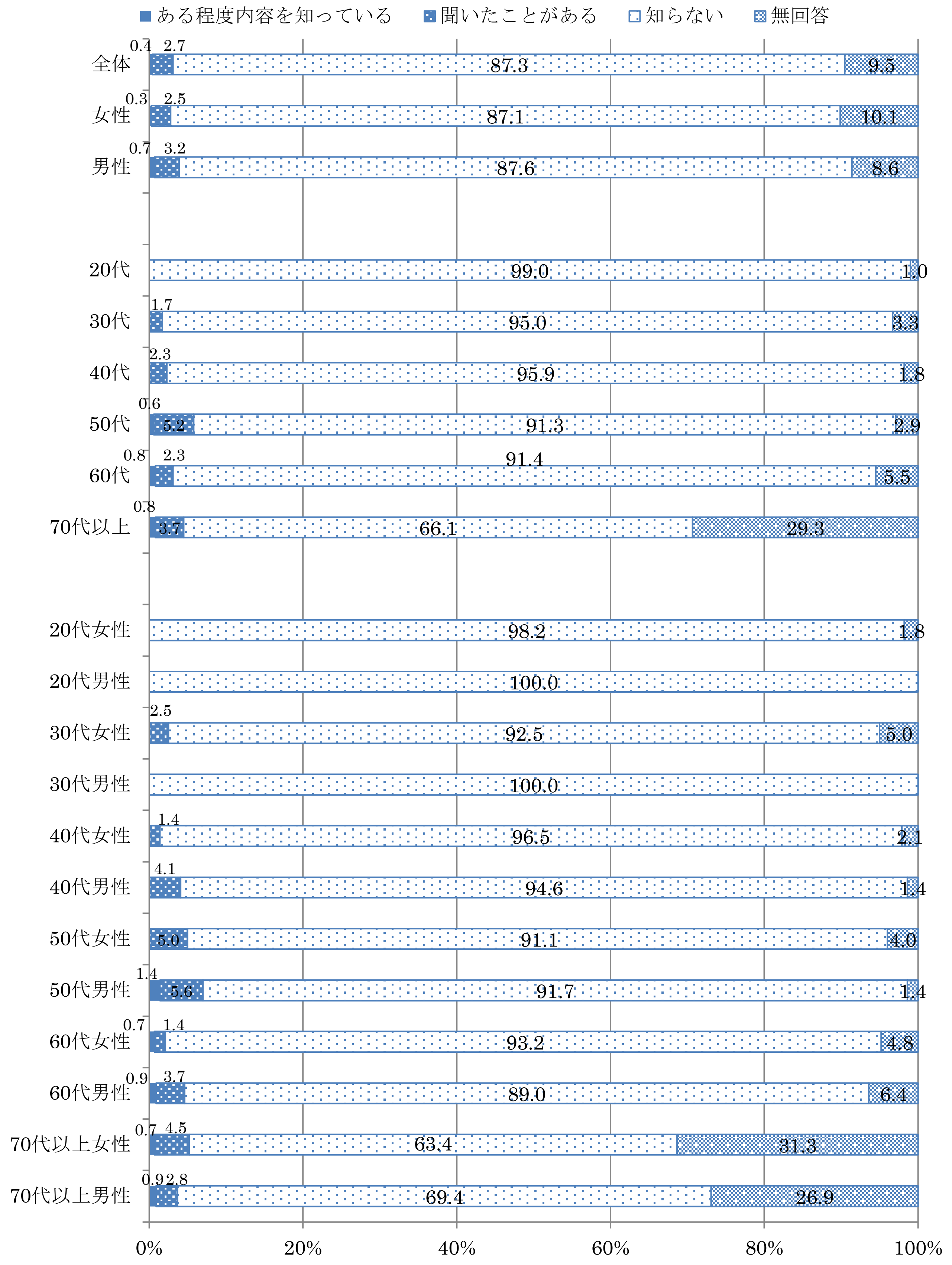
全体　「きらめく女性の応援ひろば～未来へレディ go！～」について、「知らない」（87.3％）が最も多く、「聞いたことがある」（2.7％）、「ある程度内容を知っている」（0.4％）と続いている。

性別　年代別　性別年代別

　性別、年代別、性別年代別でみると、すべての性別、年代、性別年代別で、「知らない」が最も高い割合となっている。

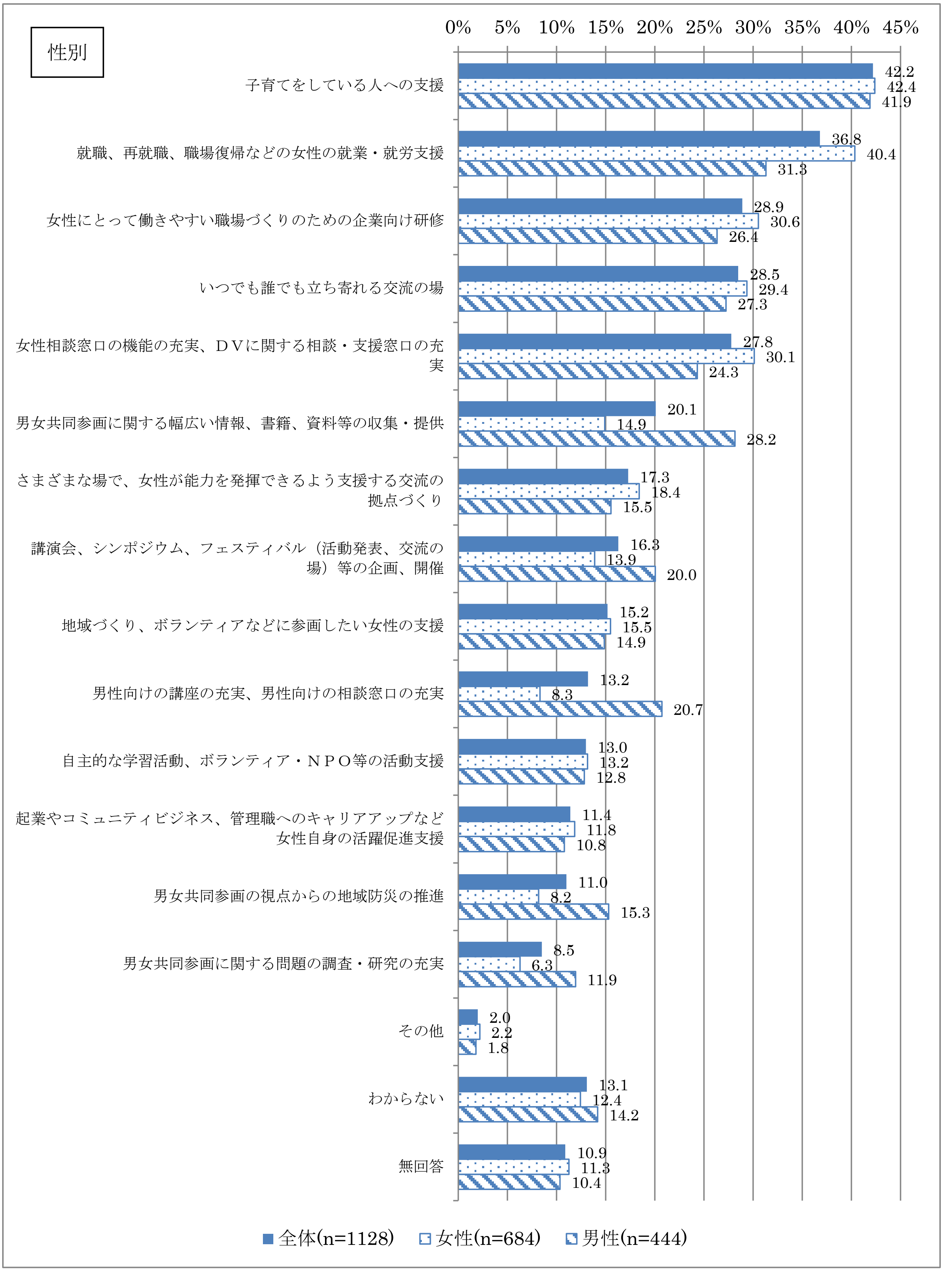
「認知している」割合（「ある程度内容を知っている」＋「聞いたことがある」）は、すべての性別、年代、性別年代別で、1 割を下回っている。

（８）「きらめく女性の応援ひろば～未来へレディ go！～」（女性の活躍応援 Web サイト）



問２９．あなたは、「クレオ大阪（大阪市立男女共同参画センター）」にどのような事業を期待しますか？

【複数回答】



全体　クレオ大阪（大阪市立男女共同参画センター）に期待する事業は、「子育てをしている人への支援」（42.2%）が最も高く、「就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援」（36.8%）、「女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修」（28.9%）と続いている。

性別　男女ともに、「子育てをしている人への支援」（女性 42.4%、男性 41.9%）が最も高く、「就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援」（女性 40.4%、男性 31.3%）と続いている。ついで、女性は「女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修」（30.6%）、男性は「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」（28.2%）と続いている。

男性が女性より高い項目は、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」（13.3 ポイント）、「男性向けの講座の充実、男性向けの相談窓口の充実」（12.4 ポイント）、「男女共同参画の視点からの地域防災の推進」（7.1 ポイント）で性別により差がみられた。女性が男性よりも高い項目は、「女性相談窓口の機能の充実、ＤＶに関する相談・支援窓口の充実」で 5.8 ポイントの差がみられた。

性別年代別

性別年代別でみると、すべての性別年代において「子育てをしている人への支援」が、70 代以上女性と 40 代男性を除く性別年代で「就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援」が上位項目となっている。50 代女性、60 代女性、70 代以上男女、30 代男性、40 代男性では、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」が上位項目にあがっている。50 代男性、60 代男性、70 代以上男性では、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」が上位項目となっている。

【順位表】　性別年代別

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="6">女性</th><th colspan="6">男性</th></tr>
<tr><th>20代</th><th>30代</th><th>40代</th><th>50代</th><th>60代</th><th>70代以上</th><th>20代</th><th>30代</th><th>40代</th><th>50代</th><th>60代</th><th>70代以上</th></tr>
<tr><td>1位</td><td colspan="3">子育てをしている人への支援
(58.2%)　(67.5%)　(47.2%)</td><td colspan="2">就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(40.6%)　(43.5%)</td><td>無回答
(32.1)</td><td colspan="3">子育てをしている人への支援
(41.5%)　(67.5%)　(58.1%)</td><td>男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供
(36.1%)</td><td colspan="2">子育てをしている人への支援
(38.5%)　(29.6%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2位</td><td rowspan="2">女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修
(54.5%)</td><td colspan="2" rowspan="2">就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(53.8%)　(44.4%)</td><td colspan="2">子育てをしている人への支援
(30.7%)　(40.8%)</td><td rowspan="2">子育てをしている人への支援
(26.9%)</td><td rowspan="2">就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(39.0%)</td><td>就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(37.5%)</td><td rowspan="2">いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(32.4%)</td><td>就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(34.7%)</td><td rowspan="2">就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(32.1%)</td><td rowspan="2">男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供
(28.7%)</td></tr>
<tr><td>女性相談窓口の機能の充実、DVに関する相談・支援窓口の充実
(30.7%)</td><td>いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(40.8%)</td><td>女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修
(37.5%)</td><td>子育てをしている人への支援
(34.7%)</td></tr>
<tr><td>3位</td><td>就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(45.5%)</td><td>女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修
(41.3%)</td><td>女性相談窓口の機能の充実、DVに関する相談・支援窓口の充実
(36.1%)</td><td>いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(28.7%)</td><td>女性相談窓口の機能の充実、DVに関する相談・支援窓口の充実
(32.0%)</td><td>いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(26.1%)</td><td>女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修
(31.7%)
男性向けの講座の充実、男性向けの相談窓口の充実
(31.7%)</td><td>いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(30.0%)</td><td>女性にとって働きやすい職場づくりのための企業向け研修
(28.4%)</td><td>女性相談窓口の機能の充実、DVに関する相談・支援窓口の充実
(30.6%)</td><td>男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供
(29.4%)</td><td>いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
(27.8%)
就職、再就職、職場復帰などの女性の就業・就労支援
(27.8%)</td></tr>
</table>